



System i

プログラミング

System Manager for i5/OS コマンド

バージョン 6 リリース 1





System i

プログラミング

System Manager for i5/OS コマンド

バージョン 6 リリース 1

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、441 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM System Manager for i5/OS (プロダクト番号 5761-SM1) のバージョン 6、リリース 1、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

<http://www.ibm.com/jp/manuals/>

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： System i
Programming
System Manager for i5/OS commands
Version 6 Release 1

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2008.2

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2008. All rights reserved.

目次

コマンドCRQ活動の追加 (ADDCMDCRQA)	1	プロダクト定義の作成 (CRTPRDDFN)	249
CRQ活動の追加 (ADDCRQA)	13	プロダクト・ロードの作成 (CRTPRDLOD)	257
ライセンスCRQ活動の追加 (ADDLICCRQA)	45	プログラム一時修正作成 (CRTPTF)	267
オブジェクトCRQ活動の追加 (ADDOBJCRQA)	55	PTFパッケージ作成 (CRTPTFPKG)	279
プロダクトCRQ活動の追加 (ADDPRDCRQA)	75	プロダクト定義削除 (DLTPRDDFN)	287
ライセンス情報追加 (ADDPRDLICI)	87	プロダクト・ロード削除 (DLTPRDLOD)	289
PTF CRQ活動の追加 (ADDPTFCRQA)	93	リモートPTFの削除 (DLTRMTPTF)	293
資源CRQ活動の追加 (ADDRSCCRQA)	105	投入されたCRQの削除 (DLTSBMCRQ)	297
リモートPTFの適用 (APYRMTPTF)	115	SMGオブジェクトの削除 (DLTSMGOBJ)	299
コマンドCRQ活動の変更 (CHGCMDCRQA)	123	投入済みCRQの表示 (DSPSBMCRQ)	303
CRQ活動の変更 (CHGCRQA)	135	投入済みCRQ活動の表示 (DSPSBMCRQA)	309
ライセンスCRQ活動の変更 (CHGLICCRQA)	169	投入済みCRQ メッセージの表示 (DSPSBMCRQM)	313
オブジェクトCRQ活動の変更 (CHGOBJCRQA)	179	サービス提供元属性の表示 (DSPSRVPVDA)	319
プロダクトCRQ活動の変更 (CHGPRDCRQA)	199	投入済みCRQ活動の終了 (ENDSBMCRQA)	321
プロダクト・オブジェクト記述変更 (CHGPRDOBJD)	213	システム・マネージャーの終了 (ENDSYSMGR)	325
PTF CRQ活動の変更 (CHGPTFCRQA)	217	ライセンス・キーの生成 (GENLICKEY)	327
資源CRQ活動の変更 (CHGRSCCRQA)	231	プログラム一時修正の保留 (HLDPTF)	333
サービス提供元属性の変更 (CHGSRVPVDA)	241	投入済みCRQ活動の保留 (HLDSBMCRQA)	335
保管ファイルへのPTFのコピー (CPYPTFSAVF)	245	リモート・プロダクトの導入 (INSRMTPRD)	339
		サポートするプロダクトPTFの発注 (ORDSPTPTF)	345

プロダクト・オプションのパッケージ (PKGPRDOPT)	347	ライセンスの送信 (SNDLIC)	395
プログラム一時修正の解放 (RLSPTF)	351	プロダクトの送信 (SNDPRD)	399
投入済みCRQ活動の解放 (RLSSBMCRQA)	353	プログラム一時修正の送信 (SNDPTF)	405
CRQD活動の除去 (RMVCRQDA)	357	SMGオブジェクトの送信 (SNDSMGOBJ).	415
リモートPTFの除去 (RMVRMTPTF)	359	システム・マネージャーの開始 (STRSYSMGR)	421
APARデータの復元 (RSTAPARDTA)	367	CRQ記述の処理 (WRKCRQD).	423
プロダクトの検索 (RTVPRD)	369	PTFの処理 (WRKPTF).	425
プログラム一時修正の検索 (RTVPPTF)	373	投入済みCRQの処理 (WRKSBMCRQ)	427
SMGオブジェクトの検索 (RTVSMGOBJ)	377	投入済みCRQ活動の処理 (WRKSBMCRQA).	433
SMGコマンドの実行 (RUNSMGCMD)	381	サポートされているプロダクト処理 (WRKSPTPRD).	437
SMGオブジェクトの実行 (RUNSMGOBJ).	387	サービス要求元の処理 (WRKSRVRQS)	439
変更要求の投入 (SBMCRQ).	391	付録. 特記事項	441

コマンドCRQ活動の追加 (ADDCMDCRQA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コマンド変更要求活動追加(ADDCMDCRQA)コマンドは、管理下の1つまたは複数のシステムでコマンドを実行するために、変更要求記述に活動を追加します。

この活動は、他の1つまたは複数の活動が（正常または異常に）完了された後でなければ実行されないように条件づけることができます。また、活動が将来の日付および時刻に実行されるようにスケジュールすることもできます。

制約事項:

1. 変更要求記述に対する*CHANGE権限とライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
2. ノード・リスト(NODL)値を指定する場合は、ノード・リストに入れることができるのはアドレス・タイプの値が*SNAになっている項目だけです。

注:

以下の注は、コマンドがどのように働くかを説明しています。

1. 活動で指定されたプロダクトに対する権限は、その活動が実行されるまで検査されません。
2. 活動を実行する前にすべての条件が満たされていなければなりません。
3. 開始時刻は、活動を開始できる時点を示します。実際の開始時刻は、ネットワークおよびシステムの遅延のためにこれより遅くなることがあります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CRQD	変更要求記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 変更要求記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ACTIVITY	活動	名前, *GEN, *LAST	オプション, 定位置 2
CMD	実行するコマンド	コマンド・ストリング	オプション, 定位置 3
NODL	管理下のシステム・ノード・リスト	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード・リスト	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	単一値: <u>*LOCAL</u> , *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプションナル
	要素 1: ネットワークID	通信名, <u>*NETATR</u>	
	要素 2: 制御点	通信名	
RMTSTRTIME	管理下のシステムの開始時刻	要素リスト	オプションナル
	要素 1: 時間帯	<u>*LCLSYS</u> , *MGDSYS	
	要素 2: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, <u>*CURRENT</u>	
	要素 2: 日付	日付, <u>*CURRENT</u> , *NEXT	
	要素 3: 以前に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, <u>*ANY</u> , *CURRENT	
要素 2: 日付	日付, <u>*ANY</u> , *CURRENT, *NEXT		
RTNSPLF	スプール・ファイルの戻り	<u>*YES</u> , *NO, *FAIL	オプションナル
USRPRF	ユーザー・プロファイル	単純名, <u>*NONE</u>	オプションナル
PASSWORD	パスワード	文字値, <u>*USRPRF</u> , <u>*NONE</u>	オプションナル
ENCODE	コマンドのエンコード	<u>*YES</u> , <u>*NO</u>	オプションナル
TEXT	テキスト '記述'	文字値, <u>*GEN</u>	オプションナル
COND	活動条件	単一値: *NONE その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプションナル
	要素 1: 活動	総称名, 名前, <u>*PRV</u>	
	要素 2: 関係演算子	<u>*EQ</u> , *GT, *LT, *LE, *NE, *GE	
	要素 3: 終了コード	0-99, <u>*SUCCESS</u> , *FAIL, *NOTRUN, *ANY	
	要素 4: 条件モード	<u>*ALLNODES</u> , *SAMENODE	
STRTIME	活動開始時刻	要素リスト	オプションナル
	要素 1: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, <u>*CURRENT</u>	
	要素 2: 日付	日付, <u>*CURRENT</u> , *NEXT	
	要素 2: 以前に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, <u>*ANY</u> , *CURRENT	
	要素 2: 日付	日付, <u>*ANY</u> , *CURRENT, *NEXT	
HOLD	活動の保留	<u>*NO</u> , *YES	オプションナル

上

変更要求記述 (CRQD)

変更要求記述オブジェクト名を指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

*LIBL ライブラリー・リストおよびジョブのライブラリー・リストのシステム部分にあるライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

このパラメーターに指定したライブラリーだけが検索されることを指定します。

指定できる変更要求記述の値は次の通りです。

変更要求記述

変更要求記述オブジェクトの名前を指定します。

上

活動 (ACTIVITY)

変更要求記述に追加する活動の名前を指定します。

***GEN** 活動名が生成されます。活動名の形式はQACTXXXXXXで、この場合にXXXXXXはまだ使用されていない最初の10の倍数です。

***LAST**

活動は変更要求で最後に実行されます。活動(ACTIVITY)パラメーターに*LASTを指定すると、条件(COND)パラメーターおよび開始時刻(STRTIME)パラメーターは指定できません。変更要求記述に存在できる*LASTを指定した活動は1つだけです。

活動名 10桁の活動名を指定します。

上

実行するコマンド (CMD)

実行するCLコマンドを指定します。コマンドはバッチで実行できる任意のコマンドとすることができま
す。コマンドは、先頭文字がアルファベットで他の9文字が英数字の1から10桁というI5/OS CLコマンドの
形式に従う必要があります。

コマンド・ストリング

管理下のシステムで実行するコマンドを指定します。F4キーを押すと、コマンド・プロンプト・サ
ポートを使用できます。

上

管理下のシステム・ノード・リスト (NODL)

ノード・リスト・パラメーターはこの活動の宛先であるシステムのリストが入っているオブジェクト名であ
ることを指定します。制御点名(CPNAME)パラメーターが指定されていると、このパラメーターは指定でき
ません。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

この活動を実行するシステムは、ノード・リストによって指定されません。個々の制御点名を指定
しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーで
ノード・リスト・オブジェクトが検索されます。

***CURLIB**

ノード・リスト・オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定します。

使用できるノード・リスト名の値は次の通りです。

ノード・リスト名

活動を実行するシステムのリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名を指定します。

上

管理下のシステム・ノード名 (CPNAME)

この活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。ノード・リスト(NODL)パラメーターが指定されていると、制御点名は指定できません。

考えられる値は次の通りです。

***LOCAL**

ローカル・システムはターゲット・システムとして識別されます。*LOCALが指定されている場合には、コマンドはローカル・システムで実行されます。作成されたスプール・ファイルはシステム上に残されます。

***NONE**

この活動を実行するシステムは個々に識別されません。ノード・リストを指定しなければなりません。

***NETATR**

ローカル・システムのネットワークIDが使用されます。これは、指定されるノードがローカル・システムと同じネットワーク内にある時に役立ちます。

ネットワークID

活動が実行される管理下のシステムのAPPNネットワークIDを指定します。

指定できる制御点の値は次の通りです。

制御点名

活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。

上

管理下のシステムの開始時刻 (RMTSTRTIME)

この活動が管理下のシステムで実行を開始できる日付および時刻を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は、中央側の日付および時刻に基づいて中央側システムで活動が実行を開始する時に決定されます。

時間帯として考えられる値は次の通りです。

***LCLSYS**

リモート開始時刻は、中央側システムの時間帯で指定されます。

***MGDSYS**

リモート開始時刻は、管理下のシステム側の時間帯で指定されます。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

これは、その時刻の後に活動を開始する時刻の定義です。

***CURRENT**

この機能は、要素3で指定した日にこの活動が開始された時刻以後の任意の時刻に、管理下のシステムにおいて開始できます。

時刻以後開始

その時刻以後に管理下のシステムでこの機能を開始できる時刻を指定してください。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻は、時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

この機能は、中央側システムで活動が開始された日付またはそれ以後の任意の日に管理下のシステムで開始されます。

***NEXT**

この機能は、中央側システムで活動が開始された日付より後の任意の日に管理下のシステムで開始されます。

日付以後開始

この機能を管理下のシステムで開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

時刻以前開始として考えられる値は次の通りです。

開始時刻の終わりが*ANYの場合には、この要素は無視されます。

***ANY** 活動は開始時刻以後の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は、日付以前開始要素で指定された日の変更要求を投入した時刻より前に開始しなければなりません。

時刻以前開始

その時刻より前に活動を開始しなければならない時刻を指定します。この時刻の前に活動を開始できない場合には、その活動は開始されません。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻は、時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以前開始として考えられる値は次の通りです。

***ANY** 活動は、開始日以後の任意の日に開始できます。

***CURRENT**

活動は変更要求の投入日に開始しなければなりません。

***NEXT**

活動は変更要求の投入日の翌日までに開始しなければなりません。

日付以前開始

その日付の前に活動を開始しなければならない日付。この日付までに活動を開始できない場合には、活動は開始されません。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

注：

時間帯の値*MGDSYSが指定されている場合には、日付および時刻に特殊値*CURRENTおよび*NEXTを指定できません。

上

スプール・ファイルの戻り (RTNSPLF)

リモート・コマンドから出力スプール・ファイルが戻されるかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***YES** リモート・コマンドで作成されたスプール・ファイルが管理下のシステムから戻されます。すべてのノードからのスプール・ファイルが、変更要求のコマンド活動の詳細を表示して調べることができる1つのスプール・ファイルに結合されます。

***NO** 出力データは管理下のシステムから戻されません。

***FAIL** 実行時にコマンドが正常に実行されなかった場合には、管理下のシステムからスプール・ファイル・ジョブ・ログが戻されます。

上

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

コマンドが実行されるリモート・システムでのユーザー・プロファイルを指定します。リモート・システムでNETVIEW REMOTE OPERATIONS AGENT/400プロダクトが実行されている場合には、そのリモート・システムではこのパラメーターは無視されます。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

ユーザー・プロファイルは指定されません。それぞれの管理下のシステムで省略時のユーザー・プロファイルが使用されます。

ユーザー・プロファイル

ユーザー・プロファイルの名前を指定します。

上

パスワード (PASSWORD)

リモート・ユーザー・プロファイルのパスワードを指定します。

- リリースがV5R1M0より前の管理下のシステムでは、最大10文字までの英大文字パスワードだけを受け入れられます。それより長いパスワードを入力すると、要求が拒否されたことを示す100B0007 SNAセンス・コードが付いたSMU18A2メッセージが戻されます。

- リリースがV5R1M0以上の管理下のシステムでは、実行できるQPWDLVLシステム値は次の通りです。

6 System i: プログラミング System Manager for i5/OS コマンド

- 0または1 —受け取ったパスワードを10文字に切り捨てる。
- 2または3 — 128文字までのパスワードを受け入れる。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

パスワードは指定されません。

***USRPRF**

パスワードはユーザー・プロファイルと同じです。

パスワード

ユーザー・プロファイルのパスワードを指定します。

上

コマンドのエンコード (ENCODE)

管理下のシステムに送られる時に、コマンド、ユーザー・プロファイル、およびパスワードをエンコードするかどうかを指定します。管理下のシステムでNETVIEW REMOTE OPERATIONS AGENT/400が実行されている場合には、このパラメーターは*NOにしなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***NO** 要求を管理下のシステムに送る時に、コマンド、ユーザー・プロファイル、およびパスワードをエンコードしません。

***YES** 要求が管理下のシステムに送られる時に、コマンド、ユーザー・プロファイル、およびパスワードがエンコードされます。管理下のシステムの属性であるリモート・コマンド・キーは、中央側システムと管理下のシステムの両方に指定しなければなりません。この属性は、管理対象システム属性の変更(CHGMGDSYSA)コマンドを使用して変更できます。リモート・コマンド・キーは、中央側システムと管理下のシステムで同じでなければなりません。

上

テキスト '記述' (TEXT)

活動記述を指定します。

***GEN:** 記述は指定された処置に基づいて生成されます。

テキスト記述

50桁の活動の記述を指定してください。

上

活動条件 (COND)

この活動を実行する前に満たされていなければならない条件を指定します。それぞれの条件は、この活動の前に実行する必要がある活動と、この活動を実行するために必要な前の活動からの終了コードの値を識別します。省略時の条件は、前（アルファベット順）の活動が正常に完了していなければこの活動を実行できないというものです。

条件づけ活動として考えられる値は次の通りです。

この活動の前に実行しなければならない活動。

***PRV** この活動は前の活動で条件づけされます。活動は、活動名のアルファベット順に順序づけられます。追加される活動が最初の活動である場合には、前の活動は存在しないので、*PRVの条件は満たされたものとしてマークが付けられます。

条件付け活動名

この活動の前に実行しなければならないこの活動の名前を指定します。活動(ACTIVITY)パラメータに指定した活動名は、条件付け活動名に指定することはできません。活動をそれ自体に条件付けることはできません。

総称*条件付け活動名

この活動の前に実行しなければならない活動の総称名を指定します。

関係演算子として考えられる値は次の通りです。

この要素は、条件づけ活動の終了コードと比較する時に使用する関係演算子です。

***EQ** 等しい

***GT** より大

***LT** より小

***NE** 等しくない

***GE** 大きいか等しい

***LE** 小さいか等しい

条件コードとして考えられる値は次の通りです。

この要素は、条件づけ活動の実際の終了コードと比較される値です。

***SUCCESS**

活動は正常に終了しました(0 <=終了コード<= 9)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***FAIL** 活動は正常に実行されませんでした(10 <=終了コード<= 89)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***NOTRUN**

活動は開始されませんでした(90 <=終了コード<= 99)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***ANY** 活動は任意の終了コードで終了しました。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQの時だけです。

終了コード

活動の結果（成功または障害）を示す整数値(0から99)を指定します。終了コードの範囲および説明は次の通りです。

00 活動は正常に完了した。

01-09 活動は警告メッセージ付きで完了した。

10-29 活動は正常に完了しなかった。

30-39 活動は完了する前にユーザーによって取り消された。

- 30 =活動は*CNTRLDオプションによって終了された。
- 35 =活動は*IMMEDオプションによって終了された。
- 39 =活動は*FRCFAILオプションによって終了された。

40-49 アプリケーションがエラーを検出したので、活動は実行されなかった。

- 40 =機密保護上の理由から、活動は実行されなかった。

90-99 条件またはスケジュールが満たされなかったので、活動は実行されなかった。

- 95 =スケジュールされた開始時刻を経過した。
- 99 =条件を満たすことができない。

条件モードとして考えられる値は次の通りです。

この要素は、この活動を実行する前に条件づけ活動が完了していなければならないシステムを示します。

***ALLNODES**

指定した条件づけ活動は、この活動を実行する前にすべてのノードで完了していなければなりません。

***SAMENODE**

所定のノードに対して指定した条件活動が完了すると、指定した条件活動が他のすべてのノードにおいて完了していない場合であっても、ACTIVITYパラメーターに指定した活動をその同じノードに実行できます。この活動が条件付け活動にないノードをリストしている場合には、この活動をそのノードで実行することができ、その条件は無視されます。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

この活動に条件はありません。

上

活動開始時刻 (STRTIME)

この活動を中央側システムで開始できる日時を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は、変更要求が投入された時に決定されます。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

この活動は、変更要求の投入時刻またはそれ以降の任意の時刻に開始できます。

時刻以後開始

この活動を開始できる時刻を指定します。時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力できます。この場合に、HHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

この活動は、変更要求の投入日またはそれ以降の日付に開始できます。

***NEXT**

この活動は、変更要求の投入日より後の任意の日付に開始できます。

日付以後開始

その日付以後にこの活動を開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

時刻以前開始として考えられる値は次の通りです。

日付以前開始が*ANYの場合には、この要素は無視されます。

***ANY** この活動は、日付以前開始以前の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は、日付以前開始要素で指定された日の変更要求を投入した時刻より前に開始しなければなりません。

時刻以前開始

その時刻より前に活動を開始しなければならない時刻を指定します。この時刻の前に活動を開始できない場合には、その活動は開始されません。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以前開始として考えられる値は次の通りです。

***ANY** 活動は、時刻以後開始および日付以後開始より後の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は変更要求の投入日に開始しなければなりません。

***NEXT**

活動は変更要求の投入日の翌日までに開始しなければなりません。

日付以前開始

その日付の前に活動を開始しなければならない日付を指定します。この日付までに活動を開始できない場合には、活動は開始されません。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

上

活動の保留 (HOLD)

変更要求の投入時に活動を保留するように指定します。

***NO** 活動は保留されません。開始時にすべての条件が満たされていれば実行されます。

***YES** 活動は変更要求の投入時に保留されます。実行する前に保留解除しなければなりません。

上

例

例1: 活動の追加

ADDCMDCRQA CRQD(MYLIB/CR1) ACTIVITY(ACT01) CMD(STRSBS QCMN)

この例は、ライブラリーMYLIBの要求記述CR1を変更して中央側システムでQCMNサブシステムを開始するために活動ACT01を追加する方法を示します。活動は、変更要求を投入すると同時に実行されます。

例2: ノード・リストの活動の追加

```
ADDCMDCRQA  CRQD(MYLIB/CR2)  ACTIVITY(ACT01)
             CMD(STRSBS QSNADS)  NODL(MYLIB/STORES)
             CPNAME(*NONE) RTNSPLF(*FAIL)
```

この例は、活動ACT01がライブラリーMYLIBのSTORESノード・リストで識別したシステムでサブシステムQSNADSを開始する方法を示します。また、この例では、コマンドが失敗した時にスプール・ファイルを中央側システムに戻すように要求します。

例3: 2つのシステムの活動の追加

```
ADDCMDCRQA  CRQD(MYLIB/CR3)  ACTIVITY(ACT01)
             CMD(PRODLIB/RUNREPORTS)
             CPNAME((STORENET STOREA) (STORENET STOREB))
             USRPRF(REPORTOPER)  PASSWORD(OPERPASS)
             ENCODE(*YES)
```

この例では、活動ACT01がSTORENETネットワークでSTOREAおよびSTOREBの明細報告書を実行する方法を示します。報告書は管理下のシステム上でREPORTOPERユーザー・プロファイルのもとで実行されます。ユーザー・プロファイルおよびパスワードが提供されたために、管理下のシステムに送信される時に要求はエンコードされます。

上

エラー・メッセージ

なし

上

CRQ活動の追加 (ADDCRQA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

変更要求活動追加(ADDCRQA)コマンドは、変更管理活動を変更要求記述に追加します。追加した活動によって実行される変更管理処置は、処置パラメーターに指定されている値によって決まります。

活動が実行されるのは1つまたは複数の他の活動が（正常または異常に）完了した後だけになるように、その活動を条件付けることができます。また、将来の日付および時刻に実行されるようにスケジュールすることもできます。

制約事項:

- 変更要求記述オブジェクトに対する*CHANGE権限とライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
- ノード・リスト(NODL)値を指定する場合は、ノード・リストに入れることができるのはアドレス・タイプの値が*SNAになっている項目だけです。
- グローバル名または構成要素名は、トークン間の1つの区切り文字を含めて64桁以内でなければなりません。

注：NETVIEW分散管理機能(NETVIEW DM)変更ファイルまたは他の非I5/OSオブジェクトの導入を取り消す必要がある場合には、変更管理活動追加(QNSADDCM) APIを使用しなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CRQD	変更要求記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 変更要求記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ACTIVITY	活動	名前, *GEN, *LAST	オプション, 定位置 2
ACTION	処置	*ACP, *ACT, *DLT, *INS, *RMV, *RTV, *RUN, *SND, *SNDINS, *SNDRUN, *UNINS	オプション, 定位置 3

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
GLBNAME	グローバル名	要素リスト	オプション
	要素 1: グローバル名トークン1	文字値, *NETID, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 2: グローバル名トークン2	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 3: グローバル名トークン3	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 4: グローバル名トークン4	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 5: グローバル名トークン5	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 6: グローバル名トークン6	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 7: グローバル名トークン7	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 8: グローバル名トークン8	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 9: グローバル名トークン9	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
要素 10: グローバル名トークン10	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME		

キーワード	記述	選択項目	ノート
COMPNAME	構成要素名	要素リスト	オプション
	要素 1: 構成要素名トークン1	文字値, *NETID	
	要素 2: 構成要素名トークン2	文字値, *NETID, *CPNAME	
	要素 3: 構成要素名トークン3	文字値, *NETID, *CPNAME	
	要素 4: 構成要素名トークン4	文字値, *NETID, *CPNAME	
	要素 5: 構成要素名トークン5	文字値, *NETID, *CPNAME	
	要素 6: 構成要素名トークン6	文字値, *NETID, *CPNAME	
	要素 7: 構成要素名トークン7	文字値, *NETID, *CPNAME	
NODL	管理下のシステム・ノード・リスト	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード・リスト	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点	文字値	
TEXT	テキスト '記述'	文字値, *GEN, *BLANK	オプション
ACTFRC	活動化の強制	単一値: *YES その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 活動化の強制	*NO	
	要素 2: 遅延単位	*SECONDS , *MINUTES, *HOURS	
	要素 3: 遅延期間	1-65535, 3600	
ACTUSEACT	活動化の実行時に活動化の使用	*BOTH, *PROD, *LAST, *NONE	オプション
CPRTYPE	圧縮タイプ	*ADAPTIVE, *SNA, *USER, *NONE	オプション
SNACPRCHR	SNA圧縮文字	16 進値, *BLANK	オプション
USRCPRINF	ユーザー圧縮情報	要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー圧縮名	名前	
	要素 2: ユーザー・パラメーター	文字値	
CPRTGSTT	圧縮記憶域の状態	*DECOMPRESS, *COMPRESS, *NONE	オプション
CPRTFRSTT	圧縮転送状態	*DECOMPRESS, *COMPRESS, *NONE	オプション
ACTUSEINS	導入時の活動化の使用	*PROD , *TRIAL	オプション
ALTACTCOMP	活動構成要素変更	*ALLOWED, *NOTALLOWED, *NONE	オプション
AUTOACP	自動受け入れ	単一値: *NONE , *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 自動受け入れ	*YES, *DESIRED	
	要素 2: 遅延日数	0-255	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
AUTORMV	自動除去	*YES, *NO, *DESIRED, <u>*NONE</u>	オプション
PRETEST	事前テスト	*YES, *NO, <u>*DESIRED</u>	オプション
POSTTEST	事後テスト	*YES, *NO, <u>*DESIRED</u>	オプション
ALWRMV	除去可能	*NO, *DESIRED, <u>*YES</u>	オプション
PARM	開始パラメーター	値 (最大 40 回の繰り返し): 無制限	オプション
KEEPOBJ	オブジェクトの保存	*YES, *NO, <u>*NONE</u>	オプション
COREQCHGNL	共通必須変更名リスト	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グローバル名	値 (最大 6 回の繰り返し): 要素リスト	
	要素 1: グローバル名トークン1	文字値	
	要素 2: グローバル名トークン2	文字値	
	要素 3: グローバル名トークン3	文字値	
	要素 4: グローバル名トークン4	文字値	
	要素 5: グローバル名トークン5	文字値	
	要素 6: グローバル名トークン6	文字値	
	要素 7: グローバル名トークン7	文字値	
	要素 8: グローバル名トークン8	文字値	
	要素 9: グローバル名トークン9	文字値	
要素 10: グローバル名トークン10	文字値		
REPLACE	オブジェクトの置き換え	*YES, *ALLOWED, <u>*NO</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
TODLTNAME	削除される名前	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 削除される名前トークン1	文字値, *NETID, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 2: 削除される名前トークン2	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 3: 削除される名前トークン3	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 4: 削除される名前トークン4	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 5: 削除される名前トークン5	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 6: 削除される名前トークン6	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 7: 削除される名前トークン7	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 8: 削除される名前トークン8	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 9: 削除される名前トークン9	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
要素 10: 削除される名前トークン10	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME		
REFLVL	最新表示レベル	文字値	オプション
FRCUNINS	導入解除の強制	*YES, *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
RMTSTRTIME	管理下のシステムの開始時刻	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 時間帯	*LCLSYS, *MGDSYS	
	要素 2: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *CURRENT	
	要素 2: 日付	日付, *CURRENT , *NEXT	
COND	活動条件	単一値: *NONE その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 活動	総称名, 名前, *PRV	
	要素 2: 関係演算子	*EQ , *GT, *LT, *LE, *NE, *GE	
	要素 3: 終了コード	0-99, *SUCCESS , *FAIL, *NOTRUN, *ANY	
	要素 4: 条件モード	*ALLNODES , *SAMENODE	
STRTIME	活動開始時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *CURRENT	
	要素 2: 日付	日付, *CURRENT , *NEXT	
	要素 2: 以前に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *ANY , *CURRENT	
	要素 2: 日付	日付, *ANY , *CURRENT, *NEXT	
HOLD	活動の保留	*NO , *YES	オプション

上

変更要求記述 (CRQD)

変更要求記述オブジェクト名を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***LIBL** ライブラリー・リストおよびジョブのライブラリー・リストのシステム部分にあるライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

このパラメーターに指定したライブラリーだけが検索されることを指定します。

指定できる変更要求記述の値は次の通りです。

変更要求記述

変更要求記述オブジェクトの名前を指定します。

上

活動 (ACTIVITY)

変更要求記述に追加する活動の名前を指定します。

***GEN** 活動名が生成されます。活動名の形式はQACTXXXXXXで、この場合にXXXXXXはまだ使用されていない最初の10の倍数です。

*LAST

活動は変更要求で最後に実行されます。活動(ACTIVITY)パラメーターに*LASTを指定すると、条件(COND)パラメーターおよび開始時刻(STRTIME)パラメーターは指定できません。変更要求記述に存在できる*LASTを指定した活動は1つだけです。

活動名 10桁の活動名を指定します。

上

処置 (ACTION)

追加された活動によって実行される変更管理処置を指定します。

***ACP** 管理下のシステムに、前に導入されたオブジェクトを受け入れさせます。この活動は、変更の除去可能性を維持するために必要な管理下のシステムの資源を解放します。これは、前に除去可能な方式で導入された変更の除去可能性を取り消します。解放される資源の代表的なものとして、変更によって影響を受ける構成要素の未変更バージョンがあります。

***ACT** 管理下のシステムに、前に導入されたすべての変更を活動化させます。それぞれの管理下のシステムは、その独自の方法で活動化を実行します。例えば、この活動によって、管理下のISERIESシステムでは初期プログラム・ロード(IPL)が実行されたり、あるいはPS/2では構成が活動化されて、PS/2が再始動されます。

***DLT** 1つまたは複数の管理下のシステムでの削除処置を要求します。

***INS** 最大7個のオブジェクトの導入を要求します。オブジェクトは、相互関連条件として扱われます。このことはすべての導入が成功するか、失敗するかのいずれかであることを意味します。この活動では、オブジェクトとその相互に必要なオブジェクト（それがあった場合）が使用され、変更を有効にするために必要なすべての構成要素が変更されます。管理下のシステムは、必要であれば、このような変更を除去可能な方式で実行することができ、したがって、後続の要求（除去）でこれらすべての構成要素を変更の前の元の状態に戻すことができます。また、自動除去および自動受け入れも可能です。

***RMV** この活動が管理下のシステムで実行された場合には、変更と関連して前に変更されたすべての構成要素が、変更を導入する前の状態に戻されます（つまり、除去されます）。これは、前に除去可能な方式によって導入されている変更の場合にだけ可能です。

***RTV** グローバル名によって識別されたオブジェクトを、管理下のシステムまたは別の中央側システム（中央側システムの記憶域の場合）から検索します。複数のシステムからオブジェクトを検索するには、検索されるそれぞれのオブジェクトが1個の固有のグローバル名をもつように、*ANYトークンをもつグローバル名が必要です。トークン(*ANY, *HIGHEST,または*LOWEST)が指定されていないグローバル名が検索された場合には、配布リポジトリに記憶されます。

***RUN** 1つまたは複数の管理下のシステムでプログラムまたはプロシージャーを実行させます。

***SND** オブジェクトを中央側システムから1つまたは複数の管理下のシステムまたは別の中央側システムに送信します。

***SNDINS**

オブジェクトを中央側システムから1つまたは複数の管理下のシステムに送信し、その管理下のシステムでオブジェクトを導入します。

***SNDRUN**

オブジェクトを中央側システムから1つまたは複数の管理下のシステムに送信し、その管理下のシステムでオブジェクトを実行します。

***UNINS**

前に導入されている構成要素を管理下のシステムから除去します（導入解除します）。構成要素は始めに複数のオブジェクトの導入から作成されていることもありますが、そのすべてが除去されます。

上

グローバル名 (GLBNAME)

SNAネットワーク内のオブジェクトを固有に識別する一連のトークンであるグローバル名を指定します。グローバル名は、中央側システムと管理下のシステムの両方で該当するカタログ項目を見つけるために使用される名前を表します。カタログ項目は、そのシステムで使用されるオブジェクトを指定します。例えば、検索処置が指定されている場合には、管理下のシステムで検索されるオブジェクトを判別するためにグローバル名が使用されます。また、グローバル名は中央側システムでそのオブジェクトが保管される場所も示します。

トークン桁の特殊値は、オブジェクトの検索方法を指示します。トークン位置に*ANYを指定すると、正しいオブジェクトの検索時にトークンは無視されます。

オブジェクトが送信される場合には、ローカル・オブジェクト名と関連づけするかあるいは配布リポジトリ中のオブジェクトと関連づけできるように、グローバル名がカタログ中になければなりません。検索されたオブジェクトにカタログ項目が存在しない場合は、そのオブジェクトは配布リポジトリに入れられません。

トークン位置の*SERVER, *TARGET, *MDDATE, および*MDTIME以外の特殊値は、*DLT, *RTV, *SND, *SNDRUN, または*SNDINSの処置だけに使用できます。最初のトークンのために使用できる特殊値は*NETID, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, および*MDTIMEです。

要素1: トークン1

考えられる値は次の通りです。

***NETID**

最初のグローバル名のトークン値はコマンドによってネットワーク属性から生成されたネットワークIDです。ネットワークIDは、LCLNETIDネットワーク属性値の現在の値によって判別されます。

グローバル名トークン1

グローバル名の最初のトークンを指定します。最初のトークンの推奨値は、登録された企業IDまたはネットワークIDです。

要素2から10: トークン2から10

考えられる値は次の通りです。

***ANY** 任意のトークン値が処置を実行するオブジェクトを検索する時に突き合わされます。

***HIGHEST**

トークンの値が最大であるオブジェクトに処置が実行されます。トークンは順序づけする必要があります。これは、オブジェクトの別のバージョンを示すためにグローバル名のトークンを使用している、バージョン・レベルが最大のオブジェクトを処理する必要がある場合に役立ちます。

***LOWEST**

トークンの値が最小であるオブジェクトに処置が実行されます。トークンは順序づけする必要があります。これは、オブジェクトの別のバージョンを示すためにグローバル名のトークンを使用している、バージョン・レベルが最低のオブジェクトを処理する必要がある場合に役立ちます。

***NETID**

このシステムのネットワークIDが使用されます。ネットワークIDは、LCLNETIDネットワーク属性値の現在の値によって判別されます。

***CPNAME**

このシステムの制御点名が使用されます。制御点名は、LCLCPNAMEネットワーク属性値の現在の値によって決定されます。

***SERVER:**

このトークンは変更要求活動内に&SERVERの値で記憶され、オブジェクトの配布時に変更制御サーバーの短縮名によって置き換えられます。

***TARGET:**

このトークンは変更要求活動内に&TARGETの値で記憶され、オブジェクトの配布時にターゲットの短縮名によって置き換えられます。

***MDDATE:**

このトークンは値&DATEによって変更要求活動に記憶され、配布時にはオブジェクトが最後に変更された日付によって置き換えられます。

***MDTIME:**

このトークンは、値&TIMEによって変更要求活動に記憶され、配布される時にオブジェクトが最後に変更された時刻によって置き換えられます。

グローバル名トークンN

処置が実行されるオブジェクトを固有に識別する一連の1から16桁のトークンの1つを指定します。使用できる文字はAからZおよび0から9です。ネットワークIDおよびシステム名を表すトークンには、その他の特殊値(@, #,および%)を使用できます。

注: GLBNAMEが有効なのは、ACTION(*ACT)が指定されていない場合だけです。

上

構成要素名 (COMPNAME)

REF, FIX,またはUPDサブツリー標識(STI)トークンに先行するグローバル名トークンのセットである構成要素名。構成要素名は、管理下のシステムから導入解除しなければならない導入可能オブジェクトの識別に使用されます。使用できるトークンの最大数は7です。構成要素名は、管理下のシステムから導入解除しなければならない導入可能オブジェクトの識別に使用されます。

注: COMPNAMEが有効なのは、ACTION(*UNINS)が指定されている場合だけです。

要素1: トークン1

最初のトークンに使用できる特殊値は*NETIDだけです。

考えられる値は次の通りです。

***NETID**

このシステムのネットワークIDが使用されます。ネットワークIDは、LCLNETIDネットワーク属性値の現在の値によって判別されます。

構成要素名トークン1

処置を実行するオブジェクトを固有に識別する一連の1から16桁のトークンの1つ。使用できる文字はAからZおよび0から9です。ネットワークIDおよびシステム名を表すトークンには、その他の特殊値(@, #,および¥)を使用できます。

要素2から7: トークン2から7

***NETID**

このシステムのネットワークIDが使用されます。ネットワークIDは、LCLNETIDネットワーク属性値の現在の値によって判別されます。

***CPNAME**

このシステムの制御点名が使用されます。ネットワークIDは、LCLCPNAMEネットワーク属性値の現在の値によって判別されます。

構成要素名トークンN

処置を実行するオブジェクトを固有に識別する一連の1から16桁のトークンの1つ。使用できる文字はAからZおよび0から9です。ネットワークIDおよびシステム名を表すトークンには、その他の特殊値(@, #,および¥)を使用できます。

上

管理下のシステム・ノード・リスト (NODL)

ノード・リスト・パラメーターはこの活動の宛先であるシステムのリストが入っているオブジェクト名であることを指定します。このパラメーターは、制御点名(CPNAME)パラメーターも指定されている場合には指定できません。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

この活動を実行するシステムは、ノード・リストによって指定されません。個々の制御点名を指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーでノード・リスト・オブジェクトが検索されます。

***CURLIB**

ノード・リスト・オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定します。

ノード・リスト名

活動を実行するシステムのリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名を指定します。

管理下のシステム・ノード名 (CPNAME)

この活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。ノード・リスト(NODL)パラメーターが指定されていると、制御点名は指定できません。NODLが指定されていない場合には、CPNAMEが必要です。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

この活動を実行するシステムは個々に識別されません。ノード・リストを指定しなければなりません。

***NETATR**

ローカル・システムのネットワークIDが使用されます。これは、指定されるノードがローカル・システムと同じネットワーク内にある時に役立ちます。

ネットワークID

活動が実行される管理下のシステムのAPPNネットワークIDを指定します。NETVIEW分散管理エージェントの場合のネットワークIDは、変更制御サーバー名です。

制御点名

活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。NETVIEW分散管理エージェントの場合の制御点名は、他のプラットフォームで有効な制御点名の先頭の位置に数字(0から9)をサポートする変更制御クライアントです。

テキスト '記述' (TEXT)

活動記述を指定します。

***GEN** 追加されている活動についてテキスト記述を生成しなければなりません。テキスト記述は、ACTIONパラメーターに指定された動詞に基づいて生成されるはずですが、生成されるテキスト記述には、以下があります。

- オブジェクトの受け入れ
- システムの再始動
- オブジェクトの削除
- オブジェクトの実行
- オブジェクトの導入
- オブジェクトの除去
- オブジェクトの検索
- オブジェクトの送信
- オブジェクトの送信および実行
- オブジェクトの送信および導入
- オブジェクトの導入解除

***BLANK**

テキストは指定されません。

テキスト記述

活動の50文字のテキスト記述を指定します。

上

活動化の強制 (ACTFRC)

管理下のシステムは、その休止状態に基づいて活動化を進める必要があるかどうかを指定します。

活動化の強制

活動化の強制値を指定します。

***NO** 休止検査が管理下のシステムはまだ活動状態であることを示している場合には、管理下のシステムは活動化を進めません。

遅延単位

遅延期間が指定される時間の単位を指示します。

***SECONDS**

遅延期間は秒数で指定されます。

***MINUTES**

遅延期間は分数で指定されます。

***HOURS**

遅延期間は時間数で指定されます。

遅延期間

管理下のシステムが指定された処置をとる前に休止（まだ休止されていない場合）を待機することができる最大時間数を指定します。

3600 遅延期間の省略時の値は3600秒です。

1から65535

遅延期間の範囲。

YES** 管理下のシステムは、休止検査が管理下のシステムはまだ活動状態であることを示している場合であっても、活動化を進めます。活動化の強制がYES**の場合には、遅延単位および遅延期間は無視されます。

注: ACTFRCが有効なのは、ACTION(*ACT)が指定されている場合だけです。

上

活動化の実行時に活動化の使用 (ACTUSEACT)

活動化の実行時に活動化の使用。活動化の実行時に、変更によって変えられたどの構成要素が使用されるかを指定します。

***NONE**

活動化実行時の活動化の使用は指定されません。

***BOTH**

試行バージョンと実行用バージョンの両方。

***PROD**

実行用バージョンのみ。

***LAST**

最後に使用された試行と実行用の両方かまたは実行用のみ。

注: ACTUSEACTが有効なのは、ACTION(*ACT)が指定されている場合だけです。

上

圧縮タイプ (CPRTYPE)

圧縮アルゴリズムおよび特定の変更オブジェクトの圧縮と関係づけられる関連した情報を指定します。圧縮転送状態と圧縮記憶状態の一方または両方のパラメーターが*COMPRESSを指定している場合には、このパラメーターの存在していることが必要であり、また、最適圧縮、SNA圧縮、またはユーザー圧縮アルゴリズムの1つ（1つだけ）を要求することができます。このサポートは、管理下のシステムでの実行方法によって異なります。

***NONE**

圧縮タイプは指定されません。

***ADAPTIVE**

最適圧縮が要求されたオブジェクトに属するかどうかを指定します。ISERIESシステムは*ADAPTIVEサポートしていません。

***SNA** SNA圧縮が要求されたオブジェクトに属するかどうかを指定します。

***USER**

指定のユーザー圧縮が要求されたオブジェクトに属するかどうかを指定します。

注:

1. CPRTYPEが有効であるのは、ACTION(*RTV)、ACTION(*SND)、ACTION(*SNDRUN)、またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。
2. CMPSTGSTTおよびCPRTFRSTTが指定されていない場合には、CPRTYPEを指定できません。
3. CMPSTGSTTが*DECOMPRESSであり、CPRTFRSTTが指定されていない場合には、CPRTYPEを指定できません。
4. CPRSTGSTTが指定されず、CPRTFRSTTが*DECOMPRESSである場合には、CPRTYPEを指定できません。
5. CPRSTGSTTおよびCPRTFRSTTが*DECOMPRESSである場合には、CPRTYPEを指定できません。

上

SNA圧縮文字 (SNACPRCHR)

SNA圧縮アルゴリズムに関する情報を要求されたオブジェクトに属するものとして指定します。省略した場合には、SNA圧縮は要求されたオブジェクトに属さないことを意味します。

***BLANK**

SNA圧縮が要求された場合には、暗黙の省略時の値は(X'40')文字になることが任意選択で指定されます。そうでない場合には、指定されません。

SNA基本文字

SNA圧縮アルゴリズムによって使用される単一制御バイト(SCB)と関連づけられる基本圧縮文字。有効な値は'00'X - 'FF'Xです。

注: SNACPRCHRが有効であるのは、ACTION(*RTV)、ACTION(*SND)、ACTION(*SNDRUN)、またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。

上

ユーザー圧縮情報 (USRCPRINF)

指定のユーザー圧縮アルゴリズムに関する情報を要求されたオブジェクトに属するものとして指定します。省略した場合には、ユーザー圧縮は要求されたオブジェクトに属さないことを意味します。

ユーザー圧縮名

要求されたオブジェクトに属するユーザー圧縮アルゴリズムの名前。ユーザー圧縮が要求された場合には、これを指定しなければなりません。そうでない場合には、指定されません。

ユーザー・パラメーター

ユーザー圧縮名に指定されたユーザー圧縮アルゴリズムに適用されるユーザー・パラメーター。ユーザー圧縮が要求された時に、任意選択で指定されます。そうでない場合には、指定されません。

注: USRCPRINFが有効なのは、ACTION(*RTV)、ACTION(*SND)、ACTION(*SNDRUN)、またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。

上

圧縮記憶域の状態 (CPRSTGSTT)

オブジェクトが送信された時に、管理下のシステムではそのオブジェクトを圧縮された形式で記憶する必要があるかどうかを指定します。

***NONE**

圧縮記憶状態は指定されません。

***DECOMPRESS**

管理下のシステムでは、オブジェクトは圧縮解除された形式で記憶されます。オブジェクトが管理下のシステムに到着した時にすでに圧縮解除されていた場合には、受信された通りに記憶されます。そうでない場合には、管理下のシステムでオブジェクトのカタログ処理に使用される圧縮方式を使用してオブジェクトが圧縮解除されてから記憶されます。

***COMPRESS**

管理下のシステムでは、オブジェクトが圧縮された形式で記憶されます。この値を指定する場合は、圧縮アルゴリズムも指定しなければなりません。オブジェクトが管理下のシステムに到着した時にすでに圧縮されていた場合には、それが受信された通りに記憶されます。そうでない場合には、オブジェクトが記憶される前に、圧縮アルゴリズムを使用して圧縮されます。

注: CPRSTGSTTが有効であるのは、ACTION(*RTV)、ACTION(*SND)、ACTION(*SNDRUN)、またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。

圧縮転送状態 (CPRTFRSTT)

オブジェクトを圧縮された形式で管理下のシステムに転送する必要があるかどうかを指定します。

*NONE

圧縮転送状態は指定されません。

*DECOMPRESS

オブジェクトは圧縮解除された形式で管理下のシステムに転送されます。すでに転送元で圧縮解除されている場合には、オブジェクトは記憶されている通りに転送されます。そうでない場合には、管理下のシステムでオブジェクトのカタログ処理に使用されている圧縮方式を使用して圧縮解除されてから送信されます。

*COMPRESS

オブジェクトは圧縮アルゴリズムを使用して圧縮され、圧縮された形式で管理下のシステムに転送されます。この値を指定する場合は、圧縮アルゴリズムも指定しなければなりません。オブジェクトがすでに発信元で別のアルゴリズムを使用して圧縮されている場合には、管理下のシステムでオブジェクトのカタログ処理に使用されている圧縮方式を使用してオブジェクトを圧縮解除してから圧縮して転送します。

注: CPRTFRSTTが有効であるのは、ACTION(*RTV)、ACTION(*SND)、ACTION(*SNDRUN)、またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。

上

導入時の活動化の使用 (ACTUSEINS)

導入処理によって変更される構成要素が試行バージョンであるか、または実行用バージョンであるかを指定します。導入実行時の活動化の使用が*TRIALである場合には、これは、テストされる試行域にオブジェクトを導入しなければならないことを意味します。その場合には、除去可能性が*YESでなければなりません。

*PROD

実行用バージョンのみ。

*TRIAL

試行バージョンのみ。

注: ACTUSEINSが有効であるのは、ACTION(*INS)またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。

上

活動構成要素変更 (ALTACTIONCOMP)

管理下のシステムで活動状態のシステムに構成要素の変更を適用できるかどうかを指定します。変更を適用できない場合には、このような処置は次の活動化まで据え置かれます。このパラメーターは、*SNDINS処置の場合にだけ使用することができます。

***NONE**

活動状態の構成要素の変更は指定されません。

***ALLOWED**

管理下のシステムは、構成要素の変更を活動状態のシステムに適用できます。

***NOTALLOWED**

管理下のシステムは、構成要素の変更を活動状態のシステムに適用できません。

注: ALFACTCOMPが有効であるのは、ACTION(*INS)、ACTION(*SNDINS)、ACTION(*RMV)、またはACTION(*UNINS)が指定されている場合だけです。

上

自動受け入れ (AUTOACP)

除去可能性を維持するために必要な資源をできるだけ迅速に解放できるように、実行された導入およびすべてのテストが正常に行なわれた場合に、管理下のシステムがオブジェクトを自動的に受け入れるかどうかを指定します。別個の受け入れ要求と同様に、管理下のシステムは、自動受け入れが正常に実行された後にオブジェクトを削除します。

***NONE**

自動受け入れは指定されません。

***NO** 自動受け入れは実行されません。

自動受け入れ

自動受け入れに使用できる値は、次の通りです。

***YES** 自動受け入れが実行されます。

***DESIRED**

指定された管理下のシステムがサポートしている場合に、自動受け入れが実行されます。

考えられる値は次の通りです。

遅延 オブジェクトを自動的に受け入れる前に入り口点が待機する必要がある日数を指定します。

遅延日数

有効な日数の範囲は0-255です。

注: AUTOACPが有効なのは、ACTION(*INS)またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。

上

自動除去 (AUTORMV)

導入かテストのいずれかに障害があった場合に、管理下のシステムがオブジェクトを自動的に除去するかどうかを指定します。

***NONE**

自動除去は指定されません。

***DESIRED**

指定された管理下のシステムがサポートしている場合に、自動除去が実行されます。

***YES** 自動除去が実行されます。

***NO** 自動除去は実行されません。

注: AUTORMVが有効なのは、ACTION(*INS)またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。

上

事前テスト (PRETEST)

オブジェクトの導入前に入り口点でオブジェクトのテストを実行するかどうかを指定します。

***DESIRED**

指定された管理下のシステムがサポートしている場合に、事前テストが実行されます。

***YES** 事前テストが実行されます。

***NO** 事前テストは実行されません。

注: PRETESTが有効であるのは、ACTION(*INS)またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。

上

事後テスト (POSTTEST)

オブジェクトを導入または除去した後に入り口点でテストを実行するかどうかを指定します。

***DESIRED**

指定された管理下のシステムがサポートしている場合に、事後テストが実行されます。

***YES** 事後テストが実行されます。

***NO** 事後テストは実行されません。

注: POSTTESTが有効なのは、ACTION(*INS), ACTION(*SNDINS),またはACTION(*RMV) が指定されている場合だけです。

上

除去可能 (ALWRMV)

オブジェクトが除去可能な方式で導入されるかどうかを（オブジェクトに対して後続の除去処置を出すことができるように）指定します。

***YES** オブジェクトは除去可能な方式で導入されます。

***DESIRED**

指定された管理下のシステムがサポートしている場合に、オブジェクトは除去可能な方式で導入されます。

***NO** オブジェクトは除去可能な方式で導入されません。

注: ALWRMVが有効なのは、ACTION(*INS)またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。

上

開始パラメーター (PARM)

プログラムを実行するために渡すべきパラメーターを指定します。

パラメーター・データ

プログラムの開始時に渡されるパラメーターを指定します。各パラメーターは1から253文字です。最初の画面では25文字を入力できます。1桁目に&を入力することによって、より長いパラメーターを入れるためにフィールドを拡張できます。パラメーターにブランクまたは特殊文字が含まれる場合には、パラメーターをアポストロフィで囲んでください。

注: PARMが有効なのは、ACTION(*RUN)またはACTION(*SNDRUN)が指定されている場合だけです。

上

オブジェクトの保存 (KEEPOBJ)

機能が正常に実行された後に、オブジェクトを保存すべきかまたは削除すべきかを指定します。

*NONE

オブジェクトの保存は指定されません。

***YES** 機能の実行後にオブジェクトを保存しなければなりません。

***NO** 機能の実行後にオブジェクトを削除しなければなりません。

注: KEEPOBJが有効であるのは、ACTION(*RUN)、ACTION(*INS)、ACTION(*SNDRUN)、またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。

上

共通必須変更名リスト (COREQCHGNL)

検索されるオブジェクトの導入の一部として入り口点によって導入されるオブジェクトの名前を識別するSNA/ファイル・サービス(SNA/FS)グローバル名のリストを指定します。最大6個の相互必要条件の変更名を使用できます。グローバル名は、ネットワーク内の他のどのオブジェクトとも混同しないようにユーザーがオブジェクトに割り当てる固有の名前です。グローバル名は、中央側システムと管理下のシステムの両方で該当するカタログ項目を見つけるために使用される名前を表します。

*NONE

相互に必要な変更名のリストは指定されません。

グローバル名トークン

処置が実行されるオブジェクトを固有に識別する、1から16文字の一連のトークンの1つを指定してください。文字AからZおよび0から9を使用することができます。ネットワークIDおよびシステム名を表すトークンには、その他の特殊値(@, #,および¥)を使用できます。

注: COREQCHGNLが有効なのは、ACTION(*INS)またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。

オブジェクトの置き換え (REPLACE)

すでにオブジェクトが存在している場合に置き換えるかどうかを指定します。

***NO** オブジェクトを追加しなければなりません。

***YES** オブジェクトを置き換えなければなりません。

***ALLOWED**

オブジェクトを置き換えまたは追加しなければなりません。

注: REPLACEが有効であるのは、ACTION(*RTV)、ACTION(*SND)、ACTION(*SNDRUN)、またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。

削除される名前 (TODLTNAME)

管理下のシステムのロケーションで削除するオブジェクトの名前を指定します。

トークン桁の特殊値は、オブジェクトの検索方法を指示します。トークン位置に*ANYを指定すると、正しいオブジェクトの検索時にトークンは無視されます。

***NONE**

削除する名前は指定されません。

最初のトークンに使用できる特殊値は*NETID、*SERVER、*TARGET、*MDDATE、および*MDTIMEです。

要素1: トークン1

考えられる値は次の通りです。

***NETID**

最初のグローバル名のトークン値はコマンドによってネットワーク属性から生成されたネットワークIDです。ネットワークIDは、LCLNETIDネットワーク属性値の現在の値によって判別されます。

***SERVER:**

このトークンは、値&SERVERによって変更要求活動に記憶され、オブジェクトが削除された時に変更制御サーバーの短縮名によって置き換えられます。

***TARGET:**

このトークンは、値&TARGETによって変更要求活動に記憶され、オブジェクトが削除された時にターゲットの短縮名によって置き換えられます。

***MDDATE:**

このトークンは、値&DATEによって変更要求活動に記憶され、オブジェクトが最後に変更された日付によって置き換えられます。

***MDTIME:**

このトークンは、値&TIMEによって変更要求活動に記憶され、オブジェクトが最後に変更された時刻によって置き換えられます。

グローバル名トークン1

グローバル名の最初のトークンを指定します。最初のトークンの推奨値は、登録された企業IDまたはネットワークIDです。

要素2から10: トークン2から10

***ANY** 任意のトークン値が処置を実行するオブジェクトを検索する時に突き合わされます。

***HIGHEST**

トークンの値が最大であるオブジェクトに処置が実行されます。トークンは順序づけする必要があります。これは、オブジェクトの別のバージョンを示すためにグローバル名のトークンを使用していて、バージョン・レベルが最大のオブジェクトを処理する必要がある場合に役立ちます。

***LOWEST**

トークンの値が最小であるオブジェクトに処置が実行されます。トークンは順序づけする必要があります。これは、オブジェクトの別のバージョンを示すためにグローバル名のトークンを使用していて、バージョン・レベルが最も低いオブジェクトを処理する必要がある場合に役立ちます。

***NETID**

このシステムのネットワークIDが使用されます。ネットワークIDは、LCLNETIDネットワーク属性値の現在の値によって判別されます。

***CPNAME**

このシステムの制御点名が使用されます。制御点名は、LCLCPNAMEネットワーク属性値の現在の値によって決定されます。

***SERVER:**

このトークンは、値&SERVERによって変更要求活動に記憶され、オブジェクトが削除された時に変更制御サーバーの短縮名によって置き換えられます。

***TARGET:**

このトークンは、値&TARGETによって変更要求活動に記憶され、オブジェクトが削除された時にターゲットの短縮名によって置き換えられます。

***MDDATE:**

このトークンは、値&DATEによって変更要求活動に記憶され、配布時にオブジェクトが最後に削除された日付によって置き換えられます。

***MDTIME:**

このトークンは、値&TIMEによって変更要求活動に記憶され、配布時にオブジェクトが最後に変更された時刻によって置き換えられます。

グローバル名トークンN

処置が実行されるオブジェクトを固有に識別する一連の1から16桁のトークンの1つを指定します。使用できる文字はAからZおよび0から9です。ネットワークIDおよびシステム名を表すトークンには、その他の特殊値(@, #,および%)を使用できます。

注:

1. TODLTNAMEが有効なのは、ACTION(*SND)、ACTION(*SNDRUN)、またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。
2. TODLTNAMEパラメーターに指定するトークンの数は、GLBNAMEパラメーターに指定されたトークンの数と一致していなければなりません。
3. REPLACE値が*NOである時には、TODLTNAMEを指定できません。

上

最新表示レベル (REFLVL)

導入解除するソフトウェア構成要素のレベルを指定します。

*NONE

最新表示レベルは指定されません。

最新表示レベル

最大16桁までの数字ストリングを指定してください。

注: REFLVLが有効となるのはACTION(*UNINS)が指定されている場合だけです。

上

導入解除の強制 (FRCUNINS)

ソフトウェア構成要素に導入を待機中のオブジェクトまたは現在導入中のオブジェクトが含まれていても導入解除を実行するかどうかを指定します。

*NO ソフトウェア構成要素で導入を待機しているオブジェクトがある場合には、導入解除しません。

*YES ソフトウェア構成要素で導入を待機しているオブジェクトがある場合でも導入解除します。

注: FRCUNINSが有効となるのはACTION(*UNINS)が指定されている場合だけです。

上

管理下のシステムの開始時刻 (RMTSTRTIME)

この活動が管理下のシステムで実行を開始できる日付および時刻を指定します。中央側の日付および時刻に基づいて中央側システムで活動の実行が始められた時に、現在の日付および時刻の値と次の日付の値が決まります。

単一値

*NONE

管理下のシステムで開始時刻は指定されません。

要素1: 時間帯

リモート開始時刻の時間帯。

考えられる値は次の通りです。

*LCLSYS

リモート開始時刻は、中央側システムの時間帯で指定されます。この開始時刻はグリニッジ標準時に変換されます。

*MGDSYS

リモート開始時刻は、管理下のシステム側の時間帯で指定されます。

要素2: 時刻以後開始

これは、その時刻の後に活動を開始する時刻の定義です。

***CURRENT**

この機能は、要素2で指定された日に中央側システムでこの活動が開始された時刻以後の任意の時刻に、管理下のシステムで開始できます。

時刻以後開始

この機能を管理下のシステムで開始できる時刻を指定します。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻は、時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

要素3: 日付以後開始

***CURRENT**

この機能は、中央側システムで活動が開始された日付またはそれ以後の任意の日に管理下のシステムで開始されます。

***NEXT**

この機能は、中央側システムで活動が開始された日付より後の任意の日に管理下のシステムで開始されます。

日付以後開始

この機能を管理下のシステムで開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

注：

1. 時間帯の値*MGDSYSが指定されている場合には、日付および時刻に特殊値*CURRENTおよび*NEXTを指定することはできません。
2. このパラメーターが有効なのは、これらの処置が*ACP, *ACT, *RUN, *INS, *RMV, *SNDRUN, *SNDINS,または*UNINSとして指定されている場合だけです。

上

活動条件 (COND)

この活動を実行する前に満たさなければならない条件を指定します。各条件は、この活動の前に実行しなければならない活動、およびその活動からの終了コードがこの活動の実行を可能にするために必要な値を識別します。省略時の条件は、前（アルファベット順）の活動が正常に完了していなければこの活動を実行できないというものです。

要素1: 条件付け活動

この活動の前に実行されていなければならない活動。

考えられる値は次の通りです。

***PRV** この活動は前の活動で条件づけされます。活動は、活動名のアルファベット順に順序づけられます。追加される活動が最初の活動である場合には、前の活動は存在しないので、*PRVの条件は満たされたものとしてマークが付けられます。

条件付け活動名

この活動の前に実行されていなければならない活動の名前を指定してください。活動(ACTIVITY)パラメーターに指定した活動名は、条件付け活動名に指定することはできません。活動をそれ自体に条件付けることはできません。

総称*条件付け活動名

この活動の前に実行しなければならない活動の総称名を指定してください。

要素2: 関係演算子

この要素は、条件づけ活動の終了コードと比較する時に使用する関係演算子です。

- *EQ 等しい
- *GT より大
- *LT より小
- *NE 等しくない
- *GE 大きいか等しい
- *LE 小さいか等しい

要素3: 条件コード

この要素は、条件づけ活動の実際の終了コードと比較される値です。

*SUCCESS

活動は正常に終了しました(0 <=終了コード<= 9)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

*FAIL 活動は正常に実行されませんでした(10 <=終了コード<= 89)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

*NOTRUN

活動は開始されませんでした(90 <=終了コード<= 99)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

*ANY 活動は任意の終了コードで終了しました。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQの時だけです。

終了コード

活動の結果（成功または障害）を示す整数値(0から99)を指定します。終了コードの範囲および説明は次の通りです。

- 00 活動は正常に完了した。
- 01-09 活動は警告メッセージ付きで完了した。
- 10-29 活動は正常に完了しなかった。
- 30-39 活動は完了する前にユーザーによって取り消された。
 - 30 =活動は*CNTRLDオプションによって終了された。
 - 35 =活動は*IMMEDオプションによって終了された。
 - 39 =活動は*FRCFAILオプションによって終了された。
- 40-49 アプリケーションがエラーを検出したので、活動は実行されなかった。
 - 40 =機密保護上の理由から、活動は実行されなかった。
- 90-99 条件またはスケジュールが満たされなかったので、活動は実行されなかった。
 - 95 =スケジュールされた開始時刻を経過した。
 - 99 =条件を満たすことができない。

要素4: 条件モード

この要素は、この活動を実行する前に条件づけ活動が完了していなければならないシステムを示します。

***ALLNODES**

指定した条件づけ活動は、この活動を実行する前にすべてのノードで完了していなければなりません。

***SAMENODE**

指定した条件づけ活動が指定のノードで完了している場合には、指定した条件づけ活動を他のすべてのノードで完了できていない場合であっても、ACTIVITYパラメーターに指定した活動はその同じノードで実行できます。この活動が条件付け活動にないノードをリストしている場合には、この活動をそのノードで実行することができ、その条件は無視されます。

***NONE**

この活動に条件はありません。

上

活動開始時刻 (STRTIME)

この活動を中央側システムで開始できる日時を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は、変更要求の投入時に決定されます。

要素1: 時刻以後開始

考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

この活動は、変更要求の投入時刻またはそれ以降の任意の時刻に開始できます。

時刻以後開始

この活動を開始できる時刻を指定します。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

要素2: 日付以後開始

***CURRENT**

この活動は、変更要求の投入日またはそれ以降の日付に開始できます。

***NEXT**

この活動は、変更要求の投入日より後の任意の日付に開始できます。

日付以後開始

その日付以後にこの活動を開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

要素3: 時刻以前開始

日付以前開始が*ANYの場合には、この要素は無視されます。

***ANY** この活動は、日付以前開始以前の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は、時刻以前開始要素で指定された日付の、変更要求が投入された時刻より前に開始しなければなりません。

時刻以前開始

その時刻の前に活動を開始しなければならない時刻を指定してください。この時刻の前に活動を開始できない場合には、その活動は開始されません。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

要素4: 日付以前開始

***ANY** 活動は、時刻以後開始および日付以後開始より後の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は変更要求の投入日に開始しなければなりません。

***NEXT**

活動は変更要求の投入日の翌日までに開始しなければなりません。

日付以前開始

その日付の前に活動を開始しなければならない日付を指定します。この日付までに活動を開始できない場合には、活動は開始されません。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

上

活動の保留 (HOLD)

変更要求が投入された時に活動を保留します。

***NO** 活動は保留されず、すべての条件が満たされた時に実行されます。

***YES** 活動は変更要求の投入時にすべてのノードに対して保留されます。実行する前に保留解除しなければなりません。

上

例

次の例では、ADDCRQAコマンドを使用して、NETVIEW DISTRIBUTION MANAGER/6000変更制御サーバーが管理する管理下のシステムで実行される活動をスケジュールする方法を示します。ここに示される例は、次の活動処置にしたがってグループ化されます。

- 受け入れ
- 活動化
- 削除
- 実行
- 導入
- 除去
- 検索

- 送信, 送信と実行, 送信と導入
- 導入解除

例1: 活動の受け入れ

ここに示される例は, 導入の例に示されたものと対応し, 導入された特定のオブジェクトを受け入れる方法を説明します。

- 変更要求記述に追加された導入活動は次の通りです。

```
ADDCRQA  CRQD(CCLIB/CRQACPRMV)  ACTIVITY(INSACT01)
          ACTION(*INS)
          GLBNAME(IBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2)
          CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))
          ACTUSEINS(*TRIAL)  ALWRMV(*YES)
```

変更要求が投入されて, その活動が正常に実行された場合は, オブジェクトIBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2が管理下のシステムMARYPWS1の試行域に (テストのために) 導入されます。MARYPWS1は変更制御サーバーROMSERV1によって制御されます。オブジェクトは試行域に導入されるので, そのオブジェクトを受け入れることはできません。

- 変更要求記述に追加された導入活動は次の通りです。

```
ADDCRQA  CRQD(CCLIB/CRQACPRMV)  ACTIVITY(INSACT02)
          ACTION(*INS)
          GLBNAME(IBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2)
          CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))
          ACTUSEINS(*PROD)  ALTACTCOMP(*ALLOWED)
          ALWRMV(*NO)
          RMTSTRTIME((*MGDSYS) (8:30:00 12/25/06))
```

変更要求が投入されて, その活動が正常に実行された場合は, オブジェクトIBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2がシステムMARYPWS1の活動状態域に導入されます。MARYPWS1は変更制御サーバーROMSERV1によって管理されます。オブジェクトは除去不可の方法で導入されているので, そのオブジェクトの受け入れは不要です。

- 変更要求記述に追加された導入活動は次の通りです。

```
ADDCRQA  CRQD(CCLIB/CRQACPRMV)  ACTIVITY(INSACT03)
          ACTION(*INS)
          GLBNAME(IBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2)
          CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))
          COREQCHGNL((REXX PROC UPDATE CONFIG))
          ACTUSEINS(*PROD)
          ALTACTCOMP(*NOTALLOWED)  AUTOACP(*YES)
          ALWRMV(*YES)
```

次の条件を満たす場合は, オブジェクトは必要な活動化とともに自動的に受け入れられます。

- 変更要求が投入される
- 活動が正常に実行される
- 導入が正常に完了する (オブジェクトIBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2とその相互に必要なREXX PROC UPDATE CONFIGが正常に導入された)

導入が正常に完了しなかった場合は, オブジェクトIBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2およびREXX PROC UPDATE CONFIGは自動的に受け入れられません。次の活動を実行しているオブジェクトを受け入れることができます。

```
ADDCRQA  CRQD(CCLIB/CRQACPRMV)  ACTIVITY(ACCACT01)
          ACTION(*ACP)
          GLBNAME(IBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2)
```

```

          CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))
          COND((INSACT03 *EQ 20 *SAMENODE))
ADDCRQA  CRQD(CCLIB/CRQACPRMV)  ACTIVITY(ACCACT02)
          ACTION(*ACP)
          GLBNAME(REXX PROC UPDATE CONFIG)
          CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))
          COND((INSACT03 *EQ 20 *SAMENODE))

```

- 変更要求記述に追加された導入活動は次の通りです。

```

ADDCRQA  CRQD(CCLIB/CRQACPRMV)  ACTIVITY(INSACT04)
          ACTION(*INS)
          GLBNAME(EURO WORDPROD UPD 2 3 US)
          CPNAME((EUROITAL FREDSSWS))
          ALWRMV(*YES)

```

変更要求が投入されて、その活動が正常に実行された場合は、オブジェクトは除去可能な方法で導入されます。前に導入したオブジェクトEURO WORDPROD UPD 2 3 USを、管理下のシステムFREDSSWSに受け入れるための活動を追加して、オブジェクトを受け入れることができます。管理下のシステムFREDSSWSは変更制御サーバーEUROITALによって制御されます。

```

ADDCRQA  CRQD(CCLIB/CRQACPRMV)  ACTIVITY(ACCACT03)
          ACTION(*ACP)  GLBNAME(EURO WORDPROD UPD 2 3 US)
          CPNAME((EUROITAL FREDSSWS))
          COND((INSACT04 *EQ *SUCCESS *SAMENODE))

```

例2: 処置の活動化

- 導入活動が次のように出されたものとします。

```

ADDCRQA  CRQD(CCLIB/CRQINSACT)  ACTIVITY(INSACT01)
          ACTION(*INS)  GLBNAME(IBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2)
          CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))
          ACTUSEINS(*PROD)  ALTACTCOMP(*NOTALLOWED)
          AUTOACP(*YES)
          COREQCHGNL((REXX PROC UPDATE CONFIG))

```

- 変更要求が投入されて、その活動が正常に実行された場合は、オブジェクトIBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2およびREXX PROC UPDATE CONFIGは自動的に受け入れられます。構成要素の変更を活動状態のシステムに適用するには、活動化が必要です。前に導入した変更を活動化するには、次のような活動を実行します。

```

ADDCRQA  CRQD(CCLIB/CRQINSACT)  ACTIVITY(ACTACT01)
          ACTION(*ACT)  CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))
          ACTFRC(*NO *HOURS 6)  ACTUSEACT(*PROD)
          STRTIME((2:00:00 *NEXT) (8:00:00 *NEXT))

```

活動化は午前2時以降に行われますが、次の朝の午前8時前に要求が投入されます。管理下のシステムがまだ活動状態の場合は、MARYPWS1システムは活動化を進める前に最大6時間待機します。

- 管理下のシステムFREDSSWSに前に導入したすべてのオブジェクトを活動化する活動を追加します。FREDSSWSは変更制御サーバーEUROITALによって制御されます。活動化は、FREDSSWSがある場所の時間帯の2006年4月15日の午後11時以降の可能な時点でただちに実行されます。管理下のシステムがまだ活動状態であっても、活動化が行われます。

```

ADDCRQA  CRQD(CCLIB/CRQINSACT)  ACTIVITY(ACTACT02)
          ACTION(*ACT)  CPNAME((EUROITAL FREDSSWS))
          ACTFRC(*YES)
          RMTSTRTIME(*MGDSYS (23:00:00 04/15/06))

```

例3: 処置の削除

- 管理下のシステムFREDSSWSのオブジェクトEURO WORDPROD UPD 2 3 USを削除するための活動を追加します。FREDSSWSは変更制御サーバーEUROITALによって制御されます。

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQDLT) ACTIVITY(DLTACT01)
ACTION(*DLT)
GLBNAME(EURO WORDPROD UPD 2 3 US)
CPNAME((EUROITAL FREDSW))
```

- システムMARYPWS1, MARYPWS2, MARYPWS3, およびMARYPWS4からすべてのテスト・ファイルを削除する活動を追加します。これらのシステムは変更制御サーバーROMSERV1によって制御されます。これらのシステムのテスト・ファイルはEURO SPELLCHECK TESTファイル名としてカタログ処理されます。

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQSNDLT) ACTIVITY(DLTACT01)
ACTION(*DLT) GLBNAME(EURO SPELLCHECK TEST *ANY)
CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1) (ROMSERV1 MARYPWS2)
        (ROMSERV1 MARYPWS3) (ROMSERV1 MARYPWS4))
COND((SNDACT01 *EQ *SUCCESS *ALLNODES))
```

削除活動は、オブジェクトEURO SPELLCHECK EXE 1 USがこれらのシステムに正常に送信された場合にのみ実行されます。

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQSNDLT) ACTIVITY(SNDACT01)
ACTION(*SND) GLBNAME(EURO SPELLCHECK EXE 1 US)
CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1) (ROMSERV1 MARYPWS2)
        (ROMSERV1 MARYPWS3) (ROMSERV1 MARYPWS4))
REPLACE(*ALLOWED)
```

例4: 処置の実行

- 管理下のシステムFREDSWでグローバル名EURO VIRUSCHK EXE 1 USで通用するプログラムまたはスクリプトを実行する活動を追加します。パラメーター/USER/BINをプログラムまたはスクリプトに渡します。活動はできるだけ早く実行されます。

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQRUN) ACTIVITY(RUNACT01)
ACTION(*RUN)
GLBNAME(EURO VIRUSCHK EXE 1 US)
CPNAME((EUROITAL FREDSW)) PARM((" /USR/BIN"))
```

- 管理下のシステムJOHNSWのグローバル名EURO WORDPROC EXE 2 USで通用するプログラムを実行する活動を追加します。この活動はPS/2によってただちに実行すべきです。このオブジェクトはNETVIEW/DM2カタログに保管する必要があります。変更制御サーバーはローカル・システムと同じネットワーク内にあります。

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQRUN) ACTIVITY(RUNACT02)
ACTION(*RUN)
GLBNAME(EURO WORDPROC EXE 2 US)
CPNAME((*NETATR JOHNSW)) KEEPOBJ(*YES)
```

例5: 処置の導入

ここに示された最初の4つの例は、受け入れおよび除去の例に示されたものと対応します。

- MARYPWS1と呼ばれる変更制御クライアント・マシン（管理下のシステム）上に、グローバル名IBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2で識別されたオブジェクトを導入する活動を追加します。MARYPWS1は変更制御サーバーROMSERV1によって制御されます。このオブジェクトは試行域に導入されることになります。

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQACPRMV) ACTIVITY(INSACT01)
ACTION(*INS) GLBNAME(IBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2)
CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))
ACTUSEINS(*TRIAL) ALWRMV(*YES)
```

- MARYPWS1と呼ばれる変更制御クライアント・マシン（管理下のシステム）上に、グローバル名IBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2で識別されたオブジェクトを導入する活動を追加します。MARYPWS1は変

更制御サーバーROMSERV1によって制御されます。このオブジェクトは活動状態域に導入されることとなります。この活動は、2006年12月25日の午前8時30分に処理されることとなります。

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQACPRMV) ACTIVITY(INSACT02)
ACTION(*INS) GLBNAME(IBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2)
CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))
ACTUSEINS(*PROD) ALTACTCOMP(*ALLOWED)
ALWRMV(*NO)
RMTSTRTIME((*MGDSYS) (8:30:00 12/25/06))
```

- 変制御クライアント・マシン（管理下のシステム）MARYPWS1上に、グローバル名IBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2で識別されたオブジェクトと、相互に必要なそのREXX PROC UPDATE CONFIGを導入する活動を追加します。MARYPWS1は変更制御サーバーROMSERV1によって制御されます。このオブジェクトは除去不可の方法で導入され、自動的に受け入れられます。構成要素の変更を活動状態のシステムに適用するには、活動化が必要です。活動は即時に処理されます。オブジェクトの導入の1つが失敗した場合は、その他の導入も失敗します。

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQACPRMV) ACTIVITY(INSACT03)
ACTION(*INS) GLBNAME(IBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2)
CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))
ACTUSEINS(*PROD) ALTACTCOMP(*NOTALLOWED)
AUTOACP((*YES)) ALWRMV(*YES)
COREQCHGNL((REXX PROC UPDATE CONFIG))
```

- FREDSWSと呼ばれる変更制御クライアント・マシン（管理下のシステム）上に、グローバル名EURO WORDPROD UPD 2 3 USで識別されたオブジェクトを導入する活動を追加します。FREDSWSは変更制御サーバーEUROITALによって制御されます。このオブジェクトは除去可能な方法で導入されることとなります。

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQACPRMV) ACTIVITY(INSACT04)
ACTION(*INS) GLBNAME(EURO WORDPROD UPD 2 3 US)
CPNAME((EUROITAL FREDSWS))
ALWRMV(*YES)
```

- 管理下のシステムFREDSWSのオブジェクトEURO.WORDPROC.REF.2.USおよびEURO.WORDPROC.UPD.2.3.USの導入をスケジュールする活動を追加します。FREDSWSは変更制御サーバーEUROITALによって制御されます。オブジェクトは除去可能な方法で活動状態域に導入されます。導入は自動的に受け入れられません。導入は2007年1月1日の午後3時にスケジュールされます。

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQRTVINS) ACTIVITY(INSACT05)
ACTION(*INS) GLBNAME(EURO WORDPROC REF 2 US)
CPNAME((EUROITAL FREDSWS))
ALTACTCOMP(*ALLOWED)
COREQCHGNL(EURO WORDPROC UPD 2 3 US)
RMTSTRTIME((*MGDSYS (15:00:00 1/01/07)))
COND((RTVACT01 *EQ *SUCCESS *ALLNODES))
```

この活動を実行できるのは、オブジェクトEURO WORDPROC UPD 2 3 USが変更制御クライアントBRIGSWSから正常に検索された場合だけです。

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CR7) ACTIVITY(RTVACT01) ACTION(*RTV)
GLBNAME(EURO WORDPROC UPD 2 3 US)
CPNAME((EUROITAL BRIGSWS))
STRTIME((22:00:00 12/31/06) (06:00:00 1/01/07))
```

- グローバル名IBM 1234567 WINDMB UPD 1 2で識別されたオブジェクトを管理下のシステムMARYPWS1の実動域に導入する活動を追加します。導入が失敗した場合は、そのオブジェクトは自動的に除去されます。

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQINS) ACTIVITY(INSACT06)
ACTION(*INS) GLBNAME(IBM 1234567 WINDMB UPD 1 2)
CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))
ACTUSEINS(*PROD) AUTORMV(*YES) ALWRMV(*YES)
```

例6: 処置の除去

ここに示される例は導入の例と対応し、導入されたオブジェクトを除去する方法を説明します。

- 変更要求記述に追加された導入活動は次の通りです。

```
ADDCRQA  CRQD(CCLIB/CRQACPRMV)  ACTIVITY(INSACT01)
          ACTION(*INS)  GLBNAME(IBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2)
          CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))
          ACTUSEINS(*TRIAL)  ALWRMV(*YES)
```

変更要求が投入されて、その活動が正常に実行された場合は、オブジェクトIBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2が管理下のシステムMARYPWS1の試行域に（テストのために）導入されます。MARYPWS1は変更制御サーバーROMSERV1によって制御されます。オブジェクトIBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2は次の活動を実行する時に除去できます。

```
ADDCRQA  CRQD(CCLIB/CRQACPRMV)  ACTIVITY(RMVACT01)
          ACTION(*RMV)  GLBNAME(IBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2)
          CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))  POSTST(*NO)
```

事後テストが必要です。

- 変更要求記述に追加された導入活動は次の通りです。

```
ADDCRQA  CRQD(CCLIB/CRQACPRMV)  ACTIVITY(INSACT02)
          ACTION(*INS)  GLBNAME(IBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2)
          CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))
          ACTUSEINS(*PROD)  ALTACTCOMP(*ALLOWED)
          ALWRMV(*NO)
          RMTSTRTIME((*MGDSYS) (8:30:00 12/25/06))
```

変更要求が投入されて、その活動が正常に実行された場合は、オブジェクトIBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2がシステムMARYPWS1の活動状態域に導入されます。MARYPWS1は変更制御サーバーROMSERV1によって管理されます。このオブジェクトは除去不可の方法で導入されることになります。

- 変更要求記述に追加された導入活動は次の通りです。

```
ADDCRQA  CRQD(CCLIB/CRQACPRMV)  ACTIVITY(INSACT03)
          ACTION(*INS)  GLBNAME(IBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2)
          CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))
          ACTUSEINS(*PROD)  ALTACTCOMP(*NOTALLOWED)
          AUTOACP((*YES))  ALWRMV(*YES)
          COREQCHGNL((REXX PROC UPDATE CONFIG))
```

- 次の条件を満たす場合は、オブジェクトは自動的に受け入れられます。
 - 変更要求が投入される
 - 活動が実行される
 - 導入が正常に完了する（オブジェクトIBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2とその相互に必要なREXX PROC UPDATE CONFIGが正常に導入された）

すべてのオブジェクトは除去可能な方法で導入されますが、活動化が必要です。次のような活動を追加し実行することによって、オブジェクトを除去できます。

```
ADDCRQA  CRQD(CCLIB/CRQACPRMV)  ACTIVITY(RMVACT02)
          ACTION(*RMV)  GLBNAME(IBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2)
          CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))
          COND((INSACT03 *EQ *SUCCESS *SAMENODE))
ADDCRQA  CRQD(CCLIB/CRQACPRMV)  ACTIVITY(RMVACT03)
          ACTION(*RMV)  GLBNAME(REXX PROC UPDATE CONFIG)
          CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))
          COND((INSACT03 *EQ *SUCCESS *SAMENODE))
```

- 変更要求記述に追加された導入活動は次の通りです。


```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQACPRMV) ACTIVITY(INSACT04)
ACTION(*INS) GLBNAME(EURO WORDPROD UPD 2 3 US)
CPNAME((EUROITAL FREDSSWS)) ALWRMV(*YES)
```

変更要求が投入されて、その活動が正常に実行された場合は、オブジェクトは除去可能な方法で導入されます。管理下のシステムFREDSSWS上の前に導入したオブジェクトEURO WORDPROD UPD 2 3 USを除去する活動を追加すると、オブジェクトを除去できます。FREDSSWSは変更制御サーバーEUROITALによって制御されます。

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQINSRMV) ACTIVITY(RMVACT04)
ACTION(*RMV) GLBNAME(EURO WORDPROD UPD 2 3 US)
CPNAME((EUROITAL FREDSSWS))
COND((INSACT04 *EQ *SUCCESS *SAMENODE))
```

例7: 処置の検索

- 管理下のシステムJOHNSWSからファイルEURO WORDPROC UPD 2 3 USを検索することになる活動を追加します。ファイルは圧縮形式で転送されてから、圧縮解除形式で保管されます。SNA圧縮タイプが使用されます。

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQRTV) ACTIVITY(RTVACT01)
ACTION(*RTV) GLBNAME(EURO WORDPROC UPD 2 3 US)
CPNAME((EUROITAL JOHNSWS)) CPRTYPE(*SNA)
CPRSTGSTT(*DECOMPRESS) CPRTFRSTT(*COMPRESS)
REPLACE(*ALLOWED)
```

- 管理下のシステムJOHNSWSからオブジェクトEURO PCSOFT UPD 2 3 USを検索することになる活動を追加します。ファイルは圧縮形式で転送されて保管されます。ユーザー圧縮名NVDMLZWが使用されます。オブジェクトが中央側のシステムで圧縮解除されない場合は、このユーザー圧縮タイプがサポートされます。

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQRTV) ACTIVITY(RTVACT02)
ACTION(*RTV) GLBNAME(EURO PCSOFT UPD 2 3 US)
CPNAME((EUROITAL JOHNSWS)) CPRTYPE(*USER)
CPRSTGSTT(*COMPRESS) CPRTFRSTT(*COMPRESS)
USRCPRINF(NVDMLZW 37 'D') REPLACE(*ALLOWED)
```

- 各システムから最新の売上ファイルを検索する活動を追加します。ファイルはEURO SALESシステム名、作成日としてカタログ処理されます。ファイルは圧縮形式で送信されて保管されます。SNA圧縮アルゴリズムが使用されます。ファイルは、要求が投入された日の午後10時以後で、そのストアをオープンする次の朝の午前6時以前に検索されます。ファイルが検索されると、検索されたファイルはすべて配布リポジトリに追加されます。

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQRTV) ACTIVITY(RTVACT03)
ACTION(*RTV) GLBNAME(EURO SALES *ANY *HIGHEST)
NODL(STORES) CPRTYPE(*SNA) CPRSTGSTT(*COMPRESS)
CPRTFRSTT(*COMPRESS) REPLACE(*NO)
STRTIME((22:00:00 *CURRENT) (06:00:00 *NEXT))
```

例8: 送信, 送信と実行, 送信と導入の処置

- ファイルEURO SPELLCHECK EXE 1 USを管理下のシステムFREDSSWSに送信する活動を追加します。FREDSSWSは変更制御サーバーEUROITALによって制御されます。ファイルは圧縮されません。ファイルは管理下のシステムで置き換えるか、追加されます。

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQSND) ACTIVITY(SNDCT01)
ACTION(*SND) GLBNAME(EURO SPELLCHECK EXE 1 US)
CPNAME((EUROITAL FREDSSWS)) REPLACE(*ALLOWED)
```

- 管理下のシステムFREDSSWS上の2つのオブジェクトEURO WORDPROC REF 2 USおよびEURO WORDPROC UPD 2 3 USを、それに指定された属性とともに送信して導入する活動を追加します。導入は除去可能な方法で活動状態域で行われます。導入は自動的に受け入れられません。これは、管理下のシステムがある場所の時間帯の2006年4月13日の午前3時にスケジュールされます。

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQSND) ACTIVITY(SNDCT02)
ACTION(*SNDINS) GLBNAME(EURO WORDPROC REF 2 US)
CPNAME((EUROITAL FREDSSWS)) ALTACTCOMP(*ALLOWED)
COREQCHGNL((EURO WORDPROC UPD 2 3 US))
RMTSTRTIME(*MGDSYS (15:00:00 04/13/06))
```

- 管理下のシステムFREDSSWSでグローバル名EURO.VIRUSCHK.EXE.1.USで通用するプログラムを送信して実行する活動を追加します。パラメーター/USR/BINをプログラムに渡します。プログラムはできるだけ早く実行されます。

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQSND) ACTIVITY(SNDCT03)
ACTION(*SNDRUN) GLBNAME(EURO VIRUSCHK EXE 1 US)
CPNAME((EUROITAL FREDSSWS)) PARM(("USR/BIN"))
```

- 中央側CUSTNETによって制御されるPS/2 DEVPS2から、グローバル名CUSTNET PCSOFT WDWAPP VER3 941128で識別されるプログラムを検索する活動を追加します。南西域のすべてのPS/2で送信して実行します。中央側システムは、PS/2 DEVPS2からの検索が正常に実行された場合にかぎり、PS/2がある場所の時間帯の午後11時にプログラムを実行します。活動名が生成されます。

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQRTVSND) ACTIVITY(*GEN)
ACTION(*RTV)
GLBNAME(CUSTNET PCSOFT WDWAPP VER5 061230)
CPNAME((CUSTNET DEVPS2))
```

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQRTVSND) ACTIVITY(*GEN)
ACTION(*SNDRUN)
GLBNAME(CUSTNET PCSOFT WDWAPP VER5 061230)
NODL(PS2SE)
RMTSTRTIME(*MGDSYS (23:00:00 12/30/06))
COND((*PRV *EQ *SUCCE *SAMENODE))
```

例9: 処置のアンインストール

- 指定された日時に管理下のシステムFREDSSWSから構成要素EURO WORDPROCをアンインストールする活動を追加します。システムはその時点で非活動状態でなければなりません。導入待機中のオブジェクトがある場合は、アンインストール活動は実行しないでください。

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQUNINS) ACTIVITY(UNACT01)
ACTION(*UNINS) COMPNAME(EURO WORDPROD)
CPNAME((EUROITAL FREDSSWS))
ALTACTCOMP(*NOTALLOWED) FRCUNINS(*NO)
REFLVL("2")
RMTSTRTIME(*MGDSYS (14:00:00 05/20/06))
```

上

エラー・メッセージ

なし

上

ライセンスCRQ活動の追加 (ADDLICCRQA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライセンスCRQ活動追加(ADDLICCRQA)コマンドは、ライセンス・キー配布機能を実行する変更要求記述にライセンス・キーの配布活動を追加します。

活動が実行されるのは1つまたは複数の他の活動が（正常または異常に）完了した後だけになるように、その活動を条件付けることができます。また、活動が将来の日付および時刻に実行されるようにスケジュールすることもできます。

制約事項:

1. このコマンドは共通*EXCLUDE権限付きで出荷されます。
2. ユーザーには、変更要求記述オブジェクトに対する*CHANGE権限、およびライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
3. 活動を追加するユーザーは、操作するオブジェクトに対する権限を認可されている必要はありません。
4. ノード・リスト(NODL)値を指定する場合は、ノード・リストに入れることができるのはアドレス・タイプの値が*SNAになっている項目だけです。
5. ライセンス・キー情報は、変更要求にライセンス活動を追加する時にライセンス・リポジトリに存在する必要はありませんが、活動の実行時までには存在していなければなりません。

注:

1. 活動を実行する前にすべての条件が満たされなければなりません。
2. 開始時刻は、活動を開始できる時点を示します。実際の開始時刻は、ネットワークおよびシステムの遅延が原因で、これより後になることがあります。
3. 指定したプロダクトのライセンス・キー情報が入っている中央側ライセンス・リポジトリ内の既存のすべてのレコードが、指定した管理下の1つまたは複数のシステムに送られます。管理下のシステムのライセンス・リポジトリに追加されるのは、システムの製造番号が一致するものだけです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CRQD	変更要求記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 変更要求記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ACTIV-ITY	活動	名前, *GEN, *LAST	オプション, 定位置 2
ACTION	処置	*SND	オプション, 定位置 3
PRDID	プロダクトID	文字値, *ALL	オプション, 定位置 4

キーワード	記述	選択項目	ノート
LICTRM	ライセンス条件	文字値, *ALL	オプション, 定位置 5
NODL	管理下のシステム・ノード・リスト	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード・リスト	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点	通信名	
TEXT	テキスト '記述'	文字値, *GEN, *BLANK	オプション
COND	活動条件	単一値: *NONE その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 活動	総称名, 名前, *PRV	
	要素 2: 関係演算子	*EQ, *GT, *LT, *LE, *NE, *GE	
	要素 3: 終了コード	0-99, *SUCCESS, *FAIL, *NOTRUN, *ANY	
	要素 4: 条件モード	*ALLNODES, *SAMENODE	
STRTIME	活動開始時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *CURRENT	
	要素 2: 日付	日付, *CURRENT, *NEXT	
	要素 2: 以前に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *ANY, *CURRENT	
	要素 2: 日付	日付, *ANY, *CURRENT, *NEXT	
HOLD	活動の保留	*NO, *YES	オプション

上

変更要求記述 (CRQD)

変更要求記述オブジェクト名を指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザーおよびシステム部分にあるすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

このパラメーターに指定したライブラリーだけが検索されます。

指定できる変更要求記述の値は次の通りです。

変更要求記述

変更要求記述オブジェクトの名前。

活動 (ACTIVITY)

変更要求記述に追加する活動の名前を指定します。

***GEN** 活動IDが生成されます。活動IDはQACTXXXXXXの形式です。この場合に、XXXXXXは追加されるそれぞれの活動ごとに増分される数値です。

***LAST**

この活動は、変更要求で最後に実行されます。

活動名 10桁の活動ID。

処置 (ACTION)

実行するライセンス配布機能を指定します。

***SND** 指定したプロダクトおよびライセンス条件のライセンス・キーを指定の管理下のシステムに送信します。

プロダクトID (PRDID)

ライセンス・キー情報が配布されるプロダクトの7桁のIDを指定します。

***ALL** 中央側ライセンス・リポジトリに存在するすべてのプロダクトのライセンス・キーが配布されます。

プロダクトID

ライセンス・キー情報が配布されるプロダクトの7桁のIDを指定します。

ライセンス条件 (LICTRM)

ライセンス・キー情報が送信されるライセンス条件を指定します。

***ALL** フォーカル・ポイント・ライセンス・リポジトリに存在する指定したプロダクトのすべてのライセンス条件のライセンス・キーが配布されます。

ライセンス条件

ライセンス条件を次の形式のいずれかで指定します。

VX 認可された使用限界が、プロダクトまたはフィーチャーの全バージョンに有効です。

VXRY 認可された使用限界が、プロダクトまたはフィーチャーの全リリースに有効です。

VXRYMZ

認可された使用限界は、プロダクトのモディフィケーションだけに有効です。

この場合は、"X"および"Y"には0から9の数字、"Z"には0から9の数字またはAからZの文字を使用できます。

上

管理下のシステム・ノード・リスト (NODL)

ノード・リスト・パラメーターはこの活動の宛先であるシステムのリストが入っているオブジェクト名であることを指定します。制御点名(CPNAME)パラメーターが指定されていると、このパラメーターは指定できません。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

この活動を実行するシステムは、ノード・リストで識別されません。個々の制御点名を指定しなければなりません。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーでノード・リスト・オブジェクトが検索されます。

***CURLIB**

ノード・リスト・オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定します。

使用できるノード・リスト名の値は次の通りです。

ノード・リスト名

活動を実行するシステムのリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名を指定します。

上

管理下のシステム・ノード名 (CPNAME)

この活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。ノード・リスト(NODL)パラメーターが指定されていると、制御点名は指定できません。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

この活動を実行するシステムは個々に識別されません。ノード・リストを指定しなければなりません。

***NETATR**

ローカル・システムのネットワークIDが使用されます。これは、指定されるノードがローカル・システムと同じネットワーク内にある時に役立ちます。

ネットワークID

活動が実行される管理下のシステムのAPPNネットワークIDを指定します。

指定できる制御点の値は次の通りです。

制御点名

活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。

上

テキスト '記述' (TEXT)

活動記述を指定します。

***GEN** テキスト記述は、選択した処置に基づいて生成されます。

テキスト記述

50桁の活動の記述を指定してください。

上

活動条件 (COND)

この活動を実行する前に満たされていなければならない条件を指定します。各条件は、この活動の前に実行しなければならない活動、およびその活動からの終了コードがこの活動の実行を可能にするために必要な値を識別します。省略時の条件は、前（アルファベット順）の活動が正常に完了していなければこの活動を実行できないというものです。

条件づけ活動として考えられる値は次の通りです。

この活動の前に実行されていなければならない活動。

***PRV** この活動は前の活動で条件づけされます。活動は、活動名のアルファベット順に順序づけられます。追加される活動が最初の活動である場合には、前の活動は存在しないので、*PRVの条件は満たされたものとしてマークが付けられます。

条件付け活動名

この活動の前に実行されていなければならない活動の名前を指定します。活動(ACTIVITY)パラメーターに指定した活動名は、条件付け活動名に指定することはできません。活動をそれ自体に条件付けることはできません。

総称*条件付け活動名

この活動の前に実行されていなければならない活動の総称名を指定してください。

関係演算子として考えられる値は次の通りです。

この要素は、条件づけ活動の終了コードと比較する時に使用する関係演算子です。

***EQ** 等しい

***GT** より大

***LT** より小

***NE** 等しくない

***GE** 大きいか等しい

***LE** 小さいか等しい

条件コードとして考えられる値は次の通りです。

この要素は、条件づけ活動の実際の終了コードと比較される値です。

***SUCCESS**

活動は正常に終了しました(0 <=終了コード<= 9)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***FAIL** 活動は正常に実行されませんでした(10 <=終了コード<= 89)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***NOTRUN**

活動は開始されませんでした(90 <=終了コード<= 99)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***ANY** 活動は任意の終了コードで終了しました。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQの時だけです。

終了コード

活動の結果（成功または障害）を示す整数値(0から99)を指定します。終了コードの範囲および説明は次の通りです。

- 00** 活動は正常に完了した。
- 01-09** 活動は警告メッセージ付きで完了した。
- 10-29** 活動は正常に完了しなかった。
- 30-39** 活動は完了する前にユーザーによって取り消された。
 - 30 =活動は*CNTRLDオプションによって終了された。
 - 35 =活動は*IMMEDオプションによって終了された。
 - 39 =活動は*FRCFAILオプションによって終了された。
- 40-49** アプリケーションがエラーを検出したので、活動は実行されなかった。
 - 40 =機密保護上の理由から、活動は実行されなかった。
- 90-99** 条件またはスケジュールが満たされなかったので、活動は実行されなかった。
 - 95 =スケジュールされた開始時刻を経過した。
 - 99 =条件を満たすことができない。

条件モードとして考えられる値は次の通りです。

この要素は、この活動を実行する前に条件づけ活動が完了していなければならないシステムを示します。

***ALLNODES**

指定した条件づけ活動は、この活動を実行する前にすべてのノードで完了していなければなりません。

***SAMENODE**

所定のノードに対して指定した条件活動が完了すると、指定した条件活動が他のすべてのノードにおいて完了していない場合であっても、ACTIVITYパラメーターに指定した活動をその同じノードに実行できます。この活動が条件付け活動にないノードをリストしている場合には、この活動をそのノードで実行することができ、その条件は無視されます。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

この活動に条件はありません。

上

活動開始時刻 (STRTIME)

この活動を中央側システムで開始できる日時を指定します。これは、指定したライセンス情報が送信される日付および時刻です。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は、変更要求が投入された時に決定されます。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

この活動は、変更要求の投入時刻またはそれ以降の任意の時刻に開始できます。

時刻以後開始

この活動を開始できる時刻を指定します。時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力できます。この場合に、HHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付けない場合には、4から6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定します。この場合に、HHは時、MMは分、SSは秒です。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。この場合には、時間、分、および秒を区切るために、ジョブに指定した時刻区切り記号が使用されます。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

この活動は、変更要求の投入日またはそれ以降の日付に開始できます。

***NEXT**

この活動は、変更要求の投入日より後の任意の日付に開始できます。

日付以後開始

その日付以後にこの活動を開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

時刻以前開始として考えられる値は次の通りです。

日付以前開始が*ANYの場合には、この要素は無視されます。

***ANY** この活動は、日付以前開始以前の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は、日付以前開始要素で指定された日の変更要求を投入した時刻より前に開始しなければなりません。

時刻以前開始

その時刻より前に活動を開始しなければならない時刻を指定します。この時刻の前に活動を開始できない場合には、その活動は開始されません。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。

時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付けない場合には、4から6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定します。この場合に、HH

は時、MMは分、SSは秒です。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング (HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。この場合には、時間、分、および秒を区切るために、ジョブに指定した時刻区切り記号が使用されます。

日付以前開始として考えられる値は次の通りです。

***ANY** 活動は、時刻以後開始および日付以後開始より後の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は変更要求の投入日に開始しなければなりません。

***NEXT**

活動は変更要求の投入日の翌日までに開始しなければなりません。

日付以前開始

その日付の前に活動を開始しなければならない日付を指定します。この日付までに活動を開始できない場合には、活動は開始されません。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

上

活動の保留 (HOLD)

変更要求の投入時に活動を保留するように指定します。

***NO** 活動は保留されません。開始時にすべての条件が満たされていれば実行されます。

***YES** 活動は変更要求の投入時にすべてのノードに対して保留されます。実行する前に保留解除しなければなりません。

上

例

例1: ライセンスを送信する活動の追加

```
ADDLICCRQA CRQD(MYLIB/CR1) ACTIVITY(ACT01) ACTION(*SND)
            PRDID(1ACCOUN) LICTRM(V5R4M0)
            CPNAME((*NETATR SYS1))
```

V5R4M0のライセンス条件で、1ACCOUNプロダクトのライセンスをiSeriesサーバーSYS1のライセンス・リポジトリに送信する活動を追加します。1ACCOUNプロダクトが管理下のシステムに導入された場合は、そのライセンスも活動化されます。

例2: ライセンス条件V5のプロダクト1CHECKSのライセンスを送信する活動の追加

```
ADDLICCRQA CRQD(MYLIB/CR3) ACTIVITY(ACT02) ACTION(*SND)
            PRDID(1CHECKS) LICTRM(V5)
            STRTIME(('23:00:00' '9/30/06'))
            NODL(NETLIB/ACCTSYS)
```

この例には、ライセンス条件V5のプロダクト1CHECKSのライセンスを、ACCTSYSノード・リストで識別したシステムに送信する活動の追加方法が示されています。管理下のシステムの製造番号と一致するライセンス・キーだけがライセンス・リポジトリに追加されます。ライセンス活動は2006年9月30日の午後11に実行されます。

エラー・メッセージ

なし

オブジェクトCRQ活動の追加 (ADDOBJCRQA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト変更要求活動追加(ADDOBJCRQA)コマンドは、変更要求記述にオブジェクト配布活動を追加します。この活動の中で参照されるオブジェクトは、I5/OSオブジェクト名やグローバル名で識別されるI5/OSオブジェクト、またはグローバル名で識別されるPS/2ファイルなどの非I5/OSオブジェクトとすることができます。オブジェクトは、グローバル名で識別される導入可能オブジェクトとすることもできます。導入可能オブジェクトは、複数のI5/OSオブジェクトによって作成されるオブジェクトです。

この活動は、他の1つまたは複数の活動が（正常または異常に）完了された後でなければ実行されないように条件づけることができます。また、活動が将来の日付および時刻に実行されるようにスケジュールすることもできます。

制約事項:

1. 要求記述を変更するための*CHANGE権限とライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
2. NODL値が指定されている場合にノードに入れることができるのは、アドレス・タイプの値が*SNAの項目だけです。
3. オブジェクトはI5/OSオブジェクト名またはグローバル名を使用して指定することができますが、この両方を使用することはできません。
4. グローバル名は、最大65 -N文字の長さにできます。ここで、Nはトークンの数です。最大10個のトークンを指定できます。
5. 配布されるオブジェクトをQTEMPライブラリーに入れることはできません。

注:

以下の注は、コマンドがどのように働くかを説明しています。

1. 活動で指定されたプロダクトに対する権限は、その活動が実行されるまで検査されません。
2. 活動を実行する前にすべての条件が満たされていなければなりません。
3. 開始時刻は、活動を開始できる時点を示します。実際の開始時刻は、ネットワークおよびシステムの遅延のためにこれより遅くなることがあります。
4. グローバル名を使用する場合には、配布カタログ項目追加(ADDDSTCLGE)コマンドを使用してオブジェクトが入っているかまたは保管される場所を示すことができます。
5. 実行できるのは、CLやREXXなどのI5/OSプログラム・オブジェクトまたはファイル・メンバーだけです。
6. 送信されるか、あるいは検索される時に、オブジェクトの保管/復元ヒストリーは更新されません。
7. ライブラリー(*LIB)が送信または検索される時に、活動メッセージ待ち行列は保管されません。
8. 活動が同一ジョブ内で実行される保証はありません。したがって、QTEMPの有効範囲はジョブ内に限られるので、ライブラリーQTEMP内のオブジェクトに対する参照は避けなければなりません。
9. NETVIEW分散管理機能(NETVIEW DM)変更ファイルまたは他の非I5/OSオブジェクトの導入を取り消す必要がある場合には、変更管理活動追加(QNSADDCM) APIを使用しなければなりません。

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CRQD	変更要求記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 変更要求記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ACTIVITY	活動	名前, *GEN, *LAST	オプション, 定位置 2
ACTION	処置	*SND, *RTV, *DLT, *RUN, *SNDRUN, *INS, *SNDINS, *UNINS	オプション
OBJ	オブジェクト	単一値: *GLOBAL, *COMPNAME その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプション
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノート
GLBNAME	グローバル名	要素リスト	オプション
	要素 1: グローバル名トークン1	文字値, *NETID, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 2: グローバル名トークン2	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 3: グローバル名トークン3	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 4: グローバル名トークン4	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 5: グローバル名トークン5	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 6: グローバル名トークン6	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 7: グローバル名トークン7	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 8: グローバル名トークン8	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 9: グローバル名トークン9	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
要素 10: グローバル名トークン10	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME		
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	文字値	オプション
MBR	メンバー	名前, *FIRST, *LAST, <u>*ALL</u>	オプション
DATATYPE	データ・タイプ	<u>*UNSPEC</u> , *CL, *REXX	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
COMPNAME	構成要素名	要素リスト	オプション
	要素 1: 構成要素名トークン1	文字値, *NETID	
	要素 2: 構成要素名トークン2	文字値, *NETID, *CPNAME	
	要素 3: 構成要素名トークン3	文字値, *NETID, *CPNAME	
	要素 4: 構成要素名トークン4	文字値, *NETID, *CPNAME	
	要素 5: 構成要素名トークン5	文字値, *NETID, *CPNAME	
	要素 6: 構成要素名トークン6	文字値, *NETID, *CPNAME	
	要素 7: 構成要素名トークン7	文字値, *NETID, *CPNAME	
REFLVL	最新表示レベル	文字値, *ALL	オプション
NODL	管理下のシステム・ノード・リスト	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード・リスト	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点	文字値	
TGTRLS	ターゲット・リリース	*CURRENT, *PRV, V5R3M0, V5R4M0, V6R1M0	オプション
REPLACE	オブジェクトの置き換え	*NO, *YES	オプション
DTACPR	データ圧縮	*SNA, *NONE	オプション
KEEPCLGE	カタログ項目の保存	*YES, *NO	オプション
PARM	パラメーター	値 (最大 20 回の繰り返し): 無制限	オプション
RMTSTRTIME	管理下のシステムの開始時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 時間帯	*LCLSYS, *MGDSYS	
	要素 2: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *CURRENT	
	要素 2: 日付	日付, *CURRENT, *NEXT	
TEXT	テキスト '記述'	文字値, *GEN, *BLANK	オプション
COND	活動条件	単一値: *NONE その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 活動	総称名, 名前, *PRV	
	要素 2: 関係演算子	*EQ, *GT, *LT, *LE, *NE, *GE	
	要素 3: 終了コード	0-99, *SUCCESS, *FAIL, *NOTRUN, *ANY	
	要素 4: 条件モード	*ALLNODES, *SAMENODE	

キーワード	記述	選択項目	ノート
STRTIME	活動開始時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *CURRENT	
	要素 2: 日付	日付, *CURRENT, *NEXT	
	要素 2: 以前に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *ANY, *CURRENT	
	要素 2: 日付	日付, *ANY, *CURRENT, *NEXT	
HOLD	活動の保留	*NO, *YES	オプション

上

変更要求記述 (CRQD)

変更要求記述オブジェクト名を指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定します。

変更要求記述に使用できる値は次の通りです。

変更要求記述

変更要求記述オブジェクトの名前を指定します。

上

活動 (ACTIVITY)

変更要求記述に追加する活動の名前を指定します。

***GEN** 活動名が生成されます。活動IDの形式はQACTXXXXXXで、この場合のXXXXXXはまだ使用されていない最初の10の倍数です。

*LAST

活動は変更要求で最後に実行されます。活動(ACTIVITY)パラメーターに*LASTを指定すると、条件(COND)パラメーターおよび開始時刻(STRTIME)パラメーターは指定できません。変更要求記述に存在できる*LASTを指定した活動は1つだけです。

活動名 10桁の活動名を指定します。

上

処置 (ACTION)

実行するオブジェクト配布機能を指定します。

- *SND** 指定したオブジェクトを指定した1つまたは複数の管理下のシステムに送ります。
- *RTV** 指定した1つまたは複数の管理下のシステムから指定したオブジェクトを検索します。複数のシステムからオブジェクトを検索するには、検索されるそれぞれのオブジェクトが1個の固有のグローバル名をもつように、*ANYトークンをもつグローバル名が必要です。トークンを指定しないグローバル名(*ALL, *HIGHEST,または*LOWEST)は検索時に配布リポジトリに保管されます。
- *DLT** 指定した1つまたは複数のシステムの指定したオブジェクトを削除します。
- *RUN** 指定した1つまたは複数の管理下のシステムで指定したプログラムを実行します。CL入カストリームまたはREXXプロシージャーが入っているI5/OSプログラム・オブジェクト(*PGM), REXXプログラム, またはファイル・メンバーはI5/OSの管理下のシステムで実行することができます。
- *SNDRUN**
指定したプログラムを送って指定した1つまたは複数のシステムで実行します。送られたプログラムは完了時に削除されます。
- *INS** 指定された1つまたは複数の管理下のシステムでの導入のためにすでにパッケージ化されているオブジェクトを導入します。導入できるのは導入可能オブジェクトだけです。
- *SNDINS**
指定された1つまたは複数の管理下のシステムで導入されるようにすでにパッケージ化されているオブジェクトを送信し、導入します。グローバル名で識別されるオブジェクトだけを導入することができます。
- *UNINS**
指定した1つまたは複数の管理下のシステムで導入されているオブジェクトを除去します。導入解除できるのは、導入可能オブジェクトによって導入されているオブジェクトだけです。

上

オブジェクト (OBJ)

実行、送信、検索、あるいは削除されるオブジェクトの名前を指定します。送信および検索処置の場合には、オブジェクト名は中央側システムと管理下のシステムの両方のオブジェクト名を表します。

考えられる値は次の通りです。

*GLOBAL

オブジェクトはGLBNAMEパラメーターで指定されたグローバル名によって識別されます。

*COMPNAME

管理下のシステムから導入解除しなければならない導入可能オブジェクトを識別するために使用される構成要素名を示します。

考えられる値は次の通りです。

- *LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定します。

使用できるオブジェクト名の値は次の通りです。

オブジェクト名

オブジェクト名を指定します。オブジェクト名に使用できる文字はAからZ, 0から9,ドル記号（または円記号）、単価記号、および番号記号だけです。

上

グローバル名 (GLBNAME)

SNAネットワーク内のオブジェクトを固有に識別する一連のトークンであるグローバル名を指定します。グローバル名は、中央側システムと管理下のシステムの両方で該当するカタログ項目を見つけるために使用される名前を表します。カタログ項目は、そのシステムで使用されるオブジェクトを指定します。例えば、検索処置が指定されている場合には、管理下のシステムで検索されるオブジェクトを判別するためにグローバル名が使用されます。また、グローバル名は中央側システムでそのオブジェクトが保管される場所も示します。

トークン桁の特殊値は、オブジェクトの検索方法を指示します。トークン位置に*ANYを指定すると、正しいオブジェクトの検索時にトークンは無視されます。指定したトークンと一致する複数のオブジェクトが見つかった場合には、エラーが戻されます。

オブジェクトが送信される場合には、ローカル・オブジェクト名と関連づけするかあるいは配布リポジリー中のオブジェクトと関連づけできるように、グローバル名がカタログ中になければなりません。検索されたオブジェクトにカタログ項目が存在しない場合は、そのオブジェクトは配布リポジリーに入れられません。オブジェクト名が*GLOBAL以外の場合には、GLBNAMEパラメーターを指定することはできません。

ACTION値が*UNINSである時には、GLBNAMEパラメーターは無効です。OBJが*GLOBALで、グローバル名が導入可能オブジェクトにマップされている場合には、グローバル名は次の構造になっていなければなりません。

構成要素名REF再生成レベル

この例では次のようになっています。

- 構成要素名は、REF値をもつトークンの前のトークンです。これは、導入可能オブジェクトというオブジェクトを互いに区別するために使用されます。構成要素は1から7のトークンとすることができます。
- REFトークンは、グローバル名を導入可能オブジェクトとして識別するために必要です。このグローバル名を指定できるのは、2から8のオブジェクトからだけです。
- 再生成レベルは、数値をもつトークンです。再生成レベルは、導入可能オブジェクトのレベルを示し、REF値をもつトークンの後になければなりません。

トークン1: 要素1

***NETID**

最初のグローバル名のトークン値はコマンドによってネットワーク属性から生成されたネットワークIDです。ネットワークIDは、LCLNETIDネットワーク属性値の現在の値によって判別されます。

***SERVER**

このトークンは変更要求活動内に&SERVERの値で記憶され、オブジェクトの配布時に変更制御サーバーの短縮名によって置き換えられます。

***TARGET**

このトークンは変更要求活動内に&TARGETの値で記憶され、オブジェクトの配布時にターゲットの短縮名によって置き換えられます。

***MDDATE**

このトークンは値&DATEによって変更要求活動に記憶され、配布時にはオブジェクトが最後に変更された日付によって置き換えられます。

***MDTIME**

このトークンは、値&TIMEによって変更要求活動に記憶され、配布される時にオブジェクトが最後に変更された時刻によって置き換えられます。

グローバル名トークン

グローバル名の最初のトークンを指定します。最初のトークンの推奨値は、登録された企業IDまたはネットワークIDです。

トークン2から10: 要素2から10

***ANY** 任意のトークン値が処置を実行するオブジェクトを検索する時に突き合わされます。これは、オブジェクトの検索時に、グローバル名のトークンの一部が不明かあるいはシステムごとに異なる場合に役立ちます。

***HIGHEST**

トークンの値が最大であるオブジェクトに処置が実行されます。トークンは順序づけする必要があります。これは、オブジェクトの別のバージョンを示すためにグローバル名のトークンを使用していて、バージョン・レベルが最大のオブジェクトを処理する必要がある場合に役立ちます。

***LOWEST**

トークンの値が最小であるオブジェクトに処置が実行されます。トークンは順序づけする必要があります。これは、オブジェクトの別のバージョンを示すためにグローバル名のトークンを使用していて、バージョン・レベルが最も低いオブジェクトを処理する必要がある場合に役立ちます。

***NETID**

このシステムのネットワークIDが使用されます。ネットワークIDは、LCLNETIDネットワーク属性値の現在の値によって判別されます。

***CPNAME**

このシステムの制御点名が使用されます。制御点名は、LCLCPNAMEネットワーク属性値の現在の値によって決定されます。

***SERVER**

このトークンは変更要求活動内に&SERVERの値で記憶され、オブジェクトの配布時に変更制御サーバーの短縮名によって置き換えられます。

***TARGET**

このトークンは変更要求活動内に&TARGETの値で記憶され、オブジェクトの配布時にターゲットの短縮名によって置き換えられます。

***MDDATE**

このトークンは値&DATEによって変更要求活動に記憶され、配布時にはオブジェクトが最後に変更された日付によって置き換えられます。

*MDTIME

このトークンは、値&TIMEによって変更要求活動に記憶され、配布される時にオブジェクトが最後に変更された時刻によって置き換えられます。

注: 変更制御サーバー・サポートの詳細については、分散管理ISERIES用の使用の資料を参照してください。

グローバル名トークン

処置が実行されるオブジェクトを固有に識別する一連の1から16桁のトークンの1つを指定してください。使用できる文字はAからZおよび0から9です。ネットワークIDおよびシステム名を表すトークンには、その他の特殊値(@, #,および¥)を使用できます。

上

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

オブジェクト・タイプを指定します。グローバル名を使用している場合には指定できません。

*FILEDATA

ファイル・メンバーはファイル属性なしで転送する必要があります。これは、ISERIESシステムと他のISERIES以外のシステムとの間のファイルの転送に使用されます。*FILEオブジェクト・タイプは、ファイル属性を保存するためにISERIESシステムで使用できます。

オブジェクト・タイプ

I5/OSのオブジェクト・タイプを指定します。

上

メンバー (MBR)

物理ファイル・メンバー名を指定します。これは、オブジェクト・タイプが*FILEまたは*FILEDATA以外の場合には指定できません。

***ALL** 処置は、物理ファイル内のすべてのメンバーに実行する必要があります。オブジェクト・タイプは*FILEでなければなりません。メンバー（装置ファイルなど）をもたないファイル・タイプには*ALLを使用しなければなりません。

注: 処置が*RUNまたは*SNDRUNである場合には、*ALLは指定できません。

*FIRST

処置は、物理ファイルの最初のメンバー（追加された日付による）に実行する必要があります。メンバー名は活動の実行時に決定されます。処置が*RUNの場合には、*FIRSTは使用できません。

*LAST

処置は、物理ファイルの最後のメンバー（追加された日付による）に実行する必要があります。メンバー名は活動の実行時に決定されます。処置が*RUNの場合には、*LASTは使用できません。

メンバー名

処置を実行する必要があるメンバー名を指定してください。処置が*RUNの場合には、メンバー名を指定する必要があります。

上

データ・タイプ (DATATYPE)

メンバーのデータ・タイプを指定します。これは、管理下のシステムで実行されるソース・ファイルのタイプの指定に使用されます。ファイルが送信または実行されない場合には、このパラメーターは無視されます。また、オブジェクト・タイプが *FILEDATAでない場合には、このパラメーターは指定できません。

***UNSPEC**

未指定のファイル・メンバー・タイプ。データ・タイプを管理下のシステムで判別できない場合、あるいはこのメンバーが入っているファイルの名前がQCLSRCであった場合には、ファイル・メンバーはCLバッチ入カストリームとして取り扱われます。ソース・ファイルの名前がQREXSRCである場合には、ファイル・メンバーはREXXプロシージャーとして取り扱われます。

***CL** 制御言語（すなわち、CLバッチ入カストリーム）が入っているファイル・メンバー。

***REXX**

REXXプロシージャーが入っているファイル・メンバー。

上

構成要素名 (COMPNAME)

REFトークンに先行するグローバル名のトークンのセットである構成要素名。構成要素名は、導入解除する導入可能オブジェクトの識別に使用されます。構成要素名が有効となるのは、ACTION(*UNINS)およびOBJ(*COMPNAME)が指定されている場合だけです。

要素1: トークン1

最初のトークンに使用できる特殊値は*NETIDだけです。

***NETID**

このシステムのネットワークIDが使用されます。ネットワークIDは、LCLNETIDネットワーク属性値の現在の値によって判別されます。

構成要素名トークン

処置を実行するオブジェクトを固有に識別する一連の1から16桁のトークンの1つ。使用できる文字はAからZおよび0から9です。ネットワークIDおよびシステム名を表すトークンには、その他の特殊値(@, #,および¥)を使用できます。

要素2から7: トークン2から7

***NETID**

このシステムのネットワークIDが使用されます。ネットワークIDは、LCLNETIDネットワーク属性値の現在の値によって判別されます。

***CPNAME**

このシステムの制御点名が使用されます。ネットワークIDは、LCLCPNAMEネットワーク属性値の現在の値によって判別されます。

構成要素名トークン

処置を実行するオブジェクトを固有に識別する一連の1から16桁のトークンの1つ。使用できる文字はAからZおよび0から9です。ネットワークIDおよびシステム名を表すトークンには、その他の特殊値(@, #,および¥)を使用できます。

上

最新表示レベル (RFRLVL)

最新表示レベルは、導入解除する導入可能オブジェクトのレベルです。REFLVLが有効となるのは、ACTION(*UNINS)およびOBJ(*COMPNAME)が指定されている場合だけです。

***ALL** 最新表示レベルの構成要素名と一致するすべての導入可能オブジェクトが導入解除されます。

最新表示レベル

導入解除する導入可能オブジェクトのレベルを指定してください。このレベルは最大16桁までの数値です。

上

管理下のシステム・ノード・リスト (NODL)

ノード・リスト・パラメーターはこの活動の宛先であるシステムのリストが入っているオブジェクト名であることを指定します。このパラメーターは、制御点名(CPNAME)パラメーターも指定されている場合には指定できません。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

*NONE

この活動を実行するシステムは、ノード・リストによって指定されません。個々の制御点名を指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーでノード・リスト・オブジェクトが検索されます。

***CURLIB**

ノード・リスト・オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定します。

ノード・リストとして考えられる値は次の通りです。

ノード・リスト名

活動を実行するシステムのリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名を指定します。

上

管理下のシステム・ノード名 (CPNAME)

この活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。ノード・リストが指定されている場合には、制御点名は指定できません。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

この活動を実行するシステムは個々に識別されません。ノード・リストを指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***NETATR**

ローカル・システムのネットワークIDが使用されます。これは、指定されるノードがローカル・システムと同じネットワーク内にある時に役立ちます。

ネットワークID

活動が実行される管理下のシステムのAPPNネットワークIDを指定します。

使用できる制御点名の値は次の通りです。

制御点名

活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。NETVIEW分散管理エージェントの場合の制御点名は、他のプラットフォームで有効な制御点名の先頭の位置に数字(0から9)をサポートする変更制御クライアントです。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

オブジェクトを使用しようとしているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

SYSTEMVIEW配布リポジトリにあるグローバル名付きオブジェクトの場合、あるいは送信または検索以外の処置の場合には、このパラメーターは無視されます。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在システムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されません。システムでV6R1M0が実行中の場合には、*CURRENTはV6R1M0を導入したシステム上でオブジェクトを使用することを意味します。オブジェクトは、これより後のオペレーティング・システムが導入されているシステムでも使用できます。

***PRV** オブジェクトはローカル・システムと比較して前のリリース・レベルのシステム用です。

注：モディフィケーション・レベルはサポートされていません。モディフィケーション・レベルが0以外の前のリリース(V5R3M4など)を指定するには、特殊値*PRVでなくそのリリースの値を指定してください。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRXXMXの形式で指定します。オブジェクトは、オペレーティング・システムの指定したリリースまたはそれより後のリリースを導入しているシステムで使用されます。

有効な値は、現行のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、新しいリリースごとに変わります。

上

オブジェクトの置き換え (REPLACE)

すでにオブジェクトが存在している場合に置き換えるかどうかを指定します。このパラメーターは*SND、*SNDRUN,および*RTV以外の処置には指定できません。

***NO** オブジェクトがすでに存在する場合にはエラーが戻されます。

***YES** すでに存在している場合にはオブジェクトが置き換えられます。

上

データ圧縮 (DTACPR)

送信時または受信時にデータを圧縮するかどうかを指定します。*SND, *SNDRUN,および*RTV以外の処置にこのパラメーターは指定できません。ブランクの基本圧縮文字によるSNA圧縮が実行されます。

*NONE

送信時または検索時にファイル・データは圧縮されません。

***SNA** 送信時または検索時にファイル・データが圧縮されます。

注：

グローバル名を付けたオブジェクトは、配布カタログ項目追加(ADDDSTCLGE)コマンドを使用して配布リポジトリに追加する時に、圧縮情報を指定できます。

上

カタログ項目の保存 (KEEPCLGE)

導入可能オブジェクトに対応するカタログ項目および関連保管ファイルを指定した1つまたは複数のシステムに保管するかどうかを指定します。KEEPCLGEパラメーターが有効となるのは、ACTION(*SNDINS)またはACTION(*INS)が指定されている場合だけです。

***NO** カタログ項目および関連づけられた保管ファイルは保管されません。

***YES** カタログ項目および関連づけられた保管ファイルが保管されます。

上

パラメーター (PARM)

プログラムの開始時に渡されるパラメーターを指定します。処置が*RUNまたは*SNDRUNでない場合には、これは指定できません。最大20個のパラメーターを指定できます。

パラメーター

1-253桁のパラメーターを指定してください。プロンプト・パネルでは最初に50桁を入力できます。1桁目にアンパーサンド(&)を入力すると、フィールドはさらに大きなパラメーター用に拡張されます。

上

管理下のシステムの開始時刻 (RMTSTRTIME)

この活動が管理下のシステムで実行を開始できる日付および時刻を指定します。中央側の日付および時刻に基づいて中央側システムで活動の実行が始められた時に、現在の日付および時刻の値と次の日付の値が決まります。

リモート開始時刻の時間帯として考えられる値は次の通りです。

*LCLSYS

リモート開始時刻は、中央側システムの時間帯で指定されます。

*MGDSYS

リモート開始時刻は、管理下のシステム側の時間帯で指定されます。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

これは、その時刻の後に活動を開始する時刻の定義です。

***CURRENT**

この機能は、要素2で指定された日に中央側システムでこの活動が開始された時刻以後の任意の時刻に、管理下のシステムで開始できます。

時刻以後開始

この機能を管理下のシステムで開始できる時刻を指定します。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻は、時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

この機能は、中央側システムで活動が開始された日付またはそれ以後の任意の日に管理下のシステムで開始されます。

***NEXT**

この機能は、中央側システムで活動が開始された日付より後の任意の日に管理下のシステムで開始されます。

日付以後開始

この機能を管理下のシステムで開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

注：

1. 時間帯の値*MGDSYSが指定されている場合には、日付および時刻に特殊値*CURRENTおよび*NEXTが指定されます。
2. このパラメーターを指定できるのは、*RUN、*SNDRUN、*INS、*SNDINS,および*UNINS処置が指定されている場合だけです。

上

テキスト '記述' (TEXT)

活動記述を指定します。

***GEN** 記述は指定された処置に基づいて生成されます。

テキスト記述

50桁の活動の記述を指定してください。

上

活動条件 (COND)

この活動を実行する前に満たされていなければならない条件を指定します。それぞれの条件はこの活動の前に実行する必要がある活動を識別し、その活動からの終了コードでこの活動を実行できなければならない値を識別します。省略時の条件は、前（アルファベット順）の活動が正常に完了していなければこの活動を実行できないというものです。

使用できる単一の値は次の通りです。

***NONE**

この活動に条件はありません。

条件づけ活動として考えられる値は次の通りです。

この活動の前に実行しなければならない活動があります。

***PRV** この活動は前の活動で条件づけされます。活動は、活動名のアルファベット順に順序づけられます。追加される活動が最初の活動である場合には、前の活動は存在しないので、*PRVの条件は満たされたものとしてマークが付けられます。

条件付け活動名

この活動の前に実行しなければならない活動の名前を指定します。活動(ACTIVITY)パラメーターに指定した活動名は、条件付け活動名に指定することはできません。活動をそれ自体に条件付けることはできません。

総称*活動名

この活動の前に実行しなければならない活動の総称名を指定します。

指定できる関係演算子の値は次の通りです。

この要素は、条件づけ活動の終了コードと比較する時に使用する関係演算子です。

***EQ** 等しい

***GT** より大

***LT** より小

***NE** 等しくない

***GE** 大きいか等しい

***LE** 小さいか等しい

条件コードとして考えられる値は次の通りです。

この要素は、条件づけ活動の実際の終了コードと比較される値です。

***SUCCESS**

活動は正常に終了しました(0 <=終了コード<= 9)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***FAIL** 活動は正常に実行されませんでした(10 <=終了コード<= 89)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***NOTRUN**

活動は開始されませんでした(90 <=終了コード<= 99)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***ANY** 活動は任意の終了コードで終了しました。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQの時だけです。

終了コード

活動の結果（成功または障害）を示す整数値(0から99)を指定します。終了コードの範囲および説明は次の通りです。

00 活動は正常に完了した。

- 01-09 活動は警告メッセージ付きで完了した。
- 10-29 活動は正常に完了しなかった。
- 30-39 活動は完了する前にユーザーによって取り消された。
 - 30 =活動は*CNTRLDオプションによって終了された。
 - 35 =活動は*IMMEDオプションによって終了された。
 - 39 =活動は*FRCFAILオプションによって終了された。
- 40-49 アプリケーションがエラーを検出したので、活動は実行されなかった。
 - 40 =機密保護上の理由から、活動は実行されなかった。
- 90-99 条件またはスケジュールが満たされなかったので、活動は実行されなかった。
 - 95 =スケジュールされた開始時刻を経過した。
 - 99 =条件を満たすことができない。

条件モードとして考えられる値は次の通りです。

この要素は、この活動を実行する前に条件づけ活動が完了していなければならないシステムを示します。

***ALLNODES**

指定した条件づけ活動は、この活動を実行する前にすべてのノードで完了していなければなりません。

***SAMENODE**

所定のノードにおいて指定の条件活動が完了されると、他のすべてのノードにおいて指定の条件活動が完了していない場合であっても、それと同じノードにおいてACTIVITYパラメーターで指定した活動を実行できます。この活動が条件付け活動にないノードをリストしている場合には、この活動をそのノードで実行することができ、その条件は無視されます。

上

活動開始時刻 (STRTIME)

この活動を中央側システムで開始できる日時を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は、変更要求の投入時に決定されます。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

この活動は、変更要求の投入時刻またはそれ以降の任意の時刻に開始できます。

時刻以後開始

この活動を開始できる時刻を指定します。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

この活動は、変更要求の投入日またはそれ以降の日付に開始できます。

***NEXT**

この活動は、変更要求の投入日より後の任意の日に開始できます。

日付以後開始

その日付以後にこの活動を開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

時刻以前開始として考えられる値は次の通りです。

日付以前開始が*ANYの場合には、この要素は無視されます。

***ANY** この活動は、日付以前開始以前の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は、時刻以前開始要素で指定された日付の、変更要求が投入された時刻より前に開始しなければなりません。

時刻以前開始

その時刻の前に活動を開始しなければならない時刻を指定します。この時刻の前に活動を開始できない場合には、その活動は開始されません。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以前開始として考えられる値は次の通りです。

***ANY** 活動は、時刻以後開始および日付以後開始より後の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は変更要求の投入日に開始しなければなりません。

***NEXT**

活動は変更要求の投入日の翌日までに開始しなければなりません。

日付以前開始

その日付の前に活動を開始しなければならない日付を指定します。この日付までに活動を開始できない場合には、活動は開始されません。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

上

活動の保留 (HOLD)

変更要求の投入時に活動を保留するように指定します。

***NO** 活動は保留されません。すべての条件および開始時刻が満たされた時に実行されます。

***YES** 活動は変更要求の投入時にすべてのノードに対して保留されます。実行する前に保留解除しなければなりません。

上

例

例1: 変更要求記述への活動の追加


```
ADDOBJCRQA CRQD(MYLIB/CR1) ACTIVITY(ACT01) ACTION(*RTV)
OBJ(QGPL/QXYZ) OBJTYPE(*JOB)
CPNAME((*NETATR SYS1))
```

この例では、QGPL/QXYZジョブ記述をローカル・ネットワークのiSeriesサーバーSYS1から検索する、ライブラリーMYLIBの変更要求記述CR1に活動を追加する方法が示されています。

例2: アカウンティング・システムへの活動の追加

```
ADDOBJCRQA CRQD(MYLIB/CR2) ACTIVITY(ACT02) ACTION(*SND)
OBJ(ACCTLIB/TAXFILE) OBJTYPE(*FILE)
MBR(DEDUCTIONS) TGTRLS(*PRV)
STRTIME((23:00:00 9/30/06))
NODL(NETLIB/ACCTSYS)
```

この例には、2006年9月30日の午後11時にACCTSYSノード・リストのiSeriesアカウンティング・サーバーのすべてに税率表を送信する活動の追加方法が示されています。アカウンティング・システムは前のリリース・レベルです。

例3: プログラムを検索する活動の追加

```
ADDOBJCRQA CRQD(MYLIB/CR3) ACTIVITY(*GEN) ACTION(*RTV)
OBJ(*GLOBAL)
GLBNAME(CUSTNET PCSOFT WDWAPP VER5 060314)
CPNAME((CUSTNET DEVPS2))

ADDOBJCRQA CRQD(MYLIB/CR3) ACTIVITY(*GEN) ACTION(*SND)
OBJ(*GLOBAL)
GLBNAME(CUSTNET PCSOFT WDWAPP VER5 060314)
NODL(NETLIB/PS2SE)

ADDOBJCRQA CRQD(MYLIB/CR3) ACTIVITY(*GEN) ACTION(*RUN)
OBJ(*GLOBAL)
GLBNAME(CUSTNET PCSOFT WDWAPP VER5 060314)
COND((*PRV *EQ *SUCCESS *SAMENODE))
RMTSTRTIME((*MGDSYS (23:00:00 10/20/06))
NODL(NETLIB/PS2SE)
```

このコマンドはPS/2からプログラムを検索して、それを南西域のすべてのPS/2に送信する活動を追加します。PS/2はPS2SEノード・リストで識別されます。PS/2への送信が正常に実行された場合にかぎり、これはPS/2がある場所の時間帯の午後11時にPS/2で実行されます。活動名が生成されます。

例4: 複数システムからファイルを検索する活動の追加

```
ADDOBJCRQA CRQD(MYLIB/CR4) ACTIVITY(ONLY) ACTION(*RTV)
OBJ(*GLOBAL) GLBNAME(CUSTNET SALES *ANY *HIGHEST)
STRTIME((22:00:00 *CURRENT) (06:00:00 *NEXT))
NODL(NETLIB/STORES)
```

このコマンドは、STORESノード・リストで識別された各システムから最新の夜間売上ファイルを検索する活動を追加します。ファイルはCUSTNET SALESシステム名、作成日としてカタログ処理されます。ファイルは、要求が投入された日の午後10時以後で、そのストアをオープンする次の朝の午前6時以前に検索する必要があります。

例5: 導入可能オブジェクトを送信する活動の追加

```
ADDOBJCRQA CRQD(MYLIB/CR1) ACTIVITY(01) ACTION(*SND)
OBJ(*GLOBAL)
GLBNAME(CUSTNET ASOBJ PCKOBJ 01269 REF 0001)
CPNAME((*NETATR SYS1))
```


このコマンドは、中央側に導入するために前にパッケージされたオブジェクトを、iSeriesサーバーSYS1に送信する活動を追加します。

例6: 導入可能オブジェクトを導入する活動の追加

```
ADDOBJCRQA  CRQD(MYLIB/CR2)  ACTIVITY(ACT02)  ACTION(*SNDINS)
              OBJ(*GLOBAL)
              GLBNAME(CUSTNET ASOBJ PCKOBJ 01270 REF 0002)
              NODL(NETLIB/ACCTSYS)  KEEPCLGE(*NO)
```

このコマンドは、導入するために前にパッケージされた導入可能オブジェクトを、ノード・リストACCTSYSに送信して導入する活動を追加します。導入可能オブジェクトを位置指定する管理下のシステムのカatalog項目は保管されません。

例7: 導入可能オブジェクトのアンインストール

```
ADDOBJCRQA  CRQD(MYLIB/CR4)  ACTIVITY(ACT04)  ACTION(*UNINS)
              OBJ(*COMPNAME)
              COMPNAME(CUSTNET ASOBJ PCKOBJ 03000)
              REFLVL(*ALL)  CPNAME(*NETATR SYS4)
```

このコマンドは、すべての導入可能オブジェクトを、そのリリース・レベルに関係なく、そのグローバル名が構成要素名CUSTNET ASOBJ PCKOBJ 03000と一致するシステムSYS4からアンインストールする活動を追加します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

プロダクトCRQ活動の追加 (ADDPRDCRQA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プロダクト変更要求活動追加(ADDPRDCRQA)コマンドは、変更要求記述にプロダクト配布機能を実行する活動を追加します。この活動は、他の1つまたは複数の活動が正常に完了され、あるいは正常に完了されなかった後でなければ実行されないように条件づけることができます。また、活動が将来の日付および時刻に実行されるようにスケジュールすることもできます。

制約事項:

1. このコマンドは共通*EXCLUDE権限付きで出荷されます。
2. 変更要求記述オブジェクトに対する*CHANGE権限とライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
3. プロダクトは、前に配布用にパッケージされていなければなりません。配布プロダクト・パッケージ(PKGPRDDST)コマンドを使用して、プロダクトをパッケージすることができます。
4. NODL値が指定されている場合にノード・リストに入れることができるのは、アドレス・タイプの値が*SNAの項目だけです。

注:

以下の注は、コマンドがどのように働くかを説明しています。

1. 活動で指定されたプロダクトに対する権限は、その活動が実行されるまで検査されません。
2. 活動を実行する前にすべての条件が満たされなければなりません。
3. 開始時刻は、活動を開始できる時点を示します。実際の開始時刻は、ネットワークおよびシステムの遅延のためにこれより遅くなることがあります。
4. 処置*DLTCLGEはライセンス・プログラムが入っている保管ファイルを削除し、この保管ファイルをマップする配布カタログ項目を削除するだけです。プロダクトは削除されません。
5. TGTRLS(*ONLY)を指定した場合には、処置パラメーターは*INS以外の値でなければなりません。
6. プロダクトのライセンス・キーを送信するように要求されている時には、この活動の実行時にこのライセンス・キー情報をもつレコードが中央側のライセンス・リポジトリーに存在していなければなりません。
7. 中央側のライセンス・リポジトリー中で指定されたプロダクトのライセンス・キー情報を含む既存のすべてのレコードが指定された1つまたは複数の管理下のシステムに送信されますが、それらはシステム製造番号に一致するものだけが管理下のシステムのライセンス・リポジトリーに追加されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CRQD	変更要求記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 変更要求記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ACTIVITY	活動	名前, *GEN, *LAST	オプション, 定位置 2
ACTION	処置	*SND, *RTV, *DLTCLGE, *INS, *SNDINS	オプション, 定位置 3
PRDID	プロダクトID	文字値	オプション, 定位置 4
RLS	リリース・レベル	文字値, *ONLY	オプション
OPTION	プロダクト・オプション	1-99, *BASE	オプション
LODTYPE	プロダクト・ロード・タイプ	*ALL, *CODE, *LNG	オプション
LODID	ロードID	2900-2999, *ALL, *CODE	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	*CURRENT, *PRV, V5R3M0, V5R4M0, V6R1M0, *ONLY	オプション
NODL	管理下のシステム・ノード・リスト	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード・リスト	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点	通信名	
KEEPCLGE	カタログ項目の保存	*YES, *NO	オプション
SNDLICENSE	ライセンス・キー送信	*YES, *NO	オプション
RMTSTRTIME	管理下のシステムの開始時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 時間帯	*LCLSYS, *MGDSYS	
	要素 2: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *CURRENT	
	要素 2: 日付	日付, *CURRENT, *NEXT	
TEXT	テキスト '記述'	文字値, *GEN, *BLANK	オプション
COND	活動条件	単一値: *NONE その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 活動	総称名, 名前, *PRV	
	要素 2: 関係演算子	*EQ, *GT, *LT, *LE, *NE, *GE	
	要素 3: 終了コード	0-99, *SUCCESS, *FAIL, *NOTRUN, *ANY	
	要素 4: 条件モード	*ALLNODES, *SAMENODE	
STRTIME	活動開始時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *CURRENT	
	要素 2: 日付	日付, *CURRENT, *NEXT	
	要素 2: 以前に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *ANY, *CURRENT	
	要素 2: 日付	日付, *ANY, *CURRENT, *NEXT	
HOLD	活動の保留	*NO, *YES	オプション

変更要求記述 (CRQD)

変更要求記述オブジェクト名を指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザーおよびシステム部分にあるすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

このパラメーターに指定したライブラリーだけが検索されることを指定します。

変更要求記述

変更要求記述オブジェクトの名前を指定します。

活動 (ACTIVITY)

変更要求記述に追加する活動の名前を指定します。

***GEN** 活動名が生成されます。活動名の形式はQACTXXXXXXで、この場合にXXXXXXはまだ使用されていない最初の10の倍数です。

***LAST**

活動は変更要求で最後に実行されます。活動(ACTIVITY)パラメーターに*LASTを指定すると、条件(COND)パラメーターおよび開始時刻(STRTIME)パラメーターは指定できません。変更要求記述に存在できる*LASTを指定した活動は1つだけです。

活動名 10桁の活動名を指定します。

処置 (ACTION)

実行するプロダクト配布機能を指定します。

***SND** 指定した管理下のシステムにプロダクトを送ります。

***RTV** 指定した管理下のシステムからプロダクトを検索します。

***DLTCLGE**

指定した管理下のシステムからカタログ項目および配布用にパッケージされたプロダクトが入っている関連づけされた保管ファイルを削除します。

***INS** 指定した管理下のシステムにプロダクトを導入します。

***SNDINS**

指定のプロダクトを指定した管理下のシステムに送って導入します。

プロダクトID (PRDID)

処置を実行するプロダクトの7桁のIDを指定します。

使用できるプロダクトIDの値は次の通りです。

プロダクトID

活動で使用される7桁のプロダクトIDを指定します。

リリース・レベル (RLS)

使用されるプロダクトのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ONLY

システムに導入されているプロダクトのリリース・レベル。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRXYの形式で指定してください。Xに有効な値は数字0から9です。Yに有効な値は数字の0から9および文字AからZです。

プロダクト・オプション (OPTION)

PRDIDパラメーターで指定されたプロダクトのどの任意指定部分を使用されるかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*BASE

プロダクトの基本部分だけが使用されます。

プロダクト・オプション番号

使用するプロダクト・ロードのオプション番号を指定します。有効な値の範囲は1から99です。

プロダクト・ロード・タイプ (LODTYPE)

使用されるプロダクト・ロード・オブジェクトを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** LODIDパラメーターで指定されたコードおよび言語オブジェクトが使用されます。

*CODE

このプロダクト・ロードに関連づけられたプログラム・オブジェクトが使用されます。

*LNG LODIDパラメーターで識別される各国語バージョン(NLV)に対応するオブジェクトが使用されます。

上

ロードID (LODID)

使用されるロードIDを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ALL このプロダクト・オプション用のすべての言語が保管されます。

*CODE

コード・ロードが使用されます。

プロダクト・ロードID

LODTYPE(*LNG)またはLODTYPE(*ALL)が使用される時のプロダクトのロードIDを指定します。

ロードIDは正しいIBM各国語バージョンでなければならず、29XXの形式で指定しなければなりません。Xの値は0から9とすることができます。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

プロダクトを使用しようとしているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

*ONLY

リリースは、既存のプロダクトのリリースによって決定されます。この値は、同じプロダクトに複数のリリースが存在する場合には無効です。

*CURRENT

プロダクトは、現在システムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。

*PRV プロダクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベル0 の前のリリースで使用されます。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRXXの形式で指定してください。プロダクトは、オペレーティング・システムの指定したリリースまたはそれ以後のリリースを導入しているシステムで使用できます。有効な値は現行のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、それぞれ新しいリリースごとに変わることがあります。

上

管理下のシステム・ノード・リスト (NODL)

ノード・リスト・パラメーターはこの活動の宛先であるシステムのリストが入っているオブジェクト名であることを指定します。このパラメーターは、制御点名 (CPNAME)パラメーターまたはACTION(*RTV)が指定されている場合には指定することができません。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

この活動を実行するシステムは、ノード・リストによって指定されません。個々の制御点名を指定しなければなりません。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーでノード・リスト・オブジェクトが検索されます。

***CURLIB**

ノード・リスト・オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定します。

ノード・リスト名

コマンドを実行するシステムのリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名を指定してください。

上

管理下のシステム・ノード名 (CPNAME)

この活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。ノード・リストが指定されている場合には、制御点名は指定できません。ACTION(*RTV)が使用されている場合には、1つの制御点名しか指定することができません。

***NONE**

この活動を実行するシステムは個々に識別されません。ノード・リストを指定しなければなりません。

ネットワークIDとして考えられる値は次の通りです。

***NETATR**

ローカル・システムのネットワークIDが使用されます。これは、指定されるノードがローカル・システムと同じネットワーク内にある時に役立ちます。

ネットワークID

活動が実行される管理下のシステムのAPPNネットワークIDを指定します。

使用できる制御点名の値は次の通りです。

制御点名

活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。

上

カタログ項目の保存 (KEEPCLGE)

配布カタログ項目およびプロダクトに対応する関連づけられた保管ファイルが指定したシステムに保管されるかどうかを指定します。これが有効なのは、ACTION(*INS)またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。

考えられる値は次の通りです。

***NO** カタログ項目および関連づけられた保管ファイルは保管されません。

***YES** カタログ項目および関連づけられた保管ファイルが保管されます。

上

ライセンス・キー送信 (SNDLICKEY)

ライセンス・キーをプロダクトと一緒に送るかどうかを指定します。

***YES** ライセンス・キーはプロダクトと一緒に送られます。

***NO** ライセンス・キーはプロダクトと一緒に送られません。

上

管理下のシステムの開始時刻 (RMTSTRTIME)

以後管理下のシステムで活動が実行を開始できる日付および時刻を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は、中央側の日付および時刻に基づいて中央側システムで活動が実行を開始した時に決定されます。

時間帯として考えられる値は次の通りです。

***LCLSYS**

リモート開始時刻は、中央側システムの時間帯で指定されます。

***MGDSYS**

リモート開始時刻は、管理下のシステム側の時間帯で指定されます。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

この機能は、要素2で指定された日に中央側システムでこの活動が開始された時刻以後の任意の時刻に、管理下のシステムで開始できます。

時刻以後開始

その時刻の後に管理下のシステムでこの機能を開始できる時刻を指定してください。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻は、時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

この機能は、中央側システムで活動が開始された日付またはそれ以後の任意の日に管理下のシステムで開始されます。

***NEXT**

この機能は、中央側システムで活動が開始された日付より後の任意の日に管理下のシステムで開始されます。

日付以後開始

その日付以降に管理下のシステムで機能を開始する日付を指定してください。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

注：

1. 時間帯の値*MGDSYSが指定されている場合には、日付および時刻に特殊値 *CURRENTおよび*NEXTが指定されます。
2. このパラメーターを指定できるのは、*INSまたは*SNDINS処置が指定されている場合だけです。

上

テキスト '記述' (TEXT)

活動記述を指定します。

***GEN** 選択した処置に基づいてテキスト記述が生成されます。

テキスト記述

50桁の活動の記述を指定します。

上

活動条件 (COND)

この活動を実行する前に満たされていなければならない条件を指定します。それぞれの条件は、この活動の前に実行する必要がある活動と、この活動を実行するために必要な前の活動からの終了コードの値を識別します。省略時の条件は、前（アルファベット順）の活動が正常に完了していなければこの活動を実行できないというものです。

使用できる単一の値は次の通りです。

***NONE**

この活動に条件はありません。

条件づけ活動として考えられる値は次の通りです。

***PRV** この活動は前の活動で条件づけされます。活動は、活動名のアルファベット順に順序づけられます。追加される活動が最初の活動である場合には、前の活動は存在しないので、*PRVの条件は満たされたものとしてマークが付けられます。

条件付け活動名

この活動の前に実行しなければならない活動の名前を指定します。

総称*活動名

この活動の前に実行しなければならない活動の総称名を指定します。

指定できる関係演算子の値は次の通りです。

この要素は、条件づけ活動の終了コードと比較する時に使用する関係演算子です。

***EQ** 等しい

***GT** より大

***LT** より小

***NE** 等しくない

***GE** 大きいか等しい

***LE** 小さいか等しい

条件コードとして考えられる値は次の通りです。

この要素は、条件づけ活動の実際の終了コードと比較される値です。

***SUCCESS**

活動は正常に終了しました(0 <=終了コード<= 9)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***FAIL** 活動は正常に実行されませんでした(10 <=終了コード<= 89)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***NOTRUN**

活動は開始されませんでした(90 <=終了コード<= 99)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***ANY** 活動は任意の終了コードで終了しました。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQの時だけです。

終了コード

活動の結果（成功または障害）を示す整数値(0から99)を指定します。終了コードの範囲および説明は次の通りです。

00 活動は正常に完了した。

01-09 活動は警告メッセージ付きで完了した。

10-29 活動は正常に完了しなかった。

30-39 活動は完了する前にユーザーによって取り消された。

- 30 =活動は*CNTRLDオプションによって終了された。
- 35 =活動は*IMMEDオプションによって終了された。
- 39 =活動は*FRCFAILオプションによって終了された。

40-49 アプリケーションがエラーを検出したので、活動は実行されなかった。

- 40 =機密保護上の理由から、活動は実行されなかった。

90-99 条件またはスケジュールが満たされなかったので、活動は実行されなかった。

- 95 =スケジュールされた開始時刻を経過した。
- 99 =条件を満たすことができない。

条件モードとして考えられる値は次の通りです。

この要素は、この活動を実行する前に条件づけ活動が完了していなければならないシステムを示します。

***ALLNODES**

指定した条件づけ活動は、この活動を実行する前にすべてのノードで完了していなければなりません。

***SAMENODE**

所定のノードにおいて指定の条件活動が完了されると、他のすべてのノードにおいて指定の条件活動が完了していない場合であっても、それと同じノードにおいてACTIVITYパラメーターで指定した活動を実行できます。この活動が条件付け活動にないノードをリストしている場合には、この活動をそのノードで実行することができ、その条件は無視されます。

活動開始時刻 (STRTIME)

この活動を中央側システムで開始できる日時を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は、変更要求が投入された時に決定されます。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

この活動は、変更要求の投入時刻またはそれ以降の任意の時刻に開始できます。

時刻以後開始

この活動を開始できる時刻を指定します。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

この活動は、変更要求の投入日またはそれ以降の日付に開始できます。

***NEXT**

この活動は、変更要求の投入日より後の任意の日付に開始できます。

日付以後開始

その日付以後にこの活動を開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

時刻以前開始として考えられる値は次の通りです。

日付以前開始が*ANYの場合には、この要素は無視されます。

***ANY** この活動は、日付以前開始以前の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は、日付以前開始要素で指定された日の変更要求を投入した時刻より前に開始しなければなりません。日付以前開始が*CURRENTの場合には、この値は指定できません。

時刻以前開始

その時刻の前に活動を開始しなければならない時刻を指定します。この時刻の前に活動を開始できない場合には、その活動は開始されません。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。秒は任意指定です。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以前開始として考えられる値は次の通りです。

***ANY** 活動は、時刻以後開始および日付以後開始より後の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は変更要求の投入日に開始しなければなりません。

***NEXT**

活動は変更要求の投入日の翌日までに開始しなければなりません。

日付以前開始

その日付の前に活動を開始しなければならない日付を指定します。この日付までに活動を開始できない場合には、活動は開始されません。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

上

活動の保留 (HOLD)

変更要求の投入時に活動を保留するように指定します。

***NO** 活動は保留されません。すべての条件および開始時刻が満たされた時に実行されます。

***YES** 活動は変更要求の投入時にすべてのノードに対して保留されます。実行する前に保留解除しなければなりません。

上

例

例1: 検索する活動の追加

```
ADDPRDCRQA CRQD(MYLIB/CR1) ACTIVITY(ACT01) ACTION(*RTV)
            PRDID(1ACCOUN) RLS(V5R4M0) OPTION(*BASE)
            LODTYPE(*ALL) LODID(*ALL)
            CPNAME((*NETATR SYS1))
```

コードと言語の両方の部分について、1ACCOUNプロダクト、リリースV5R4M0の基本オプションを、iSeriesサーバーSYS1から検索する活動を追加します。

例2: 送信および導入する活動の追加

```
ADDPRDCRQA CRQD(MYLIB/CR2) ACTIVITY(ACT01) ACTION(*SNDINS)
            PRDID(1CHECKS) RLS(V5R4M0) OPTION(0010)
            LODTYPE(*ALL) LODID(*ALL)
            CPNAME((*NETATR SYS2)) SNDLICENSE(*YES)
```

このコマンドは、コードと言語の両方の部分について、1CHECKSプロダクト、リリースV5R4M0の導入オプション10をiSeriesサーバーSYS2から送信して導入する活動を追加します。また、このプロダクトのライセンス・キーも管理下のシステムのライセンス・リポジトリに送信されて追加されます。

例3: 言語オブジェクトを導入する活動の追加

```
ADDPRDCRQA CRQD(MYLIB/CR3) ACTIVITY(ACT02) ACTION(*SND)
            PRDID(1ACCOUN) RLS(V5R4M0) OPTION(*BASE)
            LODTYPE(*ALL) LODID(2924)
            NODL(NETLIB/ACCTSYS) STRTIME((23:00:00 9/30/06))
```

このコマンドは、英語バージョンの言語オブジェクトおよび1ACCOUNプロダクトの基本オプションのコード・オブジェクトを、2006年9月30日の午後11時にノード・リスト(NODL) ACCTSYSネットワークのすべてのシステムに送信する活動を追加します。また、このプロダクトのライセンス・キーも管理下のシステムのライセンス・リポジトリに送信されて追加されます。

上

エラー・メッセージ

なし

上

ライセンス情報追加 (ADDPRDLICI)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プロダクト・ライセンス情報追加(ADDPRDLICI)コマンドは、プロダクトまたはフィーチャーにライセンス情報を追加します。このコマンドは、プロダクトまたはフィーチャーに属するオプションがプロダクト・オプション・パッケージ(PKGPRDOPT)コマンドを使用してパッケージされる前または後で、しかもプロダクトまたはフィーチャーに属するオプションが導入される前に使用することができます。プロダクトにキーによる(*KEYED)承諾がある場合には、プロダクト・ライセンス情報の処理はこのコマンドから受け取った完了メッセージに含まれています。

プロダクト・ライセンス情報追加(QLZADDLI) APIについての詳細は、[HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)のISERIES INFORMATION CENTERの「API」トピックを参照してください。

制約事項: このコマンドは共通*EXCLUDE権限付きで出荷されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PRDID	プロダクトID	文字値	必須, 定位置 1
RLS	リリース・レベル	文字値	必須, 定位置 2
FEATURE	フィーチャー	文字値, <u>5001</u>	オプション
USGTYPE	使用目的タイプ	<u>*CONCURRENT</u> , *REGISTERED	オプション
COMPLI- ANCE	適合タイプ	<u>*OPRAC</u> TION, *WARNING, *KEYED	オプション
DFTUSGLMT	省略時の使用範囲	0-999999, <u>1</u> , *NOMAX	オプション
LICTRM	ライセンス条件	<u>*VERSION</u> , *RELEASE, *MOD	オプション
MSGID	フィーチャー・メッセージID	名前, <u>*BASEOPT</u>	オプション
ALWLICRLS	ライセンス解放可	<u>*NO</u> , *YES	オプション
VNDPWD	ベンダー・パスワード	単純名, <u>*NONE</u>	オプション
GRACE	猶予期間	要素リスト	オプション
	要素 1: 日数	0-999, <u>0</u>	
	要素 2: 省略時の使用限界使用可能	<u>*NO</u> , *YES	

上

プロダクトID (PRDID)

ライセンス情報が追加されているプロダクト・ロードのプロダクトIDを指定します。

注: IDは正確に7桁の長さでなければなりません。

リリース・レベル (RLS)

ライセンス情報が追加されるプロダクトまたはフィーチャーのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

バージョン-リリース-モディフィケーション

ライセンス情報が追加されるプロダクトまたはフィーチャーのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定してください。リリース・レベルはVXRYMZの形式でなければならず、この場合にXおよびYに有効な値の範囲は0-9で、Zに有効な値の範囲は0-9およびA-Zです。

フィーチャー (FEATURE)

ライセンス情報が追加されるフィーチャーを指定します。ライセンス情報は、指定したプロダクトIDおよびフィーチャーをもつすべてのプロダクト・ロードに追加されます。

5001 PRDIDパラメーターに指定されたプロダクトの5001フィーチャーのライセンス情報が追加されません。

ロードID

この番号に対応するPRDIDパラメーターのフィーチャーに対するライセンス情報が追加されるように指定してください。有効な値の範囲は5001 - 9999です。

使用目的タイプ (USGTYPE)

ライセンス使用状況のタイプを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*CONCURRENT

使用状況の限界は、一度にプロダクトまたはフィーチャーにアクセスする固有のジョブの数についてです。

*REGISTERED

使用状況の限界は、プロダクトまたはフィーチャーにより登録済みの固有のライセンス・ユーザーの数についてです。

適合タイプ (COMPLIANCE)

使用状況の限界を超えた時にとらなければならない処置を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***OPRACION**

使用限界を超えることはできません。使用限界に達した後でプロダクトまたはフィーチャーを使用しようとしても、システム管理担当者が使用限界を大きくする適切な処置を行わない限り、このプロダクトまたはフィーチャーにアクセスすることはできません。

***WARNING**

使用限界に達した後でプロダクトまたはフィーチャーを使用しようとした場合に、アクセスを許可されます。使用限界を超えたことを示す警告メッセージがライセンス情報所有者に送られ通知されます。

***KEYED**

プロダクトまたはフィーチャーを導入するかあるいはその使用限界を大きくするためには、ソフトウェア提供会社からのライセンス・キーが必要になります。提供されるソフトウェアは、プロダクトに対する追加のユーザーのアクセスを許す新しいライセンス・キーが必要になるまで、数日間にわたってそのプロダクトまたはフィーチャーの使用限界を超えて使用できる猶予期間を認めることがあります。この猶予期間の終わりまでに使用限界を大きくした新しいキーが導入されない場合には、プロダクトの使用限界は与えられた使用限界に戻されます。

上

省略時の使用範囲 (DFTUSGLMT)

ライセンス条項に応じてプロダクトまたはフィーチャーが最初に導入された時に有効な使用状況の限界を指定します。

注: *KEYEDによる承諾の場合には、これはライセンス・キーが導入されるまでライセンス・キー追加 (ADDLICENSE) コマンドまたはライセンス・キー情報追加 (QLZAADDK) API を使用してそのプロダクトまたはフィーチャーを使用できるユーザーの数です。キーなしのプロダクトまたはフィーチャーへのアクセスを防止するために、省略時の使用限界は0に設定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

1 プロダクトまたはフィーチャーには単一のユーザーしかアクセスできません。

***NOMAX**

任意の数のユーザーがプロダクトまたはフィーチャーにアクセスできます。

省略時の使用状況の限界

省略時の使用限界の数を指定してください。有効な値の範囲は0 - 999,999です。

上

ライセンス条件 (LICTRM)

ライセンス情報を共有するプロダクトまたはフィーチャーのレベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***VERSION**

RLSパラメーターにVXRXレベル（この場合に、VXはバージョン・レベル、RXはリリース・レベル）が指定され、ライセンス条件が*VERSIONであるすべてのプロダクトは、同じライセンス情報を共有します。プロダクトまたはフィーチャーのバージョン・レベルが変わった場合には、新しい

リリースを導入する得意先は、承諾タイプが *WARNING または*OPRACIONの場合にはライセンス情報変更(CHGLICINF)コマンド、また承諾タイプが*KEYEDの場合にはライセンス・キー追加(ADDLICKEY)コマンドを使用して、ライセンス情報を設定しなければなりません。

***RELEASE**

RLSパラメーターにVXRXレベル（この場合に、VXはバージョン・レベル、RXはリリース・レベル）が指定され、ライセンス条件が*RELEASEであるすべてのプロダクトは、同じライセンス情報を共有します。プロダクトまたはフィーチャーのバージョン・レベルまたはリリース・レベルが変わった場合には、新しいリリースを導入する得意先は、承諾タイプが *WARNING または*OPRACIONの場合にはライセンス情報変更(CHGLICINF)コマンド、また承諾タイプが*KEYEDの場合にはライセンス・キー追加(ADDLICKEY)コマンドを使用して、ライセンス情報を設定しなければなりません。

***MOD** それぞれのレベルのプロダクトまたはフィーチャーがライセンスの対象になります。レベル間ではライセンス情報は共用されません。新しいレベルのプロダクトまたはフィーチャーを導入する得意先は、承諾タイプが*WARNINGまたは*OPRACIONの場合にはライセンス情報変更(CHGLICINF)コマンド、また承諾タイプが*KEYEDの場合にはライセンス・キー追加(ADDLICKEY)コマンドを使用して、ライセンス情報を設定しなければなりません。

上

フィーチャー・メッセージID (MSGID)

プロダクト・フィーチャーを記述するメッセージのメッセージIDを指定します。このメッセージIDのメッセージ・ファイルは、プロダクトの定義に指定されています。

考えられる値は次の通りです。

***BASEOPT**

このプロダクト・フィーチャーを記述するメッセージはありません。代わりに、このプロダクトの基本オプションを記述するために使用されているメッセージが使用されます。

フィーチャー・メッセージID

このプロダクト・フィーチャーを記述するメッセージのメッセージIDを指定してください。

上

ライセンス解放可 (ALWLICRLS)

前に要求されたライセンスを、WRKLICINFコマンドを使用して解除することができるかどうかを指定します。ライセンスが解除されると、使用カウントが減少します。この値を指定できるのは、登録済みライセンス・タイプの場合だけです。

ライセンスが解除されたことをプロダクトに通知することが必要な場合には、*NOを指定することが必要であり、プロダクトにはライセンスを解除するための固有のメカニズムが備わっていなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***NO** WRKLICINFコマンドを使用してライセンスを解除することはできません。

***YES** WRKLICINFコマンドを使用してライセンスを解除することができます。

上

ベンダー・パスワード (VNDPWD)

ソフトウェア・ベンダーのパスワードを指定します。このパスワードは暗号化されてプロダクトと一緒に保管されます。これはライセンス・キー追加要求の妥当性検査に使用されるもので、ライセンス・キー生成 (GENLICKEY) コマンドでこのプロダクトおよびフィーチャーのキーを生成するために使用されたパスワードと同じでなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

ライセンス・キー情報追加(ADDLICKEY)コマンドに必要なベンダーのパスワードはありません。

ベンダー・パスワード

ベンダーのパスワードを指定してください。パスワードはA-Z, ¥, #, または@ などの英字で始まっているなければなりません。その後、A-Z, 0-9, ¥, #, @, または_ などの9桁の英数字が続きます。

上

猶予期間 (GRACE)

プロダクトが初めてその使用限界を超えた後の（新しいライセンス・キーを入手しなければならない）日数を指定します。猶予期間が満了する時までにソフトウェア・ベンダーから新しいライセンス・キーを入手しなかった場合には、使用限界を超えるユーザーはプロダクトまたはフィーチャーにアクセスすることができません。初めて使用限界を超えた場合には、猶予期間の満了日は、今日の日付に猶予期間の日数を加えて計算されます。

猶予期間の日数として考えられる値は次の通りです。

0 猶予期間はありません。ユーザーは使用限界を超えることができません。

猶予期間

猶予期間の日数を指定してください。有効な値の範囲は0-999です。

省略時の使用限界に認められる指定可能な値は次の通りです。

***NO** 省略時の使用限界で猶予期間を使用することはできません。このことは、ライセンス・キー追加 (ADDLICKEY) コマンドまたはライセンス・キー情報追加 (QLZAADDK) API を使用してライセンス・キーを導入する前に、ユーザーが省略時の使用限界を超えることはできないことを意味します。

***YES** 省略時の使用限界で猶予期間を使用することができます。このことは、ライセンス・キーを導入する前にユーザーが猶予期間の日数だけ省略時の使用限界を超えることができることを意味します。

上

例

例1: プロダクト・ライセンス情報の追加

```
ADDPRDLICI PRDID(1MYPR0D) RLS(V5R4M0)
```

このコマンドは、プロダクト・ライセンス情報を、リリースV5R4M0のプロダクトID 1MYPRODのプロダクトに追加します。

例2: V5R4M0リリースのプロダクト・ライセンス情報の追加

```
ADDPRDLICI PRDID(2MYPROD) RLS(V5R4M0) COMPLIANCE(*KEYED)
           VNDOWD(PRODUCTPWD) GRACE(30 *YES)
```

このコマンドは、プロダクト・ライセンス情報を、リリースV5R4M0のプロダクトID 1MYPRODのプロダクトに追加します。このプロダクトはキーによる承諾をサポートします。これはその使用限界と30日の省略時使用を越えることができます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF9E1A

ライセンス情報の矛盾が見つかった。

上

PTF CRQ活動の追加 (ADDPTFCRQA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正変更要求活動追加(ADDPTFCRQA)コマンドは、変更要求記述にPTF配布機能を実行する活動を追加します。

制約事項:

1. 変更要求記述に対する*CHANGE権限とライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
2. PTFは、システム・マネージャー・ライセンス・プログラムを使用するISERIESプロダクト・パッケージ用のものでなければなりません。PTFは、サポートされているプロダクトの処理(WRKSPTPRD)コマンドを使用してサポートされるものでなければなりません。ソフトウェアの再設計は、その他のシステム・タイプに対してオブジェクト変更要求活動追加(ADDOBJCRQA)コマンドでグローバル的に指定されたオブジェクトを使用し、あるいは変更管理活動追加(QNSADDCM) APIを使用して管理することができません。
3. 他のシステムに送るには、PTF保管ファイルが存在していて解放されなければなりません。
4. PTFを検索できるのは管理下の1つのシステムからだけです。
5. NODL値が指定されている場合にノード・リストに入れることができるのは、アドレス・タイプの値が*SNAの項目だけです。
6. 宛先ノードにIBM SYSTEMVIEW分散管理が導入されていない場合には、使用できるのは送信処置だけです。活動は、PTFが送信された時（到達した時ではない）に正常に実行されたと見なされます。
7. PTFを配布していて、配布待ち行列がサービス要求元処理(WRKSVRQS)コマンドで*SNADSに設定されている場合には、PTF送信(SNDPTF)コマンドに対する*USE権限が必要です。
8. PTFを配布していて、配布待ち行列がサービス要求元処理(WRKSVRQS)コマンドで*SVDSに設定されている場合には、PTFコピー(CPYPTF)コマンドに対する*USE権限が必要です。

注:

以下の注は、コマンドがどのように働くかを説明しています。

1. 活動で指定されたプロダクトに対する権限は、その活動が実行されるまで検査されません。
2. 活動を実行する前にすべての条件が満たされなければなりません。
3. 開始時刻は、活動を開始できる時点を示します。実際の開始時刻は、ネットワークおよびシステムの遅延のためにこれより遅くなることがあります。
4. 遅延のマークが付けられていないPTFは即時に適用されるか、あるいは次回のIPLで適用されます。遅延のマークが付けられているPTFは、次回のIPL時に適用されます。
5. 遅延のマークが付けられているPTFを永久的に適用できるのは、前に一時的に適用されている場合だけです。遅延となっているので、これらのPTFは、スケジュールされた次回のIPLで適用されることとなります。
6. PTFは、永久的に除去される垂直ライセンス内部コード(VLIC) PTFを除き、常に一時的に除去されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CRQD	変更要求記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 変更要求記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ACTIVITY	活動	名前, *GEN, *LAST	オプション, 定位置 2
ACTION	処置	*SND, *RTV, *DLT, *APY, *SNDAPY, *RMV	オプション, 定位置 3
PTFID	PTF ID	要素リスト	オプション
	要素 1: PTF	文字値, *ALL	
	要素 2: プロダクト	文字値, *ONLY	
	要素 3: リリース・レベル	文字値	
NODL	管理下のシステム・ノード・リスト	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード・リスト	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点	通信名	
PTFPART	PTF部分	*PTF, *CVRLTR	オプション
CVRLTRLNG	カバー・レター言語	2900-2999, *SRVRQS	オプション
APY	変更の範囲	*TEMP, *PERM, *LODONLY	オプション
DLYAPY	遅延PTF適用	*NO, *YES	オプション
DLYRMV	遅延PTF除去	*NO, *YES	オプション
RMTSTRTIME	管理下のシステムの開始時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 時間帯	*LCLSYS, *MGDSYS	
	要素 2: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *CURRENT	
	要素 2: 日付	日付, *CURRENT, *NEXT	
TEXT	テキスト '記述'	文字値, *GEN, *BLANK	オプション
COND	活動条件	単一値: *NONE その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 活動	総称名, 名前, *PRV	
	要素 2: 関係演算子	*EQ, *GT, *LT, *LE, *NE, *GE	
	要素 3: 終了コード	0-99, *SUCCESS, *FAIL, *NOTRUN, *ANY	
	要素 4: 条件モード	*ALLNODES, *SAMENODE	
STRTIME	活動開始時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *CURRENT	
	要素 2: 日付	日付, *CURRENT, *NEXT	
	要素 2: 以前に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *ANY, *CURRENT	
	要素 2: 日付	日付, *ANY, *CURRENT, *NEXT	

キーワード	記述	選択項目	ノート
HOLD	活動の保留	*NO, *YES	オプション

上

変更要求記述 (CRQD)

変更要求記述オブジェクト名を指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザーおよびシステム部分にあるすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

このパラメーターに指定したライブラリーだけが検索されることを指定します。

指定できる変更要求記述の値は次の通りです。

変更要求記述

変更要求記述オブジェクトの名前を指定します。

上

活動 (ACTIVITY)

変更要求記述に追加する活動の名前を指定します。

***GEN** 活動名が生成されます。活動名の形式はQACTXXXXXXで、この場合のXXXXXXはまだ使用されていない最初の10の倍数です。

***LAST**

活動は変更要求で最後に実行されます。活動(ACTIVITY)パラメーターに*LASTを指定すると、条件(COND)パラメーターおよび開始時刻(STRTIME)パラメーターは指定できません。変更要求記述に存在できる*LASTを指定した活動は1つだけです。

活動名 10桁の活動IDを指定してください。

上

処置 (ACTION)

PTFで実行される機能を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SND** PTFを指定した管理下のシステムに送ります。PTFはこの活動の一部としてはロードされません。

***RTV** 指定した管理下のシステムから指定したPTFを検索します。

***DLT** 指定した管理下のシステム上のPTF保管ファイルおよびカバー・レターを削除します。

***APY** 指定したシステムでPTFを適用します。すべての前提PTFが適用されていなければなりません。PTFは、ロード済み（「未適用」）状況に設定されている場合もあります。PTFが前にロードされていない場合には、適用の前にPTFがロードされなければなりません。すべての関連PTFを適用するには、状況を「ロード済み」に設定してください。1つのPTFおよびそのすべての対応する相互関連条件を適用する要求が適用されます。

***SNDAPY**

指定したシステムでPTFを送信、ロード、および適用します。すべての前提PTFが適用されていなければなりません。現在のPTFおよびその対応する相互関連PTFを適用するためには、状況を「ロード済み」（「未適用」）に設定してください。1つのPTFを適用すると、そのPTFおよび対応するすべての相互関連PTFが適用されます。

***RMV** 指定したシステムでPTFを一時的に除去します。

上

PTF (PTFID)

配布されるPTFを指定します。

考えられる値は次の通りです。

PTF ID

7文字のPTF IDを指定します。

***ALL** 指定したプロダクト用のすべてのPTF。指定できるのは、PTFを適用あるいは除去する時だけです。プロダクトを指定しなければなりません。

プロダクトIDとして考えられる値は次の通りです。

これは、PTFに関連づけされるプロダクトのプロダクトIDです。

***ONLY**

指定したPTF IDはサポートされている1つのプロダクトに関連づけされるだけです。

プロダクトID

PTFが関連づけされるプロダクトを指定してください。PTF IDがプロダクト相互間で固有のものでない場合には、プロダクトを指定しなければなりません。

プロダクトのリリース・レベルとして考えられる値は次の通りです。

この要素はプロダクトのリリース・レベルを示します。

リリース(VXRXXMX)

PTFが関連づけされるプロダクトのリリース・レベルを指定してください。形式はVXRXXMXです。PTF IDがプロダクトのリリース相互間で固有のものでない場合には、リリースを指定しなければなりません。

上

管理下のシステム・ノード・リスト (NODL)

ノード・リスト・パラメーターはこの活動の宛先であるシステムのリストが入っているオブジェクト名であることを指定します。このパラメーターは、制御点名(CPNAME)パラメーターも指定されている場合には指定できません。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

この活動を実行するシステムは、ノード・リストによって指定されません。個々の制御点名を指定しなければなりません。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

*LIBL ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーでノード・リスト・オブジェクトが検索されます。

*CURLIB

ノード・リスト・オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

ノード・リスト名

PTF機能を実行するシステムのリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名を指定してください。

上

管理下のシステム・ノード名 (CPNAME)

この活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。ノード・リスト(NODL)パラメーターが指定されている場合には、制御点名は指定できません。

*NONE

この活動を実行するシステムは個々に識別されません。ノード・リストを指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

*NETATR

ローカル・システムのネットワークIDが使用されます。これは、指定されるノードがローカル・システムと同じネットワーク内にある時に役立ちます。

ネットワークID

活動が実行される管理下のシステムのAPPNネットワークIDを指定します。

使用できる制御点名の値は次の通りです。

制御点名

活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。

上

PTF部分 (PTFPART)

PTFまたはカバー・レターを送信、検索、または削除する必要があるかどうかを指定します。

***PTF** 処理する必要があるのはPTFだけです。

***CVRLTR**

処理されるのはPTFのカバー・レターだけです。*CVRLTRを使用できるのは、*RTVおよび*SND処置の場合だけです。

削除処置が指定された場合には、常にPTFとカバー・レターの両方が削除されます。

上

カバー・レター言語 (CVRLTRLNG)

PTFと一緒に送信するカバー・レターの言語を指定します。

***SRVRQS**

それぞれのノードのサービス要求元項目に指定されたカバー・レター言語は、その特定のノードで送信されるカバー・レターの言語を決定します。サービス要求元項目がないか、または言語が指定されていない場合には、省略時の言語2924が使用されます。指定された言語が見つからない場合には2924が送られます。ただし、2926が要求されている場合には2950が送られます。

カバー・レター言語ID

送信または検索するカバー・レターの4桁の言語IDを指定してください。

上

変更の範囲 (APY)

PTFが適用される時の変更の範囲を指定します。

***TEMP**

PTFは一時的に適用されます。

***PERM**

PTFは永久的に適用されます。

***LODONLY**

PTFはロードされるだけです。これは、すべてのPTFがグループとして適用、除去、または永続適用され、これらの機能の実行に「ロード済み」（「未適用」）状況が前提条件であるような相互関連条件グループの一部であるPTFに役立ちます。

上

遅延PTF適用 (DLYAPY)

PTFがどのように適用されるかを指定します。指定したシステムで活動実行中に、あるいは後で次のIPLの時に即時PTFを一度に1つずつ適用します。

***NO** 活動の実行時に即時PTFを適用します。PTFが遅延とマークされている場合には、次の不在時IPLまで適用されません。

*YES 次の不在時IPLで即時PTFと遅延PTFの両方を適用します。

上

遅延PTF除去 (DLYRMV)

PTFがどのように除去されるかを指定します。システムで活動の実行中あるいは実行後に次のIPLの時にPTFを除去します。

使用できる単一の値は次の通りです。

*NO 活動の実行時にPTFを除去します。

*YES 次の不在時IPLで除去します。

上

管理下のシステムの開始時刻 (RMTSTRTIME)

この活動が管理下のシステムで実行を開始できる日付および時刻を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は、中央側の日付および時刻に基づいて中央側システムで活動が実行を開始する時に決定されます。

時間帯として考えられる値は次の通りです。

*LCLSYS

リモート開始時刻は、中央側システムの時間帯で指定されます。

*MGDSYS

リモート開始時刻は、管理下のシステム側の時間帯で指定されます。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

これは、その時刻の後に活動を開始する時刻の定義です。

*CURRENT

この機能は、要素2で指定された日に中央側システムでこの活動が開始された時刻以後の任意の時刻に、管理下のシステムで開始できます。

時刻以後開始

この機能を管理下のシステムで開始できる時刻を指定します。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻は、時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

*CURRENT

この機能は、中央側システムで活動が開始された日付またはそれ以後の任意の日に管理下のシステムで開始されます。

***NEXT**

この機能は、中央側システムで活動が開始された日付より後の任意の日に管理下のシステムで開始されます。

日付以後開始

この機能を管理下のシステムで開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

注：

1. 時間帯の値*MGDSYSが指定されている場合には、日付および時刻に特殊値*CURRENTおよび*NEXTが指定されます。
2. このパラメーターを指定できるのは、*APY、*RMV,または*SNDAPY処置が指定されている場合だけです。

上

テキスト '記述' (TEXT)

活動記述を指定します。

***GEN** 記述は選択された活動に基づいて生成されます。

テキスト記述

50桁の活動の記述を指定します。

上

活動条件 (COND)

この活動を実行する前に満たされていなければならない条件を指定します。それぞれの条件は、この活動の前に実行する必要がある活動と、この活動を実行するために必要なその活動からの終了コードの値を識別します。省略時の条件は、前（アルファベット順）の活動が正常に完了していなければこの活動を実行できないというものです。

使用できる単一の値は次の通りです。

***NONE**

この活動に条件はありません。

条件づけ活動として考えられる値は次の通りです。

この活動の前に実行しなければならない活動。

***PRV** この活動は前の活動で条件づけされます。活動は、活動名のアルファベット順に順序づけられます。追加される活動が最初の活動である場合には、前の活動は存在しないので、*PRVの条件は満たされたものとしてマークが付けられます。

条件付け活動名

この活動の前に実行しなければならない活動の名前を指定します。活動(ACTIVITY)パラメーターに指定した活動名は、条件付け活動名に指定することはできません。活動をそれ自体に条件付けることはできません。

総称*活動名

この活動の前に実行しなければならない活動の総称名を指定します。

指定できる関係演算子の値は次の通りです。

この要素は、条件づけ活動の終了コードと比較する時に使用する関係演算子です。

***EQ** 等しい

***GT** より大

***LT** より小

***NE** 等しくない

***GE** 大きいか等しい

***LE** 小さいか等しい

条件コードとして考えられる値は次の通りです。

***SUCCESS**

活動は正常に終了しました(0 <=終了コード<= 9)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***FAIL** 活動は正常に実行されませんでした(10 <=終了コード<= 89)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***NOTRUN**

活動は開始されませんでした(90 <=終了コード<= 99)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***ANY** 活動は任意の終了コードで終了しました。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQの時だけです。

終了コード

活動の結果（成功または障害）を示す整数値(0から99)を指定します。終了コードの範囲および説明は次の通りです。

00 活動は正常に完了した。

01-09 活動は警告メッセージ付きで完了した。

10-29 活動は正常に完了しなかった。

30-39 活動は完了する前にユーザーによって取り消された。

- 30 =活動は*CNTRLDオプションによって終了された。
- 35 =活動は*IMMEDオプションによって終了された。
- 39 =活動は*FRCFAILオプションによって終了された。

40-49 アプリケーションがエラーを検出したので、活動は実行されなかった。

- 40 =機密保護上の理由から、活動は実行されなかった。

90-99 条件またはスケジュールが満たされなかったので、活動は実行されなかった。

- 95 =スケジュールされた開始時刻を経過した。
- 99 =条件を満たすことができない。

条件モードとして考えられる値は次の通りです。

この要素は、この活動を実行する前に条件づけ活動が完了していなければならないシステムを示します。

***ALLNODES**

指定した条件づけ活動は、この活動を実行する前にすべてのノードで完了していなければなりません。

***SAMENODE**

所定のノードにおいて指定の条件活動が完了されると、他のすべてのノードにおいて指定の条件活動が完了していない場合であっても、それと同じノードにおいてACTIVITYパラメーターで指定した活動を実行できます。この活動が条件づけ活動にないノードをリストしている場合には、この活動をそのノードで実行することができ、その条件は無視されます。

上

活動開始時刻 (STRTIME)

この活動を中央側システムで開始できる日時を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は、変更要求が投入された時に決定されます。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

この活動は、変更要求の投入時刻またはそれ以降の任意の時刻に開始できます。

時刻以後開始

この活動を開始できる時刻を指定します。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付けない場合には、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定します。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

この活動は、変更要求の投入日またはそれ以後の任意の日に開始できます。

***NEXT**

この活動は、変更要求の投入日より後の任意の日に開始できます。

日付以後開始

その日付以後にこの活動を開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

時刻以前開始として考えられる値は次の通りです。

日付以前開始が*ANYの場合には、この要素は無視されます。

***ANY** この活動は、日付以前開始以前の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は、日付以前開始要素で指定された日の変更要求が投入された時刻より前に開始されなければなりません。日付以前開始が*CURRENTの場合には、この値は指定できません。

時刻以前開始

その時刻より前に活動を開始しなければならない時刻を指定します。この時刻の前に活動を開始できない場合には、その活動は開始されません。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以前開始として考えられる値は次の通りです。

***ANY** 活動は、時刻以後開始および日付以後開始より後の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は変更要求の投入日に開始しなければなりません。

***NEXT**

活動は変更要求の投入日の翌日までに開始しなければなりません。

日付以前開始

その日付の前に活動を開始しなければならない日付を指定します。この日付までに活動を開始できない場合には、活動は開始されません。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

上

活動の保留 (HOLD)

変更要求の投入時に活動を保留するように指定します。

***NO** 活動は保留されません。すべての条件および開始時刻が満たされた時に実行されます。

***YES** 活動は変更要求の投入時にすべてのノードに対して保留されます。実行する前に保留解除しなければなりません。

上

例

例1: 永久的にPTFを適用する活動の追加

```
ADDPTFCRQA CRQD(MYLIB/CR1) ACTIVITY(ACT01) ACTION(*APY)
            APY(*PERM) PTFID(SF12345)
            CPNAME((*NETATR SYS1))
```

このコマンドは、システムSYS1にPTF SF12345を永久的に適用する活動を追加します。

例2: PTFカバー・レターを送信する活動の追加

```
ADDPTFCRQA CRQD(MYLIB/CR2) ACTIVITY(ACT03) ACTION(*SND)
            PTFID(SF89345) PTFPART(*CVRLTR) CVRLTRLNG(2950)
            NODL(NETLIB/EUROPESYS)
```

このコマンドは、PTFカバー・レターを、EUROPESYSノード・リストで識別されたヨーロッパのすべてのシステムに送信する活動を追加します。

例3: 一時的にPTFを適用する活動の追加

```
ADDPTFCRQA CRQD(MYLIB/CR3) ACTIVITY(ACT01) ACTION(*SND)
PTFID(SF99911) CPNAME((NET1 SYSX))
ADDPTFCRQA CRQD(MYLIB/CR3) ACTIVITY(ACT02) ACTION(*APY)
APY(*TEMP) PTFID(SF99911)
RMTSTRTIME(*MGDSYS ('02:00:00' '12/12/06'))
CPNAME((NET1 SYSX))
```

このコマンドは、問題が検出されたシステムに2006年12月12日の午前2時にPTFを送信して一時的に適用する活動を追加します。

例4: PTFをロードする活動の追加

```
ADDPTFCRQA CRQD(MYLIB/CR4) ACTIVITY(ACT01) ACTION(*APY)
PTFID(SF89555) CPNAME(*NETATR SYS4) APY(*LODONLY)
```

このコマンドは、システムSYS4で相互に必要なPTFグループの部分であるPTF SF89555をロードするだけの活動を追加します。

例5: 遅延モードでPTFを送信して永久的に適用する活動の追加

```
ADDPTFCRQA CRQD(MYLIB/CR5) ACTIVITY(ACT01) ACTION(*SNDAPY)
PTFID(SF91388) CPNAME(*NETATR SYS5)
APY(*PERM) DLYAPY(*YES)
```

このコマンドは、次の無人IPL時にPTF SF91388を送信して永久的に適用する活動を追加します。

例6: 個別のPTFと相互に必要なグループをロードして適用する活動の追加

```
ADDPTFCRQA CRQD(MYLIB/CR6) ACTIVITY(ACT01) ACTION(*SNDAPY)
PTFID(SF97001) CPNAME(*NETATR SYS6)
APY(*LODONLY)
ADDPTFCRQA CRQD(MYLIB/CR6) ACTIVITY(ACT02) ACTION(*SNDAPY)
PTFID(SF97002) CPNAME(*NETATR SYS6)
APY(*LODONLY)
ADDPTFCRQA CRQD(MYLIB/CR6) ACTIVITY(ACT03) ACTION(*SNDAPY)
PTFID(SF97003) CPNAME(*NETATR SYS6)
APY(*TEMP)
```

この例では、SF97001、SF97002、SF97003の3つのPTFがあります。SF97001には相互に必要なSF97002があり、SF97002には相互に必要なSF97003があります。これらの1つを適用するには、プロダクトを適切に機能させるために、このすべてを1グループとして適用する必要があります。したがって、まず始めにPTFをロードし、次に、これらの1つだけを適用するように要求する時に、そのPTFとそれと関連した相互に必要なものをすべて適用する必要があります。

上

エラー・メッセージ

なし

上

資源CRQ活動の追加 (ADDRSCCRQA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

資源変更要求活動追加(ADDRSCCRQA)コマンドは、変更要求記述に管理下のISERIESシステムのIPLを実行し、あるいはNETVIEW DM/2を導入しているPS/2などの非ISERIES資源を再開始する活動を追加します。

制約事項:

1. 変更要求記述に対する*CHANGE権限とライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
2. ISERIES管理システムの場合には、*SYSX以外の資源はサポートされません。
3. NODL値が指定されている場合にノード・リストに入れることができるのは、アドレス・タイプの値が*SNAの項目だけです。
4. キーロックはNORMAL位置になければなりません。この位置にないと要求は拒否されます。

注:

以下の注は、コマンドがどのように働くかを説明しています。

1. 活動で指定されたプロダクトに対する権限は、その活動が実行されるまで検査されません。
2. 活動を実行する前にすべての条件が満たされていなければなりません。
3. 開始時刻は、活動を開始できる時点を示します。実際の開始時刻は、ネットワークおよびシステムの遅延のためにこれより遅くなることがあります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CRQD	変更要求記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 変更要求記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ACTIVITY	活動	名前, *GEN, *LAST	オプション, 定位置 2
ACTION	処置	*RESTART	オプション, 定位置 3
RSC	資源	名前, *SYS, *SYSA, *SYSB	オプション
NODL	管理下のシステム・ノード・リスト	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード・リスト	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, <u>*NETATR</u>	
	要素 2: 制御点	文字値	
OPTION	終了方法	<u>*CNTRLD</u> , <u>*IMMED</u>	オプション
DELAY	遅延時間(*CNTRLDの場合)	0-65535, <u>3600</u>	オプション
TEXT	テキスト '記述'	文字値, <u>*GEN</u>	オプション
COND	活動条件	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 活動	総称名, 名前, <u>*PRV</u>	
	要素 2: 関係演算子	<u>*EQ</u> , <u>*GT</u> , <u>*LT</u> , <u>*LE</u> , <u>*NE</u> , <u>*GE</u>	
	要素 3: 終了コード	0-99, <u>*SUCCESS</u> , <u>*FAIL</u> , <u>*NOTRUN</u> , <u>*ANY</u>	
	要素 4: 条件モード	<u>*ALLNODES</u> , <u>*SAMENODE</u>	
STRTIME	活動開始時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, <u>*CURRENT</u>	
	要素 2: 日付	日付, <u>*CURRENT</u> , <u>*NEXT</u>	
	要素 2: 以前に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, <u>*ANY</u> , <u>*CURRENT</u>	
	要素 2: 日付	日付, <u>*ANY</u> , <u>*CURRENT</u> , <u>*NEXT</u>	
RMTSTRTIME	管理下のシステムの開始時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 時間帯	<u>*LCLSYS</u> , <u>*MGDSYS</u>	
	要素 2: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, <u>*CURRENT</u>	
	要素 2: 日付	日付, <u>*CURRENT</u> , <u>*NEXT</u>	
HOLD	活動の保留	<u>*NO</u> , <u>*YES</u>	オプション

上

変更要求記述 (CRQD)

変更要求記述オブジェクト名を指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

*LIBL ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定します。

指定できる変更要求記述の値は次の通りです。

変更要求記述

変更要求記述オブジェクトの名前を指定します。

活動 (ACTIVITY)

変更要求記述に追加する活動の名前を指定します。

***GEN** 活動名が生成されます。活動名の形式はQACTXXXXXXで、この場合のXXXXXXはまだ使用されていない最初の10の倍数です。

***LAST**

活動は変更要求で最後に実行されます。活動(ACTIVITY)パラメーターに*LASTを指定すると、条件(COND)パラメーターおよび開始時刻(STRTIME)パラメーターは指定できません。変更要求記述に存在できる*LASTを指定した活動は1つだけです。

活動名 10桁の活動名を指定します。

処置 (ACTION)

資源に実行する機能を指定します。

***RESTART**

指定した資源を再開するためを使用します。指定した資源が*SYS, *SYSA,または*SYSBの場合には、管理下のシステムは停止して再開します。

資源 (RSC)

資源名を指定します。

***SYS** 処置はシステム全体に対して実行されます。再開処置の場合には、管理下のシステムが電源遮断されて再開されることを意味します。システム・パネルでIPLソースが決定されます。

***SYSA**

これはIPLソースがA側であることを除いて*SYSと同じです。

***SYSB** これはIPLソースがB側であることを除いて*SYSと同じです。

資源名 管理下のシステムの16桁の資源名を指定してください。この値は、ISERIESの管理下のシステムではサポートされません。

管理下のシステム・ノード・リスト (NODL)

ノード・リスト・パラメーターはこの活動の宛先であるシステムのリストが入っているオブジェクト名であることを指定します。このパラメーターは、制御点名(CPNAME)パラメーターも指定されている場合には指定できません。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

この活動を実行するシステムは、ノード・リストによって指定されません。個々の制御点名を指定しなければなりません。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーでノード・リスト・オブジェクトが検索されます。

***CURLIB**

ノード・リスト・オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定します。

使用できるノード・リスト名の値は次の通りです。

ノード・リスト名

活動を実行するシステムのリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名を指定します。

上

管理下のシステム・ノード名 (CPNAME)

この活動が実行される、管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。ノード・リストが指定されている場合には、制御点名は指定できません。

***NONE**

この活動を実行するシステムは個々に識別されません。ノード・リストを指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***NETATR**

ローカル・システムのネットワークIDが使用されます。これは、指定されるノードがローカル・システムと同じネットワーク内にある時に役立ちます。

ネットワークID

活動が実行される管理下のシステムのAPPNネットワークIDを指定してください。

使用できる制御点名の値は次の通りです。

制御点名

活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。NETVIEW分散管理エージェントの場合の制御点名は、他のプラットフォームで有効な制御点名の先頭の位置に数字(0から9)をサポートする変更制御クライアントです。

上

終了方法 (OPTION)

終了方法を指定します。これは、システムが活動サブシステムに制御された方式で活動ジョブの処理を終了させるかどうか、あるいはシステムが即時にジョブを終了するかどうかを指定します。

***CNTRLD**

ジョブは制御された方式で終了されます。遅延期間中にジョブを制御された方式で終了できない場合には、ジョブは即時に終了されます。

***IMMED**

ジョブは即時に終了されます。

上

遅延時間(*CNTRLDの場合) (DELAY)

システムが制御された方式でのジョブの終了を待機する秒数を指定します。

3600 システムはジョブの即時終了までに1時間待機します。

遅延時間

遅延時間（秒数）を指定してください。

上

テキスト '記述' (TEXT)

活動記述を指定します。

***GEN** 記述が生成されます。

テキスト記述

50桁の活動の記述を指定します。

上

活動条件 (COND)

この活動を実行する前に満たされていなければならない条件を指定します。それぞれの条件はこの活動の前に実行する必要がある活動を識別し、その活動からの終了コードでこの活動を実行できない値を識別します。省略時の条件は、前（アルファベット順）の活動が正常に完了していなければこの活動を実行できないというものです。

使用できる単一の値は次の通りです。

***NONE**

この活動に条件はありません。

条件づけ活動として考えられる値は次の通りです。

この活動の前に実行しなければならない活動。

***PRV** この活動は前の活動で条件づけされます。活動は、活動名のアルファベット順に順序づけられます。追加される活動が最初の活動である場合には、前の活動は存在しないので、*PRVの条件は満たされたものとしてマークが付けられます。

条件付け活動名

この活動の前に実行しなければならない活動の名前を指定します。活動(ACTIVITY)パラメーターに指定した活動名は、条件付け活動名に指定することはできません。活動をそれ自体に条件付けることはできません。

総称*活動名

この活動の前に実行しなければならない活動の総称名を指定します。

指定できる関係演算子の値は次の通りです。

この要素は、条件づけ活動の終了コードと比較する時に使用する関係演算子です。

***EQ** 等しい

***GT** より大

***LT** より小

***NE** 等しくない

***GE** 大きいか等しい

***LE** 小さいか等しい

条件コードとして考えられる値は次の通りです。

***SUCCESS**

活動は正常に終了しました(0 <=終了コード<= 9)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***FAIL** 活動は正常に実行されませんでした(10 <=終了コード<= 89)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***NOTRUN**

活動は開始されませんでした(90 <=終了コード<= 99)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***ANY** 活動は任意の終了コードで終了しました。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQの時だけです。

終了コード

活動の結果（成功または障害）を示す整数値(0から99)を指定します。終了コードの範囲および説明は次の通りです。

00 活動は正常に完了した。

01-09 活動は警告メッセージ付きで完了した。

10-29 活動は正常に完了しなかった。

30-39 活動は完了する前にユーザーによって取り消された。

- 30 =活動は*CNTRLDオプションによって終了された。
- 35 =活動は*IMMEDオプションによって終了された。
- 39 =活動は*FRCFAILオプションによって終了された。

40-49 アプリケーションがエラーを検出したので、活動は実行されなかった。

- 40 =機密保護上の理由から、活動は実行されなかった。

90-99 条件またはスケジュールが満たされなかったので、活動は実行されなかった。

- 95 =スケジュールされた開始時刻を経過した。
- 99 =条件を満たすことができない。

条件モードとして考えられる値は次の通りです。

この要素は、この活動を実行する前に条件づけ活動が完了していなければならないシステムを示します。

***ALLNODES**

指定した条件づけ活動は、この活動を実行する前にすべてのノードで完了していなければなりません。

***SAMENODE**

所定のノードにおいて指定の条件活動が完了されると、他のすべてのノードにおいて指定の条件活動が完了していない場合であっても、それと同じノードにおいてACTIVITYパラメーターで指定した活動を実行できます。この活動が条件付け活動にないノードをリストしている場合には、この活動をそのノードで実行することができ、その条件は無視されます。

上

活動開始時刻 (STRTIME)

この活動を中央側システムで開始できる日時を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は、変更要求が投入された時に決定されます。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

この活動は、変更要求の投入時刻またはそれ以降の任意の時刻に開始できます。

時刻以後開始

この活動を開始できる時刻を指定します。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロンの(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

この活動は、変更要求の投入日またはそれ以降の日付に開始できます。

***NEXT**

この活動は、変更要求の投入日より後の任意の日に開始できます。

日付以後開始

その日付以後にこの活動を開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

時刻以前開始として考えられる値は次の通りです。

日付以前開始が*ANYの場合には、この要素は無視されます。

***ANY** この活動は、日付以前開始以前の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は、時刻以前開始要素で指定された日付の、変更要求が投入された時刻より前に開始しなければなりません。日付以前開始が*CURRENTの場合には、この値は指定できません。

時刻以前開始

その時刻の前に活動を開始しなければならない時刻を指定します。この時刻の前に活動を開始できない場合には、その活動は開始されません。時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力できます。この場合に、HHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以前開始として考えられる値は次の通りです。

***ANY** 活動は、時刻以後開始および日付以後開始より後の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は変更要求の投入日に開始しなければなりません。

***NEXT**

活動は変更要求の投入日の翌日までに開始しなければなりません。

日付以前開始

その日付の前に活動を開始しなければならない日付を指定します。この日付までに活動を開始できない場合には、活動は開始されません。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

上

管理下のシステムの開始時刻 (RMTSTRTIME)

この活動が管理下のシステムで実行を開始できる日付および時刻を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は、活動が中央側の日付および時刻に基づいて中央側システムで実行を開始する時に決定されます。

時間帯として考えられる値は次の通りです。

***LCLSYS**

リモート開始時刻は、中央側システムの時間帯で指定されます。

***MGDSYS**

リモート開始時刻は、管理下のシステム側の時間帯で指定されます。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

これは、活動を開始する時刻の定義です。

***CURRENT**

この機能は、要素3で指定した日に中央側システムでこの活動が開始された時刻以後の任意の時刻に、管理下のシステムで開始できます。

時刻以後開始

この機能を管理下のシステムで開始できる時刻を指定します。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻は、時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

この機能は、中央側システムで活動が開始された日付またはそれ以後の任意の日に管理下のシステムで開始されます。

***NEXT**

この機能は、中央側システムで活動が開始された日付より後の任意の日に管理下のシステムで開始されます。

日付以後開始

この機能を管理下のシステムで開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

注：

1. 時間帯の値*MGDSYSが指定されている場合には、日付および時刻に特殊値*CURRENTおよび*NEXTが指定されます。
2. このパラメーターを指定できるのは、*RUNまたは*SNDRUN処置が指定されている場合だけです。

上

活動の保留 (HOLD)

変更要求の投入時に活動を保留するように指定します。

***NO** 活動は保留されません。すべての条件および開始時刻が満たされた時に実行されます。

***YES** 活動は変更要求の投入時にすべてのノードに対して保留されます。実行する前にユーザーが保留解除しなければなりません。

上

例

例1: 活動の追加

```
ADDRSCCRQA  CRQD(MYLIB/CR1)  ACTIVITY(ACT01)
              ACTION(*RESTART) RSC(*SYS)
              STRTIME((04:00:00 *NEXT))
              NODL(NETLIB/STORES)
```

このコマンドは、ストア・システムを明日の午前4時に再IPLする活動を追加します。これらのストア・システムはSTORESノード・リストで識別されます。

例2: IPLの実行

```
ADDRSCCRQA  CRQD(MYLIB/CR1)  ACTIVITY(ACT01)
              ACTION(*RESTART) RSC(*SYSA)
              CPNAME((*NETATR SYS1)) OPTION(*IMMED)
```

このコマンドは、A側に近いシステムSYS1のIPLを実行する活動を追加します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

リモートPTFの適用 (APYRMTPTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リモート・プログラム一時修正適用(APYRMTPTF)コマンドによって、サービス提供元はサービス要求元システムにPTFをリモート適用することができます。APYRMTPTFコマンドの使用時には、ユーザーはサービス要求元システムのIPLを要求できます。PTFの適用およびIPLは後日に行なわれるようにスケジュールすることができます。

注:

変更要求は自動的に投入され、このコマンドの状況を調べるために表示できます。投入済み変更要求処理(WRKSBMCRQ)コマンドを使用して、状況をモニターできます。

制約事項:

- このコマンドの適用およびIPL機能がサポートされるのは、サービス要求元が分散管理を導入している場合だけです。
- 遅延のマークが付けられていないPTFは即時に適用されます。遅延のマークが付けられているPTFは、次のIPL時に適用するようにスケジュールされます。
- 遅延のマークが付けられているPTFを永久的に適用できるのは、前に一時的に適用されている場合だけです。遅延となっているので、これらの適用にはIPLが必要であることに注意してください。
- 同じプロダクトの前提PTFが、すでにサービス要求元にロードされていなければなりません。一方で、別のプロダクトの前提PTFが、すでにサービス要求元に適用されていなければなりません。同じプロダクトおよび同じオプションの相互に必要なPTFが、すでにサービス要求元にロードされていなければなりません。一方で、別のプロダクトまたはオプションの相互に必要なPTFが、サービス要求元に適用されていなければなりません。
- NODL値が指定されている場合にノード・リストに入れることができるのは、アドレス・タイプの値が*SNAの項目だけです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PTFID	PTF記述	値 (最大 300 回の繰り返し); 要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: PTF ID	文字値, *ALL	
	要素 2: プロダクト	文字値, * ONLY	
	要素 3: リリース・レベル	文字値	
DESTSRVRQS	宛先サービス要求元	単一値: *ALL, * SELECT , *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点	通信名	
APY	変更の範囲	* TEMP , *PERM	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DLYAPY	遅延PTF適用	<u>*NO</u> , *YES	オプション
NODL	ノード・リスト名	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ノード・リスト名	名前, <u>*NONE</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
IPL	リモート・システムのIPL	<u>*NO</u> , *YES	オプション
PWRDWNOPT	電源遮断オプション	<u>*CNTRLD</u> , *IMMED	オプション
PWRDWNPLY	電源遮断遅延	1-65535, <u>3600</u>	オプション
RMTAPYTIME	リモート適用時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 時間帯	<u>*LCLSYS</u> , *MGDSYS	
	要素 2: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, <u>*CURRENT</u>	
	要素 2: 日付	日付, <u>*CURRENT</u> , *NEXT	
RMTIPLTIME	リモートIPL時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 時間帯	<u>*LCLSYS</u> , *MGDSYS	
	要素 2: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, <u>*CURRENT</u>	
	要素 2: 日付	日付, <u>*CURRENT</u> , *NEXT	

上

PTF記述 (PTFID)

適用されるPTFを指定します。最大300個のPTF IDを指定できます。

PTF IDとして考えられる値は次の通りです。

PTF ID

7文字のPTF IDを指定します。

***ALL** 指定したプロダクトのすべてのPTFを適用します。

プロダクトIDとして考えられる値は次の通りです。

***ONLY**

PTF IDを1つのプロダクトだけに関連づけするように指定します。

プロダクトID

PTFのプロダクトを指定してください。PTF IDがプロダクト相互間で固有でないかまたはPTF IDが*ALLの場合には、プロダクトを指定しなければなりません。

プロダクトのリリース・レベルとして考えられる値は次の通りです。

リリース(VXRXXMX)

プロダクトのリリース・レベルを指定してください。形式はVXRXXMXです。

上

宛先サービス要求元 (DESTSRVRQS)

このPTF機能が実行されるサービス要求元を指定します。単一のサービス要求元またはサービス要求元のリストを指定できます。

考えられるネットワークIDの値は次の通りです。

***SELECT**

サービス要求元のリストを表示します。このリストから1つまたは複数のサービス要求元を選択できます。このコマンドがバッチ環境で使用されている場合には、*SELECTは正しくありません。

***ALL** このPTF機能が、このサービス提供元に対して定義されるすべてのサービス要求元で行なわれるように指定します。

***NONE**

サービス要求元はノード・リスト・オブジェクトで識別されます。

***NETATR**

サービス要求元のリモート・ネットワークIDは、このシステムのリモート・ネットワークIDと同じです。

リモート・ネットワークID

サービス要求元のリモート・ネットワークIDを指定します。

指定できる制御点の値は次の通りです。

この要素は、ネットワークIDが*ALL、*SELECT,または*NONEの場合には正しくありません。

リモート制御点

サービス要求元のリモート制御点名を指定します。

上

変更の範囲 (APY)

PTFが適用される時の変更の範囲を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***TEMP**

PTFはサービス要求元で一時的に適用されます。

***PERM**

PTFはサービス要求元で永久的に適用されます。

上

遅延PTF適用 (DLYAPY)

PTFがどのように適用されるかを指定します。指定したシステムで活動実行中に、あるいは後で次回のIPLの時に即時PTFを適用します。

***NO** 活動の実行時に即時PTFを適用します。PTFが遅延とマークされている場合には、次回の不在時IPLまで適用されません。

***YES** 次の不在時IPLで即時PTFと遅延PTFの両方を適用します。

ノード・リスト名 (NODL)

このPTF機能が実行されるサービス要求元のリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

サービス要求元はDESTSRVRQSパラメーターで識別されます。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分のすべてのライブラリーでノード・リスト・オブジェクトを検索します。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーでノード・リスト・オブジェクトが検索されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定します。

使用できるノード・リスト名の値は次の通りです。

ノード・リスト名

PTF機能が実行されるサービス要求元のリストが入っているノード・リスト名を指定します。

リモート・システムのIPL (IPL)

サービス要求元システムのIPLを行なう必要があるかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NO** サービス要求元システムのIPLを行なう必要はありません。

***YES** サービス要求元システムのIPLは、サービス要求元でコマンドにリストされたすべてのPTFが正常に適用された後で行なわなければなりません。

電源遮断オプション (PWRDWNOPT)

サービス要求元システムでのIPLの処理の時に活動ジョブの終わり方の管理方法を指定します。このパラメーターが有効なのは、IPL(*YES)が指定されている場合だけです。

***CNTRLD**

すべてのジョブは、電源遮断遅延(PWRDWDLY)パラメーターで指定された時間が経過した時に終了します。実行中の現行ジョブは、すべてバッチのクリーンアップを実行します。

***IMMED**

ジョブは即時に終了します。

電源遮断遅延 (PWRDWNDLY)

このパラメーターが有効なのは、IPL(*YES)とPWRDWNPT(*CNTRLD)が指定されている場合だけです。システムで制御方式による終了を実行できる時間を秒数で指定します。指定された電源遮断の遅延内にジョブ終了ルーチンが完了しない場合には、残りのジョブはすべて即時に終了します。

3600 処理を制御方式で終了できる時間は、3600秒に制限されています。

遅延時間

制御方式による終了を実行できる最大遅延時間を秒数で指定します。有効な値の範囲は1 - 65535(65,535秒) です。

リモート適用時刻 (RMTAPYTIME)

サービス要求元でこのPTF機能を行なうことができる日付および時刻を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は、このシステムの日付および時刻に基づいてこのシステムでPTF機能が処理される時に決定されます。

時間帯として考えられる値は次の通りです。

*LCLSYS

リモート開始時刻をこのシステムの時間帯で指定します。

*MGDSYS

リモート開始時刻をサービス要求元の時間帯で指定します。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

*CURRENT

このPTF機能は、このシステムでこのPTF機能要求が処理された時刻以後の任意の時刻に、サービス要求元システムで開始されます。

時刻以後開始

サービス要求元でこのPTF機能を開始できる時刻を指定してください。時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力することができ、この場合のHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

*CURRENT

このPTF機能は、ロードおよび適用要求が処理された日付以後の任意の日に、サービス要求元システムで開始されます。

*NEXT

このPTF機能は、このシステムでこのPTF機能が処理された日付より後の任意の日に、サービス要求元システムで開始されます。

日付以後開始

サービス要求元システムでこのPTF機能を開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

注: 時間帯の値*MGDSYSが指定されている場合には、日付および時刻に特殊値*CURRENTおよび*NEXTを指定することはできません。

上

リモートIPL時刻 (RMTIPLTIME)

サービス要求元でIPLを行なうことができる日付および時刻を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は、システムの日付および時刻に基づいてこのIPL要求が処理される時に決定されます。

時間帯として考えられる値は次の通りです。

*LCLSYS

リモート開始時刻をこのシステムの時間帯で指定します。

*MGDSYS

リモート開始時刻をサービス要求元システムの時間帯で指定します。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

*CURRENT

このIPL要求がこのシステムで処理された時刻またはそれ以後の任意の時刻にサービス要求元システムでこのIPLを開始します。

時刻以後開始

サービス要求元でIPLを開始できる時刻を指定してください。時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力することができ、この場合のHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

*CURRENT

このIPL要求がこのシステムで処理された日付以後の任意の日にサービス要求元システムでこのIPLを開始します。

*NEXT

このIPLがこのシステムで処理された日付より後の任意の日にサービス要求元システムでこのIPLを開始します。

日付以後開始

サービス要求元システムでIPLを開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

注: 時間帯の値*MGDSYSが指定されている場合には、日付および時刻に特殊値*CURRENTおよび*NEXTを指定することはできません。

上

例

例1: 一時PTFの適用

```
APYRMTPTF  PTFID((123456 *ONLY V5R4M0)) DESTSRVRQS(*SELECT)
            NODL(SRVPVDLIB/SRVRQSLIST)
```

選択したサービス要求元システムにPTFを一時的に適用します。

例2: 永久PTFの適用

```
APYRMTPTF  PTFID((*ALL PRODUCT1 V5R4M0)) DESTSRVRQS(*NONE)
            NODL(SRVPVDLIB/SRVRQSLIST) APY(*PERM)
            RMTAPYTIME((*MGDSYS (10:00:00 10/31/06))
            IPL(*YES) RMTIPLTIME((*MGDSYS (01:00:00 11/01/06)))
```

指定されたプロダクトですべてのPTFを一時的に適用して、ノード・リスト・オブジェクトのすべてのサービス要求元で適用とIPLを実行する必要がある時点スケジュールします。

この例では、2006年10月31日午前10時にサービス要求元でのPTFの適用を開始します。PTFが正常に適用されると、リモート・システムのIPLが2006年11月1日午前1時に開始します。指定される時間はリモート・システムの時間帯になります。

例3: 遅延されたPTFの適用

```
APYRMTPTF  PTFID((987654 *ONLY V5R4M0)) DESTSRVRQS(*SELECT)
            NODL(SRVPVDLIB/SRVRQSLIST) DLYAPY(*YES)
            RMTAPYTIME((*MGDSYS (8:00:00 *CURRENT)))
```

選択したサービス要求元システムに遅延されたPTFを一時的に適用して、ノード・リスト・オブジェクトのすべてのサービス要求元で適用を実行する必要がある時点スケジュールします。

この例では、現在日の午前8時に開始してサービス要求元システムにPTFを適用します。指定される時間はリモート・システムの時間帯になります。

例4: PTF適用後のIPLの実行

```
APYRMTPTF  PTFID((*ALL *ONLY V5R4M0)) DESTSRVRQS(*SELECT)
            NODL(SRVPVDLIB/SRVRQSLIST) IPL(*YES)
            RMTIPLTIME((*LCLSYS (*CURRENT 12/24/06))
            PWRDWNPT(*CNTRLD) PWRDWNPLY(1800)
```

指定されたプロダクトですべてのPTFを一時的に適用して、ノード・リスト・オブジェクトのすべてのサービス要求元でIPLを実行する必要がある時点スケジュールします。

この例では、PTFはサービス要求元システムに適用されます。PTFが正常に適用されると、リモート・システムでのIPLは2006年12月24日の現在の時刻に開始します。指定される時間はローカル・システムの時間帯になります。

例5: 2つの相互に必要なPTFと1つの前提条件PTFがあるPTFの適用

```
APYRMTPTF  PTFID((SF00001 *ONLY V5R4M0)) DESTSRVRQS(*SELECT)
            RMTAPYTIME(*LCLSYS (*CURRENT *CURRENT)) IPL(*NO)
```

PTF SF00001を適用します。このPTFには、2つの相互に必要なPTFと、1つの前提条件PTFがあります。PTFのSF00002とSF00003がPTF SF00001の相互に必要なPTFです。PTF SF00004がPTF SF00001の前提条件です。システムはPTFのSF00001、SF00002、SF00003、SF00004を除去します。相互に必要なすべてのPTFが指定されなかった場合は、システムがそれらのPTFを判別します。IPLは実行されず、この処置がPTFをサービス要求元に適用します。指定される時間はローカル・システムの時間帯になります。

この例では、現在日の午前8時に開始してサービス要求元システムにPTFを適用します。指定される時間はリモート・システムの時間帯になります。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF358A

PTF &1-&2を適用または除去することができない。

上

コマンドCRQ活動の変更 (CHGCMDCRQA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コマンド変更要求活動変更(CHGCMDCRQA)コマンドは、1つまたは複数の管理下のシステムでコマンドを実行するために、変更要求記述のコマンド活動を変更します。

この活動は、他の1つまたは複数の活動が（正常または異常に）完了された後でなければ実行されないように条件づけることができます。また、活動が将来の日付および時刻に実行されるようにスケジュールすることもできます。

制約事項:

1. 変更要求記述に対する*CHANGE権限とライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
2. ノード・リスト(NODL)値を指定する場合は、ノード・リストに入れることができるのはアドレス・タイプの値が*SNAになっている項目だけです。

注:

以下の注は、コマンドがどのように働くかを説明しています。

1. 活動で指定されたプロダクトに対する権限は、その活動が実行されるまで検査されません。
2. 活動を実行する前にすべての条件が満たされていなければなりません。
3. 開始時刻は、活動を開始できる時点を示します。実際の開始時刻は、ネットワークおよびシステムの遅延のためにこれより遅くなることがあります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CRQD	変更要求記述	修飾オブジェクト名	オプション、キー、定位置 1
	修飾子 1: 変更要求記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ACTIVITY	活動	名前, *LAST	オプション、キー、定位置 2
CMD	実行するコマンド	コマンド・ストリング	オプション、定位置 3
NODL	管理下のシステム・ノード・リスト	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード・リスト	単一値: *NONE, *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノート
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	単一値: *SAME, *LOCAL, *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点	通信名	
RMTSTRTIME	管理下のシステムの開始時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 時間帯	*SAME, *LCLSYS, *MGDSYS	
	要素 2: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *CURRENT, *SAME	
	要素 2: 日付	日付, *CURRENT, *NEXT, *SAME	
	要素 3: 以前に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *ANY, *CURRENT, *SAME	
要素 2: 日付	日付, *ANY, *CURRENT, *NEXT, *SAME		
RTNSPLF	スプール・ファイルの戻り	*YES, *NO, *FAIL, *SAME	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	単純名, *NONE, *SAME	オプション
PASSWORD	パスワード	文字値, *USRPRF, *NONE, *SAME	オプション
ENCODE	コマンドのエンコード	*SAME, *YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト '記述'	文字値, *SAME, *GEN	オプション
COND	活動条件	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 活動	総称名, 名前, *PRV	
	要素 2: 関係演算子	*EQ, *GT, *LT, *LE, *NE, *GE	
	要素 3: 終了コード	0-99, *SUCCESS, *FAIL, *NOTRUN, *ANY	
	要素 4: 条件モード	*ALLNODES, *SAMENODE	
STRTIME	活動開始時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *SAME, *CURRENT	
	要素 2: 日付	日付, *SAME, *CURRENT, *NEXT	
	要素 2: 以前に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *SAME, *ANY, *CURRENT	
	要素 2: 日付	日付, *SAME, *ANY, *CURRENT, *NEXT	
HOLD	活動の保留	*SAME, *NO, *YES	オプション

上

変更要求記述 (CRQD)

変更要求記述オブジェクト名を指定します。

ライブラリーとして考えられる値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

このパラメーターに指定したライブラリーだけが検索されることを指定します。

考えられる値は次の通りです。

変更要求記述

変更要求記述オブジェクトの名前を指定します。

上

活動 (ACTIVITY)

変更要求記述で変更する活動の名前を指定します。

***LAST**

この活動は、変更要求で最後に実行されます。活動(ACTIVITY)パラメーターに*LASTを指定すると、条件(COND)パラメーターおよび開始時刻(STRTIME)パラメーターは指定できません。変更要求記述に存在できる*LASTを指定した活動は1つだけです。

活動名 10桁の活動名を指定してください。

上

実行するコマンド (CMD)

実行するコマンドを指定します。コマンドは、バッチで実行される任意のコマンドとすることができます。コマンドは、最初の文字がアルファベット順で他の9文字が英数字の、1-10桁のI5/OS CLコマンドの形式に従わなければなりません。

コマンド・ストリング

管理下のシステムで実行するコマンドを指定します。

上

管理下のシステム・ノード・リスト (NODL)

ノード・リスト・パラメーターはこの活動の宛先であるシステムのリストが入っているオブジェクト名であることを指定します。このパラメーターは、制御点名(CPNAME)パラメーターも指定されている場合には指定できません。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

この活動を実行するシステムは、ノード・リストによって指定されません。個々の制御点名を指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーでノード・リスト・オブジェクトが検索されます。

***CURLIB**

ノード・リスト・オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定します。

ノード・リスト名

活動を実行するシステムのリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名を指定します。

上

管理下のシステム・ノード名 (CPNAME)

この活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。ノード・リストが指定されている場合には、制御点名は指定できません。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

この活動を実行するシステムは個々に識別されません。ノード・リストを指定しなければなりません。

*LOCAL

ローカル・システムはターゲット・システムとして識別されます。*LOCALが指定されている場合には、コマンドはローカル・システムで実行されます。リモート・コマンド・サービスは使用されません。作成されたスプール・ファイルはシステム上に残されます。

考えられる値は次の通りです。

*NETATR

ローカル・システムのネットワークIDが使用されます。これは、指定されるノードがローカル・システムと同じネットワーク内にある時に役立ちます。

ネットワークID

活動が実行される管理下のシステムのAPPNネットワークIDを指定します。

考えられる値は次の通りです。

制御点名

活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。

上

管理下のシステムの開始時刻 (RMTSTRTIME)

この活動が管理下のシステムで実行を開始できる日付および時刻を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は、中央側の日付および時刻に基づいて中央側システムで活動が実行を開始する時に決定されます。

リモート開始時刻の時間帯として考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

***LCLSYS**

リモート開始時刻は、中央側システムの時間帯で指定されます。

***MGDSYS**

リモート開始時刻は、管理下のシステム側の時間帯で指定されます。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

これは、その時刻の後に活動を開始する時刻の定義です。

***SAME**

値は変更されません。

***CURRENT**

この機能は、中央側システムでこの活動が開始された時刻以後の任意の時刻に、管理下のシステムで開始できます。

時刻以後開始

その時刻の後に管理下のシステムでこの機能を開始できる時刻を指定してください。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻は、時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***CURRENT**

この機能は、中央側システムでこの活動が開始された日付またはそれ以後の任意の日に管理下のシステムで開始できます。

***NEXT**

この機能は、中央側システムでこの活動が開始された日付以後の任意の日に、管理下のシステムで開始できます。

日付以後開始

その日の後に管理下のシステムで機能を開始する日付を指定してください。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

時刻以前開始として考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***ANY** 活動は開始時刻以後の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は、日付以前開始要素で指定された日付の、変更要求が投入された時刻より前に開始しなければなりません。

時刻以前開始

その時刻より前に活動を開始しなければならない時刻を指定します。この時刻の前に活動を開始できない場合には、活動は開始されません。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻

区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、時、分、秒を区切るためにジョブに指定された区切り記号を使用する場所に、5桁または8桁のストリングを指定してください。

日付以前開始として考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***ANY** 活動は、開始日以後の任意の日を開始できます。

***CURRENT**

活動は、変更要求の投入より前に開始しなければなりません。

***NEXT**

活動は変更要求の投入日の翌日までに開始しなければなりません。

日付以前開始

その日の前に活動が開始されていなければならぬ日付を指定してください。この日付までに活動を開始できない場合には、活動は開始されません。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

注：

時間帯の値*MGDSYSが指定されている場合には、日付および時刻に特殊値*CURRENTおよび*NEXTを指定できません。

上

スプール・ファイルの戻り (RTNSPLF)

リモート・コマンドから出力スプール・ファイルが戻されるかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** リモート・コマンドで作成されたスプール・ファイルがリモート・システムから戻されます。すべてのノードからのスプール・ファイルが、変更要求のコマンド活動の詳細を表示して調べることができる1つのスプール・ファイルに結合されます。

***NO** 出力データはリモート・システムから戻されません。

***FAIL** 実行時にコマンドが正常に実行されなかった場合には、リモート・システムからスプール・ファイル・ジョブ・ログが戻されます。

上

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

管理下のシステムでコマンドが実行されるユーザー・プロファイルを指定します。管理下のシステムでNETVIEW REMOTE OPERATIONS AGENT/400プロダクトが実行されている場合には、その管理下のシステムではこのパラメーターは無視されます。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ユーザー・プロファイルは指定されません。それぞれの管理下のシステムで省略時のユーザー・プロファイルが使用されます。

ユーザー・プロファイル

ユーザー・プロファイルの名前を指定します。

上

パスワード (PASSWORD)

リモート・ユーザー・プロファイルのパスワードを指定します。

- リリースがV5R1M0より前の管理下のシステムでは、最大10文字までの英大文字パスワードだけを受け入れます。それより長いパスワードを入力すると、要求が拒否されたことを示す100B0007 SNAセンス・コードが付いたSMU18A2メッセージが戻されます。
- リリースがV5R1M0以上の管理下のシステムでは、実行できるQPWDLVLシステム値は次の通りです。
 - 0または1 — 受け取ったパスワードを10文字に切り捨てる。
 - 2または3 — 128文字までのパスワードを受け入れる。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

パスワードは指定されません。

***USRPRF**

パスワードはユーザー・プロファイルと同じです。

パスワード

ユーザー・プロファイルのパスワードを指定します。

上

コマンドのエンコード (ENCODE)

管理下のシステムに送られる時に、コマンド、ユーザー・プロファイル、およびパスワードがエンコードされるかどうかを指定します。管理下のシステムがNETVIEW REMOTE OPERATIONS AGENT/400プロダクトを実行している場合には、このパラメーターは*NOにセットしなければなりません。

***SAME**

値は変更されません。

- ***YES** 要求が管理下のシステムに送られる時に、コマンド、ユーザー・プロファイル、およびパスワードがエンコードされます。リモート・コマンド・キーの管理下のシステムでの属性は、中央側システムと管理下のシステムの両方に指定しなければなりません。この属性は、管理対象システム属性の変更(CHGMGDSYSA)コマンドを使用して変更できます。リモート・コマンド・キーは、中央側システムと管理下のシステムで同じでなければなりません。

***NO** 要求を管理下のシステムに送る時に、コマンド、ユーザー・プロファイル、およびパスワードをエンコードしません。

上

テキスト '記述' (TEXT)

活動記述を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***GEN** 記述は指定された処置に基づいて生成されます。

テキスト記述

50桁の活動の記述を指定してください。

上

活動条件 (COND)

この活動を実行する前に満たされていなければならない条件を指定します。それぞれの条件はこの活動の前に実行する必要がある活動を識別し、その活動からの終了コードでこの活動を実行できなければならない値を識別します。省略時の条件は、前（アルファベット順）の活動が正常に完了していなければこの活動を実行できないというものです。

使用できる単一の値は次の通りです。

***NONE**

この活動に条件はありません。

***SAME**

値は変更されません。

条件づけ活動として考えられる値は次の通りです。

これは、この活動の前に実行しなければならない活動です。

PRV** この活動は前の活動で条件づけされます。活動は、活動名のアルファベット順に順序づけられます。追加される活動が最初の活動である場合には、前の活動は存在しないので、PRV**の条件は満たされたものとしてマークが付けられます。

条件付け活動名

この活動の前に実行しなければならない活動の名前を指定します。活動(ACTIVITY)パラメーターに指定した活動名は、条件付け活動名に指定することはできません。活動をそれ自体に条件付けることはできません。

総称 * 活動名

この活動の前に実行しなければならない活動の総称名を指定します。

指定できる関係演算子の値は次の通りです。

この要素は、条件づけ活動の終了コードと比較する時に使用する関係演算子です。

***EQ** 等しい

- *GT より大
- *LT より小
- *NE 等しくない
- *GE 大きいか等しい
- *LE 小さいか等しい

考えられる条件コードの結果は次の通りです。

***SUCCESS**

活動は正常に終了しました(0 <=終了コード<= 9)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***FAIL** 活動は正常に実行されませんでした(10 <=終了コード<= 89)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***NOTRUN**

活動は開始されませんでした(90 <=終了コード<= 99)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***ANY** 活動は任意の終了コードで終了しました。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQの時だけです。

終了コード

活動の結果（成功または障害）を示す整数値(0から99)を指定します。終了コードの範囲および説明は次の通りです。

- 00** 活動は正常に完了した。
- 01-09** 活動は警告メッセージ付きで完了した。
- 10-29** 活動は正常に完了しなかった。
- 30-39** 活動は完了する前にユーザーによって取り消された。
 - 30 =活動は*CNTRLDオプションによって終了された。
 - 35 =活動は*IMMEDオプションによって終了された。
 - 39 =活動は*FRCFAILオプションによって終了された。
- 40-49** アプリケーションがエラーを検出したので、活動は実行されなかった。
 - 40 =機密保護上の理由から、活動は実行されなかった。
- 90-99** 条件またはスケジュールが満たされなかったため、活動は実行されなかった。
 - 95 =スケジュールされた開始時刻を経過した。
 - 99 =条件を満たすことができない。

使用できる条件モードの値は次の通りです。

条件モードは、この活動を実行する前に条件活動を完了していなければならないシステムを示します。

***ALLNODES**

この条件要素に指定された活動は、この活動を実行する前にすべてのノードで完了しなければなりません。

***SAMENODE**

所定のノードにおいて指定の条件活動が完了されると、他のすべてのノードにおいて指定の条件活動が完了していない場合であっても、それと同じノードにおいてACTIVITYパラメーターで指定した活動を実行できます。この活動が条件付け活動にないノードをリストしている場合には、この活動をそのノードで実行することができ、その条件は無視されます。

上

活動開始時刻 (STRTIME)

この活動を中央側システムで開始できる日付および時刻を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は、変更要求が投入された時に決定されます。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***CURRENT**

この活動は、変更要求が投入された時点以後の任意の時点で開始できます。

時刻以後開始

この活動を開始できる時刻を指定します。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***CURRENT**

この活動は、変更要求の投入日またはそれ以降の日付に開始できます。

***NEXT**

この活動は、変更要求の投入日より後の任意の日付に開始できます。

日付以後開始

その日付以後にこの活動を開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

時刻以前開始として考えられる値は次の通りです。

日付以前開始が*ANYの場合には、この要素は無視されます。

***SAME**

値は変更されません。

***ANY** この活動は、日付以前開始以前の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は、日付以前開始要素で指定された日の変更要求が投入された時刻より前に開始されなければなりません。日付以前開始が*CURRENTの場合には、この値は指定できません。

時刻以前開始

その時刻の前に活動を開始しなければならない時刻を指定します。この時刻の前に活動を開始できない場合には、その活動は開始されません。時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力することができます。この場合に、HHは時間、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以前開始として考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

***ANY** 活動は、時刻以後開始および日付以後開始より後の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は変更要求の投入日に開始しなければなりません。

***NEXT**

活動は変更要求の投入日の翌日までに開始しなければなりません。

日付以前開始

その日付の前に活動を開始しなければならない日付を指定します。この日付までに活動を開始できない場合には、活動は開始されません。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

上

活動の保留 (HOLD)

変更要求の投入時に活動を保留するように指定します。

*SAME

値は変更されません。

***NO** 活動は保留されません。すべての条件および開始時刻が満たされた時に実行されます。

***YES** 活動は変更要求の投入時にすべてのノードに対して保留されます。実行する前に保留解除しなければなりません。

上

例

例1: 活動の変更

```
CHGCMDCRQA  CRQD(MYLIB/CR1)  ACTIVITY(ACT01)  CMD(STRSBS QCMN)
```

このコマンドはQCMNサブシステムを開始する活動を変更します。

例2: ノード・リストの活動の変更

```
CHGCMDCRQA  CRQD(MYLIB/CR2)  ACTIVITY(ACT01)
              CMD(STRSBS QSNADS)
              NODL(MYLIB/STORES)  RTNSPLF(*FAIL)
```

この例は、STORESノード・リストで識別したシステムでサブシステムQSNADSを開始するために、活動ACT01がコマンドを実行する方法を示します。また、この例では、コマンドが失敗した時にスプール・ファイルを中央側システムに戻すように要求します。

例3: 2つのシステムの活動の変更

```
CHGCMDCRQA  CRQD(MYLIB/CR3)  ACTIVITY(ACT02)
             CMD(PRODLIB/RUNREPORTS)
             CPNAME((STORENET STOREA) (STORENET STOREB))
             RMTSTRTIME(*MGDSYS (19:00 11/20/06)
             (*ANY *CURRENT))  USRPRF(REPORTOPER)
             PASSWORD(OPERPASS)  ENCODE(*YES)
```

この例では、活動ACT02が管理下のシステムで午後7時以降にSTOREAおよびSTOREBの明細報告書を実行する方法を示します。報告書はREPORTOPERユーザー・プロファイルで実行されます。

上

エラー・メッセージ

なし

上

CRQ活動の変更 (CHGCRQA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

変更要求活動変更(CHGCRQA)コマンドは、変更要求記述に対する変更管理活動を変更します。追加した活動によって実行される変更管理処置は、処置パラメーターに指定されている値によって決まります。

活動が実行されるのは1つまたは複数の他の活動が（正常または異常に）完了した後だけになるように、その活動を条件付けることができます。また、活動が将来の日付および時刻に実行されるようにスケジュールすることもできます。

制約事項

- ユーザーには、変更要求記述オブジェクトに対する*CHANGE権限、およびライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
- NODL値が指定されている場合にノード・リストに入れることができるのは、アドレス・タイプの値が*SNAの項目だけです。
- グローバル名は、トークン間の1つの区切り文字を含めて64桁以内でなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CRQD	変更要求記述	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: 変更要求記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ACTIVITY	活動	名前, *LAST	オプション, キー, 定位置 2
ACTION	処置	*ACP, *ACT, *DLT, *INS, *RMV, *RTV, *RUN, *SND, *SNDINS, *SNDRUN, *UNINS, *SAME	オプション, 定位置 3

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
GLBNAME	グローバル名	単一値: *SAME その他の値: 要素リスト	オプションナル
	要素 1: グローバル名トークン1	文字値, *NETID, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 2: グローバル名トークン2	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 3: グローバル名トークン3	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 4: グローバル名トークン4	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 5: グローバル名トークン5	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 6: グローバル名トークン6	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 7: グローバル名トークン7	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 8: グローバル名トークン8	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 9: グローバル名トークン9	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
要素 10: グローバル名トークン10	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME		

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
COMPNAME	構成要素名	単一値: <u>*SAME</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 構成要素名トークン1	文字値, *NETID	
	要素 2: 構成要素名トークン2	文字値, *NETID, *CPNAME	
	要素 3: 構成要素名トークン3	文字値, *NETID, *CPNAME	
	要素 4: 構成要素名トークン4	文字値, *NETID, *CPNAME	
	要素 5: 構成要素名トークン5	文字値, *NETID, *CPNAME	
	要素 6: 構成要素名トークン6	文字値, *NETID, *CPNAME	
	要素 7: 構成要素名トークン7	文字値, *NETID, *CPNAME	
NODL	管理下のシステム・ノード・リスト	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード・リスト	単一値: *NONE, <u>*SAME</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	単一値: *NONE, <u>*SAME</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点	文字値	
TEXT	テキスト '記述'	文字値, *GEN, *BLANK, <u>*SAME</u>	オプション
ACTFRC	活動化の強制	単一値: <u>*SAME</u> , *YES その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 活動化の強制	*NO	
	要素 2: 遅延単位	*SECONDS, *MINUTES, *HOURS	
	要素 3: 遅延期間	1-65535	
ACTUSEACT	活動化の実行時に活動化の使用	*BOTH, *PROD, *LAST, *NONE, <u>*SAME</u>	オプション
CPRTYPE	圧縮タイプ	*ADAPTIVE, *SNA, *USER, *NONE, <u>*SAME</u>	オプション
SNACPRCHR	SNA圧縮文字	16 進値, *BLANK	オプション
USRCPRINF	ユーザー圧縮情報	要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー圧縮名	名前	
	要素 2: ユーザー・パラメータ	文字値	
CPRSTGSTT	圧縮記憶域の状態	*DECOMPRESS, *COMPRESS, *NONE, <u>*SAME</u>	オプション
CPRTFRSTT	圧縮転送状態	*DECOMPRESS, *COMPRESS, *NONE, <u>*SAME</u>	オプション
ACTUSEINS	導入時の活動化の使用	*PROD, *TRIAL, <u>*SAME</u>	オプション
ALTACTCOMP	活動構成要素変更	*ALLOWED, *NOTALLOWED, *NONE, <u>*SAME</u>	オプション
AUTOACP	自動受け入れ	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE, *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 自動受け入れ	*YES, *DESIRED	
	要素 2: 遅延日数	0-255	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
AUTORMV	自動除去	*YES, *NO, *DESIRED, *NONE, <u>*SAME</u>	オプション
PRETEST	事前テスト	*YES, *NO, *DESIRED, <u>*SAME</u>	オプション
POSTTEST	事後テスト	*YES, *NO, *DESIRED, <u>*SAME</u>	オプション
ALWRMV	除去可能	*NO, *DESIRED, *YES, <u>*SAME</u>	オプション
PARM	開始パラメーター	値 (最大 40 回の繰り返し): 無 制限	オプション
KEEPOBJ	オブジェクトの保存	*YES, *NO, *NONE, <u>*SAME</u>	オプション
COREQCHGNL	共通必須変更名リスト	単一値: *NONE, <u>*SAME</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グローバル名	値 (最大 6 回の繰り返し): 要 素リスト	
	要素 1: グローバル名トークン1	文字値	
	要素 2: グローバル名トークン2	文字値	
	要素 3: グローバル名トークン3	文字値	
	要素 4: グローバル名トークン4	文字値	
	要素 5: グローバル名トークン5	文字値	
	要素 6: グローバル名トークン6	文字値	
	要素 7: グローバル名トークン7	文字値	
	要素 8: グローバル名トークン8	文字値	
	要素 9: グローバル名トークン9	文字値	
要素 10: グローバル名トークン 10	文字値		
REPLACE	オブジェクトの置き換え	*YES, *ALLOWED, *NO, <u>*SAME</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
TODLTNAME	削除される名前	単一値: *NONE, * <u>SAME</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 削除される名前トークン1	文字値, *NETID, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 2: 削除される名前トークン2	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 3: 削除される名前トークン3	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 4: 削除される名前トークン4	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 5: 削除される名前トークン5	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 6: 削除される名前トークン6	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 7: 削除される名前トークン7	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 8: 削除される名前トークン8	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 9: 削除される名前トークン9	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
要素 10: 削除される名前トークン10	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME		
REFLVL	最新表示レベル	文字値, * <u>SAME</u>	オプション
FRCUNINS	導入解除の強制	*YES, *NO, * <u>SAME</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
RMTSTRTIME	管理下のシステムの開始時刻	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 時間帯	*LCLSYS, *MGDSYS, *SAME	
	要素 2: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *CURRENT, *SAME	
	要素 2: 日付	日付, *CURRENT, *NEXT, *SAME	
COND	活動条件	単一値: *NONE, *SAME その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 活動	総称名, 名前, *PRV	
	要素 2: 関係演算子	*EQ, *GT, *LT, *LE, *NE, *GE	
	要素 3: 終了コード	0-99, *SUCCESS, *FAIL, *NOTRUN, *ANY	
	要素 4: 条件モード	*ALLNODES, *SAMENODE	
STRTIME	活動開始時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *CURRENT, *SAME	
	要素 2: 日付	日付, *CURRENT, *NEXT, *SAME	
	要素 2: 以前に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *ANY, *CURRENT, *SAME	
	要素 2: 日付	日付, *ANY, *CURRENT, *NEXT, *SAME	
HOLD	活動の保留	*NO, *YES, *SAME	オプション

上

変更要求記述 (CRQD)

変更要求記述オブジェクト名。

考えられる値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザーおよびシステム部分にあるすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

このパラメーターに指定したライブラリーだけが検索されます。

指定できる変更要求記述の値は次の通りです。

変更要求記述

変更要求記述オブジェクトの名前。

上

活動 (ACTIVITY)

変更要求記述で変更する活動の名前。

*LAST

この活動は、変更要求で最後に実行されます。

活動ID

10文字の活動名。

上

処置 (ACTION)

追加された活動によって実行される変更管理処置を指定します。

*SAME

処置の値は変更されません。

***ACP** 変更の除去可能性を維持するために必要な管理下のシステムの資源を解放します。これは、前に除去可能な方式で導入された変更の除去可能性を取り消します。解放される資源の代表的なものとして、変更によって影響を受ける構成要素の未変更バージョンがあります。

***ACT** 管理下のシステムに、前に導入されたすべての変更を活動化させます。各管理下のシステムは、その独自の方法で活動化を実行します（例えば、この活動によって、管理下のISERIESシステムでは初期プログラム・ロード(IPL)が実行されたり、あるいはPS/2では構成が活動化されて、PS/2が再始動されます）。

***DLT** 1つまたは複数の管理下のシステムでの削除処置を要求します。

***INS** 指定された1つまたは複数の管理下のシステムでの導入のためにすでにパッケージ化されているオブジェクトを導入します。最大7つのオブジェクトを導入することができます。導入できるのは導入可能オブジェクトだけです。

オブジェクトは、相互関連条件として扱われます。このことはすべての導入が成功するか、失敗するかのいずれかであることを意味します。活動でオブジェクトとその相互関連条件（ある場合）が使用されると、変更を有効にするために必要なすべての構成要素が変更されます。管理下のシステムは、必要であれば、このような変更を除去可能な方式で実行することができ、したがって、後続の要求（除去）でこれらすべての構成要素を変更の前の元の状態に戻すことができます。また自動除去または自動受け入れも可能です。

***RMV** この活動が管理下のシステムで実行された場合には、変更と関連して前に変更されたすべての構成要素が、変更を導入する前の状態に戻されます（つまり、除去されます）。これは、前に除去可能な方式によって導入されている変更の場合にだけ可能です。

***RTV** グローバル名によって識別されたオブジェクトを、管理下のシステムまたは別の中央側システム（中央側システムの記憶域の場合）から検索します。複数のシステムからオブジェクトを検索するには、検索されるそれぞれのオブジェクトが1個の固有のグローバル名をもつように、*ANYトークンをもつグローバル名が必要です。トークン(*ANY, *HIGHEST,または*LOWEST)が指定されていないグローバル名が検索された場合には、配布リポジトリに記憶されます。

***RUN** 1つまたは複数の管理下のシステムでプログラムまたはプロシージャーを実行させます。

***SND** オブジェクトを中央側システムから1つまたは複数の管理下のシステムまたは別の中央側システムに送信します。

***SNDINS**

すでに中央側システムで導入のためにパッケージ化されているオブジェクトを1つまたは複数の管理下のシステムに送信し、その管理下のシステムでオブジェクトを導入します。グローバル名で識別されるオブジェクトだけを導入することができます。

***SNDRUN**

オブジェクトを中央側システムから1つまたは複数の管理下のシステムに送信し、その管理下のシステムでオブジェクトを実行します。

***UNINS**

指定した1つまたは複数の管理下のシステムで導入されているオブジェクトを除去します。導入解除できるのは、導入可能オブジェクトによって導入されているオブジェクトだけです。

上

グローバル名 (GLBNAME)

SNAネットワーク内のオブジェクトを固有に識別する一連のトークンであるグローバル名を指定します。グローバル名は、中央側システムと管理下のシステムの両方で該当するカタログ項目を見つけるために使用される名前を表します。カタログ項目は、そのシステムで使用されるオブジェクトを指定します。

トークン桁の特殊値は、オブジェクトの検索方法を指示します。トークン位置に*ANYを指定すると、正しいオブジェクトの検索時にトークンは無視されます。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

要素1: トークン1

***NETID**

最初のグローバル名のトークン値はコマンドによってネットワーク属性から生成されたネットワークIDです。ネットワークIDは、LCLNETIDネットワーク属性値の現在の値によって判別されます。

グローバル名トークン

グローバル名の最初のトークンを指定します。最初のトークンの推奨値は、登録された企業IDまたはネットワークIDです。

要素2から10: トークン2から10

***ANY** 処置を実行するオブジェクトを検索する時に突き合わされる任意のトークン値。これは、オブジェクトの検索時に、グローバル名のトークンの一部が不明かあるいはシステムごとに異なる場合に役立ちます。

***HIGHEST**

トークンの値が最大であるオブジェクトに処置が実行されます。トークンは順序づけする必要があります。これは、オブジェクトの別のバージョンを示すためにグローバル名のトークンを使用していて、バージョン・レベルが最大のオブジェクトを処理する必要がある場合に役立ちます。

***LOWEST**

トークンの値が最小であるオブジェクトに処置が実行されます。トークンは順序づけする必要があります。

ります。これは、オブジェクトの別のバージョンを示すためにグローバル名のトークンを使用していて、バージョン・レベルが最も低いオブジェクトを処理する必要がある場合に役立ちます。

***NETID**

このシステムのネットワークIDが使用されます。ネットワークIDは、LCLNETIDネットワーク属性値の現在の値によって判別されます。

***CPNAME**

このシステムの制御点名が使用されます。制御点名は、LCLCPNAMEネットワーク属性値の現在の値によって判別されます。

***SERVER:**

このトークンは変更要求活動内に&SERVERの値で記憶され、オブジェクトの配布時に変更制御サーバーの短縮名によって置き換えられます。

***TARGET:**

このトークンは変更要求活動内に&TARGETの値で記憶され、オブジェクトの配布時にターゲットの短縮名によって置き換えられます。

***MDDATE:**

このトークンは値&DATEによって変更要求活動に記憶され、配布時にはオブジェクトが最後に変更された日付によって置き換えられます。

***MDTIME:**

このトークンは、値&TIMEによって変更要求活動に記憶され、配布される時にオブジェクトが最後に変更された時刻によって置き換えられます。

グローバル名トークン

処置が実行されるオブジェクトを固有に識別する一連の1から16桁のトークンの1つを指定します。使用できる文字はAからZおよび0から9です。ネットワークIDおよびシステム名を表すトークンには、その他の特殊値(@, #,および%)を使用できます。

注: GLBNAMEが有効なのは、ACTION(*ACT)またはACTION(*UNINS)が指定されていない場合だけです。

上

構成要素名 (COMPNAME)

REF, FIX,またはUPDサブツリー標識(STI)トークンに先行するグローバル名トークンのセットである構成要素名。構成要素名は、管理下のシステムから導入解除しなければならない導入可能オブジェクトの識別に使用されます。使用できるトークンの最大数は7です。COMPNAMEが有効となるのはACTION(*UNINS)が指定されている場合だけです。

最初のトークンに使用できる特殊値は*NETIDだけです。

要素1: トークン1

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NETID**

このシステムのネットワークIDが使用されます。ネットワークIDは、LCLNETIDネットワーク属性値の現在の値によって判別されます。

構成要素名トークン

処置を実行するオブジェクトを固有に識別する一連の1から16桁のトークンの1つ。使用できる文字はAからZおよび0から9です。ネットワークIDおよびシステム名を表すトークンには、その他の特殊値(@, #,および¥)を使用できます。

要素2から10: トークン2から10

***NETID**

このシステムのネットワークIDが使用されます。ネットワークIDは、LCLNETIDネットワーク属性値の現在の値によって判別されます。

***CPNAME**

このシステムの制御点名が使用されます。ネットワークIDは、LCLCPNAMEネットワーク属性値の現在の値によって判別されます。

構成要素名トークン

処置を実行するオブジェクトを固有に識別する一連の1から16桁のトークンの1つ。使用できる文字はAからZおよび0から9です。ネットワークIDおよびシステム名を表すトークンには、その他の特殊値(@, #,および¥)を使用できます。

上

管理下のシステム・ノード・リスト (NODL)

ノード・リスト・パラメーターはこの活動の宛先であるシステムのリストが入っているオブジェクト名であることを指定します。このパラメーターは、制御点名(CPNAME)パラメーターも指定されている場合には指定できません。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

この活動を実行するシステムは、ノード・リストによって指定されません。個々の制御点名を指定しなければなりません。

使用できるライブラリーの値は次のいずれかです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーでノード・リスト・オブジェクトが検索されます。

***CURLIB**

ノード・リスト・オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定します。

ノード・リスト名

活動を実行するシステムのリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名を指定します。

管理下のシステム・ノード名 (CPNAME)

この活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。ノード・リスト(NODL)パラメーターが指定されていると、制御点名は指定できません。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

この活動を実行するシステムは個々に識別されません。ノード・リストを指定しなければなりません。

*NETATR

ローカル・システムのネットワークIDが使用されます。これは、指定されるノードがローカル・システムと同じネットワーク内にある時に役立ちます。

ネットワークID

活動が実行される管理下のシステムのAPPNネットワークIDを指定します。NETVIEW分散管理エージェントの場合のネットワークIDは、変更制御サーバー名です。

制御点名

活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。NETVIEW分散管理エージェントの場合の制御点名は、他のプラットフォームで有効な制御点名の先頭の位置に数字(0から9)をサポートする変更制御クライアントです。

テキスト '記述' (TEXT)

活動記述を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

*GEN 記述は、選択された処置に基づいて生成されます。生成される記述には、以下があります。

- オブジェクトの受け入れ
- システムの再始動
- オブジェクトの削除
- オブジェクトの実行
- オブジェクトの導入
- オブジェクトの除去
- オブジェクトの検索
- オブジェクトの送信

- オブジェクトの送信および実行
- オブジェクトの送信および導入
- オブジェクトの導入解除

テキスト記述

50桁の活動の記述を指定してください。

上

活動化の強制 (ACTFRC)

管理下のシステムは、その休止状態に基づいて活動化を進める必要があるかどうかを指定します。

*SAME

活動化の強制値は変更されません。

活動化の強制

活動化の強制値を指定します。

***NO** 休止検査が管理下のシステムはまだ活動状態であることを示している場合には、管理下のシステムは活動化を進めません。

遅延単位

遅延期間が指定される時間の単位を指示します。

*SECONDS

遅延期間は秒数で指定されます。

*MINUTES

遅延期間は分数で指定されます。

*HOURS

遅延期間は時間数で指定されます。

遅延期間

管理下のシステムが指定された処置をとる前に休止（まだ休止されていない場合）を待機することができる最大時間数を指定します。

3600 遅延期間の省略時の値は3600秒です。

遅延期間

遅延期間の範囲は1-65535です。

YES** 管理下のシステムは、休止検査が管理下のシステムはまだ活動状態であることを示している場合であっても、活動化を進めます。活動化の強制がYES**の場合には、遅延単位および遅延期間は無視されます。

注: ACTFRCが有効なのは、ACTION(*ACT)が指定されている場合だけです。

上

活動化の実行時に活動化の使用 (ACTUSEACT)

活動化の実行時に、変更によって変えられたどの構成要素が使用されるかを指定します。

*SAME

活動化実行時の活動化の使用の値は変更されません。

*BOTH

試行バージョンと実行用バージョンの両方。

*PROD

実行用バージョンのみ。

*LAST

最後に使用された試行と実行用の両方かまたは実行用のみ。

*NONE

活動化実行時の活動化の使用は指定されません。

注: ACTUSEACTが有効なのは、ACTION(*ACT)が指定されている場合だけです。

上

圧縮タイプ (CPRTYPE)

圧縮アルゴリズムおよび特定の変更オブジェクトの圧縮と関係づけられる関連した情報を指定します。転送状態と記憶状態の一方または両方のパラメーターが圧縮を指定している場合には、このパラメーターの存在していることが必要であり、また、最適圧縮、SNA圧縮、またはユーザー圧縮アルゴリズムの1つ（1つだけ）を要求することができます。

*SAME

圧縮アルゴリズムは変更されません。

*ADAPTIVE

最適圧縮が要求されたオブジェクトに属するかどうかを指定します。ISERIESシステムは*ADAPTIVEサポートしていません。

*SNA SNA圧縮が要求されたオブジェクトに属するかどうかを指定します。

*USER

指定のユーザー圧縮が要求されたオブジェクトに属するかどうかを指定します。

*NONE

圧縮タイプは指定されません。

注:

1. CPRTYPEが有効なのは、ACTION(*RTV)、ACTION(*SND)、ACTION(*SNDRUN)、またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。
2. CMPSTGSTTおよびCPRTFRSTTが指定されていない場合には、CPRTYPEを指定できません。
3. CMPSTGSTTが*DECOMPRESSであり、CPRTFRSTTが指定されていない場合には、CPRTYPEを指定できません。
4. CPRSTGSTTが指定されず、CPRTFRSTTが*DECOMPRESSである場合には、CPRTYPEを指定できません。
5. CPRSTGSTTおよびCPRTFRSTTが*DECOMPRESSである場合には、CPRTYPEを指定できません。

SNA圧縮文字 (SNACPRCHR)

SNA圧縮アルゴリズムに関する情報を要求されたオブジェクトに属するものとして指定します。省略した場合には、SNA圧縮は要求されたオブジェクトに属さないことを意味します。

*SAME

SNA圧縮は変更されません。

*BLANK

SNA圧縮が要求された場合には、暗黙の省略時の値は(X'40')文字になることが任意選択で指定されます。そうでない場合には、指定されません。

SNA基本文字

SNA圧縮アルゴリズムによって使用される単一制御バイト(SCB)と関連づけられる基本圧縮文字。有効な値は'00'X - 'FF'Xです。

注: SNACPRCHRが有効なのは、ACTION(*RTV)、ACTION(*SND)、ACTION(*SNDRUN)、またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。

ユーザー圧縮情報 (USRCPRINF)

指定のユーザー圧縮アルゴリズムに関する情報を要求されたオブジェクトに属するものとして指定します。省略した場合には、ユーザー圧縮は要求されたオブジェクトに属さないことを意味します。

*SAME

ユーザー圧縮は変更されません。

ユーザー圧縮名

要求されたオブジェクトに属するユーザー圧縮アルゴリズムの名前。ユーザー圧縮が要求された場合には、これを指定しなければなりません。そうでない場合には、指定されません。

ユーザー・パラメーター

ユーザー圧縮名に指定されたユーザー圧縮アルゴリズムに適用されるユーザー・パラメーター。ユーザー圧縮が要求された時に、任意選択で指定されます。そうでない場合には、指定されません。

注: USRCPRINFが有効なのは、ACTION(*RTV)、ACTION(*SND)、ACTION(*SNDRUN)、またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。

圧縮記憶域の状態 (CPRSTGSTT)

管理下のシステムではオブジェクトを圧縮された形式で記憶する必要があるかどうかを指定します。

*SAME

圧縮記憶状態の値は変更されません。

*DECOMPRESS

管理下のシステムでは、オブジェクトは圧縮解除された形式で記憶されます。オブジェクトが管理

下のシステムに到着した時にすでに圧縮解除されていた場合には、受信された通りに記憶されません。そうでない場合には、管理下のシステムでオブジェクトのカタログ処理に使用される圧縮方式を使用してオブジェクトが圧縮解除されてから記憶されます。

***COMPRESS**

管理下のシステムでは、オブジェクトが圧縮された形式で記憶されます。この値を指定する場合は、圧縮アルゴリズムも指定しなければなりません。オブジェクトが管理下のシステムに到着した時にすでに圧縮されていた場合には、それが受信された通りに記憶されます。そうでない場合には、オブジェクトが記憶される前に、圧縮アルゴリズムを使用して圧縮されます。

***NONE**

圧縮記憶状態は指定されません。

注: CPRSTGTTが有効であるのは、ACTION(*RTV)、ACTION(*SND)、ACTION(*SNDRUN)、またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。

上

圧縮転送状態 (CPRTFRSTT)

オブジェクトを圧縮された形式で管理下のシステムに転送する必要があるかどうかを指定します。

***SAME**

圧縮転送状態の値は変更されません。

***DECOMPRESS**

オブジェクトは圧縮解除された形式で管理下のシステムに転送されます。すでに転送元で圧縮解除されている場合には、オブジェクトは記憶されている通りに転送されます。そうでない場合には、管理下のシステムでオブジェクトのカタログ処理に使用されている圧縮方式を使用して圧縮解除されてから送信されます。

***COMPRESS**

オブジェクトは圧縮アルゴリズムを使用して圧縮され、圧縮された形式で管理下のシステムに転送されます。この値を指定する場合には、圧縮アルゴリズムも指定しなければなりません。オブジェクトがすでに発信元で別のアルゴリズムを使用して圧縮されている場合には、管理下のシステムでオブジェクトのカタログ処理に使用されている圧縮方式を使用してオブジェクトを圧縮解除してから転送します。

***NONE**

圧縮転送状態は指定されません。

注: CPRTFRSTTが有効であるのは、ACTION(*RTV)、ACTION(*SND)、ACTION(*SNDRUN)、またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。

上

導入時の活動化の使用 (ACTUSEINS)

導入処理によって変更される構成要素が試行バージョンであるか、または実行用バージョンであるかを指定します。導入実行時の活動化の使用が*TRIALである場合には、これは、テストされる試行域にオブジェクトを導入しなければならないことを意味します。その場合には、除去可能性が*YESでなければなりません。

***SAME**

活動化実行時の活動化の使用の値は変更されません。

***TRIAL**

試行バージョンのみ。

***PROD**

実行用バージョンのみ。

注: ACTUSEINSが有効であるのは、ACTION(*INS)またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。

上

活動構成要素変更 (ALTACTIONCOMP)

管理下のシステムで活動状態のシステムに構成要素の変更を適用できるかどうかを指定します。変更を適用できない場合には、このような処置は次の活動化まで据え置かれます。このパラメーターは、*SNDINS処置の場合にだけ使用することができます。

***SAME**

活動状態の構成要素の変更の値は変更されません。

***ALLOWED**

管理下のシステムは、構成要素の変更を活動状態のシステムに適用できます。

***NOTALLOWED**

管理下のシステムは、構成要素の変更を活動状態のシステムに適用できません。

***NONE**

活動状態の構成要素の変更は指定されません。

注: ALTACTIONCOMPが有効なのは、ACTION(*INS)、ACTION(*SNDINS)、またはACTION(*RMV)が指定されている場合だけです。

上

自動受け入れ (AUTOACP)

実行された導入およびすべてのテストが正常に行なわれた場合に、できるだけ早く必要な資源を解放して除去可能性を維持するために、管理下のシステムがオブジェクトを自動的に受け入れるかどうかを指定します。別個の受け入れ要求と同様に、管理下のシステムは、自動受け入れが正常に実行された後にオブジェクトを削除します。

***SAME**

自動受け入れの値は変更されません。

***NO** 自動受け入れは実行されません。

***NONE**

自動受け入れは指定されません。

自動受け入れ

自動受け入れに使用できる値は、次の通りです。

***DESIRED**

指定された管理下のシステムがサポートしている場合に、自動受け入れが実行されます。

***YES** 自動受け入れが実行されます。

遅延日数

オブジェクトを自動的に受け入れる前に入り口点が待機する必要がある日数を指定します。有効な日数の範囲は0-255です。

注: AUTOACPが有効なのは、ACTION(*INS)またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。

上

自動除去 (AUTORMV)

導入かテストのいずれかに障害があった場合に、管理下のシステムがオブジェクトを自動的に除去するかどうかを指定します。

***SAME**

自動除去の値は変更されません。

***DESIRED**

指定された管理下のシステムがサポートしている場合に、自動除去が実行されます。

***YES** 自動除去が実行されます。

***NO** 自動除去は実行されません。

***NONE**

自動除去は指定されません。

注: AUTORMVが有効なのは、ACTION(*INS)またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。

上

事前テスト (PRETEST)

オブジェクトの導入前に入り口点でオブジェクトのテストを実行するかどうかを指定します。

***SAME**

事前テストの値は変更されません。

***DESIRED**

指定された管理下のシステムがサポートしている場合に、事前テストが実行されます。

***YES** 事前テストが実行されます。

***NO** 事前テストは実行されません。

注: PRETESTが有効であるのは、ACTION(*INS)またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。

上

事後テスト (POSTTEST)

オブジェクトを導入または除去した後に入り口点でテストを実行するかどうかを指定します。

*SAME

事後テストの値は変更されません。

***YES** 事後テストが実行されます。

***DESIRED**

指定された管理下のシステムがサポートしている場合に、事後テストが実行されます。

***NO** 事後テストは実行されません。

注: POSTTESTが有効なのは、ACTION(*INS)、ACTION(*SNDINS)、またはACTION(*RMV) が指定されている場合だけです。

上

除去可能 (ALWRMV)

(オブジェクトに対して後続の除去処置を出すことができるように) オブジェクトが除去可能な方式で導入されるかどうかを指定します。

*SAME

除去可能性の値は変更されません。

***YES** オブジェクトは除去可能な方式で導入されます。

***DESIRED**

指定された管理下のシステムがサポートしている場合に、オブジェクトは除去可能な方式で導入されます。

***NO** オブジェクトは除去可能な方式で導入されません。

注: ALWRMVが有効なのは、ACTION(*INS)またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。

上

開始パラメーター (PARM)

オブジェクトの開始時に渡すべきパラメーターを指定します。

*SAME

パラメーターの値は変更されません。

パラメーター・データ

プログラムの開始時に渡されるパラメーターを指定します。各パラメーターは1から253文字です。プロンプト・パネルには、最初に25文字を入力することができます。1桁目に&を入力することによって、より長いパラメーターを入れるためにフィールドを拡張することができます。パラメーターにブランクまたは特殊文字が含まれる場合には、それらをアポストロフィで囲んでください。

注: PARMが有効なのは、ACTION(*RUN)またはACTION(*SNDRUN)が指定されている場合だけです。

上

オブジェクトの保存 (KEEPOBJ)

機能が正常に実行された後に、オブジェクトを保存すべきかまたは削除すべきかを指定します。

*SAME

オブジェクトの後処理の値は変更されません。

***YES** 機能の実行後にオブジェクトを保存しなければなりません。

***NO** 機能の実行後にオブジェクトを削除しなければなりません。

***NONE**

オブジェクトの保存は指定されません。

注: KEEPOBJが有効であるのは、ACTION(*RUN)、ACTION(*INS)、ACTION(*SNDRUN)、またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。

上

共通必須変更名リスト (COREQCHGNL)

検索されるオブジェクトの導入の一部として入り口点によって導入されるオブジェクトの名前を識別するSNA/ファイル・サービス(SNA/FS)グローバル名のリストを指定します。最大6個の相互必要条件の変更名を使用できます。

グローバル名は、ネットワーク内の他のどのオブジェクトとも混同しないようにユーザーがオブジェクトに割り当てる固有の名前です。グローバル名は、中央側システムと管理下のシステムの両方で適切なカタログ項目を見つけるために使用される名前を表します。

*SAME

相互に必要な変更名のリストは変更されません。

***NONE**

相互に必要な変更名のリストは指定されません。

グローバル名トークン

処置が実行されるオブジェクトを固有に識別する、1から16文字の一連のトークンの1つを指定してください。文字AからZおよび0から9を使用することができます。ネットワークIDおよびシステム名を表すトークンには、その他の特殊値(@, #,および¥)を使用できます。

注: COREQCHGNLが有効なのは、ACTION(*INS)またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。

上

オブジェクトの置き換え (REPLACE)

すでに存在している場合にオブジェクトを置き換える必要があることを指定します。

*SAME

置き換えの値は変更されません。

***NO** オブジェクトを追加しなければなりません。

***YES** オブジェクトを置き換えなければなりません。

***ALLOWED**

オブジェクトを置き換えまたは追加しなければなりません。

注: REPLACEが有効であるのは、ACTION(*RTV)、ACTION(*SND)、ACTION(*SNDRUN)、またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。

上

削除される名前 (TODLTNAME)

管理下のシステムのロケーションで削除するオブジェクトの名前を指定します。

トークン桁の特殊値は、オブジェクトの検索方法を指示します。トークン桁に*ANYを指定することには、正しいオブジェクトの検索時にトークンは無視されることを意味します。指定されたトークンと一致した複数のオブジェクト見つかった場合には、エラーが戻されます。

指定できる単一値は次の通りです。

***SAME**

削除する名前は変更されません。

***NONE**

削除する名前は指定されません。

最初のトークンのために使用できる特殊値は*NETID、*SERVER、*TARGET、*MDDATE、および*MDTIMEです。

他のトークンとして指定できる特殊値は次の通りです。

***ANY** 処置を実行するオブジェクトを検索する時に突き合わされる任意のトークン値。

***HIGHEST**

実行される処置がある最高のトークン値を持つオブジェクト。トークンは順序づけする必要があります。これは、グローバル名のトークンがオブジェクトの異なるバージョンを指示するために使用され、最高のバージョン・レベルのオブジェクトを取り扱う必要があった場合に有用です。

***LOWEST**

実行される処置がある最低のトークン値を持つオブジェクト。トークンは順序づけする必要があります。これは、グローバル名のトークンがオブジェクトの異なるバージョンを指示するために使用され、最低のバージョン・レベルのオブジェクトを取り扱う必要があった場合に有用です。

***NETID**

このシステムのネットワークIDが使用されます。ネットワークIDは、LCLNETIDネットワーク属性値の現在の値によって判別されます。

***CPNAME**

このシステムの制御点名が使用されます。ネットワークIDは、LCLCPNAMEネットワーク属性値の現在の値によって判別されます。

***SERVER:**

このトークンは変更要求活動内に&SERVERの値で記憶され、オブジェクトの配布時に変更制御サーバーの短縮名によって置き換えられます。

***TARGET:**

このトークンは変更要求活動内に&TARGETの値で記憶され、オブジェクトの配布時にターゲットの短縮名によって置き換えられます。

***MDDATE:**

このトークンは値&DATEによって変更要求活動に記憶され、配布時にはオブジェクトが最後に変更された日付によって置き換えられます。

***MDTIME:**

このトークンは、値&TIMEによって変更要求活動に記憶され、配布される時にオブジェクトが最後に変更された時刻によって置き換えられます。

グローバル名トークン

処置が実行されるオブジェクトを固有に識別する、1から16文字の一連のトークンの1つを指定してください。文字AからZおよび0から9を使用することができます。ネットワークIDおよびシステム名を表すトークンには、その他の特殊値(@, #,および¥)を使用できます。

注:

1. TODLTNAMEが有効なのは、ACTION(*SND), ACTION(*SNDRUN),またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。
2. TODLTNAMEパラメーターに指定するトークンの数は、GLBNAMEパラメーターに指定されたトークンの数と一致していなければなりません。

上

最新表示レベル (REFLVL)

導入解除するソフトウェア構成要素のレベルを指定します。

***SAME**

最新表示レベルの値は変わりません。

***NONE**

最新表示レベルのリストは指定されません。

最新表示レベル

最大16桁までの数字ストリングを指定してください。

注: REFLVLが有効となるのはACTION(*UNINS)が指定されている場合だけです。

上

導入解除の強制 (FRCUNINS)

ソフトウェア構成要素に導入を待機中のオブジェクトまたは現在導入中のオブジェクトが含まれていても導入解除を実行するかどうかを指定します。

***SAME**

強制導入解除の値は変わりません。

***NO** ソフトウェア構成要素で導入を待機しているオブジェクトがある場合には、導入解除しません。

***YES** ソフトウェア構成要素で導入を待機しているオブジェクトがある場合でも導入解除します。

注: FRCUNINSが有効となるのはACTION(*UNINS)が指定されている場合だけです。

上

管理下のシステムの開始時刻 (RMTSTRTIME)

この活動が管理下のシステムで実行を開始できる日付および時刻を指定します。中央側の日付および時刻に基づいて中央側システムで活動の実行が始められた時に、現在の日付および時刻の値と次の日付の値が決まります。

使用できる単一の値は次の通りです。

***NONE**

管理下のシステムに指定されたりモート開始時刻はありません。

要素1: 時間帯

リモート開始時刻の時間帯。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***LCLSYS**

リモート開始時刻は、中央側システムの時間帯で指定されます。

***MGDSYS**

リモート開始時刻は、管理下のシステム側の時間帯で指定されます。

要素2: 時刻以後開始

これは、その時刻の後に活動を開始する時刻の定義です。

***SAME**

値は変更されません。

***CURRENT**

この機能は、要素2で指定された日に中央側システムでこの活動が開始された時刻以後の任意の時刻に、管理下のシステムで開始できます。

時刻以後開始

この機能を管理下のシステムで開始できる時刻を指定します。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻は、時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

要素3: 日付以後開始

これは、その日の後に開始する日付です。

***SAME**

値は変更されません。

***CURRENT**

この機能は、中央側システムで活動が開始された日付またはそれ以後の任意の日に管理下のシステムで開始されます。

***NEXT**

この機能は、中央側システムで活動が開始された日付より後の任意の日に管理下のシステムで開始されます。

日付以後開始

この機能を管理下のシステムで開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

注：

1. 時間帯の値*MGDSYSが指定されている場合には、日付および時刻に特殊値*CURRENTおよび*NEXTを指定することはできません。
2. このパラメーターが有効なのは、これらの処置が*ACP, *ACT, *RUN, *INS, *RMV, *SNDRUN, *SNDINS,または*UNINSとして指定されている場合だけです。

上

活動条件 (COND)

この活動を実行する前に満たされていなければならない条件を指定します。各条件は、この活動の前に実行しなければならない活動、およびその活動からの終了コードがこの活動の実行を可能にするために必要な値を識別します。省略時の条件は、前（アルファベット順）の活動が正常に完了していなければこの活動を実行できないというものです。

指定できる単一値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

この活動に条件はありません。

要素1: 条件付け活動

この活動の前に実行されていなければならない活動。

***PRV** この活動は前の活動で条件づけされます。活動は、活動名のアルファベット順に順序づけられます。追加される活動が最初の活動である場合には、前の活動は存在しないので、*PRVの条件は満たされたものとしてマークが付けられます。

条件付け活動名

この活動の前に実行されていなければならない活動の名前を指定してください。活動(ACTIVITY)パラメーターに指定した活動名は、条件付け活動名に指定することはできません。活動をそれ自体に条件付けることはできません。

総称 * 条件付け活動名

この活動の前に実行されていなければならない活動の総称名を指定してください。

要素2: 関係演算子

この要素は、活動からの終了コードを比較する時に使用する関係演算子です。

***EQ**等しい

***GT**より大

***LT**より小

*NE等しくない

*GE大きいか等しい

*LE小さいか等しい

要素3: 条件コード

この要素は、条件づけ活動の実際の終了コードと比較される値です。

*SUCCESS

活動は正常に終了しました(0 <=終了コード<= 9)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

*FAIL 活動は正常に実行されませんでした(10 <=終了コード<= 89)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

*NOTRUN

活動は開始されませんでした(90 <=終了コード<= 99)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

*ANY 活動は任意の終了コードで終了しました。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQの時だけです。

終了コード

活動の結果（成功または障害）を示す整数値(0から99)を指定します。終了コードの範囲および説明は次の通りです。

00 活動は正常に完了した。

01-09 活動は警告メッセージ付きで完了した。

10-29 活動は正常に完了しなかった。

30-39 活動は完了する前にユーザーによって取り消された。

- 30 =活動は*CNTRLDオプションによって終了された。
- 35 =活動は*IMMEDオプションによって終了された。
- 39 =活動は*FRCFAILオプションによって終了された。

40-49 アプリケーションがエラーを検出したので、活動は実行されなかった。

- 40 =機密保護上の理由から、活動は実行されなかった。

90-99 条件またはスケジュールが満たされなかったため、活動は実行されなかった。

- 95 =スケジュールされた開始時刻を経過した。
- 99 =条件を満たすことができない。

要素4: 条件モード

この要素は、この活動を実行する前に条件づけ活動が完了していなければならないシステムを示します。

*ALLNODES

指定した条件づけ活動は、この活動を実行する前にすべてのノードで完了していなければならないなりません。

*SAMENODE

指定のノードで指定した条件づけ活動が完了している場合には、指定した条件づけ活動を

他のすべてのノードで完了できていない場合であっても、ACTIVITYパラメーターで指定して活動は同じノードで実行できます。この活動をそのノードで実行できる場合には、この条件は無視されます。

上

活動開始時刻 (STRTIME)

この活動を中央側システムで開始できる日付および時刻を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は変更要求の投入時に決定されます。

要素1: 時刻以後開始

考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*CURRENT

この活動は、変更要求の投入時またはそれ以後の任意の時刻に開始することができます。

時刻以後開始

この活動を開始できる時刻を指定します。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

要素2: 日付以後開始

*SAME

値は変更されません。

*CURRENT

この活動は、変更要求の投入日またはそれ以降の日付に開始できます。

*NEXT

この活動は、変更要求の投入日より後の任意の日付に開始できます。

日付以後開始

その日付以後にこの活動を開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

要素3: 時刻以前開始

日付以前開始が*ANYの場合には、この要素は無視されます。

*SAME

値は変更されません。

*ANY この活動は、日付以前開始以前の任意の時刻に開始できます。

*CURRENT

この活動は、日付以前開始要素で指定された日の変更要求が投入された時刻より前に開始しなければなりません。日付以前開始が*CURRENTの場合には、この値は指定できません。

時刻以前開始

その時刻より前に活動を開始しなければならない時刻を指定します。この時刻の前に活動を開始できない場合には、その活動は開始されません。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

要素4: 日付以前開始

*SAME

値は変更されません。

***ANY** 活動は、時刻以後開始および日付以後開始より後の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は変更要求の投入日に開始しなければなりません。

***NEXT**

活動は変更要求の投入日の翌日までに開始しなければなりません。

日付以前開始

その日付の前に活動を開始しなければならない日付を指定します。この日付までに活動を開始できない場合には、活動は開始されません。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

上

活動の保留 (HOLD)

変更要求が投入された時に活動を保留します。

*SAME

値は変更されません。

***NO** 活動は保留されず、すべての条件が満たされた時に実行されます。

***YES** 活動は変更要求の投入時にすべてのノードに対して保留されます。実行する前に保留解除しなければなりません。

上

例

次の例では、CHGCRQAコマンドを使用して、NETVIEW DISTRIBUTION MANAGER/6000変更制御サーバーが管理する管理下のシステムで実行される活動をスケジュールする方法を示します。ここに示される例は、次の活動処置によってグループ化されます。

- 受け入れ
- 活動化
- 削除
- 実行
- 導入
- 除去

- 検索
- 送信, 送信と実行, 送信と導入
- 導入解除

例1: 活動の受け入れ

ここに示される例は、導入の例に示された最初の2つの例と対応し、導入された特定のオブジェクトを受け入れる方法を説明します。

- 変更要求記述に追加された導入活動は次の通りです。

```
ADDCRQA  CRQD(CCLIB/CRQACPRMV)  ACTIVITY(INSACT01)
          ACTION(*INS)  GLBNAME(IBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2)
          CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))  ACTUSEINS(*PROD)
          ALTACTCOMP(*NOTALLOWED)  AUTOACP>(*YES)
          ALWRMV(*YES)
          COREQCHGNL((REXX PROC UPDATE CONFIG))
```

単一システムMARYPWS1にオブジェクトを導入するのではなく、変更制御サーバーROMSERV1が制御する管理下のシステムのすべてにオブジェクトを導入する必要があります。(すべての管理下のシステムはライブラリーROMLIBに保管されたノード・リストROMCLIENTSにリストされます。)

管理下のシステムで除去可能がサポートされる場合は、オブジェクトを除去可能な方法で導入できるように、次の例では活動が変更されます。

```
CHGCRQA  CRQD(CCLIB/CRQACPRMV)  ACTIVITY(INSACT01)
          ACTION(*SAME)  GLBNAME(*SAME)
          NODL(ROMLIB/ROMCLIENTS)  CPNAME(*NONE)
          ACTUSEINS(*SAME)  ALTACTCOMP(*SAME)
          AUTOACP>(*NO)  ALWRMV(*DESIRED)
          COREQCHGNL(*SAME)
```

オブジェクトIBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2およびREXX PROC UPDATE CONFIGは、除去可能な方法で導入されます。オブジェクトは、受け入れ活動を変更することによって受け入れ可能にできます。活動は次のように変更要求に追加されました。

```
ADDCRQA  CRQD(CCLIB/CRQACPRMV)  ACTIVITY(ACCACT01)
          ACTION(*ACP)  GLBNAME(IBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2)
          CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))
          COND((INSACT03 *EQ 20 *SAMENODE))
ADDCRQA  CRQD(CCLIB/CRQACPRMV)  ACTIVITY(ACCACT02)
          ACTION(*ACP)  GLBNAME(REXX PROC UPDATE CONFIG)
          CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))
          COND((INSACT03 *EQ 20 *SAMENODE))
```

ただし、活動は次のように変更する必要があります。

```
CHGCRQA  CRQD(CCLIB/CRQACPRMV)  ACTIVITY(ACCACT01)
          ACTION(*SAME)  GLBNAME(*SAME)
          NODL(ROMLIB/ROMCLIENTS)  CPNAME(*NONE)
          COND((INSACT03 *EQ *SUCCESS *ALLNODES))
CHGCRQA  CRQD(CCLIB/CRQACPRMV)  ACTIVITY(ACCACT02)
          ACTION(*SAME)  GLBNAME(*SAME)
          NODL(ROMLIB/ROMCLIENTS)  CPNAME(*NONE)
          COND((INSACT03 *EQ *SUCCESS *ALLNODES))
```

- 変更要求記述に追加された導入活動は次の通りです。

```
ADDCRQA  CRQD(CCLIB/CRQACPRMV)  ACTIVITY(INSACT02)
          ACTION(*INS)  GLBNAME(EURO WORDPROD UPD 2 3 US)
          CPNAME((EUROITAL FREDSW))  ALWRMV(*YES)
```

単一システムMARYPWS1にオブジェクトを導入するのではなく、変更制御サーバーEUROITALが制御する管理下のシステムのすべてにオブジェクトを導入する必要があります。(すべての管理下のシステムは、ライブラリーEUROLIBに保管されたノード・リストEUROCLIENTにリストされます。)すべての管理下のシステムにオブジェクトを導入するには、次のように活動を変更します。

```
CHGCRQA CRQD(CCLIB/CRQACPRMV) ACTIVITY(INSACT02)
ACTION(*SAME) GLBNAME(*SAME)
NODL(EUROLIB/EUROCLIENT) CPNAME(*NONE)
ALWRMV(*YES)
```

オブジェクトEURO WORDPROD UPD 2 3 USをすべての管理下のシステムに受け入れるには、次のように活動ACCACT01を変更要求CRQACPRMVに追加します。

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQACPRMV) ACTIVITY(ACCACT01)
ACTION(*ACP) GLBNAME(EURO WORDPROD UPD 2 3 US)
CPNAME((EUROITAL FREDSSWS))
COND((INSACT05 *EQ *SUCCESS *SAMENODE))
```

次のように変更する必要があります。

```
CHGCRQA CRQD(CCLIB/CRQACPRMV) ACTIVITY(ACCACT01)
ACTION(*SAME) GLBNAME(*SAME)
NODL(EUROLIB/EUROCLIENT) CPNAME(*NONE)
COND((INSACT05 *EQ *SUCCESS *ALLNODES))
```

例2: 処置の活動化

- 活動化の活動を変更して、活動化中に実動バージョンとして試みを使用します。

```
CHGCRQA CRQD(CCLIB/CRQINSACT) ACTIVITY(ACTACT01)
ACTION(*ACT) CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))
ACTFRC(*NO *HOURS 6) ACTUSEACT(*BOTH)
STRTIME((2:00:00 *NEXT) (8:00:00 *NEXT))
```

活動化は午前2時以降に行われますが、次の朝の午前8時前に要求が投入されます。システムがまだ活動状態の場合は、MARYPWS1システムは活動化を進める前に最大6時間待機します。

- 活動を変更して、管理下のシステムFREDSSWSに前に導入したすべてのオブジェクトの活動化をスケジュールします。FREDSSWSは変更制御サーバーEUROITALによって制御されます。活動化は、FREDSSWSがある場所の時間帯の2006年4月15日の午後11時以降の可能な時点でただちに行なわれます。管理下のシステムがまだ活動状態であっても、活動化が行われます。

活動化の強制が*YESの場合には、遅延単位および遅延期間は無視されます。

```
CHGCRQA CRQD(CCLIB/CRQINSACT) ACTIVITY(ACTACT02)
ACTION(*ACT) CPNAME((EUROITAL FREDSSWS))
ACTFRC((*YES *MINUTES 30))
RMTSTRIME(*MGDSYS (23:00:00 04/15/06))
```

例3: 処置の削除

- 管理下のシステムFREDSSWSのオブジェクトEURO WORDPROD UPD 2 3 USを削除するための活動を変更します。FREDSSWSは変更制御サーバーEUROITALによって制御されます。

```
CHGCRQA CRQD(CCLIB/CRQDLT) ACTIVITY(DLTACT01)
ACTION(*DLT) GLBNAME(EURO WORDPROD UPD 2 3 US)
CPNAME((EUROITAL FREDSSWS))
```

- システムMARYPWS1, MARYPWS2, MARYPWS3, およびMARYPWS4からすべてのテスト・ファイルを削除する活動を変更します。これらのシステムはすべて、変更制御サーバーROMSERV1によって制御されます。これらのシステムのテスト・ファイルはEURO SPELLCHECK TESTファイル名としてカタログ処理されます。


```
CHGCRQA CRQD(CCLIB/CRQSNDL) ACTIVITY(DLACT02)
ACTION(*ACT)
GLBNAME(EURO SPELLCHECK TEST *ANY)
CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1) (ROMSERV1 MARYPWS2)
        (ROMSERV1 MARYPWS3) (ROMSERV1 MARYPWS4))
COND((SNDACT01 *EQ *SUCCESS *ALLNODES))
```

この活動は、オブジェクトEURO SPELLCHECK EXE 1 USがこれらのシステムに正常に送信された場合にのみ行なわれます。

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQSNDL) ACTIVITY(SNDACT01)
ACTION(*SND) GLBNAME(EURO SPELLCHECK EXE 1 US)
CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1) (ROMSERV1 MARYPWS2)
        (ROMSERV1 MARYPWS3) (ROMSERV1 MARYPWS4))
REPLACE(*ALLOWED)
```

例5: 処置の実行

- 管理下のシステムFREDSWSでグローバル名EURO.VIRUSCHK.EXE.1.USで通用するプログラムまたはスクリプトを実行する活動を変更します。パラメーター/USER/BINをプログラムまたはスクリプトに渡します。プログラムはできるだけ早く実行されます。

```
CHGCRQA CRQD(CCLIB/CRQRUN) ACTIVITY(RUNACT01)
ACTION(*RUN) GLBNAME(EURO VIRUSCHK EXE 1 US)
CPNAME((EUROITAL FREDSWS)) PARM(("/USR/BIN"))
```

- 管理下のシステムJOHNSWSのグローバル名EURO WORDPROC EXE 2 USで通用するプログラムを実行する活動を変更します。この活動はPS/2によってただちに実行すべきです。このオブジェクトはNETVIEW/DM2カタログに保管する必要があります。変更制御サーバーはローカル・システムと同じネットワーク内にあります。

```
CHGCRQA CRQD(CCLIB/CRQRUN) ACTIVITY(RUNACT02)
ACTION(*RUN) GLBNAME(EURO WORDPROC EXE 2 US)
CPNAME((*NETATR JOHNSWS)) KEEPOBJ(*KEEP)
```

例6: 処置の導入

ここに示された最初の2つの例は、受け入れおよび除去の例に示されたものと対応します。

- 導入活動は次の通りです。

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQACPRMV) ACTIVITY(INSACT01)
ACTION(*INS) GLBNAME(IBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2)
CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1)) ACTUSEINS(*PROD)
ALTACTCOMP(*NOTALLOWED) AUTOACP((*YES))
ALWRMV(*YES)
COREQCHGNL((REXX PROC UPDATE CONFIG))
```

単一システムMARYPWS1にオブジェクトを導入するのではなく、変更制御サーバーROMSERV1が制御する管理下のシステムのすべてにオブジェクトを導入する必要があります。(すべての管理下のシステムはライブラリーROMLIBに保管されたノード・リストROMCLIENTSにリストされます。) オブジェクトを除去可能な方法で導入するには、導入活動を次のように変更します。

```
CHGCRQA CRQD(CCLIB/CRQACPRMV) ACTIVITY(INSACT01)
ACTION(*SAME) GLBNAME(*SAME)
NODL(ROMLIB/ROMCLIENTS) CPNAME(*NONE)
ACTUSEINS(*SAME) ALTACTCOMP(*SAME)
AUTOACP((*NO)) ALWRMV(*DESIRED)
COREQCHGNL(*SAME)
```

- 導入活動は次の通りです。

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQACPRMV) ACTIVITY(INSACT02)
ACTION(*INS) GLBNAME(EURO WORDPROC UPD 2 3 US)
CPNAME((EUROITAL FREDSWS)) ALWRMV(*YES)
```


単一システムMARYPWS1にオブジェクトを導入するのではなく、変更制御サーバーEUROITALが制御する管理下のシステムのすべてにオブジェクトを導入する必要があります。(すべての管理下のシステムは、ライブラリーEUROLIBに保管されたノード・リストEUROCLIENTにリストされます。)すべての管理下のシステムにオブジェクトを導入するには、導入活動は次のように変更されます。

```
CHGCRQA  CRQD(CCLIB/CRQACPRMV) ACTIVITY(INSACT02)
          ACTION(*SAME)  GLBNAME(*SAME)
          NODL(EUROLIB/EUROCLIENT) CPNAME(*NONE)
          ALWRMV(*YES)
```

- MARYPWS1と呼ばれる変更制御クライアント・マシン（管理下のシステム）上に、グローバル名IBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2で識別されたオブジェクトを導入する活動を変更します。MARYPWS1は変更制御サーバーROMSERV1によって制御されます。このオブジェクトは試行域に導入されることになります。

```
CHGCRQA  CRQD(CCLIB/CRQINS) ACTIVITY(INSACT03)
          ACTION(*INS)  GLBNAME(IBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2)
          CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))
          ACTUSEINS(*TRIAL) ALWRMV(*YES)
```

- MARYPWS1と呼ばれる変更制御クライアント・マシン（管理下のシステム）上に、グローバル名IBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2で識別されたオブジェクトを導入する活動を変更します。MARYPWS1は変更制御サーバーROMSERV1によって制御されます。このオブジェクトは活動状態域に導入されることになります。この活動は、2006年12月25日の午前8時30分に処理されることになります。

```
CHGCRQA  CRQD(CCLIB/CRQINS) ACTIVITY(INSACT04)
          ACTION(*INS)  GLBNAME(IBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2)
          CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))
          ACTUSEINS(*PROD) ALTACTCOMP(*ALLOWED)
          ALWRMV(*NO)
          RMTSTRTIME((*MGDSYS) (8:30:00 12/25/06))
```

- 管理下のシステムFREDSWSのオブジェクトEURO.WORDPROC.REF.2.USおよびEURO.WORDPROC.UPD.2.3.USの導入をスケジュールする活動を変更します。FREDSWSは変更制御サーバーEUROITALによって制御されます。オブジェクトは除去可能な方法で活動状態域に導入されます。導入は自動的に受け入れられません。導入は2006年1月1日の午後3時にスケジュールされます。

```
CHGCRQA  CRQD(CCLIB/CRQRTVINS) ACTIVITY(INSACT05)
          ACTION(*INS)  GLBNAME(EURO WORDPROC REF 2 US)
          CPNAME((EUROITAL FREDSWS)) ALTACTCOMP(*ALLOWED)
          COREQCHGNL(EURO WORDPROC UPD 2 3 US)
          RMTSTRTIME(*MGDSYS (15:00:00 1/01/06))
          COND((RTVACT01 *EQ *SUCCESS *ALLNODES))
```

この活動を実行できるのは、オブジェクトEURO WORDPROC UPD 2 3 USが変更制御クライアントBRIGSWSから正常に検索された場合だけです。

```
ADDCRQA  CRQD(CCLIB/CRQRTVINS) ACTIVITY(RTVACT01)
          ACTION(*RTV)  GLBNAME(EURO WORDPROC UPD 2 3 US)
          CPNAME((EUROITAL BRIGSWS))
          STRTIME((22:00:00 12/31/06) (06:00:00 1/01/07))
```

- 管理下のシステムMARYPWS1の実動域にグローバル名IBM 1234567 WINDMB UPD 1 2で識別されたオブジェクトを導入する活動を変更します。導入が失敗した場合は、そのオブジェクトは自動的に除去されます。

```
CHGCRQA  CRQD(CCLIB/CRQINS) ACTIVITY(INSACT06)
          ACTION(*INS)  GLBNAME(IBM 1234567 WINDMB UPD 1 2)
          CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))
          ACTUSEINS(*PROD) AUTORMV(*YES) ALWRMV(*YES)
```

例7: 処置の除去

ここに示される例は、導入の例に示された最初の2つの例と対応し、導入された特定のオブジェクトを除去する方法を説明します。

- 変更要求記述に追加された導入活動は次の通りです。

```
ADDCRQA  CRQD(CCLIB/CRQACPRMV)  ACTIVITY(INSACT01)
          ACTION(*INS)  GLBNAME(IBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2)
          CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))  ACTUSEINS(*PROD)
          ALTACTCOMP(*NOTALLOWED)  AUTOACP(*YES))
          ALWRMV(*YES)
          COREQCHGNL((REXX PROC UPDATE CONFIG))
```

単一システムMARYPWS1にオブジェクトを導入するのではなく、変更制御サーバーROMSERV1が制御する管理下のシステムのすべてにオブジェクトを導入する必要があります。(すべての管理下のシステムはライブラリーROMLIBに保管されたノード・リストROMCLIENTSにリストされます。)すべての管理下のシステムが除去可能をサポートしている場合は、オブジェクトを除去可能な方法を導入する必要があります。オブジェクトを除去可能な方法で導入するには、導入活動を次のように変更します。

```
CHGCRQA  CRQD(CCLIB/CRQACPRMV)  ACTIVITY(INSACT01)
          ACTION(*SAME)  GLBNAME(*SAME)
          NODL(ROMLIB/ROMCLIENTS)  CPNAME(*NONE)
          ACTUSEINS(*SAME)  ALTACTCOMP(*SAME)
          AUTOACP(*NO)  ALWRMV(*DESIRED)
          COREQCHGNL(*SAME)
```

オブジェクトIBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2およびREXX PROC UPDATE CONFIGはすべて、除去可能な方法で導入されます。受け入れ活動を次のように変更することによって、オブジェクトを除去できます。

活動は次のように変更要求に追加されました。

```
ADDCRQA  CRQD(CCLIB/CRQINSACC)  ACTIVITY(RMVACT01)
          ACTION(*RMV)
          GLBNAME(IBM 1234567 PMGRAB UPD 1 2)
          CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))
          COND((INSACT01 *EQ 20 *SAMENODE))
ADDCRQA  CRQD(CCLIB/CRQINSACC)  ACTIVITY(RMVACT02)
          ACTION(*RMV)  GLBNAME(REXX PROC UPDATE CONFIG)
          CPNAME((ROMSERV1 MARYPWS1))
          COND((INSACT01 *EQ 20 *SAMENODE))
```

ただし、これらを次のように変更する必要があります。

```
CHGCRQA  CRQD(CCLIB/CRQINSACC)  ACTIVITY(RMVACT01)
          ACTION(*SAME)  GLBNAME(*SAME)
          NODL(ROMLIB/ROMCLIENTS)  CPNAME(*NONE)
          COND((INSACT01 *EQ *SUCCESS *ALLNODES))
CHGCRQA  CRQD(CCLIB/CRQINSACC)  ACTIVITY(RMVACT02)
          ACTION(*SAME)  GLBNAME(*SAME)
          NODL(ROMLIB/ROMCLIENTS)  CPNAME(*NONE)
          COND((INSACT01 *EQ *SUCCESS *ALLNODES))
```

- 変更要求記述に追加された導入活動は次の通りです。

```
ADDCRQA  CRQD(CCLIB/CRQACPRMV)  ACTIVITY(INSACT02)
          ACTION(*INS)  GLBNAME(EURO WORDPROD UPD 2 3 US)
          CPNAME((EUROITAL FREDSW))  ALWRMV(*YES)
```

単一システムMARYPWS1にオブジェクトを導入するのではなく、変更制御サーバーEUROITALが制御する管理下のシステムのすべてにオブジェクトを導入する必要があります。(すべての管理下のシステムは、ライブラリーEUROLIBに保管されたノード・リストEUROCLIENTにリストされます。)活動は次のように変更されます。

```
CHGCRQA CRQD(CCLIB/CRQACPRMV) ACTIVITY(INSACT02)
ACTION(*SAME) GLBNAME(*SAME)
NODL(EUROLIB/EUROCLIENT) CPNAME(*NONE)
ALWRMV(*YES)
```

オブジェクトEURO WORDPROD UPD 2 3 USをすべての管理下のシステムで除去するには、次のように活動RMVACT01を変更要求CRQACPRMVに追加します。

```
ADDCRQA CRQD(CCLIB/CRQACPRMV) ACTIVITY(RMVACT01)
ACTION(*RMV) GLBNAME(EURO WORDPROD UPD 2 3 US)
CPNAME((EUROITAL FREDSSWS))
COND((INSACT04 *EQ *SUCCESS *SAMENODE))
```

次のように変更する必要があります。

```
CHGCRQA CRQD(CCLIB/CRQACPRMV) ACTIVITY(RMVACT01)
ACTION(*SAME) GLBNAME(*SAME)
NODL(EUROLIB/EUROCLIENT) CPNAME(*NONE)
COND((INSACT04 *EQ *SUCCESS *ALLNODES))
```

- 即時有効だが活動化が必要な事前に導入したオブジェクトEURO.WORDPROD.REF.2.USを管理下のシステム FREDSSWS から除去するためのスケジュール活動を変更します。

```
CHGCRQA CRQD(CCLIB/CR6) ACTIVITY(ACT01) ACTION(*RMV)
GLBNAME(EURO WORDPROD REF 2 US)
CPNAME((EUROITAL FREDSSWS))
ALTACTCOMP(*NOTALLOWED)
```

例8: 処置の検索

- 管理下のシステムJOHNSWSからファイルEURO WORDPROC UPD 2 3 USを検索することになる活動を変更します。ファイルは圧縮形式で転送されてから、圧縮解除形式で保管されます。SNA圧縮アルゴリズムが使用されます。

```
CHGCRQA CRQD(CCLIB/CRQRTV) ACTIVITY(RTVACT01)
ACTION(*RTV) GLBNAME(EURO WORDPROC UPD 2 3 US)
CPNAME((EUROITAL JOHNSWS)) CPRTYPE(*SNA)
CPRSTGSTT(*DECOMPRESS) CPRTFRSTT(*COMPRESS)
REPLACE(*ALLOWED)
```

- 管理下のシステムJOHNSWSからオブジェクトEURO PCSOFT UPD 2 3 USを検索することになる活動を変更します。ファイルは圧縮形式で転送されて保管されることとなります。ユーザー・アルゴリズムNVDMLZWが使用されます。オブジェクトが中央側のシステムで圧縮解除されない場合は、このユーザー・アルゴリズムがサポートされます。

```
CHGCRQA CRQD(CCLIB/CRQRTV) ACTIVITY(RTVACT02)
ACTION(*RTV) GLBNAME(EURO PCSOFT UPD 2 3 US)
CPNAME((EUROITAL JOHNSWS)) CPRTYPE(*USER)
CPRSTGSTT(*COMPRESS) CPRTFRSTT(*COMPRESS)
USRCPRINF(NVDMLZW 37 '/D') REPLACE(*ALLOWED)
```

- 各システムから最新の夜間売上ファイルを検索する活動を変更します。ファイルはEURO SALESシステム名、作成日としてカタログ処理されます。ファイルは圧縮形式で送信されて保管されます。SNA圧縮アルゴリズムが使用されます。ファイルは、要求が投入された日の午後10時以後で、そのストアをオープンする次の朝の午前6時以前に検索する必要があります。すべてのファイルが検索されると、検索されたファイルはすべて配布リポジトリに追加する必要があります。

```
CHGCRQA CRQD(CCLIB/CRQRTV) ACTIVITY(RTVACT03)
ACTION(*RTV) GLBNAME(EURO SALES *ANY *HIGHEST)
NODL(STORES) CPRTYPE(*SNA) CPRSTGSTT(*COMPRESS)
CPRTFRSTT(*COMPRESS) REPLACE(*NO)
STRTIME((22:00:00 *CURRENT) (06:00:00 *NEXT))
```

例9: 送信, 送信と実行, 送信と導入の処置

- ファイルEURO SPELLCHECK EXE 1 USを管理下のシステムFREDSWSに送信する活動を変更します。FREDSWSは変更制御サーバーEUROITALによって制御されます。ファイルは圧縮されません。ファイルは管理下のシステムで置き換えるか、追加する必要があります。

```
CHGCRQA CRQD(CCLIB/CRQSND) ACTIVITY(SNDCT01)
ACTION(*SND) GLBNAME(EURO SPELLCHECK EXE 1 US)
CPNAME((EUROITAL FREDSWS)) REPLACE(*ALLOWED)
```

- 管理下のシステムFREDSWS上の2つのオブジェクトEURO WORDPROC REF 2 USおよびEURO WORDPROC UPD 2 3 USを、それに伴う属性とともに送信して導入する活動を変更します。導入は除去可能な方法で活動状態域で行われます。導入は自動的に受け入れられません。これは、管理下のシステムがある場所の時間帯の2006年4月13日の午前3時にスケジュールされます。

```
CHGCRQA CRQD(CCLIB/CRQSND) ACTIVITY(SNDCT02)
ACTION(*SNDINS) GLBNAME(EURO WORDPROC REF 2 US)
CPNAME((EUROITAL FREDSWS)) ALTACTCOMP(*ALLOWED)
COREQCHGNL((EURO WORDPROC UPD 2 3 US))
RMTSTRTIME(*MGDSYS (15:00:00 04/13/06))
```

- 管理下のシステムFREDSWSでグローバル名EURO.VIRUSCHK.EXE.1.USで通用するプログラムを送信して実行する活動を変更します。パラメーター/USR/BINをプログラムに渡します。プログラムはできるだけ早く実行されます。

```
CHGCRQA CRQD(CCLIB/CRQSND) ACTIVITY(SNDCT03)
ACTION(*SNDRUN) GLBNAME(EURO VIRUSCHK EXE 1 US)
CPNAME((EUROITAL FREDSWS)) PARM("/USR/BIN")
```

- 中央側CUSTNETによって制御されるPS/2 DEVPS2から、グローバル名CUSTNET PCSOFT WDWAPP VER3 941128によって識別されるプログラムを検索する活動を変更します。南西域のすべてのPS/2で活動を送信して実行します。PS/2 DEVPS2からの検索が正常に実行された場合にかぎり、PS/2がある場所の時間帯の午後11時に活動を実行します。活動名が生成されます。

```
CHGCRQA CRQD(CCLIB/CRQRTVSND) ACTIVITY(*GEN)
ACTION(*RTV)
GLBNAME(CUSTNET PCSOFT WDWAPP VER5 061230)
CPNAME((CUSTNET DEVPS2))
```

```
CHGCRQA CRQD(CCLIB/CRQRTVSND) ACTIVITY(*GEN)
ACTION(*SNDRUN)
GLBNAME(CUSTNET PCSOFT WDWAPP VER5 061230)
NODL(PS2SE)
RMTSTRTIME(*MGDSYS (23:00:00 12/30/06))
COND(*PRV *EQ *SUCCE *SAMENODE)
```

例10: 処置のアンインストール

- 指定された日時に管理下のシステムFREDSWSから構成要素EURO WORDPROCをアンインストールする活動を変更します。システムはその時点で非活動状態でなければなりません。導入待機中のオブジェクトがある場合は、アンインストール活動は実行しないでください。

```
CHGCRQA CRQD(CCLIB/CRQUNINS) ACTIVITY(UNACT01)
ACTION(*UNINS)
COMPNAME(EURO WORDPROC) CPNAME((EUROITAL FREDSWS))
ALTACTCOMP(*NOTALLOWED) FRCUNINS(*NO) REFLVL("2")
RMTSTRTIME(*MGDSYS (14:00:00 05/20/06))
```

上

エラー・メッセージ

なし

ライセンスCRQ活動の変更 (CHGLICCRQA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライセンスCRQ活動変更(CHGLICCRQA)コマンドは、変更要求記述のライセンス・キーの配布活動を変更します。

現在の活動情報を表示するためにプロンプト一時変更プログラムが提供されます。

制約事項:

1. このコマンドは共通*EXCLUDE権限付きで出荷されます。
2. ユーザーには、変更要求記述オブジェクトに対する*CHANGE権限、およびライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
3. 活動を変更するユーザーは、操作するオブジェクトに対する権限を認可されている必要はありません。
4. ノード・リスト(NODL)値を指定する場合は、ノード・リストに入れることができるのはアドレス・タイプの値が*SNAになっている項目だけです。
5. ライセンス・キー情報は、変更要求にライセンス活動を追加する時にライセンス・リポジトリに存在する必要はありませんが、活動の実行時までには存在していなければなりません。

注:

1. 活動を実行する前にすべての条件が満たされなければなりません。
2. 開始時刻は、活動を開始できる時点を示します。実際の開始時刻は、ネットワークおよびシステムの遅延が原因で、これより後になることがあります。
3. 指定したプロダクトのライセンス・キー情報が入っている中央側ライセンス・リポジトリ内の既存のすべてのレコードが、指定した管理下の1つまたは複数のシステムに送られます。管理下のシステムのライセンス・リポジトリに追加されるのは、システム製造番号と一致するものだけです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CRQD	変更要求記述	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: 変更要求記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ACTIV-ITY	活動	名前, *LAST	必須, キー, 定位置 2
ACTION	処置	*SAME, *SND	オプション, 定位置 3
PRDID	プロダクトID	文字値, *SAME, *ALL	オプション, 定位置 4
LICTRM	ライセンス条件	文字値, *SAME, *ALL	オプション, 定位置 5

キーワード	記述	選択項目	ノート
NODL	管理下のシステム・ノード・リスト	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード・リスト	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点	通信名	
TEXT	テキスト '記述'	文字値, *SAME, *GEN, *BLANK	オプション
COND	活動条件	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 活動	総称名, 名前, *PRV	
	要素 2: 関係演算子	*EQ, *GT, *LT, *LE, *NE, *GE	
	要素 3: 終了コード	0-99, *SUCCESS, *FAIL, *NOTRUN, *ANY	
	要素 4: 条件モード	*ALLNODES, *SAMENODE	
STRTIME	活動開始時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *SAME, *CURRENT	
	要素 2: 日付	日付, *SAME, *CURRENT, *NEXT	
	要素 2: 以前に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *SAME, *ANY, *CURRENT	
	要素 2: 日付	日付, *SAME, *ANY, *CURRENT, *NEXT	
HOLD	活動の保留	*SAME, *NO, *YES	オプション

上

変更要求記述 (CRQD)

変更要求記述オブジェクト名。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザーおよびシステム部分にあるすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

このパラメーターに指定したライブラリーだけが検索されます。

変更要求記述に使用できる値は次の通りです。

変更要求記述

変更要求記述オブジェクトの名前。

上

活動 (ACTIVITY)

変更要求記述で変更する活動の名前。

***LAST**

活動は変更要求で最後に実行されます。変更要求記述に存在できる*LASTを指定した活動は1つだけです。

活動名 10文字の活動名。

上

処置 (ACTION)

実行されるライセンス配布機能。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***SND** 指定したプロダクトおよびライセンス条件のライセンス・キーを指定の管理下のシステムに送信します。

上

プロダクトID (PRDID)

ライセンス・キー情報を配布するプロダクトの7桁のIDを指定してください。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***ALL** 中央側ライセンス・リポジトリに存在するすべてのプロダクトのライセンス・キーが配布されます。

プロダクトID

ライセンス・キー情報が配布されるプロダクトの7桁のIDを指定します。

上

ライセンス条件 (LICTRM)

ライセンス・キー情報が送信されるライセンス条項を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***ALL** 見つかったすべてのライセンス条項のプロダクト・ライセンスが送信されます。

ライセンス条件

ライセンス条件を次の形式のいずれかで指定します。

VX 認可された使用限界が、プロダクトまたはフィーチャーの全バージョンに有効です。

VXRY 認可された使用限界が、プロダクトまたはフィーチャーの全リリースに有効です。

VXRYMZ

認可された使用限界は、プロダクトのモディフィケーションだけに有効です。

この場合に、XおよびYには0から9の数字、Zには0から9の数字またはAからZの文字を使用できません。

上

管理下のシステム・ノード・リスト (NODL)

要求の宛先であるシステムのリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名。制御点名(CPNAME)パラメーターも指定されている場合には指定することができません。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

この活動を実行するシステムは、ノード・リストで識別されません。個々の制御点名を指定しなければなりません。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーでノード・リスト・オブジェクトが検索されます。

***CURLIB**

ノード・リスト・オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

このキーワードで指定されたライブラリーだけが検索されます。

ノード・リスト名に使用できる値は、次の通りです。

ノード・リスト名

コマンドを実行するシステムのリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名。

上

管理下のシステム・ノード名 (CPNAME)

この活動を実行する管理下のシステムのAPPN制御点名。ノード・リスト(NODL)パラメーターが指定されていると、制御点名は指定できません。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

この活動を実行するシステムは個々に識別されません。ノード・リストを指定しなければなりません。

***NETATR**

ローカル・システムのネットワークIDが使用されます。これは、指定されるノードがローカル・システムと同じネットワーク内にある時に役立ちます。

ネットワークID

活動を実行する管理下のシステムのAPPNネットワークID。これは、長さが8桁の文字フィールドです。

制御点名

活動を実行する管理下のシステムのAPPN制御点名。これは、長さが8桁の文字フィールドです。

上

テキスト '記述' (TEXT)

活動記述を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***GEN** テキスト記述は、選択した処置に基づいて生成されます。

テキスト記述

50桁の活動の記述を指定してください。

上

活動条件 (COND)

この活動を実行する前に満たされていなければならない条件を指定します。それぞれの条件は、この活動の前に実行しなければならない活動と、その活動の実行を可能にするためにその活動の終了コードが持たなければならない値を示します。省略時の条件は、前（アルファベット順）の活動が正常に完了していなければこの活動を実行できないというものです。

指定できる単一値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

この活動に条件はありません。

条件づけ活動として考えられる値は次の通りです。

これは、この活動の前に実行しなければならない活動です。

***PRV** この活動は前の活動で条件づけされます。活動は、活動名のアルファベット順に順序づけられます。追加される活動が最初の活動である場合には、前の活動は存在しないので、*PRVの条件は満たされたものとしてマークが付けられます。

条件付け活動名

この活動の前に実行されていなければならない活動の名前を指定してください。活動(ACTIVITY)パラメーターに指定した活動名は、条件付け活動名に指定することはできません。活動をそれ自体に条件付けることはできません。

総称*条件付け活動名

この活動の前に実行しなければならない活動の総称名を指定してください。

指定できる関係演算子の値は次の通りです。

この要素は、条件づけ活動の終了コードと比較する時に使用する関係演算子です。

- *EQ 等しい
- *GT より大
- *LT より小
- *NE 等しくない
- *GE 大きいか等しい
- *LE 小さいか等しい

考えられる条件コードの結果は次の通りです。

*SUCCESS

活動は正常に終了しました(0 <=終了コード<= 9)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

*FAIL 活動は正常に実行されませんでした(10 <=終了コード<= 89)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

*NOTRUN

活動は開始されませんでした(90 <=終了コード<= 99)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

*ANY 活動は任意の終了コードで終了しました。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQの時だけです。

終了コード

活動の結果（成功または障害）を示す整数値(0から99)を指定します。変更要求管理機能で使用され、アプリケーションで推奨される終了コードは次の通りです。

- 00 活動は正常に完了した。
- 01-09 活動は警告メッセージ付きで完了した。
- 10-29 活動は正常に完了しなかった。
- 30-39 活動は完了する前にユーザーによって取り消された。
 - 30 =活動は*CNTRLDオプションによって終了された。
 - 35 =活動は*IMMEDオプションによって終了された。
 - 39 =活動は*FRCFAILオプションによって終了された。
- 40-49 アプリケーションがエラーを検出したので、活動は実行されなかった。
 - 40 =機密保護上の理由から、活動は実行されなかった。
- 90-99 条件またはスケジュールが満たされなかったため、活動は実行されなかった。

- 95 =スケジュールされた開始時刻を経過した。
- 99 =条件を満たすことができない。

使用できる条件モードの値は次の通りです。

条件モードは、この活動を実行する前に条件活動を完了していなければならないシステムを示します。

***ALLNODES**

指定した条件活動は、この活動を実行するまでにすべてのノードで完了していなければなりません。

***SAMENODE**

所定のノードにおいて指定の条件活動が完了されると、他のすべてのノードにおいて指定の条件活動が完了していない場合であっても、それと同じノードにおいてACTIVITYパラメーターで指定した活動を実行できます。この活動が条件付け活動にないノードをリストしている場合には、この活動をそのノードで実行することができ、その条件は無視されます。

考えられる値は次の通りです。

上

活動開始時刻 (STRTIME)

この活動を中央側システムで開始できる日付および時刻を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は、変更要求が投入された時に決定されます。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***CURRENT**

この活動は、変更要求が投入された時点以後の任意の時点で開始できます。

時刻以後開始

この活動を開始できる時刻を指定します。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***CURRENT**

この活動は、変更要求の投入日またはそれ以降の日付に開始できます。

***NEXT**

この活動は、変更要求の投入日より後の任意の日付に開始できます。

日付以後開始

その日付以後にこの活動を開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

時刻以前開始として考えられる値は次の通りです。

日付以前開始が*ANYの場合には、この要素は無視されます。

***SAME**

値は変更されません。

***ANY** この活動は、日付以前開始以前の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は、日付以前開始要素で指定された日の変更要求が投入された時刻より前に開始されなければなりません。

時刻以前開始

その時刻の前に活動を開始しなければならない時刻を指定してください。この時刻の前に活動を開始できない場合には、その活動は開始されません。時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力することができます。この場合に、HHは時間、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以前開始として考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***ANY** 活動は、時刻以後開始および日付以後開始より後の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は変更要求の投入日に開始しなければなりません。

***NEXT**

活動は変更要求の投入日の翌日までに開始しなければなりません。

日付以前開始

その日付の前に活動を開始しなければならない日付を指定します。この日付までに活動を開始できない場合には、活動は開始されません。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

上

活動の保留 (HOLD)

変更要求の投入時に活動を保留するように指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** 活動は保留されず、すべての条件が満たされた時に実行されます。

***YES** 活動は変更要求の投入時にすべてのノードに対して保留されます。実行する前にユーザーが保留解除しなければなりません。

上

例

例1: 送信する活動の変更

```
CHGLICCRQA  CRQD(MYLIB/CR1) ACTIVITY(ACT01) ACTION(*SND)
              PRDID(1ACCOUN) LICTRM(V5R4M0)
              CPNAME((*NETATR SYS1))
```

V5R4M0のライセンス条件で、1ACCOUNプロダクトのライセンスをiSeriesサーバーSYS1のライセンス・リポジトリに送信する活動を変更します。1ACCOUNプロダクトが管理下のシステムに導入された場合は、そのライセンスも活動化されます。

上

エラー・メッセージ

なし

上

オブジェクトCRQ活動の変更 (CHGOBJCRQA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト変更要求活動変更(CHGOBJCRQA)コマンドは、変更要求記述のオブジェクト配布活動を変更します。この活動の中で参照されるオブジェクトは、I5/OSオブジェクト名やグローバル名で識別されるI5/OSオブジェクト、またはグローバル名で識別されるPS/2ファイルなどの非I5/OSオブジェクトとすることができます。

この活動は、他の1つまたは複数の活動が（正常または異常に）完了された後でなければ実行されないように条件づけることができます。また、活動が将来の日付および時刻に実行されるようにスケジュールすることもできます。

制約事項:

1. 変更要求記述に対する*CHANGE権限とライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
2. オブジェクトはI5/OSオブジェクト名またはグローバル名を使用して指定することができますが、この両方を使用することはできません。
3. グローバル名は、最大65 -N文字の長さになります。ここで、Nはトークンの数です。最大10個のトークンを指定できます。
4. 実行できるのは、CLやREXXなどのI5/OSプログラム・オブジェクトまたはファイル・メンバーだけです。
5. 配布されるオブジェクトをQTEMPライブラリーに入れることはできません。
6. ノード・リスト(NODL)値を指定する場合は、ノード・リストに入れることができるのはアドレス・タイプの値が*SNAになっている項目だけです。

注:

以下の注は、コマンドがどのように働くかを説明しています。

1. 活動を追加する場合には、処理するオブジェクトに対して認可されている必要はありません。変更要求を投入する場合には、処理するオブジェクトに対して権限を認可されていなければなりません。
2. 送信されるか、あるいは検索される時に、オブジェクトの保管/復元ヒストリーは更新されません。
3. ライブラリー(*LIB)が送信または検索される時に、活動メッセージ待ち行列は保管されません。
4. 活動を実行する前にすべての条件が満たされなければなりません。
5. 開始時刻は、活動を開始できる時点を示します。実際の開始時刻は、ネットワークおよびシステムの遅延のためにこれより遅くなることがあります。
6. グローバル名を使用する場合には、配布カタログ項目追加(ADDDSTCLGE)コマンドを使用してオブジェクトが入っているかまたは保管される場所を示すことができます。
7. 活動に指定されたオブジェクトに対する権限は、その活動が実行されるまで検査されません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CRQD	変更要求記述	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: 変更要求記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ACTIVITY	活動	名前, *LAST	必須, キー, 定位置 2
ACTION	処置	*SND, *RTV, *DLT, *RUN, *SNDRUN, *INS, *SNDINS, *UNINS, *SAME	オプション
OBJ	オブジェクト	単一値: *GLOBAL, *COMPNAME, *SAME その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプション
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
GLBNAME	グローバル名	単一値: *SAME その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グローバル名トークン1	文字値, *NETID, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 2: グローバル名トークン2	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 3: グローバル名トークン3	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 4: グローバル名トークン4	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 5: グローバル名トークン5	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 6: グローバル名トークン6	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 7: グローバル名トークン7	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 8: グローバル名トークン8	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 9: グローバル名トークン9	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
要素 10: グローバル名トークン10	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME		
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	文字値, *SAME	オプション
MBR	メンバー	名前, *FIRST, *LAST, *ALL, *SAME	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
DATATYPE	データ・タイプ	*UNSPEC, *CL, *REXX, <u>*SAME</u>	オプション
COMPNAME	構成要素名	単一値: <u>*SAME</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 構成要素名トークン1	文字値, *NETID	
	要素 2: 構成要素名トークン2	文字値, *NETID, *CPNAME	
	要素 3: 構成要素名トークン3	文字値, *NETID, *CPNAME	
	要素 4: 構成要素名トークン4	文字値, *NETID, *CPNAME	
	要素 5: 構成要素名トークン5	文字値, *NETID, *CPNAME	
	要素 6: 構成要素名トークン6	文字値, *NETID, *CPNAME	
要素 7: 構成要素名トークン7	文字値, *NETID, *CPNAME		
REFLVL	最新表示レベル	文字値, <u>*SAME</u> , *ALL	オプション
NODL	管理下のシステム・ノード・リスト	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード・リスト	単一値: *NONE, <u>*SAME</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	単一値: *NONE, <u>*SAME</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点	文字値	
TGTRLS	ターゲット・リリース	*CURRENT, *PRV, V5R3M0, V5R4M0, V6R1M0, <u>*SAME</u>	オプション
REPLACE	オブジェクトの置き換え	*NO, *YES, <u>*SAME</u>	オプション
DTACPR	データ圧縮	*SNA, *NONE, <u>*SAME</u>	オプション
KEEPCLGE	カタログ項目の保存	*YES, *NO, <u>*SAME</u>	オプション
PARM	パラメーター	値 (最大 20 回の繰り返し): 無制限	オプション
RMTSTRTIME	管理下のシステムの開始時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 時間帯	*LCLSYS, *MGDSYS, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *CURRENT, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 日付	日付, *CURRENT, *NEXT, <u>*SAME</u>	
TEXT	テキスト '記述'	文字値, *GEN, *BLANK, <u>*SAME</u>	オプション
COND	活動条件	単一値: *NONE, <u>*SAME</u> その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 活動	総称名, 名前, <u>*PRV</u>	
	要素 2: 関係演算子	<u>*EQ</u> , *GT, *LT, *LE, *NE, *GE	
	要素 3: 終了コード	0-99, <u>*SUCCESS</u> , *FAIL, *NOTRUN, *ANY	
	要素 4: 条件モード	<u>*ALLNODES</u> , *SAMENODE	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
STRTIME	活動開始時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *CURRENT, *SAME	
	要素 2: 日付	日付, *CURRENT, *NEXT, *SAME	
	要素 2: 以前に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *ANY, *CURRENT, *SAME	
	要素 2: 日付	日付, *ANY, *CURRENT, *NEXT, *SAME	
HOLD	活動の保留	*NO, *YES, *SAME	オプション

上

変更要求記述 (CRQD)

変更要求記述オブジェクト名を指定します。CRQDは必須パラメーターです。

ライブラリーとして考えられる値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

このパラメーターで指定したライブラリーだけが検索されるように指定します。

考えられる値は次の通りです。

変更要求記述

変更要求記述オブジェクトの名前を指定します。

上

活動 (ACTIVITY)

変更要求記述で変更する活動の名前を指定します。

*LAST

活動は変更要求で最後に実行されます。活動(ACTIVITY)パラメーターに*LASTを指定すると、条件(COND)パラメーターおよび開始時刻(STRTIME)パラメーターは指定できません。変更要求記述に存在できる*LASTを指定した活動は1つだけです。

活動名 10桁の活動名を指定します。

上

処置 (ACTION)

実行するオブジェクト配布機能を指定します。

*SAME

値は変更されません。

***SND** 指定したオブジェクトを指定した1つまたは複数の管理下のシステムに送ります。

***RTV** 指定した1つまたは複数の管理下のシステムから指定したオブジェクトを検索します。複数のシステムからオブジェクトを検索するためには、検索されるそれぞれのオブジェクトが1個の固有のグローバル名を持つように、*ANYトークンを持つグローバル名が必要です。トークンを指定しないグローバル名(*ALL, *HIGHEST,または*LOWEST)は検索時に配布リポジトリに保管されます。

***DLT** 指定した1つまたは複数のシステムの指定したオブジェクトを削除します。

***RUN** 指定した1つまたは複数のシステムで指定したプログラムを実行します。CL入力ストリームまたはREXXプロシージャが入っているI5/OSプログラム・オブジェクト(*PGM), REXXプログラム, またはファイル・メンバーはISERIESの管理下のシステムで実行することができます。

***SNDRUN**

指定したプログラムを送って指定した1つまたは複数のシステムで実行します。送られたプログラムは完了時に削除されます。

***INS** 指定したプログラムを指定した1つまたは複数の管理下のシステムに送信し、そこで実行します。導入できるのは導入可能オブジェクトだけです。

***SNDINS**

すでに指定した1つまたは複数の管理下のシステムで導入のためにパッケージ化されているオブジェクトを送信し、そのオブジェクトを導入します。グローバル名で識別されるオブジェクトだけを導入することができます。

***UNINS**

指定した1つまたは複数の管理下のシステムで導入されているオブジェクトを除去します。グローバル名で識別されたオブジェクトだけが削除可能です。

上

オブジェクト (OBJ)

実行, 送信, 検索, あるいは削除されるオブジェクトの名前を指定します。送信および検索処置の場合には、オブジェクト名は中央側システムと管理下のシステムの両方のオブジェクト名を表します。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

***GLOBAL**

オブジェクトはGLBNAMEパラメーターで指定されたグローバル名によって識別されます。

使用できるライブラリーの値は次のいずれかです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

このパラメーターに指定したライブラリーだけが検索されることを指定します。

使用できるオブジェクト名の値は次の通りです。

オブジェクト名

オブジェクト名を指定します。オブジェクト名に使用できる文字はAからZ, 0から9,ドル記号（または円記号），単価記号，および番号記号だけです。

上

グローバル名 (GLBNAME)

SNAネットワーク内のオブジェクトを固有に識別する一連のトークンであるグローバル名を指定します。グローバル名は、中央側システムと管理下のシステムの両方で該当するカタログ項目を見つけるために使用される名前を表します。カタログ項目は、そのシステムで使用されるオブジェクトを指定します。例えば、検索処置が指定されている場合には、管理下のシステムで検索されるオブジェクトを判別するためにグローバル名が使用されます。また、グローバル名は中央側システムでそのオブジェクトが保管される場所も示します。

トークン桁の特殊値は、オブジェクトの検索方法を指示します。トークン位置に*ANYを指定すると、正しいオブジェクトの検索時にトークンは無視されます。指定したトークンと一致する複数のオブジェクトが見つかった場合には、エラーが戻されます。

オブジェクトが送信される場合には、ローカル・オブジェクト名と関連づけるかあるいは配布リポジトリーにロードされるように、グローバル名がカタログ中になければなりません。検索されたカタログ項目が存在しないオブジェクトは、配布リポジトリーに入れられます。オブジェクト名が*GLOBAL以外の場合には、GLBNAMEパラメーターは無視されます。

ACTION値が*UNINSである時には、GLBNAMEパラメーターは無効です。OBJが*GLOBALで、グローバル名が導入可能オブジェクトにマップされている場合には、グローバル名は次の構造になっていなければなりません。

構成要素名REF再生成レベル

この例では次のようになっています。

- 構成要素名は、REF値をもつトークンの前のトークンです。これは、導入可能オブジェクトというオブジェクトを互いに区別するために使用されます。構成要素は1から7のトークンとすることができます。
- REFトークンは、グローバル名を導入可能オブジェクトとして識別するために必要です。このグローバル名を指定できるのは、2から8のオブジェクトからだけです。
- 再生成レベルは、数値をもつトークンです。再生成レベルは、導入可能オブジェクトのレベルを示し、REF値をもつトークンの後になければなりません。

使用できる単一の値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

要素1: トークン1

*NETID

このシステムのネットワークIDが使用されます。ネットワークIDは、LCLNETIDネットワーク属性値の現在の値によって判別されます。

グローバル名トークン

グローバル名の最初のトークンを指定します。最初のトークンの推奨値は、登録された企業IDまたはネットワークIDです。

要素2から10: トークン2から10

***ANY** 処置を実行するオブジェクトを検索する時に突き合わされる任意のトークン値。これは、オブジェクトの検索時に、グローバル名のトークンの一部が不明かあるいはシステムごとに異なる場合に役立ちます。

*HIGHEST

トークンの値が最大であるオブジェクトに処置が実行されます。トークンは順序づけする必要があります。これは、オブジェクトの別のバージョンを示すためにグローバル名のトークンを使用していて、バージョン・レベルが最大のオブジェクトを処理する必要がある場合に役立ちます。

*LOWEST

トークンの値が最小であるオブジェクトに処置が実行されます。トークンは順序づけする必要があります。これは、オブジェクトの別のバージョンを示すためにグローバル名のトークンを使用していて、バージョン・レベルが最も低いオブジェクトを処理する必要がある場合に役立ちます。

*NETID

このシステムのネットワークIDが使用されます。ネットワークIDは、LCLNETIDネットワーク属性値の現在の値によって判別されます。

*CPNAME

このシステムの制御点名が使用されます。制御点名は、LCLCPNAMEネットワーク属性値の現在の値によって判別されます。

*SERVER

このトークンは変更要求活動内に&SERVERの値で記憶され、オブジェクトの配布時に変更制御サーバーの短縮名によって置き換えられます。

*TARGET

このトークンは変更要求活動内に&TARGETの値で記憶され、オブジェクトの配布時にターゲットの短縮名によって置き換えられます。

*MDDATE

このトークンは値&DATEによって変更要求活動に記憶され、配布時にはオブジェクトが最後に変更された日付によって置き換えられます。

*MDTIME

このトークンは、値&TIMEによって変更要求活動に記憶され、配布される時にオブジェクトが最後に変更された時刻によって置き換えられます。

注: 変更制御サーバー・サポートの詳細については、分散管理AS/400用の使用を参照してください。

グローバル名トークン

処置が実行されるオブジェクトを固有に識別する一連の1から16桁のトークンの1つを指定します。使用できる文字はAからZおよび0から9です。ネットワークIDおよびシステム名を表すトークンには、その他の特殊値(@, #,および¥)を使用できます。

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

オブジェクト・タイプを指定します。グローバル名を使用している場合には無視されます。

*SAME

値は変更されません。

***FILEDATA**

ファイル・メンバーはファイル属性なしで転送する必要があります。これは、ISERIESシステムとISERIES以外のシステムとの間のファイルの転送に使用されます。*FILEオブジェクト・タイプは、ファイル属性を保存するためにISERIESシステムで使用できます。

オブジェクト・タイプ

I5/OSのオブジェクト・タイプを指定します。

メンバー (MBR)

物理ファイル・メンバー名を指定します。オブジェクト・タイプが*FILEまたは*FILEDATAでない場合には無視されます。

*SAME

値は変更されません。

***ALL** 処置は、物理ファイル内のすべてのメンバーに実行する必要があります。オブジェクト・タイプは*FILEでなければなりません。メンバー（装置ファイルなど）をもたないファイル・タイプには*ALLを使用しなければなりません。処置が*SNDRUNまたは*RUN,あるいは*RUN処置の*FIRSTおよび*LASTの場合には、*ALLは使用できません。

***FIRST**

処置は、物理ファイルの最初のメンバー（追加された日付による）に実行する必要があります。メンバー名は活動の実行時に決定されます。

***LAST**

処置は、物理ファイルの最後のメンバー（追加された日付による）に実行する必要があります。メンバー名は活動の実行時に決定されます。

メンバー名

処置を実行する必要があるメンバー名を指定してください。

データ・タイプ (DATATYPE)

メンバーのデータ・タイプを指定します。これは、管理下のシステムで実行されるソース・ファイルのタイプの指定に使用されます。ファイルが送信または実行されない場合には、このパラメーターは無視されます。

*SAME

値は変更されません。

*UNSPEC

未指定のファイル・メンバー・タイプ。データ・タイプを管理下のシステムで判別できない場合、あるいはこのメンバーが入っているファイルの名前がQCLSRCであった場合には、ファイル・メンバーはCLバッチ入カストリームとして取り扱われます。ソース・ファイルの名前がQREXSRCである場合には、ファイル・メンバーはREXXプロシージャーとして取り扱われます。

*CL 制御言語（すなわち、CLバッチ入カストリーム）が入っているファイル・メンバー。

*REXX

REXXプロシージャーが入っているファイル・メンバー。

上

構成要素名 (COMPNAME)

REFトークンに先行するグローバル名のトークンのセットである構成要素名。これは、*UNINS処置が活動を行なうオブジェクトです。COMPNAMEが有効となるのは、ACTION(*UNINS)およびOBJ(*COMPNAME)が指定されている場合だけです。

使用できる単一の値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

要素1: トークン1

*NETID

このシステムのネットワークIDが使用されます。ネットワークIDは、LCLNETIDネットワーク属性値の現在の値によって判別されます。

構成要素名トークン

処置を実行するオブジェクトを固有に識別する一連の1から16桁のトークンの1つ。使用できる文字はAからZおよび0から9です。ネットワークIDおよびシステム名を表すトークンには、その他の特殊値(@, #, および¥)を使用できます。

要素2から7: トークン2から7

*NETID

このシステムのネットワークIDが使用されます。ネットワークIDは、LCLNETIDネットワーク属性値の現在の値によって判別されます。

*CPNAME

このシステムの制御点名が使用されます。ネットワークIDは、LCLCPNAMEネットワーク属性値の現在の値によって判別されます。

構成要素名トークン

処置を実行するオブジェクトを固有に識別する一連の1から16桁のトークンの1つ。使用できる文字はAからZおよび0から9です。ネットワークIDおよびシステム名を表すトークンには、その他の特殊値(@, #, および¥)を使用できます。

上

最新表示レベル (RFRLVL)

最新表示レベルは、導入解除する導入可能オブジェクトのレベルです。REFLVLが有効となるのは、ACTION(*UNINS)およびOBJ(*COMPNAME)が指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

***ALL** 別のラベルの導入可能なすべてのオブジェクトが導入解除されます。

最新表示レベル

導入解除する導入可能オブジェクトのレベルを指定してください。このレベルは最大16桁までの数値です。

上

管理下のシステム・ノード・リスト (NODL)

ノード・リスト・パラメーターはこの活動の宛先であるシステムのリストが入っているオブジェクト名であることを指定します。このパラメーターは、制御点名(CPNAME)パラメーターも指定されている場合には指定できません。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

***NONE**

この活動を実行するシステムは、ノード・リストによって指定されません。個々の制御点名を指定しなければなりません。

使用できるライブラリーの値は次のいずれかです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーでノード・リスト・オブジェクトが検索されます。

***CURLIB**

ノード・リスト・オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定します。

使用できるノード・リスト名の値は次の通りです。

ノード・リスト名

活動を実行するシステムのリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名を指定します。

上

管理下のシステム・ノード名 (CPNAME)

この活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。ノード・リストが指定されている場合には、制御点名は指定できません。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

この活動を実行するシステムは個々に識別されません。ノード・リストを指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***NETATR**

ローカル・システムのネットワークIDが使用されます。これは、指定されるノードがローカル・システムと同じネットワーク内にある時に役立ちます。

ネットワークID

活動が実行される管理下のシステムのAPPNネットワークIDを指定します。

使用できる制御点名の値は次の通りです。

制御点名

活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。NETVIEW分散管理エージェントの場合の制御点名は、他のプラットフォームで有効な制御点名の先頭の位置に数字(0から9)をサポートする変更制御クライアントです。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

オブジェクトを使用しようとしているオペレーティング・システムのリリースを指定します。SYSTEMVIEW配布リポジトリにあるグローバル名付きオブジェクトの場合、あるいは送信または検索以外の処置の場合には、このパラメーターは無視されます。

***SAME**

値は変更されません。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在システムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。システムでV6R1M0が実行中の場合には、*CURRENTはV6R1M0を導入したシステム上でオブジェクトを使用することを意味します。オブジェクトは、これより後のオペレーティング・システムが導入されているシステムでも使用できます。

***PRV** オブジェクトはローカル・システムと比較して前のリリース・レベルのシステム用です。

注：モディフィケーション・レベルはサポートされていません。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRXXMXの形式で指定します。オブジェクトは、オペレーティング・システムの指定したリリースまたはそれより後のリリースを導入しているシステムで使用されます。

有効な値は、現行のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、新しいリリースごとに変わります。

上

オブジェクトの置き換え (REPLACE)

すでにオブジェクトが存在している場合に置き換えるかどうかを指定します。このパラメーターは、送信、送信して実行、あるいは検索以外の処置では無視されます。

*SAME

値は変更されません。

***NO** オブジェクトがすでに存在する場合にはエラーが戻されます。

***YES** すでに存在している場合にはオブジェクトが置き換えられます。

上

データ圧縮 (DTACPR)

送信時または受信時にデータを圧縮するかどうかを指定します。このパラメーターは、*FILEDATAオブジェクト・タイプの*SND、*SNDRUN、および*RTV以外の処置では無視されます。ブランクの基本圧縮文字によるSNA圧縮が実行されます。

*SAME

値は変更されません。

***NONE**

送信時または検索時にファイル・データは圧縮されません。

***SNA** 送信時または検索時にファイル・データが圧縮されます。

グローバル名を付けたオブジェクトが配布カタログに追加される (ADDDSTCLGEコマンド) 時には、圧縮情報も指定することができます。

上

カタログ項目の保存 (KEEPCLGE)

導入可能オブジェクトに対応するカタログ項目および関連保管ファイルを指定した1つまたは複数のシステムに保管するかどうかを指定します。KEEPCLGEパラメーターが有効となるのは、ACTION(*SNDINS)またはACTION(*INS)が指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

***NO** カタログ項目および関連づけられた保管ファイルは保管されません。

***YES** カタログ項目および関連づけられた保管ファイルが保管されます。

上

パラメーター (PARM)

プログラムの開始時に渡されるパラメーターを指定します。処置が*RUNまたは*SNDRUN以外の場合には無視されます。最大20個のパラメーターを指定できます。

*SAME

値は変更されません。

パラメーター

1-253桁のパラメーターを指定してください。プロンプト・パネルでは最初に50桁を入力できます。1桁目にアンパーサンド(&)を入力すると、フィールドはさらに大きなパラメーター用に拡張されます。

上

管理下のシステムの開始時刻 (RMTSTRTIME)

この活動が管理下のシステムで実行を開始できる日付および時刻を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は、中央側の日付および時刻に基づいて中央側システムで活動が実行を開始する時に決定されます。

リモート開始時刻の時間帯として考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*LCLSYS

リモート開始時刻は、中央側システムの時間帯で指定されます。

*MGDSYS

リモート開始時刻は、管理下のシステム側の時間帯で指定されます。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

これは、その時刻の後に活動を開始する時刻の定義です。

*SAME

値は変更されません。

*CURRENT

この機能は、要素2で指定された日に中央側システムでこの活動が開始された時刻以後の任意の時刻に、管理下のシステムで開始できます。

時刻以後開始

この機能を管理下のシステムで開始できる時刻を指定します。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻は、時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*CURRENT

この機能は、中央側システムで活動が開始された日付またはそれ以後の任意の日に管理下のシステムで開始されます。

*NEXT

この機能は、中央側システムで活動が開始された日付より後の任意の日に管理下のシステムで開始されます。

日付以後開始

この機能を管理下のシステムで開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

注：

1. 時間帯の値*MGDSYSが指定されている場合には、日付および時刻に特殊値*CURRENTおよび*NEXTが指定されます。
2. このパラメーターを指定できるのは、*RUNまたは*SNDRUN処置が指定されている場合だけです。

上

テキスト '記述' (TEXT)

活動記述を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*GEN 記述は、選択された処置に基づいて生成されます。

テキスト記述

50桁の活動の記述を指定してください。

上

活動条件 (COND)

この活動を実行する前に満たされていなければならない条件を指定します。それぞれの条件はこの活動の前に実行する必要がある活動を識別し、その活動からの終了コードでこの活動を実行できなければならない値を識別します。省略時の条件は、前（アルファベット順）の活動が正常に完了していなければこの活動を実行できないというものです。

指定できる単一値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

この活動に条件はありません。

条件づけ活動として考えられる値は次の通りです。

*PRV この活動は前の活動で条件づけされます。活動は、活動名のアルファベット順に順序づけられます。追加される活動が最初の活動である場合には、前の活動は存在しないので、*PRVの条件は満たされたものとしてマークが付けられます。

条件付け活動名

この活動の前に実行しなければならない活動の名前を指定します。活動(ACTIVITY)パラメーターに指定した活動名は、条件付け活動名に指定することはできません。活動をそれ自体に条件付けることはできません。

総称*活動名

この活動の前に実行しなければならない活動の総称名を指定します。

指定できる関係演算子の値は次の通りです。

この要素は、活動からの終了コードを比較する時に使用する関係演算子です。

- *EQ 等しい
- *GT より大
- *LT より小
- *NE 等しくない
- *GE 大きいか等しい
- *LE 小さいか等しい

条件コードとして考えられる値は次の通りです。

この要素は、条件づけ活動の実際の終了コードと比較される値です。

*SUCCESS

活動は正常に終了しました(0 <=終了コード<= 9)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

*FAIL 活動は正常に実行されませんでした(10 <=終了コード<= 89)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

*NOTRUN

活動は開始されませんでした(90 <=終了コード<= 99)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

*ANY 活動は任意の終了コードで終了しました。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQの時だけです。

終了コード

活動の結果（成功または障害）を示す整数値(0から99)を指定します。終了コードの範囲および説明は次の通りです。

- 00** 活動は正常に完了した。
- 01-09** 活動は警告メッセージ付きで完了した。
- 10-29** 活動は正常に完了しなかった。
- 30-39** 活動は完了する前にユーザーによって取り消された。
 - 30 =活動は*CNTRLDオプションによって終了された。
 - 35 =活動は*IMMEDオプションによって終了された。
 - 39 =活動は*FRCFAILオプションによって終了された。
- 40-49** アプリケーションがエラーを検出したので、活動は実行されなかった。
 - 40 =機密保護上の理由から、活動は実行されなかった。
- 90-99** 条件またはスケジュールが満たされなかったので、活動は実行されなかった。
 - 95 =スケジュールされた開始時刻を経過した。
 - 99 =条件を満たすことができない。

条件モードとして考えられる値は次の通りです。

この要素は、この活動を実行する前に条件づけ活動が完了していなければならないシステムを示します。

***ALLNODES**

指定した条件づけ活動は、この活動を実行する前にすべてのノードで完了していなければなりません。

***SAMENODE**

指定のノードで指定した条件づけ活動が完了している場合には、指定した条件づけ活動を他のすべてのノードで完了できていない場合であっても、ACTIVITYパラメーターで指定して活動は同じノードで実行できます。この活動をそのノードで実行できる場合には、その条件は無視されます。

上

活動開始時刻 (STRTIME)

この活動を中央側システムで開始できる日付および時刻を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は変更要求の投入時に決定されます。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***CURRENT**

この活動は、変更要求の投入時刻またはそれ以降の任意の時刻に開始できます。

時刻以後開始

この活動を開始できる時刻を指定します。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***CURRENT**

この活動は、変更要求の投入日またはそれ以降の日付に開始できます。

***NEXT**

この活動は、変更要求の投入日より後の任意の日付に開始できます。

日付以後開始

その日付以後にこの活動を開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

時刻以前開始として考えられる値は次の通りです。

日付以前開始が*ANYの場合には、この要素は無視されます。

***SAME**

値は変更されません。

***ANY** この活動は、日付以前開始以前の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は、日付以前開始要素で指定された日の変更要求が投入された時刻より前に開始されなければなりません。日付以前開始が*CURRENTの場合には、この値は指定できません。

時刻以前開始

その時刻より前に活動を開始しなければならない時刻を指定します。この時刻の前に活動を開始できない場合には、活動は開始されません。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以前開始として考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***ANY** 活動は、時刻以後開始および日付以後開始より後の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は変更要求の投入日に開始しなければなりません。

***NEXT**

活動は変更要求の投入日の翌日までに開始しなければなりません。

日付以前開始

その日付の前に活動を開始しなければならない日付を指定します。この日付までに活動を開始できない場合には、活動は開始されません。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

上

活動の保留 (HOLD)

変更要求の投入時に活動を保留するように指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** 活動は保留されません。すべての条件および開始時刻が満たされた時に実行されます。

***YES** 活動は変更要求の投入時にすべてのノードに対して保留されます。実行する前に保留解除しなければなりません。

上

例

例1: ジョブ記述の検索

```
CHGOBJCRQA  CRQD(MYLIB/CR1)  ACTIVITY(ACT01)
              ACTION(*RTV)  OBJ(QGPL/QXYZ)
              OBJTYPE(*JOBDD) CPNAME((*NETATR SYS1))
```

このコマンドは、QGPL/QXYZジョブ記述をiSeriesサーバーSYS1から検索する活動を変更します。

例2: ネットワーク内のすべてのシステムへのファイルの送信

```
CHGOBJCRQA  CRQD(MYLIB/CR2)  ACTIVITY(ACT02)
             ACTION(*SND)  OBJ(ACCTLIB/TAXFILE)
             OBJTYPE(*FILE)  TGTRLS(*PRV)  MBR(DEDUCTIONS)
             STRTIME(23:00:00 9/30/06))
             NODL(MYLIB/ACCTSYS)
```

このコマンドは、2006年9月30日の午後11時にACCTSYSノード・リストで識別されたiSeriesアカウントイン
グ・サーバーのすべてに税率表を送信する活動を変更します。アカウントイング・システムは前のリリ
ス・レベルです。

例3: プログラムの検索

```
CHGOBJCRQA  CRQD(MYLIB/CR3)  ACTIVITY(ACT03)
             ACTION(*RTV)  OBJ(*GLOBAL)
             GLBNAME(CUSTNET PCSOFT WDWAPP VER5 060314)
             CPNAME((CUSTNET DEVPS2))

CHGOBJCRQA  CRQD(MYLIB/CR3)  ACTIVITY(ACT03)
             ACTION(*SND)  OBJ(*GLOBAL)
             GLBNAME(CUSTNET PCSOFT WDWAPP VER5 060314)
             NODL(MYLIB/PS2SE)

CHGOBJCRQA  CRQD(MYLIB/CR3)  ACTIVITY(ACT03)
             ACTION(*RUN)  OBJ(*GLOBAL)
             GLBNAME(CUSTNET PCSOFT WDWAPP VER5 060314)
             COND((*PRV *EQ *SUCCESS *SAMENODE))
             RMTSTRTIME(*MGDSYS (23:00 10/21/06))
             NODL(MYLIB/PS2SE)
```

このコマンドは、PS/2からプログラムを検索し、PS2SEノード・リストのすべてのPS/2にそれを送信して、
PS/2がある場所の時間帯の午後11時にPS/2でこれを実行する活動を変更します。プログラムは2006年10月21
日以降に各PS/2で実行されます。

例4: 午後10時以降のファイルの検索

```
CHGOBJCRQA  CRQD(MYLIB/CR4)  ACTIVITY(ACT04)
             ACTION(*RTV)  OBJ(*GLOBAL)
             GLBNAME(CUSTNET SALES *ANY *HIGHEST)
             STRTIME((22:00:00 *CURRENT)
                    (06:00:00 *NEXT))
             NODL(MYLIB/STORES)
```

このコマンドは、STORESノード・リストで識別された各システムから最新の夜間売上ファイルを検索する
活動を変更します。ファイルはCUSTNET SALESシステム名、作成日としてカタログ処理されます。ファ
イルは、要求が投入された日の午後10時以後で、そのストアをオープンする次の朝の午前6時以前に検索す
る必要があります。

例5: オブジェクトを送信して導入する活動の変更

```
CHGOBJCRQA  CRQD(MYLIB/CR1)  ACTIVITY(ACT01)
             ACTION(*SNDINS)
             TEXT('NEW TEXT FOR CHANGED CRQ')
```

このコマンドは、オブジェクトの送信から、オブジェクトの送信と導入の活動に変更します。また、テキス
トも変更されます。

上

エラー・メッセージ

なし

プロダクトCRQ活動の変更 (CHGPRDCRQA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プロダクトCRQ活動変更(CHGPRDCRQA)コマンドは、変更要求記述のプロダクト配布活動を変更します。

制約事項:

1. このコマンドは共通*EXCLUDE権限付きで出荷されます。
2. 変更要求記述オブジェクトに対する*CHANGE権限とライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
3. 活動を変更する場合には、処理するオブジェクトに対して権限を認可されている必要はありません。変更要求を投入する場合には、変更要求記述に対して権限を認可されていなければなりません。
4. プロダクトは保管ファイルにパッケージされていて、実行時にカタログになければなりません。配布プロダクト・パッケージ(PKGPRDDST)コマンドを使用して、プロダクトをパッケージすることができます。
5. NODL値が指定されている場合にノード・リストに入れることができるのは、アドレス・タイプの値が*SNAの項目だけです。

注:

以下の注は、コマンドがどのように働くかを説明しています。

1. 活動で指定されたプロダクトに対する権限は、その活動が実行されるまで検査されません。
2. 活動を実行する前にすべての条件が満たされなければなりません。
3. 開始時刻は、活動を開始できる時点を示します。実際の開始時刻は、ネットワークおよびシステムの遅延のためにこれより遅くなることがあります。
4. 処置*DLTCLGEはライセンス・プログラムが入っている保管ファイルを削除し、この保管ファイルをマップする配布カタログ項目を削除するだけです。プロダクトは削除されません。
5. 導入後、プロダクトが入っている保管ファイルは削除されません。これは*DLTCLGE処置を使用して実行する必要があります。
6. TGTRLS(*ONLY)を指定した場合には、処置パラメーターは*INS以外の値でなければなりません。
7. プロダクトのライセンス・キーを送信するように要求されている時には、この活動の実行時にこのライセンス・キー情報をもつレコードが中央側のライセンス・リポジトリに存在していなければなりません。
8. 指定したプロダクトのライセンス・キー情報が入っている中央側のライセンス・リポジトリの既存のすべてのレコードが、指定した1つまたは複数の管理下のシステムに送られます。システム製造番号に一致するレコードだけが管理下のシステムのライセンス・リポジトリに追加されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CRQD	変更要求記述	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: 変更要求記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ACTIVITY	活動	名前, *LAST	必須, キー, 定位置 2
ACTION	処置	*SND, *RTV, *DLTCLGE, *INS, *SNDINS, *SAME	オプション, 定位置 3
PRDID	プロダクトID	文字値, *SAME	オプション, 定位置 4
RLS	リリース・レベル	文字値, *ONLY, *SAME	オプション
OPTION	プロダクト・オプション	1-99, *BASE, *SAME	オプション
LODTYPE	プロダクト・ロード・タイプ	*ALL, *CODE, *LNG, *SAME	オプション
LODID	ロードID	2900-2999, *ALL, *CODE, *SAME	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	*CURRENT, *PRV, V5R3M0, V5R4M0, V6R1M0, *ONLY, *SAME	オプション
NODL	管理下のシステム・ノード・リスト	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード・リスト	単一値: *NONE, *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	単一値: *NONE, *SAME その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点	通信名	
KEEPCLGE	カタログ項目の保存	*YES, *NO, *SAME	オプション
SNDLICKEY	ライセンス・キー送信	*YES, *NO, *SAME	オプション
RMTSTRTIME	管理下のシステムの開始時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 時間帯	*LCLSYS, *MGDSYS, *SAME	
	要素 2: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *CURRENT, *SAME	
	要素 2: 日付	日付, *CURRENT, *NEXT, *SAME	
TEXT	テキスト '記述'	文字値, *GEN, *BLANK, *SAME	オプション
COND	活動条件	単一値: *NONE, *SAME その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 活動	総称名, 名前, *PRV	
	要素 2: 関係演算子	*EQ, *GT, *LT, *LE, *NE, *GE	
	要素 3: 終了コード	0-99, *SUCCESS, *FAIL, *NOTRUN, *ANY	
	要素 4: 条件モード	*ALLNODES, *SAMENODE	
STRTIME	活動開始時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *CURRENT, *SAME	
	要素 2: 日付	日付, *CURRENT, *NEXT, *SAME	
	要素 2: 以前に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *ANY, *CURRENT, *SAME	
	要素 2: 日付	日付, *ANY, *CURRENT, *NEXT, *SAME	
HOLD	活動の保留	*NO, *YES, *SAME	オプション

変更要求記述 (CRQD)

変更要求記述オブジェクト名を指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザーおよびシステム部分にあるすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

このパラメーターに指定したライブラリーだけが検索されることを指定します。

変更要求記述

変更要求記述オブジェクトの名前を指定します。

活動 (ACTIVITY)

変更要求記述で変更する活動の名前を指定します。

***LAST**

活動は変更要求で最後に実行されます。変更要求記述に存在できる***LAST**を指定した活動は1つだけです。活動(ACTIVITY)パラメーターに***LAST**を指定すると、条件(COND)パラメーターおよび開始時刻(STRTIME)パラメーターは指定できません。変更要求記述に存在できる***LAST**を指定した活動は1つだけです。

活動名 10桁の活動名を指定します。

処置 (ACTION)

実行するプロダクト配布機能を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***SND** 指定した管理下のシステムにプロダクトを送ります。

***RTV** 指定した管理下のシステムからプロダクトを検索します。

***DLTCLGE**

指定した管理下のシステムからプロダクトのカタログ項目および対応する保管ファイルを削除します。

***INS** 指定した管理下のシステムにプロダクトを導入します。

***SNDINS**

指定のプロダクトを指定した管理下のシステムに送って導入します。

上

プロダクトID (PRDID)

処置を実行するプロダクトの7桁のIDを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

プロダクトID

活動で使用される7桁のプロダクトIDを指定します。

上

リリース・レベル (RLS)

使用されるプロダクトのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

リリースは変更されません。

***ONLY**

システムに導入されているプロダクトのリリース・レベル。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRXYの形式で指定します。ここで、VXはバージョン番号で、MYはモディフィケーション番号です。Xに有効な値は数字0から9です。Yに有効な値は数字の0から9および文字AからZです。

上

プロダクト・オプション (OPTION)

PRDIDパラメーターで指定されたプロダクトのどの任意指定部分を使用されるかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***BASE**

プロダクトの基本部分だけが使用されます。指定できるのは、ACTIONが*SND、*RTV、*INS、および*SNDINSの場合だけです。

プロダクト・オプション番号

使用するプロダクト・ロードのオプション番号を指定します。有効な値の範囲は1から99です。

プロダクト・ロード・タイプ (LODTYPE)

使用されるプロダクト・ロード・オブジェクトを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

***ALL** LODIDパラメーターで指定されたコードおよび言語オブジェクトが使用されます。

***CODE**

このプロダクト・ロードに関連づけられたオブジェクトが使用されます。

***LNG** LODIDパラメーターで識別されるNLVに対応するオブジェクトが使用されます。

ロードID (LODID)

使用されるロードIDを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

***ALL** このプロダクト・オプションのすべての言語が保管されます。

***CODE**

コード・ロードが使用されます。

プロダクト・ロードID

LODTYPE(*LNG)またはLODTYPE(*ALL)が使用される時のプロダクトのロードIDを指定します。
ロードIDは正しいIBM各国語バージョンでなければならず、29XXの形式で指定しなければなりません。Xの値は0から9とすることができます。

ターゲット・リリース (TGTRLS)

プロダクトを使用しようとしているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***ONLY**

リリースは、既存のプロダクトのリリースによって決定されます。この値は、同じプロダクトに複数のリリースが存在する場合には無効です。

***CURRENT**

プロダクトは、現在システムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。

***PRV** プロダクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベル0 の前のリリースで使用されます。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRXXMXの形式で指定してください。プロダクトは、オペレーティング・システムの指定したリリースまたはそれ以後のリリースを導入しているシステムで使用できます。有効な値は現行のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、それぞれ新しいリリースごとに変わることがあります。

上

管理下のシステム・ノード・リスト (NODL)

ノード・リスト・パラメーターはこの活動の宛先であるシステムのリストが入っているオブジェクト名であることを指定します。制御点名(CPNAME)パラメーターも指定されている場合には、このパラメーターを指定することはできません。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

***NONE**

この活動を実行するシステムは、ノード・リストによって指定されません。個々の制御点名を指定しなければなりません。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーでノード・リスト・オブジェクトが検索されます。

***CURLIB**

ノード・リスト・オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定します。

使用できるノード・リスト名の値は次の通りです。

ノード・リスト名

活動を実行するシステムのリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名を指定します。

上

管理下のシステム・ノード名 (CPNAME)

この活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。ノード・リストが指定されている場合には、制御点名は指定できません。

*SAME

値は変更されません。

***NONE**

この活動を実行するシステムは個々に識別されません。ノード・リストを指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***NETATR**

ローカル・システムのネットワークIDが使用されます。これは、指定されるノードがローカル・システムと同じネットワーク内にある時に役立ちます。

ネットワークID

活動が実行される管理下のシステムのAPPNネットワークIDを指定します。

考えられる値は次の通りです。

制御点名

活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。NETVIEW分散管理エージェントの場合の制御点名は、他のプラットフォームで有効な制御点名の先頭の位置に数字(0から9)をサポートする変更制御クライアントです。

上

カタログ項目の保存 (KEEPCLGE)

カタログ項目およびプロダクトに対応する関連づけられた保管ファイルが指定したシステムに保管されるかどうかを指定します。これが有効なのは、ACTION(*INS)またはACTION(*SNDINS)が指定されている場合だけです。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** カタログ項目および関連づけられた保管ファイルは保管されません。

***YES** カタログ項目および関連づけられた保管ファイルが保管されます。

上

ライセンス・キー送信 (SNDLICKEY)

ライセンス・キーをプロダクトと一緒に送るかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** ライセンス・キーはプロダクトと一緒に送られます。

***NO** ライセンス・キーはプロダクトと一緒に送られません。

上

管理下のシステムの開始時刻 (RMTSTRTIME)

この活動が管理下のシステムで実行を開始できる日付および時刻を指定します。中央側の日付および時刻に基づいて中央側システムで活動の実行が始められた時に、現在の日付および時刻の値と次の日付の値が決まります。

時間帯として考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*LCLSYS

リモート開始時刻は、中央側システムの時間帯で指定されます。

*MGDSYS

リモート開始時刻は、管理下のシステム側の時間帯で指定されます。

時刻以後開始の値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*CURRENT

この機能は、要素2で指定された日に中央側システムでこの活動が開始された時刻以後の任意の時刻に、管理下のシステムで開始できます。

時刻以後開始

管理下のシステムでこの機能を開始できる時刻を指定してください。時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力することができます。この場合のHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻は、時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始の値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*CURRENT

この機能は、中央側システムで活動が開始された日付またはそれ以後の任意の日に管理下のシステムで開始されます。

*NEXT

この機能は、中央側システムで活動が開始された日付より後の任意の日に管理下のシステムで開始されます。

日付以後開始

この機能を管理下のシステムで開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

注：

1. 時間帯の値*MGDSYSが指定されている場合には、日付および時刻に特殊値 *CURRENTおよび*NEXTが指定されます。
2. このパラメーターを指定できるのは、*INSまたは*SENDINS処置が指定されている場合だけです。

上

テキスト '記述' (TEXT)

活動記述を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

***GEN** 選択した処置に基づいてテキスト記述が生成されます。

テキスト記述

50桁の活動の記述を指定してください。

上

活動条件 (COND)

この活動を実行する前に満たされていなければならない条件を指定します。それぞれの条件はこの活動の前に実行する必要がある活動を識別し、その活動からの終了コードでこの活動を実行できなければならない値を識別します。省略時の条件は、前（アルファベット順）の活動が正常に完了していなければこの活動を実行できないというものです。

指定できる単一値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

***NONE**

この活動に条件はありません。

条件づけ活動として考えられる値は次の通りです。

***PRV** この活動は前の活動で条件づけされます。活動は、活動名のアルファベット順に順序づけられます。追加される活動が最初の活動である場合には、前の活動は存在しないので、*PRVの条件は満たされたものとしてマークが付けられます。

条件付け活動名

この活動の前に実行しなければならない活動の名前を指定します。活動(ACTIVITY)パラメーターに指定した活動名は、条件付け活動名に指定することはできません。活動をそれ自体に条件付けることはできません。

総称*活動名

この活動の前に実行しなければならない活動の総称名を指定します。

指定できる関係演算子の値は次の通りです。

この要素は、条件づけ活動の終了コードと比較する時に使用する関係演算子です。

***EQ** 等しい

***GT** より大

***LT** より小

***NE** 等しくない

***GE** 大きいか等しい

***LE** 小さいか等しい

条件コードとして考えられる値は次の通りです。

***SUCCESS**

活動は正常に終了しました(0 <=終了コード<= 9)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***FAIL** 活動は正常に実行されませんでした(10 <=終了コード<= 89)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***NOTRUN**

活動は開始されませんでした(90 <=終了コード<= 99)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***ANY** 活動は任意の終了コードで終了しました。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQの時だけです。

終了コード

活動の結果（成功または障害）を示す整数値(0から99)を指定します。終了コードの範囲および説明は次の通りです。

00 活動は正常に完了した。

01-09 活動は警告メッセージ付きで完了した。

10-29 活動は正常に完了しなかった。

30-39 活動は完了する前にユーザーによって取り消された。

- 30 =活動は*CNTRLDオプションによって終了された。
- 35 =活動は*IMMEDオプションによって終了された。
- 39 =活動は*FRCFAILオプションによって終了された。

40-49 アプリケーションがエラーを検出したので、活動は実行されなかった。

- 40 =機密保護上の理由から、活動は実行されなかった。

90-99 条件またはスケジュールが満たされなかったので、活動は実行されなかった。

- 95 =スケジュールされた開始時刻を経過した。
- 99 =条件を満たすことができない。

条件モードとして考えられる値は次の通りです。

この要素は、この活動を実行する前に条件づけ活動が完了していなければならないシステムを示します。

***ALLNODES**

指定した条件づけ活動は、この活動を実行する前にすべてのノードで完了していなければなりません。

***SAMENODE**

指定のノードで指定した条件づけ活動が完了している場合には、指定した条件づけ活動を他のすべてのノードで完了できていない場合であっても、ACTIVITYパラメーターで指定して活動は同じノードで実行できます。この活動をそのノードで実行できる場合には、この条件は無視されます。

上

活動開始時刻 (STRTIME)

この活動を中央側システムで開始できる日時を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は、変更要求が投入された時に決定されます。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*CURRENT

この活動は、変更要求の投入時刻またはそれ以降の任意の時刻に開始できます。

時刻以後開始

この活動を開始できる時刻を指定してください。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*CURRENT

この活動は、変更要求の変更要求またはそれ以後の任意の日に開始できます。

*NEXT

この活動は、変更要求の投入日より後の任意の日付に開始できます。

日付以後開始

その日付以後にこの活動を開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

時刻以前開始の値は次の通りです。

日付以前開始が*ANYの場合には、この要素は無視されます。

*SAME

値は変更されません。

***ANY** この活動は、日付以前開始以前の任意の時刻に開始できます。

*CURRENT

活動は、日付以前開始要素で指定された日の変更要求が投入された時刻より前に開始されなければなりません。日付以前開始が*CURRENTの場合には、この値は指定できません。

時刻以前開始

その時刻より前に活動を開始しなければならない時刻を指定します。この時刻の前に活動を開始できない場合には、その活動は開始されません。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以前開始の値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***ANY** 活動は、時刻以後開始および日付以後開始より後の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は変更要求の投入日に開始しなければなりません。

***NEXT**

活動は変更要求の投入日の翌日までに開始しなければなりません。

日付以前開始

その日付の前に活動を開始しなければならない日付を指定します。この日付までに活動を開始できない場合には、活動は開始されません。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

上

活動の保留 (HOLD)

変更要求の投入時に活動を保留するように指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** 活動は保留されません。すべての条件および開始時刻が満たされた時に実行されます。

***YES** 活動は変更要求の投入時にすべてのノードに対して保留されます。実行する前に保留解除しなければなりません。

上

例

例1: プロダクトを送信する活動の変更

```
CHGPRDCRQA  CRQD(MYLIB/CRQ1)  ACTIVITY(ACT01)
              ACTION(*SND)  PRDID(1ACCPAY)  RLS(V5R4M0)
              OPTION(1)  LODTYPE(*CODE)  LODID(*CODE)
              SNDLICKEY(*YES)  CPNAME((*NETATR SYS2))
```

買掛管理プロダクトをSYS1システムに送信する活動を変更します。プロダクトのコード部分のあるオプション1とそのライセンス・キーが送信されます。

例2: アプリケーションを導入する活動の変更

```
CHGPRDCRQA  CRQD(MYLIB/CRQ2)  ACTIVITY(*LAST)
              ACTION(*INS)  PRDID(1SCHEDU)  RLS(V5R4M0)
              OPTION(*BASE)  LODTYPE(*ALL)
              LODID(*ALL)  NODL(MYLIB/ALLSYS)
              RMTSTRTIME(*MGDSYS ('23:00:00' *SAME))
```

変更要求CRQ2の最後の活動を変更するので、これは、ALLSYSノード・リストに指定されたすべてのシステムにスケジューラー・アプリケーションを導入します。アプリケーションのコードと言語の両方が管理下のシステムがある位置の時間帯の午後11時に導入されます。

例3: 変更要求の最後の活動の変更

```
CHGPRDCRQA  CRQD(MYLIB/CRQ3)  ACTIVITY(*LAST)
              ACTION(*DLTCLGE) PRDID(1HUMRES) RLS(V5R4M0)
              OPTION(*BASE) LODTYPE(*ALL) LODID(2924)
              CPNAME((*NETATR SYS3))
```

SYS3システムの人的資源アプリケーションを配布するためにパッケージされたプロダクトを削除します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

プロダクト・オブジェクト記述変更 (CHGPRDOBJD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プロダクト・オブジェクト記述変更(CHGPRDOBJD)コマンドは、オブジェクト記述中のプロダクト情報を更新するために使用されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJ	オブジェクト名	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト名	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	文字値, *ALL	必須, 定位置 2
PRDID	プロダクトID	文字値	必須, 定位置 3
RLS	リリース・レベル	文字値	必須, 定位置 4
OPTION	プロダクト・オプション	1-99, *BASE	必須, 定位置 5
LODID	ロードID	文字値, *CODEDFT	必須, 定位置 6

上

オブジェクト名 (OBJ)

変更されるオブジェクトの修飾名を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** 指定されたライブラリー内の、OBJTYPEパラメーターで指定されたタイプのすべてのオブジェクトが変更されます。

総称*オブジェクト名

オブジェクトの総称名を指定してください。総称名は、後にアスタリスク(*)が続いている1つまたは複数の文字から成る文字ストリング（例えばABC*）です。アスタリスクは、有効なすべての文字の代用です。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは、完全なオブジェクト名と見なします。完全なオブジェクトを指定し、複数ライブラリーを検索するには、名前に*ALLまたは*ALLUSRのライブラリー値を指定できる場合にかぎり、複数のオブジェクトを検索することができます。

オブジェクト名

変更するオブジェクトの名前を指定してください。

ライブラリーとして考えられる値は次の通りです。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

変更されるオブジェクトのタイプを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** 指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクト・タイプが変更されます。

オブジェクト・タイプ

変更するオブジェクトのタイプを指定してください。

注: オブジェクト・タイプ*PRDAVLは正しくありません。

上

プロダクト (PRDID)

変更するオブジェクトが属しているプロダクトの7桁のID (ID)を指定します。

上

リリース・レベル (RLS)

変更されるオブジェクトが属するプロダクトのバージョン, リリース, およびモディフィケーション・レベルを指定します。

上

オプション (OPTION)

変更するオブジェクトが属しているプロダクト・オプションを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*BASE

オブジェクトがプロダクトの基本オプションの一部であることを指定します。

プロダクト・オプション番号

変更されるオブジェクトが属するプロダクト・オプションのオプション番号を指定してください。
有効な値の範囲は1から99です。

上

ロードID (LODID)

変更されるオブジェクトが属するプロダクト・ロードのIDを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*CODEDFT

省略時のコード・ロードID 5001が使用されます。

プロダクト・ロードID

有効な言語ロードIDまたは有効なコード・ロードIDを指定してください。

上

例

```
CHGPRDOBJD  OBJ(MYLIB/*ALL)  OBJTYPE(*ALL)
              PRDID(9XYZ123)  RLS(V5R4M0)
              OPTION(*BASE)  LODID(*CODEDFT)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIB中のすべてのオブジェクトのオブジェクト記述を変更します。これらのオブジェクトは、ここで、リリースV5R4M0のプロダクト9XYZ123の基本オプションのコード・ロードに属するマークが付けられます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF358A

リリースは正しくない。

SMU1307

一部のオブジェクト記述が変更されませんでした。

SMU1312

オブジェクトが見つかりません。

上

PTF CRQ活動の変更 (CHGPTFCRQA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正変更要求活動変更(CHGPTFCRQA)コマンドは、変更要求記述のPTF配布活動を変更しません。

制約事項:

1. 変更要求記述に対する*CHANGE権限とライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
2. PTFは、システム・マネージャー・ライセンス・プログラムを使用するISERIESプロダクト・パッケージ用のものでなければなりません。PTFは、サポートされているプロダクトの処理(WRKSPTRD)コマンドを使用してサポートされるものでなければなりません。ソフトウェアの再設計は、その他のシステム・タイプに対してオブジェクト変更要求活動追加(ADDOBJCRQA)コマンドでグローバル的に指定されたオブジェクトを使用し、あるいは変更管理活動追加(QNSADDCM) APIを使用して管理することができます。
3. 他のシステムに送るには、PTF保管ファイルが存在していて解放されなければなりません。
4. PTFを検索できるのは管理下の1つのシステムからだけです。
5. 宛先ノードに分散管理のライセンス・プログラムが導入されていない場合には、送信処置しか使用することができません。活動は、PTFが送信された時（到達した時ではない）に正常に実行されたと見なされます。
6. 遅延PTFが適用されるのは次回のIPL時だけです。他のすべてのPTFは、システムで活動の実行中に即時に適用するか、次回のIPLで実行します。
7. 遅延のマークが付けられているPTFを永久的に適用できるのは、前に一時的に適用されている場合だけです。遅延となっているので、これらの適用にはIPLが必要であることに注意してください。
8. PTFは、永久的に除去される垂直ライセンス内部コード(VLIC) PTFを除き、常に一時的に除去されます。
9. ノード・リスト(NODL)値を指定する場合は、ノード・リストに入れることができるのはアドレス・タイプの値が*SNAになっている項目だけです。

以下の注は、コマンドがどのように働くかを説明しています。

注:

1. 活動で指定されたプロダクトに対する権限は、その活動が実行されるまで検査されません。
2. 活動を実行する前にすべての条件が満たされなければなりません。
3. 開始時刻は、活動を開始できる時点を示します。実際の開始時刻は、ネットワークおよびシステムの遅延のためにこれより遅くなることがあります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CRQD	変更要求記述	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: 変更要求記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ACTIVITY	活動	名前, *LAST	必須, キー, 定位置 2
ACTION	処置	*SND, *RTV, *DLT, *APY, *SNDAPY, *RMV, *SAME	オプション, 定位置 3
PTFID	PTF ID	要素リスト	オプション
	要素 1: PTF	文字値, *ALL, *SAME	
	要素 2: プロダクト	文字値, *ONLY, *SAME	
	要素 3: リリース・レベル	文字値, *SAME	
NODL	管理下のシステム・ノード・リスト	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード・リスト	単一値: *NONE, *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	単一値: *NONE, *SAME その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点	通信名	
PTFPART	PTF部分	*PTF, *CVRLTR, *SAME	オプション
CVRLTRLNG	カバー・レター言語	2900-2999, *SRVRQS, *SAME	オプション
APY	変更の範囲	*TEMP, *PERM, *LODONLY, *SAME	オプション
DLYAPY	遅延PTF適用	*NO, *YES, *SAME	オプション
DLYRMV	遅延PTF除去	*NO, *YES, *SAME	オプション
RMTSTRTIME	管理下のシステムの開始時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 時間帯	*LCLSYS, *MGDSYS, *SAME	
	要素 2: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *CURRENT, *SAME	
	要素 2: 日付	日付, *CURRENT, *NEXT, *SAME	
TEXT	テキスト '記述'	文字値, *GEN, *BLANK, *SAME	オプション
COND	活動条件	単一値: *NONE, *SAME その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 活動	総称名, 名前, *PRV	
	要素 2: 関係演算子	*EQ, *GT, *LT, *LE, *NE, *GE	
	要素 3: 終了コード	0-99, *SUCCESS, *FAIL, *NOTRUN, *ANY	
	要素 4: 条件モード	*ALLNODES, *SAMENODE	
STRTIME	活動開始時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *CURRENT, *SAME	
	要素 2: 日付	日付, *CURRENT, *NEXT, *SAME	
	要素 2: 以前に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *ANY, *CURRENT, *SAME	
	要素 2: 日付	日付, *ANY, *CURRENT, *NEXT, *SAME	
HOLD	活動の保留	*NO, *YES, *SAME	オプション

変更要求記述 (CRQD)

変更要求記述オブジェクト名を指定します。

ライブラリーとして考えられる値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザーおよびシステム部分にあるすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

このパラメーターで指定したライブラリーだけが検索されるように指定します。

指定できる変更要求記述の値は次の通りです。

変更要求記述

変更要求記述オブジェクトの名前を指定します。

活動 (ACTIVITY)

変更要求記述で変更する活動の名前を指定します。

***LAST**

活動は変更要求で最後に実行されます。

活動名 10桁の活動名を指定します。

処置 (ACTION)

資源に実行する機能を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***SND** 指定したPTFを指定した管理下のシステムに送ります。PTFはこの活動の一部としてはロードされません。

***RTV** 指定した管理下のシステムから指定したPTFを検索します。

***DLT** 指定した管理下のシステム上のPTF保管ファイルおよびカバー・レターを削除します。

***APY** 指定したシステムでPTFを適用します。すべての前提PTFが適用されていなければなりません。PTFは、ロード済み（「未適用」）状況に設定されている場合もあります。PTFが前にロードされていない場合には、適用の前にPTFがロードされなければなりません。すべての相互関連PTFを適用す

るには、状況を「ロード済み」（「未適用」）に設定します。1つのPTFおよびそのすべての対応する相互関連PTFを適用する要求が適用されます。

***SNDAPY**

指定したシステムでPTFを送信、ロード、および適用します。すべての前提PTFが適用されていなければなりません。PTFに対応する相互関連PTFがある場合には、すべてのPTFを「ロード済み」（「未適用」）に設定してそのすべてを適用してください。

***RMV** 指定したシステムでPTFを一時的に除去します。

上

PTF (PTFID)

配布されるPTFを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

PTF ID

7文字のPTF IDを指定します。

***ALL** 指定したプロダクト用のすべてのPTF。指定できるのは、PTFを適用、削除あるいは除去する時だけです。プロダクトを指定しなければなりません。

プロダクトIDの値は次の通りです。

これは、PTFに関連づけされるプロダクトのプロダクトIDです。

***SAME**

値は変更されません。

***ONLY**

指定したPTF IDはサポートされている1つのプロダクトに関連づけされるだけです。

プロダクトID

PTFが関連づけされるプロダクトを指定してください。PTF IDがプロダクト相互間で固有のものでない場合には、プロダクトを指定しなければなりません。

プロダクトのリリース・レベルの値は次の通りです。

この要素はプロダクトのリリース・レベルを示します。

***SAME**

値は変更されません。

リリース(VXRXXMX)

PTFが関連づけされるプロダクトのリリース・レベルを指定してください。形式はVXRXXMXです。PTF IDがプロダクトのリリース相互間で固有のものでない場合には、リリースを指定しなければなりません。

上

ノード・リスト名 (NODL)

ノード・リスト・パラメーターはこの活動の宛先であるシステムのリストが入っているオブジェクト名であることを指定します。このパラメーターは、制御点名(CPNAME)パラメーターも指定されている場合には指定できません。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

この活動を実行するシステムは、ノード・リストによって指定されません。個々の制御点名を指定しなければなりません。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーでノード・リスト・オブジェクトが検索されます。

***CURLIB**

ノード・リスト・オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定します。

ノード・リストとして考えられる値は次の通りです。

ノード・リスト名

活動を実行するシステムのリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名を指定します。

上

プロダクトCRQ活動の変更 (CPNAME)

この活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。ノード・リストが指定されている場合には、制御点名は指定できません。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

この活動を実行するシステムは個々に識別されません。ノード・リストを指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***NETATR**

ローカル・システムのネットワークIDが使用されます。これは、指定されるノードがローカル・システムと同じネットワーク内にある時に役立ちます。

ネットワークID

活動が実行される管理下のシステムのAPPNネットワークIDを指定します。

使用できる制御点名の値は次の通りです。

制御点名

活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。

上

PTF部分 (PTFPART)

PTFまたはカバー・レターを送信、検索、または削除する必要があるかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***PTF** 処理する必要があるのはPTFだけです。

***CVRLTR**

処理されるのはPTFのカバー・レターだけです。***CVRLTR**を使用できるのは、***RTV**および***SND**処置の場合だけです。

削除処置が指定された場合には、常にPTFとカバー・レターの両方が削除されます。

上

カバー・レター言語 (CVRLTRLNG)

PTFと一緒に送信するカバー・レターの言語を指定します。

*SAME

値は変更されません。

***SRVRQS**

それぞれのノードのサービス要求元項目に指定されたカバー・レター言語は、その特定のノードで送信されるカバー・レターの言語を決定します。サービス要求元項目がないか、または言語が指定されていない場合には、省略時の言語2924が使用されます。指定された言語が見つからない場合には2924が送られます。ただし、2926が要求されている場合には2950が送られます。

カバー・レター言語ID

送信または検索するカバー・レターの4桁の言語IDを指定してください。

上

変更の範囲 (APY)

PTFが適用される時の変更の範囲を指定します。

*SAME

値は変更されません。

***TEMP**

PTFは一時的に適用されます。

***PERM**

PTFは永久的に適用されます。

***LODONLY**

PTFはロードされるだけです。これは、すべてのPTFがグループとして適用、除去、または永続適用され、これらの機能の実行に「ロード済み」（「未適用」）状況が前提条件であるような相互関連条件グループの一部であるPTFに役立ちます。

上

遅延PTF適用 (DLYAPY)

即時PTFが指定したシステムで活動の実行時に適用されるか、あるいは即時または遅延PTFが遅延方式、すなわち次の不在時IPLで適用されるかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** 活動の実行時に即時PTFを適用します。PTFが遅延とマークされている場合には、次の不在時IPLまで適用されません。

***YES** 遅延として定義されているか、即時として定義されているかに関係なく識別されたPTFは、次の不在時IPLで適用されます。

上

遅延PTF除去 (DLYRMV)

PTFがどのように除去されるかを指定します。システムで活動の実行中あるいは実行後に次のIPLの時にPTFを除去します。

使用できる単一の値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** 活動の実行時にPTFを除去します。

***YES** 次の不在時IPLで除去します。

上

管理下のシステムの開始時刻 (RMTSTRTIME)

この活動が管理下のシステムで実行を開始できる日付および時刻を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は、活動が中央側の日付および時刻に基づいて中央側で実行を開始する時に決定されます。

リモート開始時刻の時間帯として考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***LCLSYS**

リモート開始時刻は、中央側システムの時間帯で指定されます。

***MGDSYS**

リモート開始時刻は、管理下のシステム側の時間帯で指定されます。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

これは、その時刻の後に活動を開始する時刻の定義です。

***SAME**

値は変更されません。

***CURRENT**

この機能は、要素3で指定した日に中央側システムでこの活動が開始された時刻以後の任意の時刻に、管理下のシステムで開始できます。

時刻以後開始

この機能を管理下のシステムで開始できる時刻を指定します。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻は、時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***CURRENT**

この機能は、中央側システムで活動が開始された日付またはそれ以後の任意の日に管理下のシステムで開始されます。

***NEXT**

この機能は、中央側システムで活動が開始された日付より後の任意の日に管理下のシステムで開始されます。

日付以後開始

この機能を管理下のシステムで開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

注：

1. 時間帯の値*MGDSYSが指定されている場合には、日付および時刻に特殊値*CURRENTおよび*NEXTが指定されます。
2. このパラメーターを指定できるのは、*APY、*RMV、または*SNDAPY処置が指定されている場合だけです。

上

テキスト '記述' (TEXT)

活動記述を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***GEN** 記述は、選択された処置に基づいて生成されます。

テキスト記述

50桁の活動の記述を指定してください。

上

活動条件 (COND)

この活動を実行する前に満たされていなければならない条件を指定します。それぞれの条件は、この活動の前に実行する必要がある活動と、この活動を実行するために必要なその活動からの終了コードの値を識別します。省略時の条件は、前（アルファベット順）の活動が正常に完了していなければこの活動を実行できないというものです。

指定できる単一値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

この活動に条件はありません。

条件づけ活動の値は次の通りです。

この活動の前に実行しなければならない活動。

PRV** この活動は前の活動で条件づけされます。活動は、活動名のアルファベット順に順序づけられます。追加される活動が最初の活動である場合には、前の活動は存在しないので、PRV**の条件は満たされたものとしてマークが付けられます。

条件付け活動名

この活動の前に実行しなければならない活動の名前を指定します。活動(ACTIVITY)パラメーターに指定した活動名は、条件付け活動名に指定することはできません。活動をそれ自体に条件付けることはできません。

総称*活動名

この活動の前に実行しなければならない活動の総称名を指定します。

関係演算子の値は次の通りです。

この要素は、活動からの終了コードを比較する時に使用する関係演算子です。

***EQ** 等しい

***GT** より大

***LT** より小

***NE** 等しくない

***GE** 大きいか等しい

***LE** 小さいか等しい

条件コードの値は次の通りです。

***SUCCESS**

活動は正常に終了しました(0 <=終了コード<= 9)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が***EQ**または***NE**の時だけです。

FAIL** 活動は正常に実行されませんでした(10 <=終了コード<= 89)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子がEQ**または***NE**の時だけです。

***NOTRUN**

活動は開始されませんでした(90 <=終了コード<= 99)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***ANY** 活動は任意の終了コードで終了しました。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQの時だけです。

終了コード

活動の結果（成功または障害）を示す整数値(0から99)を指定します。終了コードの範囲および説明は次の通りです。

- 00** 活動は正常に完了した。
- 01-09** 活動は警告メッセージ付きで完了した。
- 10-29** 活動は正常に完了しなかった。
- 30-39** 活動は完了する前にユーザーによって取り消された。
 - 30 =活動は*CNTRLDオプションによって終了された。
 - 35 =活動は*IMMEDオプションによって終了された。
 - 39 =活動は*FRCFAILオプションによって終了された。
- 40-49** アプリケーションがエラーを検出したので、活動は実行されなかった。
 - 40 =機密保護上の理由から、活動は実行されなかった。
- 90-99** 条件またはスケジュールが満たされなかったので、活動は実行されなかった。
 - 95 =スケジュールされた開始時刻を経過した。
 - 99 =条件を満たすことができない。

条件モードとして考えられる値は次の通りです。

条件モードは、この活動を実行する前に条件活動を完了していなければならないシステムを示します。

***ALLNODES**

指定した条件づけ活動は、この活動を実行する前にすべてのノードで完了していなければなりません。

***SAMENODE**

指定のノードで指定した条件づけ活動が完了している場合には、指定した条件づけ活動を他のすべてのノードで完了できていない場合であっても、ACTIVITYパラメーターで指定して活動は同じノードで実行できます。この活動をそのノードで実行できる場合には、この条件は無視されます。

上

活動開始時刻 (STRTIME)

この活動を中央側システムで開始できる日時を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は変更要求の投入時に決定されます。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***CURRENT**

この活動は、変更要求の投入時刻またはそれ以降の任意の時刻に開始できます。

時刻以後開始

この活動を開始できる時刻を指定します。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***CURRENT**

この活動は、変更要求の投入日またはそれ以後の任意の日に開始できます。

***NEXT**

この活動は、変更要求の投入日より後の任意の日に開始できます。

日付以後開始

その日付以後にこの活動を開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

時刻以前開始として考えられる値は次の通りです。

日付以前開始が*ANYの場合には、この要素は無視されます。

***SAME**

値は変更されません。

***ANY** この活動は、日付以前開始以前の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は、日付以前開始要素で指定された日の変更要求が投入された時刻より前に開始されなければなりません。

時刻以前開始

その時刻より前に活動を開始しなければならない時刻を指定します。この時刻の前に活動を開始できない場合には、その活動は開始されません。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以前開始として考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***ANY** 活動は、時刻以後開始および日付以後開始より後の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は変更要求の投入日に開始しなければなりません。

***NEXT**

活動は変更要求の投入日の翌日までに開始しなければなりません。

日付以前開始

その日付の前に活動を開始しなければならない日付を指定します。この日付までに活動を開始できない場合には、活動は開始されません。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

上

活動の保留 (HOLD)

変更要求の投入時に活動を保留するように指定します。

*SAME

値は変更されません。

***NO** 活動は保留されません。すべての条件および開始時刻が満たされた時に実行されます。

***YES** 活動は変更要求の投入時にすべてのノードに対して保留されます。実行する前に保留解除しなければなりません。

上

例

例1: PTFへの永久変更の適用

```
CHGPTFCRQA  CRQD(MYLIB/CR1)  ACTIVITY(ACT01)
              ACTION(*APY)  APY(*PERM)
              PTFID(SF12345)  CPNAME((*NETATR SYS1))
```

このコマンドは、システムSYS1にPTF SF12345を永久的に適用する活動を変更します。

例2: PTFへの変更の送信

```
CHGPTFCRQA  CRQD(MYLIB/CR2)  ACTIVITY(ACT03)
              ACTION(*SND)  PTFID(SF89345)
              PTFPART(*CVRLTR)  CVRLTRLNG(2950)
              NODL(MYLIB/EUROPE SYS)
```

このコマンドは、PTFカバー・レターを、EUROPE SYS ノード・リストで識別されたヨーロッパのすべてのシステムに送信する活動を変更します。

例3: PTFを適用する活動の変更

```
CHGPTFCRQA  CRQD(MYLIB/CR3)  ACTIVITY(ACT01)
              ACTION(*SND)
              PTFID(SF99911)  CPNAME((NET1 SYSX))

CHGPTFCRQA  CRQD(MYLIB/CR3)  ACTIVITY(ACT02)
              ACTION(*APY)  APY(*TEMP)  PTFID(SF99911)
              RMTSTRTIME((*MGDSYS (02:00:00) (03/30/06))
              CPNAME((NET1 SYSX))
```

このコマンドは、問題が検出されたシステムに午前2時にPTFを送信して一時的に適用する活動を変更します。

例4: PTFをロードする活動の変更

```
CHGPTFCRQA  CRQD(MYLIB/CR4)  ACTIVITY(ACT01)  ACTION(*APY)
              PTFID(SF89555)  CPNAME(*NETATR SYS4)  APY(*LODONLY)
```

このコマンドは、システムSYS4で相互に必要なPTFグループの部分であるPTF SF89555をロードするだけの活動を変更します。

例5: 遅延モードでPTFを送信して永久的に適用する活動の変更

```
CHGPTFCRQA  CRQD(MYLIB/CR5)  ACTIVITY(ACT01)  ACTION(*SNDAPY)
             PTFID(SF91388)
             CPNAME(*NETATR SYS5)  DLYAPY(*YES)
```

このコマンドは、次の無人IPL時にPTF SF91388を送信して永久的に適用する活動を変更します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

資源CRQ活動の変更 (CHGRSCCRQA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

資源変更要求活動変更(CHGRSCCRQA)コマンドは、変更要求記述の資源活動を変更します。

制約事項:

1. 変更要求記述に対する*CHANGE権限とライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
2. ISERIES管理システムの場合には、*SYSX以外の資源はサポートされません。
3. キーロック・スイッチはNORMAL位置になければなりません。この位置にないと要求は拒否されます。
4. NODL値が指定されている場合にノード・リストに入れることができるのは、アドレス・タイプの値が*SNAの項目だけです。

注:

以下の注は、コマンドがどのように働くかを説明しています。

1. 活動で指定されたプロダクトに対する権限は、その活動が実行されるまで検査されません。
2. 活動を実行する前にすべての条件が満たされていなければなりません。
3. 開始時刻は、活動を開始できる時点を示します。実際の開始時刻は、ネットワークおよびシステムの遅延のためにこれより遅くなることがあります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CRQD	変更要求記述	修飾オブジェクト名	オプションル, キー, 定位置 1
	修飾子 1: 変更要求記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ACTIVITY	活動	名前, *LAST	オプションル, キー, 定位置 2
ACTION	処置	*RESTART, *SAME	オプションル, 定位置 3
RSC	資源	名前, *SYS, *SYSA, *SYSB, *SAME	オプションル
NODL	管理下のシステム・ノード・リスト	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 要素リスト	オプションル
	要素 1: ノード・リスト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	単一値: *NONE, *SAME その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプションル
	要素 1: ネットワークID	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点	文字値	

キーワード	記述	選択項目	ノート
OPTION	終了方法	*CNTRLD, *IMMED, *SAME	オプション
DELAY	遅延時間(*CNTRLDの場合)	0-65535, *SAME	オプション
TEXT	テキスト '記述'	文字値, *GEN, *SAME	オプション
COND	活動条件	単一値: *NONE, *SAME その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 活動	総称名, 名前, *PRV	
	要素 2: 関係演算子	*EQ, *GT, *LT, *LE, *NE, *GE	
	要素 3: 終了コード	0-99, *SUCCESS, *FAIL, *NOTRUN, *ANY	
STRTIME	活動開始時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *CURRENT, *SAME	
	要素 2: 日付	日付, *CURRENT, *NEXT, *SAME	
	要素 2: 以前に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *ANY, *CURRENT, *SAME	
RMTSTRTIME	管理下のシステムの開始時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 時間帯	*LCLSYS, *MGDSYS, *SAME	
	要素 2: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *CURRENT, *SAME	
	要素 2: 日付	日付, *CURRENT, *NEXT, *SAME	
HOLD	活動の保留	*NO, *YES, *SAME	オプション

上

変更要求記述 (CRQD)

変更要求記述オブジェクト名を指定します。

ライブラリーとして考えられる値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザーおよびシステム部分にあるすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

このパラメーターに指定したライブラリーだけが検索されることを指定します。

指定できる変更要求記述の値は次の通りです。

変更要求記述

変更要求記述オブジェクトの名前を指定します。

上

活動 (ACTIVITY)

変更要求記述で変更する活動の名前を指定します。

***LAST**

活動は変更要求で最後に実行されます。活動(ACTIVITY)パラメーターに*LASTを指定すると、条件(COND)パラメーターおよび開始時刻(STRTIME)パラメーターは指定できません。変更要求記述に存在できる*LASTを指定した活動は1つだけです。

活動名 10桁の活動名を指定します。

上

処置 (ACTION)

資源に実行する機能を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***RESTART**

指定した資源を再開するためを使用します。指定した資源が*SYS, *SYSA,または*SYSBの場合には、管理下のシステムは停止して再開します。

上

資源 (RSC)

資源名を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***SYS** 処置はシステム全体に対して実行されます。再開処置の場合には、管理下のシステムが電源遮断されて再開されることを意味します。システム・パネルでIPLソースが決定されます。

***SYSA**

これはIPLソースがA側であることを除いて*SYSと同じです。

***SYSB** これはIPLソースがB側であることを除いて*SYSと同じです。

資源名 管理下のシステムの16桁の資源名を指定してください。これは、ISERIESの管理下のシステムではサポートされません。

上

管理下のシステム・ノード・リスト (NODL)

ノード・リスト・パラメーターはこの活動の宛先であるシステムのリストが入っているオブジェクト名であることを指定します。このパラメーターは、制御点名(CPNAME)パラメーターも指定されている場合には指定できません。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

この活動を実行するシステムは、ノード・リストによって指定されません。個々の制御点名を指定しなければなりません。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーでノード・リスト・オブジェクトが検索されます。

***CURLIB**

ノード・リスト・オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定します。

使用できるノード・リスト名の値は次の通りです。

ノード・リスト名

活動を実行するシステムのリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名を指定します。

上

管理下のシステム・ノード名 (CPNAME)

この活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。ノード・リストが指定されている場合には、制御点名は指定できません。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

この活動を実行するシステムは個々に識別されません。ノード・リストを指定しなければなりません。

***NETATR**

ローカル・システムのネットワークIDが使用されます。これは、指定されるノードがローカル・システムと同じネットワーク内にある時に役立ちます。

ネットワークID

活動が実行される管理下のシステムのAPPNネットワークIDを指定します。

使用できる制御点名の値は次の通りです。

制御点名

活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。NETVIEW分散管理エージェントの場合の制御点名は、他のプラットフォームで有効な制御点名の先頭の位置に数字(0から9)をサポートする変更制御クライアントです。

上

終了方法 (OPTION)

終了方法を指定します。これは、システムが活動サブシステムに制御された方式で活動ジョブの処理を終了させるかどうか、あるいはシステムが即時にジョブを終了するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*CNTRLD

ジョブは制御された方式で終了されます。遅延期間中にジョブを制御された方式で終了できない場合には、ジョブは即時に終了されます。

*IMMED

ジョブは即時に終了されます。

上

遅延時間(*CNTRLDの場合) (DELAY)

システムが制御された方式でのジョブの終了を待機する秒数を指定します。

*SAME

値は変更されません。

3600 システムはジョブの即時終了までに1時間待機します。

遅延時間

遅延時間（秒数）を指定してください。

上

テキスト '記述' (TEXT)

活動記述を指定します。

*SAME

値は変更されません。

***GEN** 記述は指定された処置に基づいて生成されます。

テキスト記述

50桁の活動の記述を指定してください。

上

活動条件 (COND)

この活動を実行する前に満たされていなければならない条件を指定します。それぞれの条件はこの活動の前に実行する必要がある活動を識別し、その活動からの終了コードでこの活動を実行できなければならない値を識別します。省略時の条件は、前（アルファベット順）の活動が正常に完了していなければこの活動を実行できないというものです。

指定できる単一値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

この活動に条件はありません。

条件づけ活動として考えられる値は次の通りです。

***PRV** この活動は前の活動で条件づけされます。活動は、活動名のアルファベット順に順序づけられます。追加される活動が最初の活動である場合には、前の活動は存在しないので、*PRVの条件は満たされたものとしてマークが付けられます。

条件付け活動名

この活動の前に実行しなければならない活動の名前を指定します。活動(ACTIVITY)パラメーターに指定した活動名は、条件付け活動名に指定することはできません。活動をそれ自体に条件付けることはできません。

総称*活動名

この活動の前に実行しなければならない活動の総称名を指定します。

指定できる関係演算子の値は次の通りです。

この要素は、条件づけ活動の終了コードと比較する時に使用する関係演算子です。

***EQ** 等しい

***GT** より大

***LT** より小

***NE** 等しくない

***GE** 大きいか等しい

***LE** 小さいか等しい

条件コードとして考えられる値は次の通りです。

この要素は、条件づけ活動の実際の終了コードと比較される値です。

***SUCCESS**

活動は正常に終了しました(0 <=終了コード<= 9)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***FAIL** 活動は正常に実行されませんでした(10 <=終了コード<= 89)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***NOTRUN**

活動は開始されませんでした(90 <=終了コード<= 99)。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQまたは*NEの時だけです。

***ANY** 活動は任意の終了コードで終了しました。この終了コードを指定できるのは、関係演算子が*EQの時だけです。

終了コード

活動の結果（成功または障害）を示す整数値(0から99)を指定します。終了コードの範囲および説明は次の通りです。

00 活動は正常に完了した。

- 01-09 活動は警告メッセージ付きで完了した。
- 10-29 活動は正常に完了しなかった。
- 30-39 活動は完了する前にユーザーによって取り消された。
 - 30 =活動は*CNTRLDオプションによって終了された。
 - 35 =活動は*IMMEDオプションによって終了された。
 - 39 =活動は*FRCFAILオプションによって終了された。
- 40-49 アプリケーションがエラーを検出したので、活動は実行されなかった。
 - 40 =機密保護上の理由から、活動は実行されなかった。
- 90-99 条件またはスケジュールが満たされなかったので、活動は実行されなかった。
 - 95 =スケジュールされた開始時刻を超過した。
 - 99 =条件を満たすことができない。

使用できる条件モードの値は次の通りです。

この要素は、この活動を実行する前に条件づけ活動が完了していなければならないシステムを示します。

***ALLNODES**

指定した条件づけ活動は、この活動を実行する前にすべてのノードで完了していなければなりません。

***SAMENODE**

所定のノード上で指定した条件活動が完了すると、指定した条件活動が他のすべてのノードに対して完了していない場合であっても、ACTIVITYパラメーターに指定した活動を同じノードに実行できます。この活動をそのノードで実行できる場合には、この条件は無視されます。

上

活動開始時刻 (STRTIME)

この活動を中央側システムで開始できる日時を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は変更要求の投入時に決定されます。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***CURRENT**

この活動は、変更要求の投入時刻またはそれ以降の任意の時刻に開始できます。

時刻以後開始

この活動を開始できる時刻を指定します。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***CURRENT**

この活動は、変更要求の投入日またはそれ以降の日付に開始できます。

***NEXT**

この活動は、変更要求の投入日より後の任意の日付に開始できます。

日付以後開始

その日付以後にこの活動を開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

時刻以前開始として考えられる値は次の通りです。

日付以前開始が*ANYの場合には、この要素は無視されます。

***SAME**

値は変更されません。

***ANY** この活動は、日付以前開始以前の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は、日付以前開始要素で指定された日の変更要求が投入された時刻より前に開始されなければなりません。

時刻以前開始

その時刻より前に活動を開始しなければならない時刻を指定します。この時刻の前に活動を開始できない場合には、その活動は開始されません。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以前開始として考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***ANY** 活動は、時刻以後開始および日付以後開始より後の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は変更要求の投入日に開始しなければなりません。

***NEXT**

活動は変更要求の投入日の翌日までに開始しなければなりません。

日付以前開始

その日付の前に活動を開始しなければならない日付を指定します。この日付までに活動を開始できない場合には、活動は開始されません。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

上

管理下のシステムの開始時刻 (RMTSTRTIME)

この活動が管理下のシステムで実行を開始できる日付および時刻を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は、中央側の日付および時刻に基づいて中央側システムで活動が実行を開始する時に決定されます。

リモート開始時刻の時間帯として考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*LCLSYS

リモート開始時刻は、中央側システムの時間帯で指定されます。

*MGDSYS

リモート開始時刻は、管理下のシステム側の時間帯で指定されます。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

これは、その時刻の後に活動を開始する時刻の定義です。

*SAME

値は変更されません。

*CURRENT

この機能は、要素3で指定した日に中央側システムでこの活動が開始された時刻以後の任意の時刻に、管理下のシステムで開始できます。

時刻以後開始

その時刻の後に管理下のシステムでこの機能を開始できる時刻を指定してください。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻は、時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始の使用できる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*CURRENT

この機能は、中央側システムで活動が開始された日付またはそれ以後の任意の日に管理下のシステムで開始されます。

*NEXT

この機能は、中央側システムで活動が開始された日付より後の任意の日に管理下のシステムで開始されます。

日付以後開始

この機能を管理下のシステムで開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

注：

1. 時間帯の値*MGDSYSが指定されている場合には、日付および時刻に特殊値*CURRENTおよび*NEXTを指定できません。
2. このパラメーターを指定できるのは、*RUN処置が指定されている場合だけです。

活動の保留 (HOLD)

変更要求の投入時に活動を保留するように指定します。

*SAME

値は変更されません。

***NO** 活動は保留されません。すべての条件および開始時刻が満たされた時に実行されます。

***YES** 活動は変更要求の投入時にすべてのノードに対して保留されます。実行する前に保留解除しなければなりません。

例

例1: ISERIES管理下のシステムでのIPLのスケジュール

```
CHGRSCCRQA  CRQD(MYLIB/CR1) ACTIVITY(ACT01) ACTION(*RESTART)
              RSC(*SYS)  STRTIME((04:00:00 *CURRENT))
              NODL(MYLIB/STORES)
```

この活動は、ストア・システムを午前4時にIPLします。

例2: システムでのIPLの実行

```
CHGRSCCRQA  CRQD(MYLIB/CR1) ACTIVITY(ACT01) ACTION(*RESTART)
              RSC(*SYS)  CPNAME((*NETATR SYS1))
```

この活動は、A側のすぐ近くのシステムSYS1に対してIPLを実行します。

エラー・メッセージ

なし

サービス提供元属性の変更 (CHGSRVPVDA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス提供元属性変更(CHGSRVPVDA)コマンドは、サービス提供元の構成属性を表示および変更します。

制約事項: このコマンドは共通*EXCLUDE権限付きで出荷され、QSRV およびQSRVBASユーザー・プロファイルはこのコマンドを使用する専用権限を持ちます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LOGRMTPRB	リモート問題のログ	*SAME, *NONE, *SRVRQS, *ALERT, *ALL	オプション
SNDPTFAUTO	PTFの自動送信	*SAME, *NO, *YES	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MAXDST	最大配布	1-5000, *SAME, *NOMAX	オプション
HLDPTF	受け取ったPTFの保留	*SAME, *NO, *YES	オプション
CVRLTRLNG	カバー・レター言語	文字値, *SAME	オプション
FWDRQSAUTO	要求の自動転送	*SAME, *NO, *YES	オプション

上

リモート問題のログ (LOGRMTPRB)

リモート・ログ項目が作成される時点を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

サービス要求または警報を受け取った場合には、問題ログ項目は作成されません。

*SRVRQS

サービス要求を受け取った時に問題ログ項目が作成されます。

*ALERT

リモート警報を受け取った場合には、問題ログ項目が作成されます。

***ALL** 管理下のシステムから警報、サービス要求、あるいはその両方を受け取った場合には、問題ログ項目が作成されます。

上

PTFの自動送信 (SNDPTFAUTO)

PTF発注またはサービス要求に回答して、プログラム一時修正(PTF)が自動的に送られることを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** PTFまたはサービス要求への回答は自動的に送られません。

***YES** PTFまたはサービス要求への回答は自動的に送られます。

上

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

メッセージ待ち行列の名前は、次のいずれかライブラリー値で修飾できます。

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定します。

メッセージ待ち行列名として考えられる値は次の通りです。

メッセージ待ち行列名

変更しているメッセージ待ち行列の名前を指定します。

上

最大配布 (MAXDST)

応答を受け取る各プログラム一時修正(PTF)発注またはサービス要求に使用できる最大Kバイト(KB)数を指定します。最大5000 KBまで使用できます。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

KB数は変更されません。

*NOMAX

任意のキロバイト数を転送することができます。

最大Kバイト数

送信するPTFの最大KB数を指定します。有効な値の範囲は1から5000です。

上

受け取ったPTFの保留 (HLDPTF)

受け取ったPTFを保留するか、あるいは配布用に使用可能にするかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

***NO** 受け取ったPTFは保留されず、配布用に使用可能です。

***YES** PTFは保留され、配布用に使用可能ではありません。

上

カバー・レター言語 (CVRLTRLNG)

使用されるカバー・レター言語を指定します。

考えられる値は次の通りです。

カバー・レター言語

PTFと一緒に送信または検索するカバー・レター言語を指定してください。

上

要求の自動転送 (FWDRQSAUTO)

要求を次のサービス提供元に自動的に転送するかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

要求を自動的に転送する決定は変更されません。

***NO** 要求は転送されません。要求はこのサービス提供元で処理されます。

*YES 要求は転送されます。要求は次のサービス提供元で処理されます。

上

例

例1: リモート・ログ項目の作成

```
CHGSRVPVDA LOGRMTPRB(*ALERT)
```

このコマンドは、警報を受け取った時にリモート問題ログ項目を作成します。

例2: 別の待ち行列へのメッセージの送信

```
CHGSRVPVDA MSGQ(USERLIB/MSGQ)
```

このコマンドは、サービス提供元で作成されたすべてのメッセージを、警報メッセージまたはサービス要求の受信の結果として、USERLIBの名前のライブラリー中のMSGQの名前のメッセージ待ち行列に送信します。

例3: PTFの保留

```
CHGSRVPVDA HLDPTF(*YES)
```

このコマンドは、エレクトロニック支援を介して、あるいは配布媒体から受信したすべてのPTFを保留することを指定します。これらは配布用には使用できません。配布用にPTFを解放するには、RLSPTFコマンドを指定できます。

例4: 配布の最大サイズの指定

```
CHGSRVPVDA MAXDST(1000)
```

このコマンドは、エレクトロニック支援を介して配布する最大サイズがPTFではわずか1000バイトであることを指定します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

保管ファイルへのPTFのコピー (CPYPTFSAVF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

保管ファイルへのプログラム一時修正(PTF)コピー(CPYPTFSAVF)コマンドによって、装置からPTF保管ファイルに、導入されサポートされているプロダクト用にすべてまたは選択したPTFをコピーできます。

制約事項:

1. 導入され、サポートされているプロダクトのPTFだけがコピーされます。

以下の注は、コマンドがどのように働くかを説明しています。

注:

1. コピーされる各PTFのSAVFがQGPLライブラリーに作成されます。
2. PTFが存在している場合には、PTFはコピーされません。
3. PTF SAVFがQGPLライブラリーに作成された時に、QXXXXXXXという名前が付けられます。ここで、XXXXXXXはPTF識別番号またはタイム・スタンプです。
4. QGPLライブラリーのカバー・レター・ファイルにはQXXXXXXYYという名前が付けられ、ファイルQAPZCOVERに入れられます。ここで、XXXXXXはPTF識別番号であり、YYはPTFの言語です。英語のカバー・レターの場合には、カバー・レターYYはブランクです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FROMDEV	取り出し装置	名前	必須, 定位置 1
LICPGM	プロダクト	文字値, *ALL, *SUPPTD	オプション, 定位置 2
SELECT	選択するPTF番号	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
OMIT	除外するPTF番号	値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション

上

取り出し装置 (FROMDEV)

保管ファイル(SAVF)にコピーするプログラム一時修正(PTF)が入っているテープ装置または光ディスク装置を指定します。テープ装置または光ディスク装置の名前を指定します。

上

プロダクト (LICPGM)

PTFをコピーするライセンス・プログラムの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** 導入またはサポートされているすべてのライセンス・プログラムのPTFがシステムにコピーされます。

*SUPPTD

サポートされているライセンス・プログラムのPTFだけがコピーされます。

ライセンス・プログラム

PTFをコピーするライセンス・プログラムを指定してください。

上

選択するPTF番号 (SELECT)

コピーするPTFを指定します。特定のPTF識別番号がSELECTパラメーターに指定されている場合には、OMITパラメーターを指定できません。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** すべてのPTFをコピーします。

PTF番号

コピーするPTFのPTF識別番号を指定します。最高50個のPTF識別番号を指定できます。

上

除外するPTF番号 (OMIT)

このパラメーターで指定したものを除き、すべてのPTFがコピーされることを指定します。除外する最大50個のPTF識別番号を指定することができます。

上

例

例1: 指定されたプログラムのPTFのコピー

```
CPYPTFSAVF FROMDEV(TAP01) LICPGM(5722SS1)
```

このコマンドは、5722SS1の名前のライセンス・プログラムのすべてのPTFを、TAP01の名前の装置からシステムの保管ファイルにコピーします。

例2: すべてのPTFのコピー

```
CPYPTFSAVF FROMDEV(TAP01) LICPGM(*ALL)
```

このコマンドは、サポートされるすべてのプロダクトのすべてのPTFを、TAP01の名前の装置からシステムの保管ファイルにコピーします。

例3: サポートされるプロダクトのPTFのコピー

```
CPYPTFSAVF FROMDEV(TAP01) LICPGM(*SUPPTD)
```

このコマンドは、サポートされるすべてのプロダクトのPTFを、TAP01の名前の装置からシステムの保管ファイルにコピーします。

例4: 特定のPTFのコピー

```
CPYPTFSAVF FROMDEV(OPT01) LICPGM(5722SS1) SELECT(PTF0001)
```

このコマンドは、5722SS1の名前のライセンス・プログラムのPTF0001の名前のPTFだけを、OPT01の名前の装置からシステムの保管ファイルにコピーします。

上

エラー・メッセージ

なし

上

プロダクト定義の作成 (CRTPRDDFN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プロダクト定義の作成(CRTPRDDFN)コマンドは、プロダクト定義オブジェクトを作成します。このオブジェクトには、プロダクトに共通した情報が入っています。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PRDDFN	プロダクト定義	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プロダクト定義	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
PRDID	プロダクトID	文字値, *SER	必須, 定位置 2
RLS	リリース・レベル	文字値	必須, 定位置 3
RGSID	登録ID	要素リスト	必須, 定位置 4
	要素 1: 登録のタイプ	*PHONE, *CUSTOMER	
	要素 2: 登録値	文字値	
MSGF	メッセージ・ファイル	名前	必須, 定位置 5
PRDOPT	プロダクト・オプション	値 (最大 100 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 6
	要素 1: プロダクト・オプション	1-99, *BASE	
	要素 2: メッセージID	名前	
	要素 3: 動的命名使用可能	*NODYNNAM, *ALWDYNNAM	
	要素 4: 言語ロードID	単一値: *NONE, *IBMLNG, *BASEOPT その他の値 (最大 51 回の繰り返し): 文字値	
要素 5: コード・ロードID	文字値, *CODEDFT		
CPYRGTFST	著作権初年度	文字値, *CURRENT, *NONE	必須, 定位置 7
CPYRGTCUR	著作権当該年度	文字値, *CURRENT, *NONE	オプション
ALWMLTRLS	複数リリース使用可能	*NO, *YES	オプション
PRDIDSFY	プロダクトID接尾部	文字値	オプション
RLSDATE	リリース日	日付, *NONE	オプション
TEXT	テキスト '記述'	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	*LIBCRTAUT, *USE, *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE	オプション

上

プロダクト定義 (PRDDFN)

作成するプロダクト定義オブジェクトの修飾名を指定します。

プロダクト定義の名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾できます。

*CURLIB

プロダクト定義を作成するためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

プロダクト定義が作成されるライブラリーの名前を指定してください。

上

プロダクトID (PRDID)

プロダクト定義が作成されているプロダクトの7桁のIDを指定します。プロダクトIDはNLXXXXXの形式で、Nは0から9のいずれかの数値、Lは英大文字のAからZのいずれかの文字、およびXは0から9の数字かAからZの英大文字のいずれかでなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***SER** システムの製造番号が、プロダクトID接尾部(PRDIDSFY)パラメーターと一緒にプロダクトIDとして使用されます。これが固有のプロダクトIDを保証するわけではありません。

プロダクトID

プロダクト定義が作成されるプロダクトの7桁のIDを指定してください。

上

リリース・レベル (RLS)

作成されているプロダクトのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定します。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRYMZの形式で指定します。ここでXとYは0から9、Zは0から9とAからZです。

上

登録ID (RGSID)

プロダクトを開発している組織の登録IDを指定します。

考えられる登録タイプ値は次の通りです。

*PHONE

国別または地域コード、市区町村コード、および電話番号から構成される14桁の登録値。

*CUSTOMER

国別または地域コードおよび弊社得意先番号からなる登録値。

指定できる登録値は次の通りです。

登録値 登録IDとして使用する14桁の値を指定してください。

上

メッセージ・ファイル (MSGF)

プロダクトおよびそのオプションを記述するメッセージを入れるメッセージ・ファイルの名前を指定します。基本オプションのメッセージIDはプロダクトのメッセージIDです。このメッセージIDはPRDOPTパラメーターにリストされます。このメッセージ・ファイルは、プロダクトの基本オプションの中になければなりません。

注: 基本プロダクトに言語機能がある場合には、メッセージ・ファイルは、コード・ロードではなく言語ロードのオブジェクト・リスト中のオブジェクトでなければなりません。これによって、メッセージ・ファイルを各言語ごとに作成し、メッセージ・ファイルを正しいライブラリーに導入することができます。

上

プロダクト・オプション (PRDOPT)

このプロダクトで使用可能なオプションを指定します。

プロダクトには、最初のオプションとして**基本オプション**を定義することが必要です。基本オプション用のオプションは*BASEです。オプション1-99 を選択することによって、追加オプションを指定してください。追加オプションは、順次に指定する必要はありません。最大100個のオプション（基本オプションおよび99 個の追加オプション）を指定してください。プロダクト・オプション・パッケージ(PKGPRDOPT)コマンドを使用して各オプションをパッケージする前に、プロダクト・オプションがプロダクト定義にリストされていないなければなりません。

指定できるプロダクト・オプション値は次の通りです。

*BASE

基本オプション情報が作成されます。

プロダクト・オプション

情報が適用されるプロダクト・オプションのオプション番号を指定します。有効な値の範囲は1から99です。

指定できるメッセージID値は次の通りです。

メッセージID

プロダクト・オプションを記述するメッセージのメッセージIDを指定してください。

指定できる動的命名可能値は次の通りです。

*NODYNNAM

ライブラリーおよびルート・フォルダーの名前は導入時に動的に指定できません。1次ライブラリーおよび基本フォルダー名は、2次言語ライブラリーが使用されている時には使用されません。

*ALWDYNNAM

ライブラリーおよびルート・フォルダーの名前は導入時に動的に指定できます。

指定できる言語ロードID値は次の通りです。

***NONE**

言語ロードは使用されません。

***IBMLNG**

プロダクト・オプションを弊社のすべての言語で使用できます。

***BASEOPT**

基本オプションに指定された言語IDが言語ロードIDとして使用されます。

言語ロードID

オプションを使用できる言語(29XX)を指定してください。

指定できるコード・ロードIDの値は、次の通りです。

***CODEDFT**

省略時のコード・ロードID 5001が使用されます。

コード・ロードID

このプロダクト・オプションのコード・ロードIDを指定します。有効な値の範囲は5001 - 9999です。

上

著作権初年度 (CPYRGTFST)

プロダクトの最初の著作権保護年を指定します。年は1990のように4桁の数字で指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

現在の年がシステムから検索されます。

***NONE**

最初の著作権保護年が指定されません。値は4個のブランクとして記憶されます。

最初の著作権年度

著作権保護の最初の4桁の年を指定してください。

上

著作権当該年度 (CPYRGTCUR)

プロダクトの現在の著作権保護年を指定します。

注: CPYRGTCUR(*NONE)もCPYRGTFST(*NONE)も指定しない場合には、CPYRGTCURがCPYRGTFSTより大きいか等しくなければなりません。両方の著作権保護年を指定する場合には、CPYRGTCURがCPYRGTFSTより大きいか等しくなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

現在の年がシステムから検索されます。

***NONE**

現在の著作権保護年は指定されません。

最新の著作権年度

著作権保護年を4桁の数字（例えば1991）で指定します。

上

複数リリース使用可能 (ALWMLTRLS)

プロダクトの複数のリリースをシステム上に同時に存在させることができるかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NO** システム上で使用できるプロダクトのリリースは一度に1つだけです。

***YES** リリース・レベルが異なる場合には、プロダクトを2つ以上導入できます。

上

プロダクトID接尾部 (PRDIDSFY)

PRDID(*SER)を指定した時に、プロダクトIDとともに使用される接尾部を指定します。有効な文字は大文字のAからZおよび数字の0から9です。

上

リリース日 (RLSDATE)

プロダクトのリリース日を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

プロダクトと関連したリリース日はありません。

リリース日

ジョブ記述によって決定された形式でリリース日を指定してください。

上

テキスト '記述' (TEXT)

オブジェクトについて簡単に説明したテキストを指定します。このパラメーターの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))の「CL」トピックの「一般に使用されるパラメーター」の項にあります。

考えられる値は次の通りです。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字数以内のテキストをアポストロフィで囲んで指定してください。

権限 (AUT)

このプロダクト定義に対する特定権限を持っていないユーザー、権限リスト上にないユーザー、およびそのユーザー・グループがこのプロダクト定義に対する特定権限を持っていないユーザーに与えられる権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*LIBCRTAUT

プロダクト定義の共通認可は、ターゲット・ライブラリー（プロダクト定義を入れるライブラリー）のCRTAUT値から取られます。この値は、プロダクト定義の作成時に決められます。ライブラリーのCRTAUT値がプロダクト定義の作成後に変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***USE** プロダクト・ロード時に基本操作（プログラムの実行またはファイルの読み取りなど）を実行できます。プロダクト・ロードは変更できません。*USE権限はオブジェクト、*EXCLUDE権限はライブラリーに対する操作権および読み取り権限を提供します。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されているもの、または権限リスト管理権限によって制御されるものを除いて、すべての操作を実行することができます。ユーザーは、オブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、およびオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。ユーザーは、プロダクト定義の所有権を転送することはできません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されているもの、あるいはオブジェクト存在権限およびオブジェクト管理権限によって制御されるもの以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはプログラムを実行してデバッグすることができますが、これを変更することはできません。変更権限は、オブジェクト操作権および全データ権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーは、プロダクト定義にアクセスできません。

例

```
CRTPRDDFN PRDDFN(TESTLIB/TEST01) PRDID(9XYZ123) RLS(V5R4M0)
          RGSID(*PHONE 1234567) MSGF(TSTMSGF)
          PRDOPT((*BASE MSG0001 *NODYNNAM 2924 *CODEDFT)
          CPYRGTFST(2001) CPYRGTCUR(2006) ALWMLTRLS(*NO)
          RLSDATE(*NONE) TEXT('PRODUCT TEST01')
          AUT(*LIBCRTAUT)
```

このコマンドは、ライブラリーTESTLIBにプロダクト定義TEST01を作成します。プロダクトIDは9XYZ123で、プロダクトのリリース・レベルはV5R4M0で、登録された電話番号は1234567です。ライブラリーTESTLIB中のメッセージ・ファイルTSTMSGFには、そのプロダクトを説明するメッセージが含まれています。基本オプションが言語ロードID 2924とともに使用されます。他のパラメーターはオブジェクトをさらに定義するために組み込まれます。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

上

プロダクト・ロードの作成 (CRTPRDL0D)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プロダクト・ロードの作成(CRTPRDL0D)コマンドは、プロダクト・オプションの制御オブジェクトを定義します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PRDL0D	プロダクト・ロード	名前, *LNG	必須, 定位置 1
PRDID	プロダクトID	文字値	必須, 定位置 2
RLS	リリース・レベル	文字値	必須, 定位置 3
OPTION	プロダクト・オプション	1-99, *BASE	必須, 定位置 4
LODTYPE	プロダクト・ロード・タイプ	*CODE, *LNG	必須, 定位置 5
LODID	ロードID	文字値, *CODEDFT	必須, 定位置 6
RGSID	登録ID	単一値: *PRDDFN その他の値: 要素リスト	必須, 定位置 7
	要素 1: 登録のタイプ	*PHONE, *CUSTOMER	
	要素 2: 登録値	文字値	
DVLLIB	基本開発ライブラリー	名前, *PRDDFN, *CODE	必須, 定位置 8
PRILIB	基本 1 次ライブラリー	名前, *DVLLIB, *CODE	オプション
PREOPRPGM	事前操作出口プログラム	単一値: *NONE その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 名前	オプション
PSTOPRPGM	事後操作出口プログラム	名前, *NONE	オプション
MINTGTRLS	最低ターゲット・リリース	文字値, *CURRENT, *PRV, *CODE, *BASECODE	オプション
LNLIB	2 次言語ライブラリー	名前	オプション
ADLLIB	追加のライブラリー	単一値: *NONE その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 開発ライブラリー	名前	
	要素 2: 1 次ライブラリー	名前, *DVLLIB, *CODE	
	要素 3: 事前操作出口プログラム	単一値: *NONE その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 名前	
	要素 4: 事後操作出口プログラム	名前, *NONE	
FLRL	フォルダー・リスト	単一値: *NONE その他の値 (最大 100 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 開発フォルダー	文字値	
	要素 2: 1 次フォルダー	文字値, *DVLFLR	

キーワード	記述	選択項目	ノート
DIRL	ディレクトリー・リスト	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプションル
	要素 1: ホーム・ディレクトリー	パス名	
	要素 2: プロダクト・ディレクトリー	値 (最大 300 回の繰り返し): パス名, *HOME	
TEXT	テキスト '記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプションル
AUT	権限	<u>*LIBCRTAUT</u> , *USE, *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE	オプションル

上

プロダクト・ロード (PRDLOD)

プロダクト・ロードの名前を指定します。プロダクト・ロード・オブジェクトは開発ライブラリー (DVLLIB) に作成されます。

注:

両方を同じライブラリーに入れることができるように、言語ロード・オブジェクトとコード・ロード・オブジェクトの名前は異ならなければなりません。言語がシステムの 1 次言語と一致する場合には、言語ロードはコード・ロードと同じライブラリーに導入することができます。

考えられる値は次の通りです。

***LNG** ロード・オブジェクトの名前は、このプロダクト、バージョン、リリース、モディフィケーション・レベルおよびオプションの以前に作成された言語ロード・オブジェクトと同じです。

プロダクト・ロード名

プロダクト・ロード・オブジェクトの名前を指定してください。

指定されたリリースのプロダクト・オプション用に作成された最初の言語ロードには名前を付けなければなりません。プロダクト・オプションのすべての言語ロードが同じ名前を持つように、作成された他のすべての言語ロードには PRDLOD(*LNG) を指定してください。

上

プロダクトID (PRDID)

プロダクト・ロードが作成されるプロダクトの ID (ID) を指定します。この値の長さは 7 桁でなければなりません (CRTPRDDFN の PRDID パラメーターを参照)。

上

リリース・レベル (RLS)

プロダクトのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定します。

上

プロダクト・オプション (OPTION)

プロダクト・ロードが作成されるプロダクト・オプションを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*BASE

このプロダクト・オプションがプロダクトの基本オプションとなります。

プロダクト・オプション番号

作成するプロダクト・ロードのオプション番号を指定します。有効な値の範囲は1から99です。

上

プロダクト・ロード・タイプ (LODTYPE)

作成されるプロダクト・ロード・オブジェクトが言語プロダクト・ロードなのかコード・ロードなのかの記述を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*CODE

このプロダクト・ロードに関連したオブジェクトは翻訳されません。

*LNG このプロダクト・ロードに関連したオブジェクトは、オプションで翻訳可能なオブジェクトです。

上

ロードID (LODID)

作成するプロダクト・ロードのロードIDを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*CODEDFT

省略時のコード・ロードID 5001が使用されます。

プロダクト・ロードID

言語ロードID (29XX)または有効なコード・ロードIDを指定してください。有効なコード・ロードIDは5001-5009です。

上

登録ID (RGSID)

プロダクト開発担当の登録IDを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*PRDDFN

作成されるロードのプロダクト定義の登録IDが使用されます。

考えられる登録タイプ値は次の通りです。

***PHONE**

国別または地域コード、市区町村コードまたは市外局番、および電話番号から構成される14桁の登録値に使用される値。

***CUSTOMER**

終わりに弊社得意先番号を付けた国別または地域コードとしての登録値。

登録値として考えられる値は次の通りです。

登録値 登録IDとして使用する14桁の値を指定してください。

上

基本開発ライブラリー (DVLLIB)

基本開発ライブラリーの名前を指定します。これは、プロダクト・ロードが作成されるライブラリーです。

考えられる値は次の通りです。

***PRDDFN**

プロダクト定義が入っているライブラリーの名前が、開発ライブラリー名として使用されます。

***CODE**

コード・ロードの開発ライブラリーの名前が使用されます。

開発ライブラリー名

1次開発ライブラリー名を指定してください。

上

基本1次ライブラリー (PRILIB)

作成されるロードの基本1次ライブラリーの名前を指定します。これは、プロダクトの導入時に使用される省略時のライブラリーです。

考えられる値は次の通りです。

***DVLLIB**

開発ライブラリー名が1次ライブラリー名として使用されます。

***CODE**

コード・ロードの開発ライブラリーの名前が使用されます。

1次ライブラリー名

基本1次ライブラリー名を指定してください。

上

事前操作出口プログラム (PREOPRPGM)

プロダクト・ロードが保管、復元、または削除される前に、特殊なセットアップを実行するために基本ライブラリーで必要となるプログラムを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

プロダクト・ロードが保管、復元、または削除される前に、基本ライブラリーの出口プログラムは呼び出されません。

事前操作出口プログラム

呼び出すプログラムを最大10個まで指定します。リスト中の最初のプログラムだけが呼び出されます。リスト中の他のすべてのプログラムは、最初のプログラムで呼び出すことができます。

上

事後操作出口プログラム (PSTOPRPGM)

プロダクト・ロードの保管、復元、または検査後に、特殊なセットアップを実行するために基本ライブラリーで必要となるプログラムを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

プロダクト・ロードの保管または復元後に、基本ライブラリーの出口プログラムは呼び出されません。

操作後出口プログラム

プロダクト・ロードがライセンス・プログラム保管(SAVLICPGM)コマンドで保管され、ライセンス・プログラム復元(RSTLICPGM)コマンドで復元され、あるいはプロダクト・オプション検査(CHKPRDOPT)コマンドで検査された後で呼び出されるプログラムを指定します。

上

最低ターゲット・リリース (MINTGTRLS)

ライセンス・プログラム保管(SAVLICPGM)コマンドでオブジェクトを保管できるオペレーティング・システムの最も低いリリースを指定します。

コード・ロードは指定されたオプションに対して一番前のターゲット・リリースを指定しなければなりません。また、基本オプションのコード・ロードは、指定されたプロダクトに対して一番前のリリースを指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

導入されたオペレーティング・システムのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを使用します。例えば、システムでV6R1M0が実行中の場合には、MINTGTRLS(*CURRENT)を指定するのはMINTGTRLS(V6R1M0)を指定するのと同じです。

***PRV** 導入されたオペレーティング・システムの以前のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを使用します。オペレーティング・システムの以前のリリースは、モディフィケーション・レベル0を使用します。例えば、システムでV6R1M0が実行中の場合には、*PRVはV5R4M0を意味します。

***CODE**

このオプションに対してコード・ロードの最も低いターゲット・リリースを使用します。この値が

有効なのは、ロード・タイプが*LNGの場合だけです。この値を使用するためには、システムにこのオプションのコード・ロードが存在しなければなりません。

***BASECODE**

基本オプションに対してコード・ロードの最も低いターゲット・リリースを使用します。この値を使用するためには、システムに基本オプションのコード・ロードが存在しなければなりません。

最低ターゲット・リリース

ロードが保管されるオペレーティング・システムの最も低いリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定してください。形式はVXRYMZです。ここで、X、Y、およびZに有効な値は0から9です。

上

2 次言語ライブラリー (LNGLIB)

記述される言語ロードの2次言語ライブラリーの名前を指定します。

このロードの言語IDがシステムの1次言語IDと一致しないで、ライセンス・プログラム復元(RSTLICPGM)コマンドで一時変更ライブラリー名が指定されていない場合には、ロードおよび言語オブジェクトがこのライブラリーに導入されます。

上

追加のライブラリー (ADLLIB)

プロダクト・ロードの追加のライブラリーを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

ロードには指定された追加のライブラリーはありません。

使用できる開発ライブラリーの値は次の通りです。

開発ライブラリー名

追加の開発ライブラリーの名前を指定します。

使用できる1次ライブラリーの値は次の通りです。

***DVLLIB**

開発ライブラリー名が使用されます。

***CODE**

直前の開発ライブラリーに対応するコード・ロードの1次ライブラリーが使用されます。
LODTYPE(*CODE)が指定されている場合には、この値は正しくありません。

1 次ライブラリー名

追加の1次ライブラリー名を指定します。

事前操作出口プログラムとして考えられる値は次の通りです。

***NONE**

プロダクト・ロードが保管、復元、または削除される前には、この追加のライブラリーの出口プログラムは呼び出されません。

事前操作出口プログラム

呼び出すプログラムを最大10個まで指定します。リスト中の最初のプログラムだけが呼び出されます。リスト中の他のすべてのプログラムは、最初のプログラムで呼び出すことができます。

操作後出口プログラムとして考えられる値は次の通りです。

***NONE**

プロダクト・ロードの保管、復元、または検査後に、この追加のライブラリーのプログラムは呼び出されません。

操作後出口プログラム

プロダクト・ロードがライセンス・プログラム保管(SAVLICPGM)コマンドで保管され、ライセンス・プログラム復元(RSTLICPGM)コマンドで復元され、あるいはプロダクト・オプション検査(CHKPRDOPT)コマンドで検査された後で呼び出されるプログラムを指定します。

上

フォルダー・リスト (FLRL)

記述されるプロダクト・ロードに割り当てられるフォルダーの名前を指定します。開発フォルダー中の文書は、プロダクト・ロードの保管時に保管されます。コード・ロードの作成時には、指定された最初のフォルダーはルート・フォルダーでなければなりません。言語ロードの作成時には、指定された最初のフォルダーはルート・フォルダーのサブフォルダーでなければなりません。DIRLパラメーターにディレクトリー名を指定した場合には、フォルダー・リストを指定することはできません。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

このプロダクト・ロードにはフォルダーは指定されません。

開発フォルダーとして考えられる値は次の通りです。

開発フォルダー・パス

プロダクト・ロードの一部であるフォルダーのフォルダー・パスを指定します。

1次フォルダーとして考えられる値は次の通りです。

***DVLFLR**

1次フォルダー・パスとして開発フォルダー・パスが使用されます。

1次フォルダー名

1次フォルダーのフォルダー・パスを指定します。プロダクト・オプションが導入されている場合には、これは省略時のフォルダー・パスの名前です。

上

ディレクトリー・リスト (DIRL)

プロダクト・ロードに割り当てるディレクトリーの名前を指定します。フォルダー名を指定した場合には、ディレクトリー・リストは指定できません。

割り当てディレクトリーの命名に関する制約事項には、以下があります。

- /QSYS.LIBおよび/QDLSディレクトリーを指定することはできません。
- 固有のパス名を指定しなければなりません。
- パス名をスラッシュで開始または終了しないでください。
- ディレクトリー・パス名にブランクを使用しないでください。
- ディレクトリー・パス名に"."または".."文字の組み合わせを使用しないでください。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

このプロダクト・ロードにはディレクトリーは指定されません。

ホーム・ディレクトリーとして考えられる値は次の通りです。

ホーム・ディレクトリー

ホーム・ディレクトリーのパス名を指定します。最大300のホーム・ディレクトリーを指定できません。

プロダクト・ディレクトリーとして考えられる値は次の通りです。

プロダクト・ディレクトリー

ホーム・ディレクトリーに関連したプロダクト・ディレクトリーを指定します。最大300のプロダクト・ディレクトリーを指定できます。

'/QSYS.LIB'および'/QDLS'という名前の特殊システム・ディレクトリーはサポートされず、単独としても上位のディレクトリーとしても使用できません。

***HOME**

プロダクト・ディレクトリーにホーム・ディレクトリー名を使用します。

ホーム・ディレクトリーおよびプロダクト・ディレクトリーに対する名前の割り当ての詳細については、システム・マネージャーの使用ブックを参照してください。

上

テキスト '記述' (TEXT)

プロダクト・ロードを簡単に記述するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字数以内のテキストをアポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限 (AUT)

プロダクト・ロードに対する特定権限がない場合、権限リストにない場合、およびユーザー・グループにプロダクト・ロードに対する特定権限がない場合にユーザーに与えられる権限を指定します。

*LIBCRTAUT

プロダクト・ロードに対する共通認可は、ターゲット・ライブラリー（プロダクト・ロードを入れるライブラリー）のCRTAUTパラメーターの値から取られます。共通認可は、プロダクト・ロードの作成時に判別されます。ライブラリーのCRTAUT値がプロダクト・ロードの作成後に変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響を与えません。

***USE** プロダクト・ロード時に基本操作（プログラムの実行またはファイルの読み取りなど）を実行できます。プロダクト・ロードは変更できません。*USE権限はオブジェクト、*EXCLUDE権限はライブラリーに対する操作権および読み取り権限を提供します。

***ALL** 所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理権限によって制御されるものを除き、すべての操作を実行できます。オブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの保護を指定し、オブジェクトを変更し、オブジェクトに基本的な機能を実行できます。プロダクト・ロードの所有権を変更できません。

*CHANGE

所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限およびオブジェクト管理権限によって制御されるものを除き、オブジェクトにおいてすべての操作を実行できます。ユーザーは、オブジェクトに対する基本的な機能を変更および実行できます。変更権限は、オブジェクト操作権および全データ権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはプロダクト・ロードにアクセスすることができません。

上

例

例1: プロダクト・ロードの作成

```
CRTPRDL0D  PRDL0D(MYLOAD)  PRDID(9XYZ123)  RLS(V5R4M0)
            OPTION(*BASE)  LODTYPE(*CODE)  LODID(5050)
            RGSID(*PHONE 1234567)  DVLLIB(TESTLIB)
            PRILIB(TESTLIB)  MINTGTRLS(*CURRENT)
            TEXT('PRODUCT LOAD *BASE 9XYZ123')  AUT(*LIBCRTAUT)
```

このコマンドは、プロダクト・ロードMYLOADを作成します。プロダクトIDは9XYZ123で、プロダクトのリリース・レベルはV5R4M0で、オプションは*BASEで、ロード・タイプは*CODEで、ロードIDは5050で、登録された電話番号は1234567です。開発ライブラリーはTESTLIBであり、基本ライブラリーもTESTLIBです。

例2: 1つのホーム・ディレクトリーと、5つのプロダクト・ディレクトリーをもつプロダクト・ロードの作成

```
CRTPRDL0D  PRDL0D(MYLOAD)  PRDID(9XYZ123)  RLS(V5R4M0)
            OPTION(*BASE)  LODTYPE(*CODE)  LODID(5050)
            RGSID(*PHONE 1234567)  DVLLIB(TESTLIB)
            PRILIB(TESTLIB)  MINTGTRLS(*CURRENT)
            DIRL((' /TESTDIR' (' /DIR001' '/DIR002' '/DIR003'
            '/DIR004' '/DIR005')))
```


例3: 各ホーム・ディレクトリーに1つのプロダクト・ディレクトリーがある, 5つのホーム・ディレクトリーをもつプロダクト・ロードの作成

```
CRTPRDLOD  PRDLOD(MYLOAD)  PRDID(9XYZ123)  RLS(V5R4M0)
           OPTION(*BASE)  LODTYPE(*CODE)  LODID(5050)
           RGSID(*PHONE 1234567)  DVLLIB(TESTLIB)
           PRILIB(TESTLIB)  MINTGTRLS(*CURRENT)
           DIRL('/TESTDIR001' (*HOME))
             ('/TESTDIR002' (*HOME)) ('/TESTDIR003' (*HOME))
             ('/TESTDIR004' (*HOME)) ('/TESTDIR005' (*HOME))
```

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF0CB1

登録識別名が正しくない。

CPF0C81

プロダクト・ロード&6はライブラリー&5に作成されなかった。

CPF0C82

ライブラリー&5にプロダクト・ロード&6を作成中にエラーが起こった。

CPF0C84

ロード識別コード&4が正しくない。

CPF0C9C

2次言語ライブラリー名が必要である。

CPF0C9D

最小のターゲット・リリースが正しくない。

CPF0C55

パスによる登録IDの問題。

CPF0C59

ディレクトリーが使用中です。

CPF0C5B

基本プロダクト・ディレクトリーが重複している。

CPF0C5C

指定されたプロダクト・ディレクトリー名は使用できない。

CPF0C5D

プロダクト・ディレクトリーが使用できない。

CPF0C94

オブジェクト名*LNGはコード・ロードでは正しくない。

CPF0C95

*CODEはライブラリーでは正しくない。

CPF0C96

2次言語ライブラリーは正しくない。

上

プログラム一時修正作成 (CRTPTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正作成(CRTPTF)コマンドは、ユーザーが開発したプロダクト用の一時修正を作成します。このコマンドを使用する前に、プロダクトが作成および導入されていなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PTF	PTF ID	文字値	必須, 定位置 1
LICPGM	プロダクト	文字値	必須, 定位置 2
RLS	リリース・レベル	文字値	必須, 定位置 3
OPTION	オプション	1-99, * BASE	オプション
LODID	ロードID	文字値, * CODEDFT	オプション
PTFOBJ	PTFオブジェクト	単一値: * NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト名	名前	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	文字値	
OBJLIB	オブジェクト・ライブラリー	要素リスト	オプション
	要素 1: 開発ライブラリー	名前, * CURLIB	
	要素 2: 1次ライブラリー	名前, * PRINCIPAL	
PTFDOC	PTF文書	単一値: * NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 文書	文字値	
	要素 2: フォルダ	文字値	
DIROBJ	ディレクトリー中のオブジェクト数	単一値: * NONE その他の値 (最大 30 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: プロダクト・ディレクトリー	パス名	
	要素 2: 開発ディレクトリー	パス名, * PRDDIR	
	要素 3: オブジェクト	値 (最大 100 回の繰り返し): 文字値	

キーワード	記述	選択項目	ノート
COVER	カバー・レター	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ソース・カバー・レター・ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ソース・カバー・レター・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL	
	要素 2: ソース・カバー・レター・メンバー	名前	
	要素 3: 国別言語バージョン	文字値	
PREREQ	前提PTF	単一値: *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
COREQ	相互に必要なPTF	単一値: *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
EXITPGM	PTF出口プログラム	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: プログラム	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
	要素 2: 実行オプション	*BOTH, *APPLY, *REMOVE, *PREAPY, *PRERMV, *PREBTH	
	要素 3: タイプ	*PTF, *OBJLST	
要素 4: ユーザー・データ	文字値, *NONE		
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値, *CURRENT, *PRV	オプション

上

PTF ID (PTF)

作成するPTFのID (ID)を指定します。PTF IDは指定されたプロダクトおよびリリースの正しい範囲内になければなりません。

上

プロダクト (LICPGM)

作成されているPTFのプロダクトIDを指定します。

上

リリース・レベル (RLS)

PTFが作成されているプロダクトのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定します。

上

オプション (OPTION)

PTFが基本プロダクトまたは基本プロダクトのオプションのいずれに対するものかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*BASE

PTFは基本オプションについてのものです。

プロダクト・オプション番号

PTFが作成されているプロダクト・オプションを指定してください。

上

ロードID (LODID)

作成するPTFのロードIDを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*CODEDFT

省略時のコード・ロードID 5001が使用されます。

ロードID

言語ロードIDまたは有効なコード・ロードIDを指定してください。言語ロードの場合には、ロードIDは有効な弊社各国語バージョンの1つで、29XXの形式で指定しなければなりません。コード・ロードの場合には、ロードIDは5001から9999の範囲でなければなりません。

上

PTFオブジェクト (PTFOBJ)

PTFに含まれるオブジェクトを指定します。オブジェクトは、その関連のオブジェクト・タイプとともにリストされていなければなりません。それらは、指定された開発ライブラリーおよびOBJLIBパラメーターに指定された1次ライブラリーに存在していなければなりません。最大300のオブジェクトを指定することができます。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

PTFのオブジェクトは指定されません。

使用できるPTFオブジェクト名の値は次の通りです。

オブジェクト名

PTFオブジェクトの名前を指定してください。

使用できるPTFオブジェクト・タイプの値は次の通りです。

オブジェクト・タイプ

PTFオブジェクト・タイプを指定してください。

上

オブジェクト・ライブラリー (OBJLIB)

このPTFの開発ライブラリーおよび1次ライブラリーを指定します。

使用できる開発ライブラリーの値は次の通りです。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

開発ライブラリー

PTFオブジェクトが入っているライブラリーを指定します。

使用できる1次ライブラリーの値は次の通りです。

***PRINCIPAL**

PTFオブジェクトは、指定されたプロダクト・オプションの1次ライブラリーと対応します。

1次ライブラリー

PTFオブジェクトが関連しているプロダクト・ライブラリーを指定します。

上

PTF文書 (PTFDOC)

PTFに入れられる文書を指定します。最大300の文書を指定することができます。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

PTF用の文書は指定されません。

使用できるPTF文書名の値は次の通りです。

文書名 文書の名前を指定してください。

使用できるPTFフォルダー名の値は次の通りです。

フォルダー名

導入されるPTF文書が入っているフォルダーを指定してください。PTF作成機能によって、指定されたフォルダー名に「/QP」が付加され、結果のサブフォルダーから文書が保管されます。

上

ディレクトリー中のオブジェクト数 (DIROBJ)

PTFの対象のプロダクト・ディレクトリー、PTFが見つかる開発ディレクトリー、およびPTFに含まれる開発ディレクトリー中のオブジェクトの名前を指定します。

最高30回の反復が許されます。DIROBJ(*NONE)が指定されない限り、プロダクト・ディレクトリー、開発ディレクトリー、および少なくとも1つのオブジェクト名を指定しなければなりません。

ディレクトリー名を割り当てる時には、次の制約事項があります。

- /QSYS.LIBおよび/QDLSディレクトリーを指定することはできません。

- 固有のパス名を指定しなければなりません。
- パス名をスラッシュで開始または終了しないでください。
- ディレクトリー・パス名に"."または".."文字の組み合わせを使用しないでください。

ディレクトリー名のドル記号（または円記号(¥)）は常にスラッシュ(/)に変換されます。末尾のスラッシュは常に無視されます。以下の文字はディレクトリー名では許可されません。

- アスタリスク(*)
- 波形記号
- 疑問符(?)
- アポストロフィ(')
- 引用符(")

先行スラッシュ(/)が省略された場合は、それが想定されるので、この先行スラッシュの組み込みによってディレクトリー名がディレクトリー名の最大長である1024文字を超えてはいけません。ディレクトリー名は他のディレクトリーでネストされたディレクトリーを指示することがあり、例えば、/A/B/Cなどです。ディレクトリー名の最大長には、すべてのスラッシュおよびネストされたすべてのディレクトリー名が含まれます。

使用できる単一の値は次の通りです。

***NONE**

PTFにはPTFの適用時にディレクトリーに記憶されるオブジェクトが含まれません。

要素1:プロダクト・ディレクトリー名

ディレクトリー名

プロダクトによって定義され、PTFの適用時にオブジェクトが記憶される省略時のディレクトリーであるディレクトリーを指定してください。元のオブジェクトは、新しいオブジェクトによって置き換えられます。

要素2:開発ディレクトリー名

***PRDDIR**

開発ディレクトリーは、プロダクト・ディレクトリーと同じです。

ディレクトリー名

PTFに組み込まれるオブジェクトが現在置かれているディレクトリーを指定します。

要素3:オブジェクト名

オブジェクト名

開発ディレクトリー中にあり、このPTFに組み込まれるオブジェクトのリストを指定します。開発ディレクトリーごとに最大100のオブジェクト名を指定できます。一定のプロダクト・ディレクトリーに100を超えるオブジェクトを組み込む必要がある場合には、開発ディレクトリーの組み合わせを異なるオブジェクト名のセットを使用して再び指定することができます。

指定のオブジェクト名は、複数回指定しないでください。

オブジェクト名は最大255文字に制限されています。

上

カバー・レター (COVER)

PTFカバー・レターのソース・テキストが入っているファイルを指定します。メンバーは、ライブラリー QGPLのPTFカバー・レター・ファイルQAPZCOVERに追加されます。ソース・テキスト・データ、PTF言語、ソース・データに代わるデータ、および必要な情報がメンバーにコピーされます。最大50個のカバー・レターを指定できます。

使用できる単一の値は次の通りです。

*NONE

このPTFにカバー・レターは指定されません。

使用できるカバー・レター・メンバーの値は次の通りです。

カバー・レター・ソース・メンバー

カバー・レター・テキストを入れるファイル・メンバーの名前を指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

*LIBL ファイルを見つけるためにライブラリー検索リストが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

使用できるカバー・レター・ファイルの値は次の通りです。

ファイル名

カバー・レター・テキストが入っているファイルの名前を指定します。

使用できるカバー・レター言語の値は次の通りです。

NLV カバー・レター・ソースの各国語バージョン(NLV)コードを指定します。それぞれの言語コードを指定できるのは1回だけです。

上

前提PTF (PREREQ)

現行PTFの適用前に適用しなければならないPTFのリストを指定します。これらのPTFが適用されていない場合には、現行PTFは機能しません。最大300の前提PTFと相互に必要なPTFの組み合わせを指定できます。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

PTFは必要ありません。

PTF-ID

このPTFで必要となるPTFの番号を指定します。

上

相互に必要なPTF (COREQ)

新しいPTFを使用可能するために必要な付随PTFのリストを指定します。リストされたすべての付随PTFが同時に適用されない限り、現行PTFは適用されません。最大300の前提PTFと相互に必要なPTFの組み合わせを指定できます。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

PTFは必要ありません。

PTF-ID

PTFの番号を指定します。

上

PTF出口プログラム (EXITPGM)

PTFの適用または除去操作時に呼び出される出口プログラムを指定します。最大50個の出口プログラムを指定できます。

使用できる単一の値は次の通りです。

*NONE

このPTFに出口プログラムは指定されません。

プログラム名として考えられる値は次の通りです。

プログラム

このPTFの出口プログラムの名前を指定してください。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定します。

使用できる実行オプションの値は次の通りです。

*BOTH

適用および除去の両方の操作時に出口プログラムが呼び出されます。

***APPLY**

適用操作時にのみ出口プログラムが呼び出されます。

***REMOVE**

除去操作時にのみ出口プログラムが呼び出されます。

***PREAPY**

出口プログラムは、PTF適用処理の前とPTF適用処理の終わりに呼び出されます。

***PRERMV**

出口プログラムは、PTF除去処理の前と終わりに呼び出されます。

***PREBTH**

出口プログラムは、PTFが適用または除去される前とPTFの適用または除去処理の終わりに呼び出されます。

使用できるタイプの値は次の通りです。

***PTF** PTFオブジェクトと一緒に出口プログラム・オブジェクトが組み込まれます。出口プログラムは、PTFが永久的に適用されるまで存在します。

***OBJLST**

出口プログラム・オブジェクトはPTFオブジェクトに含まれません。出口プログラムは、PTFのプロダクト、オプション、リリース、およびロードのオブジェクト・リスト、あるいはプロダクトの基本オプションのコード・ロードのオブジェクト・リストに存在しなければなりません。

使用できるユーザー・データの値は次の通りです。

***NONE**

出口プログラムの呼び出し時に、出口プログラムにユーザー・データは渡されません。

ユーザー・データ

ユーザー・データを指定してください。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

PTFをロードして適用しようとするオペレーティング・システムの一番前のリリースを指定します。

***CURRENT**

PTFは現在システムで実行中のオペレーティング・システムのリリースにロードされて適用されます。PTFは、オペレーティング・システムのこれより後のリリースが導入されているシステムにロードして適用することもできます。

***PRV** PTFは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベル0の前のリリースにロードされ適用されます。PTFは、オペレーティング・システムのこれより後のリリースが導入されているシステムにロードして適用することができます。

ターゲット・レベル

PTFをロードして適用しようとしているオペレーティング・システムのリリースを指定します。リリース・レベルはVXRYMZの形式で指定されます。この場合に、VXはバージョン、RYはリリース、MZはモディフィケーション・レベルです。有効な値は、現行のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、新しいリリースごとに変わります。

上

例

例1: PTFの作成

```
CRTPTF PTF(1X00001) LICPGM(1X12345) RLS(V5R4M0)
        OPTION(*BASE) LODID(*CODEDFT) PTFOBJ((X00PGM01 *PGM))
        OBJLIB(PTFDEVLIB *PRINCIPAL)
```

このコマンドは、プロダクト1X12345のリリースV5R4M0のPTF 1X00001を作成します。PTFは、ライブラリーPTFDEVLIBのプログラムX00PGM01を使用して作成されます。適用すると、このPTFは*BASEオプション

ョン・コード・ロードの基本プロダクト・ライブラリー中のプログラムX00PGM01を置き換えます。このPTFは、オペレーティング・システムの現行のリリースまたはそれ以降のリリースにロードされて適用されるために作成されます。

例2: 文書によるPTFの作成

```
CRTPTF PTF(1X00002) LICPGM(1X12345) RLS(V5R4M0)
      OPTION(*BASE) LODID(*CODEDFT)
      PTFDOC((X00DOC.001 X00FLR.001))
```

このコマンドは、プロダクト1X12345のリリースV5R4M0のPTF 1X00002を作成します。PTFは、フォルダーX00FLR.001/QPの文書X00DOC.001を使用して作成されます。文書はフォルダーX00FLR.001/QPから取り出されることに注意してください。PTFの作成では、組み込まれる文書の検索時に指定されたフォルダーの終わりに"/QP"を追加します。適用すると、このPTFは*BASEオプション・コード・ロードのフォルダーX00FLR.001中の文書X00DOC.001を置き換えます。

例3: カバー・レターによるPTFの作成

```
CRTPTF PTF(1X00003) LICPGM(1X12345) RLS(V5R4M0)
      OPTION(*BASE) LODID(*CODEDFT)
      COVER((PTFDEVLIB/PTFCVRLTRF PTF1X00003 2924))
      EXITPGM((EXTPGMLIB/QPZ1X00003 *BOTH *PTF))
```

このコマンドは、プロダクト1X12345のリリースV5R4M0のPTF 1X00003を作成します。PTFのカバー・レターは、ライブラリーPTFDEVLIBメンバーPTF1X00003のファイルPTFCVRLTRFからのソース・テキストを使用して作成されます。カバー・レターは各国語バージョン(NLV) 2924で作成されます。出口プログラム・パラメーターに指定された*PTF値によって、プログラムQPZ1X00003は一時オブジェクトとしてPTFとともに保管されます。PTFが永久に適用または除去されると、一時オブジェクトは削除されます。一時オブジェクトの命名規則が出口プログラムで使用されることに注意してください。他のPTFが上書きされないように、使用される一時オブジェクト名がこのプロダクト・リリースで固有であることを確認してください。*BOTH値によって、適用と除去の両方の処理時にこの出口プログラムが呼び出されます。一時オブジェクトは名前の先頭にあるQPZ1によって識別されます。

例4: 前のリリースのPTFの作成

```
CRTPTF PTF(1X00004) LICPGM(1X12345) RLS(V5R3M0)
      OPTION(*BASE) LODID(*CODEDFT)
      PTFOBJ((X00PGM02 *PGM))
      OBJLIB(PTFDEVLIB *PRINCIPAL) TGTRLS(V5R3M0)
```

このコマンドは、プロダクト1X12345のリリースV5R3M0のPTF 1X00004を作成します。PTFは、ライブラリーPTFDEVLIBのプログラムX00PGM02を使用して作成されます。適用すると、このPTFは*BASEオプション・コード・ロードの基本プロダクト・ライブラリー中のプログラムX00PGM02を置き換えます。このPTFは、オペレーティング・システムのリリースV5R3M0またはそれ以降のリリースにロードされて適用するために作成されています。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF35CC

PTF操作に必要なライブラリーはすでに存在しています。

CPF35DC

1次ライブラリーが見つからない。

CPF35D3

カバー・レターがコピーされなかった。

CPF3505

相互に必要なPTF &1-&2 &3に共通オブジェクトが入っている。

CPF3506

ディレクトリー名の長さが長すぎます。

CPF3507

相互に必要なPTF &1-&2 &3が指定されていない。

CPF3509

指定された相互に必要なPTF &1-&2 &3が正しくない。

CPF351A

ディレクトリー・オブジェクト名が正しくない。

CPF351B

重複したディレクトリー・オブジェクトが指定された。

CPF357A

パラメーターの値が正しくない。

CPF357B

プロダクトが見つからなかった。

CPF357D

文書またはフォルダー名が正しくない。

CPF3571

PTF ID &1は有効な範囲内でない。

CPF3572

PTF &2-&1 &3はすでに存在している。

CPF3573

プロダクト&1に必要な資源が使用可能でない。

CPF3574

PTF IDが正しくない。

CPF358A

リリースは正しくない。

CPF358B

PTFは作成されなかった。

CPF358C

プロダクト&1のPTFの作成は許されない。

CPF359C

必須のタイプが正しくない。

CPF3901

PTF &1-&2 &3は作成されなかった。

PTFパッケージ作成 (CRTPTFPKG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正パッケージ作成(CRTPTFPKG)コマンドは、プログラム一時修正(PTF)のパッケージを作成します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OUTFILE	パッケージ出力ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: パッケージ出力ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	パッケージ出力メンバー	要素リスト	オプション
	要素 1: メンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
SELECT	ファイル選択PTF	単一値: *SUPPTD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, *FIRST	
OMIT	ファイル除外PTF	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, *FIRST	
SUPERSEDE	取り替えられたPTFの置換	*NO, *YES	オプション
PREREQ	前提PTF組込み	*ALL, *NONE, *SAMEPRD	オプション
DEV	装置	文字値, *NONE	オプション
VOL	ボリュームID	文字値, *MOUNTED	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *END	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
COVER	カバー・レターNLV	文字値, *NONE	オプション

上

パッケージ出力ファイル (OUTFILE)

パッケージに入っているPTFのリストが送られる物理データベース・ファイルを指定します。出力ファイルが存在していない場合には、システムがこれを作成します。

ファイルの名前は、次の1つのライブラリー値で修飾できます。

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定します。

使用できるファイル名の値は次の通りです。

ファイル名

パッケージに入っているPTFのリストを受け取るファイルの名前を指定します。

上

パッケージ出力メンバー (OUTMBR)

パッケージに入っているPTFのリストが送られるデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

使用できるメンバー名の値は次の通りです。

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが、パッケージに入っているPTFのリストを受け取ります。ファイルにメンバーが入っていない場合には、システムはこれを作成します。

メンバー名

リストを受け取るデータベース・ファイル・メンバーを指定します。メンバーが存在していない場合には、メンバーが追加されます。

使用可能なレコードの追加または置き換えの値は次の通りです。

***REPLACE**

指定されたファイル・メンバー中の既存のレコードが、出力データで置き換えられます。

***ADD** 指定されたファイル・メンバー中の既存のレコードの終わりに、出力データが追加されます。

上

ファイル選択PTF (SELECT)

PTFを選択するリストが入っているデータベース・ファイルを指定します。

注：

PTFに代わりのものであった場合には、一番新しいPTFが選択されます。

考えられる値は次の通りです。

*SUPPTD

システムは、選択するためのPTFのリストを生成します。このリストには、システムでサポートされているすべてのプロダクトのすべてのPTFが入っています。

要素1: ファイル名

ファイルの名前は、次の1つのライブラリー値で修飾できます。

*LIBL 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーを使用して検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定します。

ファイル名

PTFを選択するリストが入っているファイルの名前を指定してください。

要素2: ファイル・メンバー

*FIRST

ファイル中の最初のメンバーに、選択するためのPTFのリストが入っています。ファイルにメンバーが入っていない場合には、メンバーが作成されます。

メンバー名

選択用のPTFのリストが入っているデータベース・ファイル・メンバーを指定します。メンバーが存在していない場合には、メンバーが作成されます。

上

ファイル除外PTF (OMIT)

パッケージから除外するPTFのリストが入っているデータベース・ファイルを指定します。このファイルにリストされているPTFで、SELECTパラメーターに指定されているファイルにも存在しているPTFがパッケージから除外されます。システムに必要な前提条件および相互関連条件だけが選択されます。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

SELECTパラメーターに指定されたファイルの中にリストされているすべてのPTFがパッケージに組み込まれます。

要素1: ファイル名

ファイルの名前は、次の1つのライブラリー値で修飾できます。

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定します。

使用できるファイル名の値は次の通りです。

ファイル名

除外するPTFのリストが入っているファイルの名前を指定します。

要素2: ファイル・メンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーに、除外するPTFのリストが入っています。ファイルにメンバーが入っていない場合には、メンバーが作成されます。

メンバー名

除外するPTFのリストが入っているデータベース・ファイル・メンバーを指定します。メンバーが存在していない場合には、メンバーが作成されます。

上

取り替えられたPTFの置換 (SUPERSEDE)

取り替えPTFが取り替えられたPTFの代わりにパッケージされるかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***YES** 取り替えられたPTFの代わりにすべての取り替えPTFがパッケージされます。

***NO** 取り替えられたPTFの代わりに取り替えPTFはパッケージされません。

上

前提PTF組込み (PREREQ)

前提PTFをパッケージに組み込むかどうかを指定します。前提PTFがパッケージに組み込まれた場合には、相互関連PTFも組み込まれます。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** すべての前提PTFおよび相互関連PTFがこのパッケージに組み込まれます。

***NONE**

前提条件も相互関連条件も組み込まれません。

***SAMEPRD**

PTFと同じプロダクト中の前提条件および相互関連条件がパッケージに組み込まれます。

装置 (DEV)

PTFパッケージが保管される装置の名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

パッケージ出力ファイルだけが生成されます。

装置名 パッケージを保管する装置の名前を指定してください。

ボリュームID (VOL)

ボリュームIDを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*MOUNTED

現在装置に装てんされているボリュームが使用されます。

ボリュームID

ボリュームIDを指定してください。

順序番号 (SEQNBR)

保管されたパッケージを受け取るデータ・ファイルの順序番号を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***END** システムは、テープの最後の順序番号の後にパッケージを保管します。

順序番号

ファイルの順序番号を指定します。有効な値の範囲は1から16777215です。

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

操作終了後にテープまたは光ディスク・ボリューム上で自動的に実行される操作を指定します。

注: このパラメーターが有効であるのは、テープまたは光ディスク装置名がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合にサポートされる特殊値は*UNLOADだけであり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

考えられる値は次の通りです。

***REWIND**

操作終了後に、テープは自動的に巻き戻されるがアンロードされません。

***LEAVE**

操作終了後に、テープは巻き戻されないか、あるいはアンロードされません。テープ装置上の現在の位置に残ります。

***UNLOAD**

操作終了後に、テープは自動的に巻き戻され、アンロードされます。一部の光ディスク装置では、操作終了後にボリュームが排出されます。

上

カバー・レターNLV (COVER)

このPTFパッケージのカバー・レターを選択するために使用される言語を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

カバー・レターは保管されません。

29XX 保管中のカバー・レターの各国語バージョン(NLV)を指定します。

上

例

CRTPTFPKGコマンドを使用する前に、PTF表示(DSPPTF)コマンドを実行して出力をファイルに送信して、サービス要求元に出力ファイルを作成する必要があります。次の例では、以下のコマンドを実行して、出力ファイルMYOUTFを作成します。

```
DSPPTF OUTPUT(MYOUTF) OUTFILE(MYOUTF)
```

例1: テープのPTFパッケージの作成

```
CRTPTFPKG OUTFILE(MYOUTF) DEV(TAP01)
```

このコマンドは、現在サービス提供元にはあるが、サービス要求元にはない、すべてのPTFがあるテープを作成します。

例2: 光ディスクのPTFパッケージの作成

```
CRTPTFPKG OUTFILE(MYOUTF) DEV(OPT01)
```

このコマンドは、現在サービス提供元にはあるが、サービス要求元にはない、すべてのPTFがある光ディスクを作成します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

SMU1423

現在サポートされているプロダクトはありません。

SMU1424

プログラム一時修正(PTF)パッケージが作成されません。

SMU1431

このパッケージ用に、PTFが選択されていません。

上

プロダクト定義削除 (DLTPRDDFN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プロダクト定義削除(DLTPRDDFN)コマンドによって、ユーザーはプロダクト定義オブジェクトを削除できます。

注: このコマンドに対する権限をもっているユーザーは、*PRDDFNオブジェクトに対する権限の有無に関係なくどの*PRDDFNオブジェクトでも削除することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PRDDFN	プロダクト定義, または	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 1
	修飾子 1: プロダクト定義, または	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
PRDID	プロダクトID	文字値	オプション
RLS	リリース・レベル	文字値, *ONLY	オプション

上

プロダクト定義, または (PRDDFN)

削除するプロダクト定義の名前を指定します。

注:

このパラメーターを指定するか、あるいはPRDIDとRLSの両方を指定しなければなりません。ただし、すべてのパラメーターを同時に指定することはできません。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

プロダクト定義を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

プロダクト定義が入っているライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

プロダクト定義名

削除するプロダクト定義の名前を指定してください。

上

プロダクト (PRDID)

定義が削除されるプロダクトの7桁のプロダクトID (ID)を指定します。

上

リリース・レベル (RLS)

削除されるプロダクト定義のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ONLY

リリース・レベルは、PRDIDパラメーターに指定されたプロダクトのプロダクト情報をシステムで検索することによって決定されます。この値は、同じプロダクトID に複数のリリースのプロダクトが存在する場合には有効ではありません。

バージョン-リリース-モディフィケーション

削除されるプロダクト定義のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定してください。

上

例

```
DLTPRDDFN PRDDFN(MYLIB/MYPROD)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBに入っているプロダクト定義MYPRODを削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF358A

リリースは正しくない。

上

プロダクト・ロード削除 (DLTPRDLOD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プロダクト・ロード削除(DLTPRDLOD)コマンドによって、ユーザーはプロダクト・ロード・オブジェクトを削除することができます。

注:

このコマンドを使用するための権限がある場合には、*PRDLODオブジェクトに対する権限がにかかわらず、すべての*PRDLODオブジェクトを削除できます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PRDL0D	プロダクト・ロード, または	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 1
	修飾子 1: プロダクト・ロード, または	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
PRDID	プロダクトID	文字値	オプション
OPTION	プロダクト・オプション	1-99, *BASE	オプション
LODID	ロードID	文字値, *CODEDFT	オプション
RLS	リリース・レベル	文字値, *ONLY	オプション

上

プロダクト・ロード, または (PRDL0D)

削除されるプロダクト・ロードの名前を指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

プロダクト・ロードを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

プロダクト・ロードが入っているライブラリーの名前を指定してください。

プロダクト・ロードとして考えられる値は次の通りです。

プロダクト・ロード名

削除されるプロダクト・ロードの名前を指定してください。

注: プロダクトID, オプション, ロードID, およびリリースを指定するか, あるいはプロダクト・ロード名およびライブラリーを指定しなければなりません。

プロダクト (PRDID)

プロダクト・ロードが削除されるプロダクトの7桁のID (ID)を指定します。

オプション (OPTION)

プロダクト・ロードが削除されるプロダクト・オプションを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*BASE

プロダクト・ロードはプロダクトの基本オプションの部分です。

プロダクト・オプション番号

削除するプロダクト・ロードのオプション番号を指定します。有効な値の範囲は1から99です。

ロードID (LODID)

削除されるプロダクト・ロードのIDを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*CODEDFT

省略時のコード・ロードID 5001が使用されます。

プロダクト・ロードID

削除するプロダクト・ロードのプロダクト・ロードIDを指定します。

リリース・レベル (RLS)

削除されるプロダクト・ロードのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ONLY

リリース・レベルは、PRDID、OPTION、およびLODIDパラメーターに指定されたプロダクト・ロードをシステムで検索することによって判別されます。この値を指定できるのは、プロダクトの1つのリリースがシステムに導入されている場合だけです。

バージョン-リリース-モディフィケーション

削除されるプロダクト・ロードのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定します。

例

DLTPRDLOD PRDLOD(MYLIB/MYLOD)

このコマンドは、ライブラリーMYLIBのプロダクト・ロードMYLODを削除します。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF358A

リリースは正しくない。

リモートPTFの削除 (DLTRMTPTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リモート・プログラム一時修正削除(DLTRMTPTF)コマンドによって、サービス提供元はサービス要求元のシステムからPTFをリモート削除することができます。

注:

変更要求は自動的に投入され、このコマンドの状況を調べるために表示できます。投入済み変更要求処理 (WRKSBMCRQ)コマンドを使用して、状況をモニターできます。

制約事項:

- このコマンドの削除機能がサポートされるのは、分散管理のライセンス・プログラムが導入されている場合だけです。
- NODLの値が指定されている場合には、ノード・リストにアドレス・タイプが*SNAに等しい項目しか入れることができません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PTFID	PTF記述	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: PTF ID	文字値, *ALL	
	要素 2: プロダクト	文字値, *ONLY	
	要素 3: リリース・レベル	文字値	
DESTSRVRQS	宛先サービス要求元	単一値: *ALL, *SELECT, *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点	通信名	
NODL	ノード・リスト名	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ノード・リスト名	名前, *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

上

PTF記述 (PTFID)

削除するPTFを指定します。最大50個のPTF IDを指定できます。

PTF IDとして考えられる値は次の通りです。

PTF ID

7文字のPTF IDを指定します。

***ALL** 指定したプロダクトのすべてのPTFを削除します。

プロダクトIDとして考えられる値は次の通りです。

***ONLY**

PTF IDを1つのプロダクトだけに関連づけするように指定します。

プロダクトID

PTFのプロダクトを指定してください。PTF IDがプロダクト相互間で固有でないかまたはPTF IDが*ALLの場合には、プロダクトを指定しなければなりません。

プロダクトのリリース・レベルとして考えられる値は次の通りです。

リリース(VXRXXMX)

指定したプロダクトのリリース・レベルを指定してください。形式はVXRXXMXです。

上

宛先サービス要求元 (DESTSRVRQS)

このPTF機能が実行されるサービス要求元を指定します。単一のサービス要求元またはサービス要求元のリストを指定できます。

考えられるネットワークIDの値は次の通りです。

***SELECT**

サービス要求元のリストを表示します。このリストから1つまたは複数のサービス要求元を選択できます。このコマンドがバッチ環境で使用されている場合には、*SELECTは正しくありません。

***ALL** このPTF機能が、このサービス提供元に対して定義されるすべてのサービス要求元で行なわれるように指定します。

***NONE**

サービス要求元はノード・リスト・オブジェクトで識別されます。

***NETATR**

サービス要求元のリモート・ネットワークIDは、このシステムのリモート・ネットワークIDと同じです。

リモート・ネットワークID

サービス要求元のリモート・ネットワークIDを指定します。

使用できる制御点の値は次の通りです。

この要素は、ネットワークIDが*ALL、*SELECT,または*NONEの場合には正しくありません。

リモート制御点

サービス要求元のリモート制御点名を指定します。

上

ノード・リスト名 (NODL)

このPTF機能が実行されるサービス要求元のリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

サービス要求元はDESTSRVRQSパラメーターで識別されます。

考えられる値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分のすべてのライブラリーでノード・リスト・オブジェクトが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーでノード・リスト・オブジェクトが検索されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定します。

使用できるノード・リスト名の値は次の通りです。

ノード・リスト名

PTF機能が実行されるサービス要求元のリストが入っているノード・リスト名を指定します。

上

例

例1: PTFの削除

```
DLTRMTPTF PTFID((1234567 *ONLY V5R4M0))
```

このコマンドは、1つまたは複数のサービス要求元のPTFを削除する方法を示します。1つまたは複数のサービス要求元を選択するリストが表示されます。

例2: すべてのサービス要求元のPTFの削除

```
DLTRMTPTF PTFID((1234567 *ONLY V5R4M0)) DESTSRVRQS(*ALL)
```

このコマンドは、このサービス提供元でサポートされるすべてのサービス要求元からPTFを削除する方法を示します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

投入されたCRQの削除 (DLTSBMCRQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

投入済み変更要求削除(DLTSBMCRQ)コマンドによって、投入済みの1つまたは複数の変更要求を削除できます。

制約事項: 変更要求を削除できるのは、ユーザーが投入元であるか、あるいは*JOBCTL特殊権限を持っている場合だけです。削除できるのは、状況が終了である変更要求だけです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CRQ	変更要求	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: 名前	総称名, 名前, *ALL	
	要素 2: 順序番号	1-999999, *ALL	
DAYS	日数	0-999, <u>30</u>	オプション

上

変更要求 (CRQ)

削除される変更要求名および順序番号を指定します。

変更要求名として考えられる値は次の通りです。

***ALL** 修飾されたすべての変更要求を削除します。

変更要求名

削除する変更要求の名前を指定してください。

総称*変更要求名

総称変更要求名を指定します。総称名は後にアスタリスク(*)の付いた1文字以上の文字からなる文字ストリングです。このストリングに一致するかまたはこのストリングで始まる変更要求が削除されます。

順序番号として考えられる値は次の通りです。

***ALL** 修飾されたすべての変更要求を選択します。

順序番号

削除する変更要求の順序番号を指定してください。

上

日数 (DAYS)

変更要求が削除されるまでの経過日数を指定します。指定された日数またはそれ以上にわたって終了されている変更要求は削除されます。特定の変更要求を削除する要求の場合には、DAYSパラメーターは無視されます。

30 30日またはそれより古い変更要求を削除します。

旧日数 変更要求がENDED（終了）状況になっている日数を指定してください。

上

例

例1: 終了したすべての変更要求の削除

```
DLTSBMCRQ CRQ(*ALL) DAYS(0)
```

このコマンドは、終了したすべての変更要求を削除する方法を示します。

例2: 投入済み変更要求の削除

```
DLTSBMCRQ CRQ(CHG4444 123)
```

このコマンドは、123の順序番号をもつ投入済み変更要求CHG4444を削除する方法を示します。

例3: すべての変更要求の削除

```
DLTSBMCRQ CRQ(CHG* 1) DAYS(15)
```

このコマンドは、名前がCHGで始まり、1の順序番号をもち、15日以上経過したすべての変更要求を削除する方法を示します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

SMGオブジェクトの削除 (DLTSMGOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム・マネージャー・オブジェクト削除(DLTSMGOBJ)コマンドは、管理下のシステム上でI5/OSオブジェクトを削除する機能を提供します。

注:

変更要求は自動的に投入されます。このコマンドの状況を調べるために表示できます。変更要求の名前を識別するメッセージが戻されます。

制約事項:

1. 実行できるのは、*CL、*REXX,および*UNSPECなどのI5/OSプログラム・オブジェクトまたはファイル・メンバーだけです。
2. *LIBLオブジェクト・ライブラリーは指定できません。
3. オブジェクトをQTEMPライブラリーに入れることはできません。
4. ノード・リスト(NODL)値を指定する場合は、ノード・リストに入れることができるのはアドレス・タイプの値が*SNAになっている項目だけです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	文字値	必須, 定位置 2
MBR	メンバー	名前, *ALL, *FIRST, *LAST	オプション
NODL	管理下のシステム・ノード・リスト	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード・リスト	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点	通信名	

上

オブジェクト (OBJ)

削除される修飾済みの名前を指定します。

使用できるライブラリーの値は次のいずれかです。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

このパラメーターで指定したライブラリーだけが検索されるように指定します。

使用できるオブジェクト名の値は次の通りです。

オブジェクト名

文字AからZ, 0から9,ドル記号(または円記号), 単価記号, および番号記号だけを使用するオブジェクト名を指定してください。

上

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

オブジェクトを指定します。

オブジェクト・タイプ

オブジェクト・タイプを指定します。

上

メンバー (MBR)

I5/OSファイルのメンバー名を指定します。オブジェクト・タイプが*FILE以外の場合には無視されます。

***ALL** ファイル全体が削除されます。ファイルが物理ファイルでない場合には、*ALLを使用しなければなりません。

*FIRST

最初のメンバーが削除されます。メンバー名は活動の実行時に決定されます。

*LAST

最後のメンバーが削除されます。メンバー名は、メンバーが物理ファイルに追加された日付によって、活動の実行時に決定されます。

メンバー名

削除するメンバーの名前を指定します。

上

管理下のシステム・ノード・リスト (NODL)

要求の宛先であるシステムのリストが入っているノード・リスト名を指定します。制御点名(CPNAME)パラメーターも指定されている場合には、このパラメーターは指定できません。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

この活動を実行するシステムは、ノード・リストで識別されません。個々の制御点名を指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーでノード・リスト・オブジェクトが検索されます。

***CURLIB**

ノード・リスト・オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

このパラメーターに指定したライブラリーだけが検索されます。

使用できるノード・リスト名の値は次の通りです。

ノード・リスト名

コマンドを実行するシステムのリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名を指定してください。

上

管理下のシステム・ノード名 (CPNAME)

この要求を実行する管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。ノード・リスト(NODL)パラメーターが指定されていると、制御点名は指定できません。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

この要求を実行するシステムは個々に識別されません。ノード・リストを指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***NETATR**

ローカル・システムのネットワークIDが使用されます。これは、指定されるノードがローカル・システムと同じネットワーク内にある時に役立ちます。

ネットワークID

要求が実行される管理下のシステムのAPPNネットワークIDを指定します。

使用できる制御点名の値は次の通りです。

制御点名

要求が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。

上

例

例1: ノード・リストからのオブジェクトの削除

```
DLTSMGOBJ OBJ(PAYROLL/BACKUP) OBJTYPE(*FILE)
NODL(MYLIB/ALLSYS)
```

このコマンドは、ノード・リストALLSYSにリストされたすべてのシステムの給与計算バックアップ・ファイルを削除します。

例2: 特定システムからのオブジェクトの削除

```
DLTSMGOBJ OBJ(PGMLIB/PROCPGM) OBJTYPE(*PGM)
CPNAME((*NETATR SYS1) (*NETATR SYS2))
```

このコマンドは、ローカル・ネットワークのシステムSYS1およびSYS2のライブラリーPGMLIBからプログラムPROCPGMを削除します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

投入済みCRQの表示 (DSPSBMCRQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

投入済み変更要求表示(DSPSBMCRQ)コマンドによって、投入済み変更要求のリストを表示または印刷できます。

制約事項:

ユーザーが投入した変更要求だけが表示されます。*JOBCTL特殊権限を持っている場合には、選択されたすべての変更要求が表示されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CRQ	変更要求	要素リスト	オプション、定位置 1
	要素 1: 名前	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	
	要素 2: 順序番号	1-999999, <u>*ALL</u>	
STATUS	状況	<u>*ALL</u> , *SBM, *ACTIVE, *ENDED	オプション
HIGHENDCDE	最高の終了コード	0-99, <u>*ANY</u> , *SUCCESS, *FAIL, *NOTRUN	オプション
LASTENDCDE	最終の終了コード	0-99, <u>*ANY</u> , *SUCCESS, *FAIL, *NOTRUN	オプション
CRQD	変更要求記述	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 変更要求記述	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*ALL</u>	
SBM	投入元	名前, <u>*ALL</u>	オプション
PERIOD	期間	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 開始日付	日付, <u>*BEGIN</u> , *CURRENT	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
要素 2: 終了日付	日付, <u>*END</u> , *CURRENT		
PRBID	問題ID	文字値, <u>*ALL</u>	オプション
PRBORG	問題の起点	要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, <u>*ALL</u> , *NETATR	
	要素 2: 制御点	通信名, <u>*ALL</u> , *NETATR	
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT	オプション

上

変更要求 (CRQ)

修飾済み変更要求名を指定します。

変更要求名として考えられる値は次の通りです。

***ALL** すべての修飾済み変更要求を表示します。

変更要求名

指定した変更要求だけを表示するように指定します。

総称*変更要求名

総称変更要求名を指定します。総称名は後にアスタリスク(*)の付いた1文字以上の文字からなる文字ストリングです。このストリングに一致するかまたはこのストリングで始まる変更要求名だけが表示されます。

順序番号として考えられる値は次の通りです。

***ALL** 順序番号に関係なく、選択したすべての変更要求を表示します。

順序番号

ある順序番号の変更要求だけを表示するように指定してください。

上

状況 (STATUS)

表示する変更要求の状況を指定します。

***ALL** 状況に関係なく、修飾されたすべての変更要求を表示します。

***SBM** 状況が投入中の変更要求だけを表示します。

*ACTIVE

状況が活動状態の変更要求だけを表示します。

*ENDED

終了状況の変更要求を表示します。

上

最高の終了コード (HIGHENDCODE)

最大の終了コードまたは変更要求が表示される範囲を指定します。

***ANY** 最大終了コードに関係なく、すべての変更要求を表示します。

***FAIL** 最大終了コードが10から89のすべての変更要求を表示します。

*SUCCESS

最大終了コードが0から9のすべての変更要求を表示します。

*NOTRUN

最大終了コードが90から99のすべての変更要求を表示します。

最大終了コード

変更要求を表示する最大終了コードを指定します。有効な値は0から99です。

最終の終了コード (LASTENDCDE)

最後の変更要求の終了コードまたは変更要求が表示される範囲を指定します。

***ANY** 最終終了コードに関係なく、すべての変更要求を表示します。

***FAIL** 最終終了コードが10から89のすべての変更要求を表示します。

***SUCCESS**

最終終了コードが0から9のすべての変更要求を表示します。

***NOTRUN**

最終終了コードが90から99のすべての変更要求を表示します。

最終終了コード

変更要求を表示する最終終了コードを指定します。有効な値の範囲は0から99です。

変更要求記述 (CRQD)

変更要求記述オブジェクトの修飾された名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** システムのすべてのライブラリーで指定された変更要求記述を検索します。

ライブラリー名

このパラメーターに指定したライブラリーだけが検索されるように指定します。

変更要求記述名として考えられる値は次の通りです。

***ALL** 変更要求記述に関係なく、すべての変更要求を表示します。

変更要求記述

指定した変更要求記述に基づいた変更要求だけが表示されるように指定します。

総称*変更要求記述

総称変更要求記述名を指定します。総称名は後にアスタリスク(*)の付いた1文字以上の文字からなる文字ストリングです。このストリングに一致するかまたはこのストリングで始まる変更要求記述名に基づいた変更要求だけを表示します。

投入元 (SBM)

変更要求を投入したユーザー・プロファイルを指定します。

***ALL** 指定したユーザー・プロファイル名によって投入された選択したすべての変更要求が表示されるように指定します。

ユーザー・プロファイル名

指定したユーザー・プロファイル名によって投入された変更要求が表示されるように指定します。

期間 (PERIOD)

変更要求が表示される期間を指定します。このパラメーターは、それぞれ2つの要素が含まれる2つのリストからなり、次の値を入力できます。

開始時刻として考えられる値は次の通りです。

その時点またはその時点以後に変更要求を投入しなければならない開始時刻を指定するために、次のいずれかが使用されます。指定された時刻および日付より前に投入された変更要求は表示されません。

*AVAIL

指定された開始日に使用可能な変更要求が表示されます。

開始時刻

表示される変更要求を示す指定された開始日の開始時刻を指定します。

指定できる開始日の値は次の通りです。

その日またはその日以後に変更要求が投入されていなければならない開始日を指定するために、次のいずれかが使用されます。指定された日付より前に投入された項目は表示されません。

*BEGIN

変更要求は、最初の変更要求が投入された日付から表示されます。*BEGINが指定されている場合には、開始時刻の*AVAIL以外の時刻の値は無視されます。

*CURRENT

今日投入されたものの内、指定された開始時刻から終了時刻までの間に投入された変更要求が表示されます。

開始日 変更要求が表示される開始日を指定します。

終了時刻として考えられる値は次の通りです。

その時点以前に変更要求が投入されていなければならない終了時刻を指定するために、次のいずれかが使用されます。

*AVAIL

指定された終了日に使用可能な変更要求が表示されます。

終了時刻

表示される変更要求を決定する指定された終了日の終了時刻を指定します。

終了日付として考えられる値は次の通りです。

その日付またはその日付以前に変更要求が投入されていなければならない終了日を指定するために、次のいずれかが使用されます。

***END** 変更要求が投入された最後の日が、変更要求が表示される最後の日になります。*ENDが指定されている場合には、終了時刻の*AVAIL以外の値は無視されます。

*CURRENT

今日投入されたものの内、指定された開始時刻から終了時刻までの間に投入された変更要求が表示されます。

終了日 変更要求が表示される終了日を指定します。

上

問題ID (PRBID)

表示される変更要求に関連づけられた問題IDを指定します。

***ALL** 関連づけられた問題IDに関係なく、変更要求が表示されることを示します。

問題ID

変更要求が表示される関連づけられた問題IDを指定します。

上

問題の起点 (PRBORG)

問題IDの起点システムを指定します。

考えられるネットワークIDの値は次の通りです。

***ALL** 問題起点ネットワークIDに関係なく、変更要求を表示します。

*NETATR

問題起点ネットワークIDがシステム・ネットワーク属性のネットワークIDと同じである変更要求を表示します。

ネットワークID

変更要求が表示される問題起点ネットワークIDを指定してください。

使用できる制御点名の値は次の通りです。

***ALL** 問題起点制御点名に関係なく、変更要求を表示します。

*NETATR

システム・ネットワーク属性で定義された制御点名と同じ制御点名をもつ変更要求を表示します。

制御点名

変更要求が表示される問題起点制御点名を指定してください。

上

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力が要求元ワークステーションに表示されるか、あるいはジョブのスパール出力で印刷されるかを指定します。

***** 対話式ジョブによって要求された出力は、表示装置で表示されます。バッチ・ジョブの出力はジョブのスパール出力で印刷します。

*PRINT

ジョブのスパール出力で出力を印刷します。

上

例

例1: 総称名によるすべての変更要求の表示

```
DSPSBMCRQ (CRQ* *ALL)
```

このコマンドは、名前がCRQで始まるすべての変更要求を表示します。

例2: 失敗したすべての変更要求の表示

```
DSPSBMCRQ STATUS(*ENDED) LASTENDCDE(*FAIL)
```

このコマンドは、失敗した状態で終了したすべての変更要求を表示します。

例3: 特定ユーザーによる変更要求の表示

```
DSPSBMCRQ SBM(JOE)  
PERIOD(*AVAIL 08/31/06) (*AVAIL *CURRENT))
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルJOEが2006年8月31日から現在日までに投入したすべての変更要求を表示します。

例4: 特定の変更要求記述の変更要求の表示

```
DSPSBMCRQ CRQD(CRQD001)
```

このコマンドは、CRQD001変更要求記述に基づいて投入されたすべての変更要求を表示します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

投入済みCRQ活動の表示 (DSPSBMCRQA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

投入済み変更要求活動表示(DSPSBMCRQA)コマンドは、選択した変更要求の活動のリストを表示します。

制約事項:

ユーザーが投入した変更要求に対するメッセージだけが表示されます。*JOBCTL特殊権限を持っている場合には、任意の変更要求に対するメッセージを表示できます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CRQ	変更要求	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: 名前	名前	
	要素 2: 順序番号	1-999999	
STATUS	状況	*ALL, *HELD, *NOTSTARTED, *SCHEDULED, *WAIT, *READY, *STARTED, *SENT, *NOTSENT, *RUNNING, *ENDING, *ENDED	オプション
ENDCODE	終了コード	0-99, *ANY, *FAIL, *SUCCESS, *NOTRUN	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

上

変更要求 (CRQ)

表示する変更要求名および活動リストの順序番号を指定します。

使用できる変更要求名の値は次の通りです。

変更要求名

活動を表示する変更要求の名前を指定してください。

使用できる順序番号の値は次の通りです。

順序番号

変更要求の順序番号を指定してください。

上

状況 (STATUS)

表示する活動の状況基準を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** 状況に関係なく、すべての変更要求活動を表示します。

***HELD**

状況が保留中の活動を表示します。

***NOTSTARTED**

状況が未開始の活動を表示します。

***SCHEDULED**

状況がスケジュール済みの活動を表示します。

***WAIT**

状況が待機中の活動を表示します。

***READY**

状況が使用可能の活動を表示します。

***STARTED**

状況が開始の活動だけを表示します。

***RUNNING**

状況が実行中の活動だけを表示します。

***ENDING**

状況が終了中の活動だけを表示します。

***ENDED**

状況が終了の活動だけを表示します。

***SENT**

状況が送信済みの活動だけを表示します。

***NOTSENT**

状況が未送信の活動だけを表示します。

上

終了コード (ENDCODE)

表示される変更要求活動の終了コードを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ANY** コードに関係なく、活動を表示します。

***SUCCESS**

最大終了コードが0から9のすべての活動を表示します。

***FAIL** 最大終了コードが10から89のすべての活動を表示します。

***NOTRUN**

最大終了コードが90から99のすべての活動を表示します。

終了コード

使用する終了コードを指定します。指定した終了コードまたは指定した終了コードより大きい終了コードの活動が表示されます。有効な値は0から99です。

上

出力 (OUTPUT)

コマンドの出力ファイルを要求元ワークステーションに表示するか、あるいはスプール出力ファイルで印刷するかを指定します。

* 対話式ジョブによって要求された出力は、表示装置で表示されます。バッチ・ジョブの出力はジョブのスプール出力で印刷します。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

上

例

DSPSBMCRQA CRQ(CHG001 123456)

順序番号123456をもつCHG001の名前の変更要求の活動を表示します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

投入済みCRQ メッセージの表示 (DSPSBMCRQM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

投入済み変更要求メッセージ表示(DSPSBMCRQM)コマンドは、1つまたは複数の投入済み変更要求メッセージのリストを表示または印刷します。

制約事項:

*JOBCTL権限をもたない限り、表示できるのはユーザーが投入した変更要求のメッセージだけです。この場合には、任意の変更要求のメッセージを表示できます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CRQ	変更要求	要素リスト	オプション、定位置 1
	要素 1: 名前	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	
	要素 2: 順序番号	1-999999, <u>*ALL</u>	
ACTIVITY	活動名	名前, <u>*ALL</u> , *LAST	オプション
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, <u>*ALL</u> , *NETATR	
	要素 2: 制御点	文字値, <u>*ALL</u> , *NETATR	
SEV	重大度コード	0-99, <u>0</u>	オプション
PERIOD	期間	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 開始日付	日付, <u>*BEGIN</u> , *CURRENT	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 終了日付	日付, <u>*END</u> , *CURRENT	
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT	オプション

上

変更要求 (CRQ)

メッセージの表示に使用する修飾された変更要求を指定します。

変更要求名として考えられる値は次の通りです。

***ALL** 他のパラメーターの選択基準と一致するすべての変更要求メッセージを表示します。

変更要求名

メッセージを表示する変更要求名を指定します。

総称*変更要求名

メッセージを表示する総称変更要求名を指定します。総称名は後にアスタリスク(*)の付いた1文字以上の文字からなる文字ストリングです。

順序番号として考えられる値は次の通りです。

***ALL** 順序番号に関係なく、指定された変更要求のメッセージを表示します。

順序番号

メッセージが表示される変更要求を識別する変更要求の順序番号を指定します。

上

活動名 (ACTIVITY)

メッセージが表示される活動の名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** 活動名に関係なく、すべての変更要求メッセージを表示します。

***LAST**

実行する最後の活動のメッセージを表示します。実際の保管名は*LASTです。

活動名 メッセージを表示したい変更要求活動を指定します。

上

管理下のシステム・ノード名 (CPNAME)

この活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。ノード・リストが指定されている場合には、制御点名は指定できません。

考えられるネットワークIDの値は次の通りです。

***ALL** 宛先ネットワークIDに関係なく、メッセージが表示されます。

***NETATR**

宛先ネットワークIDがこのシステムのネットワーク属性で定義されているものと同じネットワークIDの変更要求活動のメッセージだけが表示されます。

ネットワークID

ネットワークIDを指定します。指定した宛先ネットワークIDおよび制御点名の変更要求メッセージだけが表示されます。

使用できる制御点の値は次の通りです。

***ALL** 宛先ノードの制御点名に関係なく、メッセージを表示します。

***NETATR**

宛先制御点名がシステムのネットワーク属性で定義されているものと同じ制御点名の変更要求活動のメッセージだけが表示されます。

制御点名

活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。NETVIEW分散管理エージェントの場合の制御点名は、他のプラットフォームで有効な制御点名の先頭の位置に数字(0から9)をサポートする変更制御クライアントです。

上

重大度コード (SEV)

メッセージが表示される重大度レベルを指定します。

0 指定したメッセージ待ち行列のすべてのメッセージが表示されます。

重大度コード

0から99の値を指定します。指定した値に等しいかそれより大きい重大度コードのメッセージが表示されます。

上

期間 (PERIOD)

変更要求またはメッセージが表示される期間を指定します。このパラメーターは、それぞれ2つの要素が含まれる2つのリストからなり、次の値を入力できます。

開始時刻として考えられる値は次の通りです。

その時点またはその時点以後に変更要求メッセージがログに記録されていなければならない開始時刻を指定するために、次の1つが使用されます。指定された時刻および日付より前にログに記録された変更要求は表示されません。

***AVAIL**

指定した開始日に使用可能な変更要求メッセージが表示されます。

開始時刻

表示される変更要求を示す指定された開始日の開始時刻を指定します。

指定できる開始日の値は次の通りです。

その日またはその日以後に変更要求メッセージがログに記録されていなければならない開始日を指定するために、次の1つが使用されます。指定された日付より前にログに記録されたメッセージは表示されません。

***BEGIN**

変更要求メッセージはログの始めから表示されます。*BEGINが指定されている場合には、開始時刻の*AVAIL以外の時刻の値は無視されます。

***CURRENT**

指定した開始時刻から終了時刻までの間で今日ログに記録された変更要求メッセージが表示されます。

開始日 変更要求メッセージが表示される開始日を指定します。

終了時刻として考えられる値は次の通りです。

その時点より前の変更要求メッセージがログに記録されていなければならない終了時刻を指定するために、次の1つが使用されます。

***AVAIL**

指定された終了日に使用可能な変更要求メッセージが表示されます。

終了時刻

表示される変更要求メッセージを決定する指定された終了日の終了時刻を指定します。

終了日付として考えられる値は次の通りです。

その日またはその日以前に変更要求メッセージがログに記録されていなければならない終了日を指定するために、次の1つが使用されます。

END** 変更要求メッセージがログに記録された最後の日が、変更要求メッセージが表示される最後の日になります。END**が指定されている場合には、終了時刻の***AVAIL**以外の値は無視されます。

***CURRENT**

今日投入されたものの内、指定された開始時刻から終了時刻までの間に投入された変更要求メッセージが表示されます。

終了日 変更要求メッセージが表示される終了日を指定してください。

上

出力 (OUTPUT)

コマンドの出力を要求したワークステーションに表示するか、あるいはスプール出力で印刷するかを指定します。

***** 対話式ジョブの出力は画面に表示します。バッチ・ジョブの出力はジョブのスプール出力で印刷します。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

上

例

例1: 変更要求のすべてのメッセージの表示

```
DSPSBMCRQM CRQ(CHG0001 000001)
```

この例は、順序番号000001をもつ変更要求CHG0001のすべてのメッセージの表示方法を示します。

例2: 変更要求の重大度30のすべてのメッセージの表示

```
DSPSBMCRQM CRQ(CHG0001 000001) ACTIVITY(APLYPTF) SEV(30)
```

この例は、その重大度が30以上のCRQ00001 000001活動APLYPTFのすべての変更要求メッセージを表示する方法を示します。

例3: 指定された期間のすべてのメッセージの表示

```
DSPSBMCRQM CRQ(CHGRQS*) CPNAME(*NETATR CHICAGO)  
PERIOD>(*AVAIL 08/31/06) (*AVAIL *CURRENT )
```

この例は、CHGRQSで始まり、CHICAGOの宛先をもつ変更要求のすべてのメッセージを表示します。
8/31/06から現在日付までの間にログされたメッセージだけが表示されます。

上

エラー・メッセージ

なし

上

サービス提供元属性の表示 (DSPSRVPVDA)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス提供元属性表示(DSPSRVPVDA)コマンドによって、サービス提供元の構成属性が表示されます。
サービス提供元属性変更(CHGSRVPVDA)コマンドを使用して、サービス提供元の属性を変更できます。

上

パラメーター

なし

上

例

DSPSRVPVDA

このコマンドは、サービス提供元の構成属性を表示します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

投入済みCRQ活動の終了 (ENDSBMCRQA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

投入済み変更要求活動終了(ENDSBMCRQA)コマンドによって、1つまたは複数の変更要求活動を終了できます。

制約事項:

ユーザーは変更要求の投入元であるか、あるいは*JOBCTL特殊権限をもっていなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CRQ	変更要求	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: 名前	名前	
	要素 2: 順序番号	1-999999	
ACTIVITY	活動名	名前, *ALL, *LAST	オプション
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *ALL, *NETATR	
	要素 2: 制御点	文字値, *ALL, *NETATR	
OPTION	終了方法	*CNTRLD, *IMMED, *FRCFAIL	オプション

上

変更要求 (CRQ)

終了される活動の変更要求名および変更要求順序番号を指定します。

変更要求名として考えられる値は次の通りです。

変更要求名

終了する活動の変更要求名を指定してください。

順序番号として考えられる値は次の通りです。

順序番号

終了する活動の変更要求順序番号を指定してください。

上

活動名 (ACTIVITY)

終了される活動を指定します。

***ALL** 指定した変更要求のすべての活動を終了します。

***LAST**

*LASTという名前の活動を終了します。これは変更要求記述オブジェクトに最後に追加された活動ではありません。これは変更要求の投入後に最後に実行される活動です。

活動名 終了する活動の名前を指定します。

上

管理下のシステム・ノード名 (CPNAME)

この活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。ノード・リスト(NODL)パラメーターが指定されていると、制御点名は指定できません。

考えられるネットワークIDの値は次の通りです。

***ALL** 指定した制御点名のすべての活動が終了されます。

***NETATR**

このシステムのネットワーク属性に定義されているものと一致したネットワークIDの活動だけが終了されます。

ネットワークID

ネットワークIDを指定します。指定したネットワークIDと制御点名の活動だけが終了されます。

使用できる制御点の値は次の通りです。

***ALL** 指定したネットワークIDのすべての活動が終了されます。

***NETATR**

このシステムのネットワーク属性に定義されているものと一致した制御点名の活動だけが終了されます。

制御点名

活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。NETVIEW分散管理エージェントの場合の制御点名は、他のプラットフォームで有効な制御点名の先頭の位置に数字(0から9)をサポートする変更制御クライアントです。

上

終了方法 (OPTION)

活動の終了方法を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***CNTRLD**

活動は制御された方式で終了されます。実行を開始していない活動は終了されます。すでに開始されている活動（開始または実行中）が終了されるのは、部分的な結果を残していない場合だけです。戻される終了コードは30です。

***IMMED**

活動は、部分的な結果が出されている場合であっても、可能な限り即時に終了されます。まだ実行を開始していない活動は終了されます。すでに開始されている活動（開始または実行中）は、その処理が中断されることがあり、部分的な結果が出される可能性があります。戻される終了コードは35です。

***FRCFAIL**

活動は即時に終了されます。活動を終了できない場合には、終了コード39で終了されたものとしてマークが付けられます。この活動で条件づけされている他の活動は、実行できる状態かどうかを判断するために評価されます。

上

例

```
ENDSBMCRQA CRQ(CHG001 456) ACTIVITY(*ALL) CPNAME(*ALL)
```

このコマンドは、制御された方式のすべてのノードで順序番号456をもち、CHG001の名前の変更要求のすべての活動を終了します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

システム・マネージャーの終了 (ENDSYSMGR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム・マネージャー終了(ENDSYSMGR)コマンドは、システム・マネージャーを実行するQSYSWRKサブシステム内のジョブを終了します。

制約事項:

1. 終了コマンドを使用するためには*JOBCTL権限が必要です。
2. このコマンドの共通認可は*EXCLUDEです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OPTION	終了方法	*CNTRLD, *IMMED	オプション, 定位置 1
DELAY	遅延時間(*CNTRLDの場合)	0-999999, *NOLIMIT	オプション, 定位置 2

上

終了方法 (OPTION)

変更要求管理機能モニター・ジョブおよびエレクトロニック支援制御ジョブについて、制御された終了を行なうか、または即時に終了させるかを指定します。

*CNTRLD

変更要求管理機能モニター・ジョブおよびエレクトロニック支援制御ジョブを制御された方式で終了するように指定します。

*IMMED

変更要求管理機能モニター・ジョブおよびエレクトロニック支援制御ジョブを即時に終了するように指定します。

上

遅延時間(*CNTRLDの場合) (DELAY)

即時に終了となる前の遅延時間を指定します。

*NOLIMIT

変更要求管理機能モニター・ジョブおよびエレクトロニック支援制御ジョブは、現行の活動が処理を完了するまで処理を続行します。最大値(999999秒)で、両方のジョブ名が制御された終了として指定されます。

遅延時間

変更要求管理機能モニター・ジョブおよびエレクトロニック支援制御ジョブを、遅延時間後に即時終了するように指定します。

上

例

例1: ジョブの終了

```
ENDSYSMGR
```

このコマンドは、制御方式でシステム・マネージャー機能を実行するQSYSWRKサブシステムのジョブを終了します。

例2: ジョブの即時終了

```
ENDSYSMGR OPTION(*IMMED)
```

このコマンドは、即時方式でシステム・マネージャー機能を実行するQSYSWRKサブシステムのジョブを終了します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

ライセンス・キーの生成 (GENLICKEY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライセンス・キー生成(GENLICKEY)コマンドは、ユーザーがプロダクトまたはプロダクトのフィーチャーにアクセスできるライセンス・キーを生成します。このキーはプロダクトおよびこのコマンドで入力したシステム情報に特有のもので、生成されるキーは18桁の文字および数字(A-Fおよび0-9)の組み合わせになります。このコマンドを実行するためには、システム上にキーを生成しようとしているプロダクトのプロダクト定義が存在しなければなりません。

また、このコマンドはライセンス・リポジトリにライセンス情報を追加します。キーは生成されたすべてのキーの履歴を保管するリポジトリに保管されます。リポジトリを表示して、特定のプロダクトまたはシステムにどのようなキーが生成されたかを調べることができます。ライセンス・リポジトリを処理するために、DSPLICKEY、ADDLICKEY、およびRMVLICKEYコマンドを使用することができます。

ライセンス・キー情報追加(QLZAADDK) APIまたはプロダクト・ライセンス情報追加(QLZADDLI) APIを使用して、ライセンス情報を追加することができます。これらのAPIのより詳細な特定情報については、[HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)のISERIES INFORMATION CENTERの「API」のトピックを参照してください。

制約事項: このコマンドは共通*EXCLUDE権限付きで出荷されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PRDID	プロダクトID	文字値	必須, 定位置 1
LICTRM	ライセンス条件	文字値	必須, 定位置 2
FEATURE	フィーチャー	文字値	必須, 定位置 3
VNDPWD	バンダー・パスワード	単純名, *NONE	必須, 定位置 4
SERIAL	システム製造番号	文字値	必須, 定位置 5
PRCGRP	処理プログラム・グループ	文字値, *ANY	オプション, 定位置 6
EXPDATE	満了日	日付, *NONE	オプション
USGLMT	使用状況の範囲	0-999999, 1, *NOMAX	オプション
VNDDTA	バンダー・データ	文字値, *NONE	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *LICKEYFILE	オプション
LICKEYFILE	ライセンス・キー・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ライセンス・キー・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LICKEYMBR	ライセンス・キー番号	要素リスト	オプション
	要素 1: メンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*ADD, *REPLACE	

プロダクトID (PRDID)

ライセンス・キーが生成されるプロダクトの7桁のID (ID)を指定します。

ライセンス条件 (LICTRM)

ライセンス・キーを生成するためのライセンス条件を指定します。

考えられる値は次の通りです。

ライセンス条件

次の形式の1つでプロダクトのライセンス条件を指定してください。

- VX
- VXRY
- VXRYMZ

この場合に、XおよびYの値の範囲は0から9であり、Zの値の範囲は0から9およびAからZです。ライセンス条件VXは、認可される使用限界がプロダクトまたはフィーチャーのこのバージョン全体に有効であることを意味します。ライブラリー条件VXRYは、認可される使用限界がプロダクトまたはフィーチャーのこのリリース全体に有効であることを意味します。ライセンス条件VXRYMZは、認可される使用限界がこのプロダクトのモディフィケーションだけに有効であることを意味します。

フィーチャー (FEATURE)

ライセンス・キーが生成されるPRDIDパラメーターで指定したプロダクトのフィーチャーを指定します。

考えられる値は次の通りです。

フィーチャー

ライセンス・キーを生成するフィーチャーを指定してください。有効な値の範囲は5001 - 9999です。

ベンダー・パスワード (VNDPWD)

ソフトウェア・ベンダーのパスワードを指定します。このパスワードは暗号化されてプロダクトと一緒に保管されます。これは総称ライセンス・キー要求の妥当性検査に使用されるもので、プロダクト・ライセンス情報追加(ADDPRDLIC)コマンドで使用するものと同じパスワードでなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

ライセンス・キーを生成するためにベンダーのパスワードは必要ありません。

ベンダー・パスワード

ベンダーのパスワードを指定してください。パスワードは英字(A-Z, ¥, #, または@)で始まり, その後に, 9桁を超えない英数字(A-Z, 0-9, ¥, #, @, または_)が続いていなければなりません。

上

システム製造番号 (SERIAL)

ライセンス・キーが生成されているシステムのシステム製造番号を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

システム製造番号

ライセンス・キーが生成されるシステムのシステム製造番号を指定します。

上

処理プログラム・グループ (PRCGRP)

ライセンス・キーが生成されるシステムのプロセッサ・グループを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ANY** 生成されるライセンス・キーは任意のプロセッサ・グループで機能します。

プロセッサ・グループ

ライセンス・キーが生成されるシステムのプロセッサ・グループを指定します。プロセッサ・グループを表示するためには, ライセンス・キーが生成されるシステムでライセンス情報処理 (WRKLCINF)コマンドを使用してください。

上

満了日 (EXPDATE)

プロダクトのライセンスが満了する日付を指定します。この日付以後, 省略時の使用限界を超えるユーザーはプロダクトまたはフィーチャーにアクセスすることができません。さらにプロダクトの使用を可能するためには, ソフトウェア・ベンダーから新しいライセンス・キーを入手しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

プロダクトまたはフィーチャーに満了日はありません。

満了日 プロダクトまたはフィーチャーが満了する日付を指定してください。

上

使用状況の範囲 (USGLMT)

ライセンス・キーが生成されるプロダクトまたはフィーチャーの最大ユーザー数（使用限界）を指定します。並行使用の場合には、同時にプロダクトまたはフィーチャーにアクセスできるジョブの最大数を指定します。登録使用の場合には、このプロダクトまたはフィーチャーを使用するために登録できるライセンス・ユーザーの最大数です。

考えられる値は次の通りです。

1 プロダクトまたはフィーチャーには単一のユーザーしかアクセスできません。

*NOMAX

ユーザー数に制限はありません。

使用限界

このプロダクトまたはフィーチャーの最大ユーザー数を指定します。有効な値の範囲は0-999999です。

上

ベンダー・データ (VNDDTA)

ベンダーが定義し使用する8桁のデータ・フィールドを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

このプロダクトまたはフィーチャーにベンダーのデータはありません。

ベンダー・データ

プロダクトまたはフィーチャーの詳細な情報を定義することができる8桁を指定します。

上

出力 (OUTPUT)

生成されるライセンス・キーが完全なメッセージに表示されるか、スプール・ファイルに印刷されるか、あるいはファイルに保管されるかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

* ライセンス・キーは完全なメッセージで表示されるだけです。

*PRINT

ライセンス・キーはスプール・ファイルに印刷されます。

*LICKEYFILE

ライセンス・キー情報はLICKEYFILEパラメーターで指定したファイルに保管されます。その後でこのファイルは、分散システム・ライセンス・オプション(DSLO)テープのキーとして使用することができます。

上

ライセンス・キー・ファイル (LICKEYFILE)

ライセンス・キー情報が保管されるファイル指定します。このファイルが存在しない場合には、システムがこのファイルを作成します。存在する場合には、QSYS/QALZAKEYの形式でなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***LIBL** ライセンス・キーを保管するファイルを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ライセンス・キーを保管するファイルを見つけるために現行ジョブのライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ライセンス・キーを保管するライブラリーの名前を指定してください。

使用できるファイル名の値は次の通りです。

ファイル名

ライセンス・キー情報を保管するファイルの名前を指定してください。

上

ライセンス・キー番号 (LICKEYMBR)

ライセンス・キー情報を保管するメンバーおよび情報の保管方法を指定します。

注：

ライセンス・キー生成(QLZAGENK) APIを使用して、ライセンス・キー情報を作成することもできます。このAPIの詳細については、[HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)のISERIES INFORMATION CENTERの「API」のトピックを参照してください。

出力を受け取るメンバーとして考えられる値は次の通りです。

***FIRST**

出力を受け取るファイルの最初のメンバー。LICKEYMBR(*FIRST)が指定されていてメンバーが存在しない場合には、システムがLICKEYFILEパラメーターで指定されたファイルの名前でメンバーを作成します。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。ファイル・メンバーの名前が指定されていてそのメンバーが存在しない場合には、システムがそのメンバーを作成します。メンバーがすでに存在する場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいレコードを追加するかのオプションを選択できます。

メンバーの値を実行するオプションは次の通りです。

***ADD** メンバーが存在する場合には、システムは既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

***REPLACE**

メンバーが存在する場合には、システムはそのメンバーを消去して新しいレコードを追加します。

例

```
GENLICKEY PRDID(2MYPROD) LICTRM(V5R4M0) FEATURE(5001)
          VNDPWD(PRODUCTPWD) EXPDATE(*NONE)
          SERIAL(1234567) PRCGRP(P30) USGLMT(25)
```

このコマンドは、プロダクト2MYPROD、ライセンス条件V5R4M0およびフィーチャー5001のライセンス・キーを生成します。このキーによって、25人のユーザーが有効期限なしでこのプロダクトを使用できます。このキーでは、1234567の製造番号、01のプロセッサ・グループ、およびP30またはそれ以下のプロセッサ・グループのシステムでのみプロダクトが使用可能になります。

エラー・メッセージ

なし

プログラム一時修正の保留 (HLDPTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正(PTF)保留(HLDPTF)コマンドは、PTF保管ファイル(SAVF)を保留します。PTF SAVFが保留になっている時には、それがエレクトロニック支援を介してサービス要求元に自動的に送られることはありません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PTF	PTF番号	文字値	必須, 定位置 1
LICPGM	プロダクト	文字値, *ALL	オプション
RLS	リリース・レベル	文字値, *ONLY	オプション

上

PTF番号 (PTF)

保留するPTFを指定します。

上

プロダクト (LICPGM)

保留するPTFのプロダクトID (ID)を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** 保留するPTFについて、すべてのプロダクトが検索されます。

プロダクトID

保留するPTFのプロダクトIDを指定してください。

上

リリース・レベル (RLS)

保留するPTFのリリース・レベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ONLY

PTFは、プロダクトの1つのリリース・レベルについてのみ存在しています。

バージョンリリース-モディフィケーション

保留するPTFのリリース・レベルを指定してください。

上

例

HLDPTF PTF(SI12345)

このコマンドは、PTF名SI12345の保管ファイルを保留します。SI12345を保留すると、これがサービス要求元に自動的に配布されません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

SMU1430

重複したPTFが見つかりました。

上

投入済みCRQ活動の保留 (HLDSBMCRQA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

投入済み変更要求活動保留(HLDSBMCRQA)コマンドは、1つまたは複数の変更要求活動を保留します。

制約事項:

1. 保留できるのは、状況が待機、スケジュール済み、または使用可能の活動だけです。
2. ユーザーは変更要求の投入元であるか、あるいは*JOBCTL特殊権限を持っていない限りなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CRQ	変更要求	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: 名前	名前	
	要素 2: 順序番号	1-999999	
ACTIVITY	活動名	名前, *ALL, *LAST	オプション
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *ALL, *NETATR	
	要素 2: 制御点	文字値, *ALL, *NETATR	

上

変更要求 (CRQ)

保留される活動の変更要求名および変更要求順序番号を指定します。

使用できる変更要求名の値は次の通りです。

考えられる値は次の通りです。

変更要求名

保留する活動の変更要求名を指定してください。

使用できる順序番号の値は次の通りです。

順序番号

保留する活動の変更要求順序番号を指定してください。

上

活動名 (ACTIVITY)

保留する活動を指定します。

***ALL** 指定したすべての変更要求活動を保留します。

***LAST**

*LASTという名前の活動を保留します。これは変更要求記述オブジェクトに最後に追加された活動ではありません。変更要求の投入後に最後に実行される活動です。

活動名 保留する活動の名前を指定してください。

上

管理下のシステム・ノード名 (CPNAME)

この活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。ノード・リスト(NODL)パラメーターが指定されていると、制御点名は指定できません。

考えられるネットワークIDの値は次の通りです。

***ALL** 指定した制御点名のすべての活動が保留されます。

***NETATR**

このシステムのネットワーク属性で定義されているものと一致するネットワークIDの活動だけを保留するように指定します。

ネットワークID

ネットワークIDを指定します。指定されたネットワークIDおよび制御点の活動だけが保留されます。

制御点の値は次の通りです。

***ALL** 指定したネットワークIDのすべての活動が保留されます。

***NETATR**

このシステムのネットワーク属性に定義されているものと一致した制御点名の活動だけが保留されます。

制御点名

活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。NETVIEW分散管理エージェントの場合の制御点名は、他のプラットフォームで有効な制御点名の先頭の位置に数字(0から9)をサポートする変更制御クライアントです。

上

例

HLDSBMCRQA CRQ(CHG001 456)

このコマンドは、すべてのノードで順序番号456をもち、CHG001の名前の変更要求のすべての活動を保留します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

リモート・プロダクトの導入 (INSRMTPRD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リモート・プロダクト導入(INSRMTPRD)コマンドは、中央側システムから1つ以上の管理下のシステムに、IBM SYSTEM MANAGER FOR I5/OSライセンス・プログラムを使用してパッケージされたプロダクトを導入する機能を提供します。

注:

変更要求は自動的に投入されます。このコマンドの状況を調べるために表示できます。変更要求の名前を識別するメッセージが戻されます。

制約事項:

- このコマンドは共通*EXCLUDE権限付きで出荷されます。
- このコマンドを実行するためには、プロダクト変更要求活動追加(ADDPRDCRQA)コマンドを使用するために必要な権限を持っていないければなりません。
- NODL値が指定されている場合にノード・リストに入れることができるのは、アドレス・タイプの値が*SNAの項目だけです。
- 分散管理ライセンス・プログラムおよびI5/OSライセンス・プロダクトは指定できません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PRDID	プロダクトID	文字値	必須, 定位置 1
RLS	リリース・レベル	文字値, *ONLY	オプション
OPTION	プロダクト・オプション	1-99, *BASE	オプション
LODTYPE	プロダクト・ロード・タイプ	*ALL, *CODE, *LNG	オプション
LODID	ロードID	2900-2999, *ALL, *CODE	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	*CURRENT, *PRV, V5R3M0, V5R4M0, V6R1M0	オプション
NODL	管理下のシステム・ノード・リスト	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード・リスト	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点	通信名	
KEEPCLGE	カタログ項目の保存	*NO, *YES	オプション

プロダクトID (PRDID)

導入するプロダクトの7桁のIDを指定します。

プロダクトID

導入する7桁のプロダクトIDを指定してください。

リリース・レベル (RLS)

使用されるプロダクトのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ONLY

リリース・レベルは、指定されたプロダクトIDのプロダクト定義をシステムで検索することによって判別されます。リリース・レベルはプロダクト定義からとられます。この値は、同じプロダクトIDの複数のプロダクト定義が存在する場合には無効です。

バージョン-リリース-モディフィケーション

リリース・レベルをVXRXYの形式で指定します。ここで、VXはバージョン番号で、MYはモディフィケーション番号です。Xに有効な値は数字0から9です。Yに有効な値は数字の0から9および文字AからZです。

プロダクト・オプション (OPTION)

PRDIDパラメーターで指定されたプロダクトのどの任意指定部分を使用されるかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*BASE

プロダクトの基本部分だけが使用されます。

プロダクト・オプション番号

保管されるプロダクト・ロードのオプション番号を指定します。有効な値の範囲は1から99です。

プロダクト・ロード・タイプ (LODTYPE)

使用されるプロダクト・ロード・オブジェクトを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ALL LODIDパラメーターで指定されたコードおよび言語オブジェクトが使用されます。

***CODE**

このプロダクト・ロードに関連づけられたオブジェクトが使用されます。

***LNG** LODIDパラメーターで識別される各国語バージョン(NLV)に対応するオブジェクトが使用されます。

上

ロードID (LODID)

使用されるロードIDを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** このプロダクト・オプション用のすべての言語が保管されます。

***CODE**

コード・ロードが使用されます。

プロダクト・ロードID

LODTYPE(*LNG)またはLODTYPE(*ALL)が指定される時を指定してください。ロードIDは正しいIBM各国語バージョンの1つでなければならず、29XXの形式で指定しなければなりません。この場合に、XXは0-9の任意の値です。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

オブジェクトを使用しようとしているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

SYSTEMVIEW配布リポジトリにあるグローバル名付きオブジェクトの場合、あるいは送信または検索以外の処置の場合には、このパラメーターは無視されます。

考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在システムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。システムでV6R1M0が実行中の場合には、*CURRENTはV6R1M0を導入したシステム上でオブジェクトを使用することを意味します。オブジェクトは、これより後のオペレーティング・システムが導入されているシステムでも使用できます。

***PRV** オブジェクトは、ローカル・システムに比べて前のリリースのシステムでの使用を予定されていません。

注：モディフィケーション・レベルはサポートされていません。モディフィケーション・レベルが0以外の前のリリース(V5R3M4など)を指定するには、特殊値*PRVでなくそのリリースの値を指定してください。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRXXMXの形式で指定します。オブジェクトは、オペレーティング・システムの指定したリリースまたはそれより後のリリースを導入しているシステムで使用されます。

有効な値は現行のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、それぞれ新しいリリースごとに変わります。

管理下のシステム・ノード・リスト (NODL)

ノード・リスト・パラメーターはこの活動の宛先であるシステムのリストが入っているオブジェクト名であることを指定します。制御点名(CPNAME)パラメーターも指定されている場合には、これを指定することはできません。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

この活動を実行するシステムは、ノード・リストで識別されません。個々の制御点名を指定しなければなりません。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーでノード・リスト・オブジェクトが検索されます。

***CURLIB**

ノード・リスト・オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定します。

使用できるノード・リスト名の値は次の通りです。

ノード・リスト名

活動を実行するシステムのリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名を指定します。

管理下のシステム・ノード名 (CPNAME)

この活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。ノード・リストが指定されている場合には、制御点名は指定できません。ACTION(*RTV)が使用されている場合には、指定できるのは1つの制御点名だけです。

***NONE**

この活動を実行するシステムは個々に識別されません。ノード・リストを指定しなければなりません。

考えられるネットワークIDの値は次の通りです。

***NETATR**

ローカル・システムのネットワークIDが使用されます。これは、指定されるノードがローカル・システムと同じネットワーク内にある時に役立ちます。

ネットワークID

活動が実行される管理下のシステムのAPPNネットワークIDを指定します。

使用できる制御点名の値は次の通りです。

制御点名

活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。

上

カタログ項目の保存 (KEEPCLGE)

配布カタログ項目およびプロダクトに対応するその関連した保管ファイルが指定したシステムで保存されるかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NO** カタログ項目および関連づけられた保管ファイルは保管されません。

***YES** カタログ項目および関連づけられた保管ファイルが保管されます。

上

例

例1: プロダクトの導入

```
INSRMTPRD  PRDID(1ACCOUN)  RLS(V5R4M0)  OPTION(*BASE)
            LODTYPE(*ALL)  LODID(*ALL)  CPNAME((*NETATR SYS1))
```

このコマンドは、プログラムと言語の両方の部分の基本オプションのリリースV5R4M0の1ACCOUNプロダクトをISERIES SYS1に導入します。

例2: オプションの導入

```
INSRMTPRD  PRDID(1CHECKS)  RLS(V5R4M0)  OPTION(10)
            LODTYPE(*ALL)  LODID(*ALL)  CPNAME((*NETATR SYS2))
```

このコマンドは、プログラムと言語の両方の部分について、1CHECKSプロダクト、リリースV5R4M0のオプション10をISERIES SYS2に導入します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

サポートするプロダクトPTFの発注 (ORDSPTPTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サポートされているプロダクトPTF発注(ORDSPTPTF)コマンドは、サポートされているプロダクトのプログラム一時修正(PTF)を発注します。これは、弊社保守サポートから使用可能なPTFとシステム上のPTFを比較し、次に該当しないPTFを発注することによって行なわれます。

1. 非ロード済み
2. 未適用
3. 非発注中
4. QGPLライブラリーのPTF保管ファイル(SAVF)にないもの

このコマンドによって生成されたPTF発注要求は、弊社保守サポートに送られます。

このコマンドは、弊社で現在欠陥があると見なしているシステム上のPTFを検出します。このコマンドは、弊社でHIPER (HIGH-IMPACT PERVASIVE)と見なしているシステム上にないPTFも検出します。いずれの場合にも、PTF番号と推奨される処置を示すメッセージがサービス提供元のメッセージ待ち行列に送られます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DELIVERY	配布方式	*ANY, *LINKONLY	必須, 定位置 1
LICPGM	プロダクト	文字値, *ALL	オプション, 定位置 2

上

配布方式 (DELIVERY)

PTFの配布方法を指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

***ANY** 配布方法は受け入れ可能です。弊社保守サポートに送られた発注が十分小さい場合には、PTF発注がエレクトロニック支援を介して到着します。PTF発注が受け入れ可能なエレクトロニック支援限界より大きい場合には、PTFはテープによって到着します。

*LINKONLY

エレクトロニック支援を介した配布だけが受け入れ可能です。PTF発注が受け入れ可能なエレクトロニック支援限界より大きい場合には、PTF配布が正常に行なわれなかったことを示すメッセージが送られます。

上

プロダクト (LICPGM)

PTFを発注するライセンス・プログラムを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** すべてのライセンス・プログラムのPTFが発注されます。

ライセンス・プログラムID

PTFを発注するライセンス・プログラムを指定してください。

上

例

例1: サポートされるすべてのプロダクトのPTFの注文

```
ORDSPTPTF DELIVERY(*ANY)
```

このコマンドは、サポートされるすべてのプロダクトのPTFを注文します。この注文が小さい場合は、PTFはエレクトロニック支援の方法で届きます。そうでない場合は、テープで届きます。

例2: ライセンス・プログラムのPTFの発注

```
ORDSPTPTF DELIVERY(*LINKONLY) LICPGM(5722SS1)
```

このコマンドは、名前5722SS1 (I5/OS)のライセンス・プログラムのPTFを注文します。このPTFはエレクトロニック支援の方法で届きます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF8C07

パラメーターが正しくない。

上

プロダクト・オプションのパッケージ (PKGPRDOPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プロダクト・オプションのパッケージ(PKGPRDOPT)コマンドは、指定されたプロダクト・オプションの1つまたは複数のプロダクト・ロードをパッケージにし、ライセンス・プログラム保管(SAVLICPGM)コマンドを使用してそのロードを保管できるようにします。

以下の注は、コマンドがどのように働くかを説明しています。

注:

1. フォルダーを持っているプロダクト・ロードをパッケージするためには、システム配布ディレクトリーに登録していて、フォルダーに対する*ALL権限を持っていないければなりません。

このコマンドに対する権限が認可されている場合には、プロダクトのオブジェクトに対する権限があるかどうかに関係なく、システム・マネージャー・プログラムを使用して作成された任意のプロダクトをパッケージすることができます。

2. PKGPRDOPTコマンド・パッケージがオンである唯一のオブジェクト・タイプは、オブジェクト・リスト保管アプリケーション・プログラム・インターフェース(API)です。その他のオブジェクト・タイプは無視されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PRDID	プロダクトID	文字値	必須, 定位置 1
OPTION	プロダクト・オプション	1-99, *BASE	必須, 定位置 2
ALWAPICHG	プログラムによる変更可能	*SAME, *NO	必須, 定位置 3
LODID	ロードID	文字値, *ALL, *CODEDFT	オプション
RLS	リリース・レベル	文字値, *ONLY	オプション
REPACKAGE	再パッケージ	*NO, *YES	オプション

上

プロダクトID (PRDID)

パッケージするプロダクト・オプションのプロダクトID (ID)を指定します。このIDの長さは7桁でなければなりません。

上

プロダクト・オプション (OPTION)

パッケージするプロダクト・オプションを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*BASE

基本オプションがパッケージされます。

プロダクト・オプション番号

パッケージするプロダクトのオプション番号を指定してください。有効な値の範囲は1から99です。

上

プログラムによる変更可能 (ALWAPICHG)

処理された各オブジェクトの記述のこのコマンドによる変更を防止するかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

パッケージにされるオブジェクトの「プログラムによる変更可能」属性は、このコマンドで変更されません。

***NO** パッケージにされた各オブジェクトのオブジェクト記述は、QLICOBJDアプリケーション・プログラム・インターフェース(API)またはプロダクト・オブジェクト記述変更(CHGPRDOBJD)コマンドによって変更することはできません。

上

ロードID (LODID)

パッケージにされるプロダクト・ロードのロードIDを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** プロダクト・ロード・オブジェクトが存在するすべてのプロダクト・ロードがパッケージにされます。

コード・ロードだけが存在している場合には、そのコード・ロードがパッケージされます。

*CODEDFT

省略時のコード・ロード5001がパッケージされます。

プロダクト・ロードID

言語ロードIDまたはコード・ロードの場合の省略時のコード・ロードである5001を指定してください。

上

リリース・レベル (RLS)

プロダクト・オプションのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ONLY

リリース・レベルは、指定されたプロダクトIDのプロダクト定義をシステムで検索することによって判別されます。リリース・レベルはプロダクト定義からとられます。この値は、同じプロダクトIDの複数のプロダクト定義が存在する場合には無効です。

バージョン-リリース-モディフィケーション

パッケージするプロダクトのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定してください。

上

再パッケージ (REPACKAGE)

すでにパッケージにされているプロダクト・オプションをこのコマンドでパッケージできるかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NO** パッケージにされているプロダクト・オプションは再度パッケージにされません。

***YES** 現在の状態に関係なく指定されたすべてのプロダクト・オプションをパッケージにします。

上

例

```
PKGPRDOPT PRDID(9XYZ123) OPTION(*BASE) ALWAPICHG(*SAME)
```

このコマンドは、プロダクト9XYZ123の基本オプションをパッケージします。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF0CB2

プロダクト識別コード&1が無効です。

CPF0CEB

プロダクト・ロードはパッケージされない。

CPF0CE2

&9個のプロダクト・ロードがパッケージされ、&10個のプロダクト・ロードがパッケージされていない。

CPF0CE3

&9個のプロダクト・ロードがパッケージされ、&10個のプロダクト・ロードがパッケージされていない。ジョブ・ログを参照してください。

CPF0CE7

プロダクト&1,リリース&2はパッケージされない。

CPF0CFC

プロダクト定義が見つからない。

CPF0CFD

プロダクト&1,リリース&2,オプション&3のコード・ロードが見つからない。

CPF0CFF

複数リリースが使用可能である。

CPF0C4B

プロダクト使用可能性オブジェクト&2/&1の回復が必要である。

CPF0C4C

オブジェクト&1をライブラリー&2に割り振ることができない。

CPF0C4D

ライブラリー&2のオブジェクト&1の処理中にエラーが起こった。

CPF8122

ライブラリー&4に&8の損傷がある。

CPF8191

&9のプロダクト定義&4に損傷があります。

CPF8193

&9のプロダクト・ロード・オブジェクト&4に損傷があります。

CPF9012

&1の文書交換セッションの開始が正常に行なわれなかった。

CPF9032

文書交換セッションが開始されなかった。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

上

プログラム一時修正の解放 (RLSPTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正解除(RLSPTF)コマンドは、前に保留中であったプログラム一時修正(PTF)保管ファイル(SAVF)を解除します。PTF SAVFが解除された場合には、エレクトロニック支援によって自動的にサービス要求元に送信することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PTF	PTF番号	文字値	必須, 定位置 1
LICPGM	プロダクト	文字値, *ALL	オプション
RLS	リリース・レベル	文字値, *ONLY	オプション

上

PTF番号 (PTF)

どのPTFを解除するかを指定します。

上

プロダクト (LICPGM)

リリースするPTFのプロダクトID (ID)を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** リリースするPTFについて、すべてのプロダクトが検索されます。

プロダクトID

リリースするPTFのプロダクトIDを指定してください。

上

リリース・レベル (RLS)

リリースするPTFのリリース・レベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ONLY

PTFは、プロダクトの1つのリリース・レベルについてのみ存在しています。

バージョンリリース-モディフィケーション

リリースするPTFのリリース・レベルを指定してください。

上

例

RLSPTF PTF(SI12345)

このコマンドは、PTF名SI12345の保管ファイルを解放します。SI12345を解放すると、これがサービス要求元に自動的に配布されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

SMU1430

重複したPTFが見つかりました。

上

投入済みCRQ活動の解放 (RLSSBMCRQA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

投入済み変更要求活動解放(RLSSBMCRQA)コマンドは、1つまたは複数の変更要求活動を解放します。

制約事項:

1. 解放できるのは保留中または開始されていない状況の活動だけです。
2. ユーザーは変更要求の投入元であるか、あるいは*JOBCTL特殊権限をもっていなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CRQ	変更要求	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: 名前	名前	
	要素 2: 順序番号	1-999999	
ACTIVITY	活動名	名前, *ALL, *LAST	オプション
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *ALL, *NETATR	
	要素 2: 制御点	文字値, *ALL, *NETATR	

上

変更要求 (CRQ)

その活動が解放される変更要求名および変更要求順序番号を指定します。

変更要求名として考えられる値は次の通りです。

変更要求名

解放する活動の変更要求の名前を指定してください。

順序番号として考えられる値は次の通りです。

順序番号

解放する活動の変更要求順序番号を指定してください。

上

活動名 (ACTIVITY)

解放される活動を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** 指定した変更要求のすべての活動を解放します。

***LAST**

*LASTという名前の活動を解放します。これは変更要求記述オブジェクトに最後に追加された活動ではありません。変更要求の投入後に最後に実行される活動です。

活動名 解放する活動の名前を指定してください。

上

管理下のシステム・ノード名 (CPNAME)

解放する必要がある活動の宛先ノードを指定します。ノードはネットワークIDと制御点の2つの要素から構成されます。

考えられるネットワークIDの値は次の通りです。

***ALL** 指定した制御点名のすべての活動が解放されます。

***NETATR**

このシステムのネットワーク属性で定義されているものと一致したネットワークIDを持つ活動だけが解放されます。

ネットワークID

ネットワークIDを指定します。指定したネットワークIDと制御点名をもつ活動だけが解放されます。

使用できる制御点の値は次の通りです。

***ALL** 指定したネットワークIDのすべての活動が解放されます。

***NETATR**

このシステムのネットワーク属性で定義されているものと一致する制御点名の活動だけが解放されます。

制御点名

活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。NETVIEW分散管理エージェントの場合の制御点名は、他のプラットフォームで有効な制御点名の先頭の位置に数字(0から9)をサポートする変更制御クライアントです。

上

例

```
RLSSBMCRQA CRQ(CHG001 456) ACTIVITY(*ALL) CPNAME(*ALL)
```

このコマンドは、すべてのノードで順序番号456をもち、CHG001の名前の変更要求のすべての活動を解放します。

エラー・メッセージ

なし

CRQD活動の除去 (RMVCRQDA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

変更要求記述活動除去(RMVCRQDA)コマンドは、変更要求記述から活動を除去します。

制約事項: 活動を除去するためには、ユーザーは変更要求記述オブジェクトに対する*CHANGE権限を認可されていなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CRQD	変更要求記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 変更要求記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ACTIVITY	活動名	名前, *LAST	必須, 定位置 2

上

変更要求記述 (CRQD)

活動が除去される変更要求記述の名前およびライブラリーを指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ライブラリー・リストで変更要求記述を見つけます。一致する最初の変更要求記述が使用されます。

***CURLIB**

現行ライブラリーで変更要求記述を見つけます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

指定したライブラリーだけが検索されるように指定してください。

使用できる変更要求記述名の値は次の通りです。

変更要求記述名

活動を除去する変更要求記述の名前を指定してください。

上

活動名 (ACTIVITY)

除去する活動を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*LAST

*LASTという名前の活動が除去されます。

活動名 除去する活動の名前を指定してください。

上

例

```
RMVCRQDA CRQD(*LIBL/CHG001) ACTIVITY(ACT01)
```

このコマンドは、CHG001の名前をもつ現行の対話式ジョブのライブラリー・リストで見つかった最初の変更要求記述からACT01活動を除去します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

リモートPTFの除去 (RMVRMTPTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リモート・プログラム一時修正除去(RMVRMTPTF)コマンドによって、サービス提供元はサービス要求元システムからPTFをリモート除去することができます。RMVRMTPTFコマンドを使用する場合には、サービス要求元システムのIPLを要求することができます。PTF除去およびIPLは後日に行なわれるようにスケジュールできます。

注:

変更要求は自動的に投入され、このコマンドの状況を調べるために表示できます。投入済み変更要求処理(WRKSBMCRQ)コマンドを使用して、状況をモニターできます。

制約事項:

1. このコマンドの除去およびIPL機能がサポートされるのは、サービス要求元が分散管理ライセンス・プログラムを導入している場合だけです。
2. NODL値が指定されている場合にノード・リストに入れることができるのは、アドレス・タイプの値が*SNAの項目だけです。
3. PTFは、永久的に除去されるVLIC PTFを除き、常に一時的に除去されます。
4. 従属PTFは、リモートから除去できます。PTFは、このコマンドにリストされた順序で除去されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PTFID	PTF記述	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: PTF ID	文字値, *ALL	
	要素 2: プロダクト	文字値, *ONLY	
	要素 3: リリース・レベル	文字値	
DESTSRVRQS	宛先サービス要求元	単一値: *ALL, *SELECT, *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点	通信名	
DLYRMV	遅延PTF除去	*NO, *YES	オプション
NODL	ノード・リスト名	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ノード・リスト名	名前, *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
IPL	リモート・システムのIPL	*NO, *YES	オプション
PWRDWNOPT	電源遮断オプション	*CNTRLD, *IMMED	オプション
PWRDWNPLY	電源遮断遅延	1-65535, 3600	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
RMTRMVTIME	リモート除去時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 時間帯	*LCLSYS, *MGDSYS	
	要素 2: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *CURRENT	
	要素 2: 日付	日付, *CURRENT, *NEXT	
RMTIPLTIME	リモートIPL時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 時間帯	*LCLSYS, *MGDSYS	
	要素 2: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, *CURRENT	
	要素 2: 日付	日付, *CURRENT, *NEXT	

上

PTF記述 (PTFID)

除去されるPTFを指定します。最大300個のPTF IDを指定できます。

PTF IDとして考えられる値は次の通りです。

PTF ID

7桁のPTF ID。

***ALL** 指定したプロダクトのすべてのPTFを除去します。

プロダクトIDの値は次の通りです。

***ONLY**

PTF IDを1つのプロダクトだけに関連づけするように指定します。

プロダクトID

PTFのプロダクトを指定してください。PTF IDがプロダクト相互間で固有でないかまたはPTF IDが*ALLの場合には、プロダクトを指定しなければなりません。

プロダクトのリリース・レベルの値は次の通りです。

リリース(VXRXXM)

プロダクトのリリース・レベルを指定してください。形式はVXRXXMです。

上

宛先サービス要求元 (DESTSRVRQS)

このPTF機能が実行されるサービス要求元を指定します。単一のサービス要求元またはサービス要求元のリストを指定できます。

考えられるネットワークIDの値は次の通りです。

***SELECT**

サービス要求元のリストを表示します。このリストから1つまたは複数のサービス要求元を選択できます。このコマンドがバッチ環境で使用されている場合には、*SELECTは正しくありません。

***ALL** このPTF機能が、このサービス提供元に対して定義されるすべてのサービス要求元で行なわれるように指定します。

***NONE**

サービス要求元はノード・リスト・オブジェクトで識別されます。

***NETATR**

サービス要求元のリモート・ネットワークIDは、このシステムのリモート・ネットワークIDと同じです。

リモート・ネットワークID

サービス要求元のリモート・ネットワークIDを指定します。

指定できる制御点の値は次の通りです。

この要素は、ネットワークIDが*ALL, *SELECT,または*NODEの場合には正しくありません。

リモート制御点

サービス要求元のリモート制御点名を指定します。

上

遅延PTF除去 (DLYRMV)

PTFがどのように除去されるかを指定します。指定したシステムで活動の実行中に、あるいは後で次回のIPLの時に即時PTFを除去します。

考えられる値は次の通りです。

***NO** 活動の実行時に即時PTFを除去します。PTFが遅延とマークされている場合には、次回の不在時IPLまで、除去されません。

***YES** 次の不在時IPLで即時PTFと遅延PTFの両方を除去します。

上

このPTF機能が実行されるサービス要求元のリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

サービス要求元はDESTSRVRQSパラメーターで識別されます。

ライブラリーとして考えられる値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分のすべてのライブラリーでノード・リスト・オブジェクトを検索します。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーでノード・リスト・オブジェクトが検索されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定します。

ノード・リスト名に使用できる値は、次の通りです。

ノード・リスト名

PTF機能が実行されるサービス要求元のリストが入っているノード・リスト名を指定します。

上

リモート・システムのIPL (IPL)

サービス要求元システムのIPLを行なう必要があるかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NO** サービス要求元システムのIPLは行なう必要がありません。

***YES** サービス要求元システムのIPLは、コマンドにリストされたすべてのPTFが正常に除去された後で行なわなければなりません。

上

電源遮断オプション (PWRDWNOPT)

サービス要求元システムでのIPLの処理の時に活動ジョブの終わり方の管理方法を指定します。このパラメーターが有効なのは、IPL(*YES)が指定されている場合だけです。

***CNTRLD**

すべてのジョブは、電源遮断遅延(PWRDWDLY)パラメーターで指定された時間が経過した時に終了します。実行中の現行ジョブは、すべてバッチのクリーンアップを実行します。

***IMMED**

ジョブは即時に終了します。

上

電源遮断遅延 (PWRDWNDLY)

システムで制御方式による終了を実行できる時間を秒数で指定します。指定された電源遮断の遅延内にジョブ終了ルーチンが完了しない場合には、残りのジョブはすべて即時に終了します。このパラメーターが有効なのは、IPL(*YES)とPWRDWNOPT(*CNTRLD)が指定されている場合だけです。

3600 処理を制御方式で終了できる時間は、3600秒に制限されています。

遅延時間

制御方式による終了を実行できる最大遅延時間を秒数で指定します。有効な値の範囲は1 - 65535(65,535秒)です。

上

リモート除去時刻 (RMTRMVTIME)

サービス要求元でこのPTF機能を行なうことができる日付および時刻を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は、このシステムの日付および時刻に基づいて、このシステムでPTF機能が処理される時に決定されます。

時間帯として考えられる値は次の通りです。

***LCLSYS**

リモート開始時刻をこのシステムの時間帯で指定します。

***MGDSYS**

リモート開始時刻をサービス要求元システムの時間帯で指定します。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

このPTF機能は、このシステムでこのPTF機能要求が処理された時刻以後の任意の時刻に、サービス要求元システムで開始されます。

時刻以後開始

サービス要求元でこのPTF機能を開始できる時刻を指定してください。時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力することができ、この場合のHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

このPTF機能は、ロードおよび適用要求が処理された日付以後の任意の日に、サービス要求元システムで開始されます。

***NEXT**

このPTF機能は、このシステムでこのPTF機能が処理された日付より後の任意の日に、サービス要求元システムで開始されます。

日付以後開始

サービス要求元システムでこのPTF機能を開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

注：

時間帯の値*MGDSYSが指定されている場合には、日付および時刻に特殊値*CURRENTおよび*NEXTを指定することはできません。

上

リモートIPL時刻 (RMTIPLTIME)

サービス要求元でIPLを行なうことができる日付および時刻を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は、システムの日付および時刻に基づいてこのIPL要求が処理される時に決定されます。

時間帯として考えられる値は次の通りです。

***LCLSYS**

リモート開始時刻をこのシステムの時間帯で指定します。

***MGDSYS**

リモート開始時刻をサービス要求元システムの時間帯で指定します。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

このIPLを、このシステムでこのIPL要求が処理された時刻またはそれ以後の任意の時刻にサービス要求元システムで開始します。

時刻以後開始

サービス要求元でIPLを開始できる時刻を指定してください。時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力することができ、この場合のHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

このIPLを、このシステムでこのIPL要求が処理された日付以後の日に、サービス要求元システムで開始します。

***NEXT**

このIPLがこのシステムで処理された日付より後の任意の日にサービス要求元システムでこのIPLを開始します。

日付以後開始

サービス要求元システムでIPLを開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

注：時間帯の値*MGDSYSが指定されている場合には、日時に特殊値*CURRENTおよび*NEXTを指定できません。

上

例

例1: PTFの除去

```
RMVRMPTF PTFID((123456 *ONLY V5R4M0)) DESTSRVRQS(*SELECT)
```

選択した1つまたは複数のサービス要求元からPTFを除去します。

例2: 特定日付のPTFの除去

```
RMVRMPTF PTFID((*ALL PRODUCT V5R4M0))
DESTSRVRQS((*NETATR CHICAGO1) (*NETATR CHICAGO2))
RMTAPYTIME((*MGDSYS ('10:00:00' '10/31/06'))
IPL(*YES)
RMTIPLTIME((*MGDSYS ('01:00:00' '11/01/06'))
```

このコマンドは、2006年10月31日午前10時に開始してサービス要求元のPTFを除去します。PTFが正常に除去されると、サービス要求元のシステムIPLは2006年11月1日午前1時に開始します。

例3: PTF除去後のIPLの実行

364 System i: プログラミング System Manager for i5/OS コマンド

```
RMVRMPTPF  PTFID((987654 *ONLY V5R4M0))
            DESTSRVRQS(*SELECT) IPL(*YES)
            RMTIPLTIME(*LCLSYS (*CURRENT 12/24/2006))
            PWRDWNPT(*IMMED)
```

このコマンドは、選択したサービス要求元のPTFを除去します。PTFが正常に除去されると、リモート・システムのIPLは2006年12月24日の現在時刻に開始します。指定される時間はローカル・システムの時間帯になります。

例4: 2つの相互に必要なPTFと1つの前提条件PTFがあるPTFの除去

```
RMVRMPTPF  PTFID((SF00001 *ONLY V5R4M0)) DESTSRVRQS(*SELECT)
            RMTRMVTIME(*LCLSYS (*CURRENT *CURRENT)) IPL(*NO)
```

このコマンドは、PTF番号SF00001を除去します。このPTFには、2つの相互に必要なPTFと、1つの前提条件PTFがあります。PTFのSF00002とSF00003がPTF SF00001の相互に必要なPTFです。PTF SF00004がPTF SF00001の前提条件です。システムはシステムはPTFのSF0001, SF00002,およびSF00003を除去します。ただし、前提PTFは除去されません。相互に必要なすべてのPTFが指定されなかった場合は、システムがそれらのPTFを判別します。IPLは実行されないで、この処置がPTFをサービス要求元に適用します。指定される時間はローカル・システムの時間帯になります。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF358A

PTF &1-&2を適用または除去することができない。

上

APARデータの復元 (RSTAPARDTA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

APARデータの復元(RSTAPARDTA)コマンドは、指定されたAuthorized Problem Analysis Report (APAR)ライブラリー名の問題ログ項目を更新します。これは、APARデータと共にサービス要求元に保管された問題ログ項目であり、APARライブラリーと関連付けられています。問題ログ項目が存在しない場合、サービス・プロバイダーに作成されます。APARデータの保管(SAVAPARDTA)コマンドを使用して保管されたすべてのスプール・ファイルは、RSTAPARDTAが実行されると、サービス・プロバイダーにもう一度スプールされます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FRMAPARLIB	APARライブラリーから	名前	必須, 定位置 1

上

APARライブラリーから (FRMAPARLIB)

APARデータを復元するライブラリーを指定します。このライブラリーは、特定のAPARからのデータを含んでいなければなりません。

上

例

```
RSTAPARDTA FRMAPARLIB(MYAPARLIB)
```

このコマンドは、ライブラリーMYAPARLIBのAPARデータをサービス・プロバイダーで復元します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF39FA

問題&1 &2 &3が見つからない。

CPF39FB

ライブラリー&1が存在していない。

CPF39FD

ライブラリー&1からAPARデータが復元されなかった。

CPF39F2

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF39F5

問題&1の照会が正常に実行されなかった。

CPF39F9

問題&1 &2 &3は使用中。

上

プロダクトの検索 (RTVPRD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プロダクト検索(RTVPRD)コマンドは、管理下のシステムからISERIESプロダクト・パッケージ・サポートでパッケージされたプロダクトを検索する機能を提供します。

注:

変更要求は自動的に投入されます。このコマンドの状況を調べるために表示できます。変更要求の名前を識別するメッセージが戻されます。

制約事項:

1. このコマンドは共通*EXCLUDE権限付きで出荷されます。
2. 分散管理ライセンス・プログラムおよびI5/OSプロダクトを指定することはできません。
3. プロダクトを検索できるのは単一の管理下のシステムからだけです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PRDID	プロダクトID	文字値	必須, 定位置 1
RLS	リリース・レベル	文字値, <u>*ONLY</u>	オプション
OPTION	プロダクト・オプション	1-99, <u>*BASE</u>	オプション
LODTYPE	プロダクト・ロード・タイプ	<u>*ALL</u> , *CODE, *LNG	オプション
LODID	ロードID	2900-2999, <u>*ALL</u> , *CODE	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	<u>*CURRENT</u> , *PRV, V5R3M0, V5R4M0, V6R1M0	オプション
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, <u>*NETATR</u>	
	要素 2: 制御点	通信名	

上

プロダクトID (PRDID)

検索されるプロダクトの7桁のIDを指定します。

プロダクトID

活動で使用される7桁のプロダクトIDを指定します。

上

リリース・レベル (RLS)

使用されるプロダクトのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ONLY

プロダクト・オプションに使用されるバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルは1つだけです。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRXYの形式で指定します。ここで、VXはバージョン番号で、MYはモディフィケーション番号です。Xに有効な値は数字0から9です。Yに有効な値は数字の0から9および文字AからZです。

上

プロダクト・オプション (OPTION)

PRDIDパラメーターで指定されたプロダクトのどの任意指定部分が使用されるかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*BASE

プロダクトの基本部分だけが使用されます。

プロダクト・オプション番号

保管されるプロダクト・ロードのオプション番号を指定します。有効な値の範囲は1から99です。

上

プロダクト・ロード・タイプ (LODTYPE)

使用されるプロダクト・ロード・オブジェクトを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** LODIDパラメーターで指定されたコードおよび言語オブジェクトが使用されます。

***CODE**

このプロダクト・ロードに関連づけられたプログラム・オブジェクトが使用されます。

***LNG** LODIDパラメーターで識別されるNLVに対応するオブジェクトが使用されるように指定してください。

上

ロードID (LODID)

使用されるロードIDを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** このプロダクト・オプション用のすべての言語が保管されます。

***CODE**

コード・ロードが使用されます。

プロダクト・ロードID

LODTYPE(*LNG)またはLODTYPE(*ALL)が指定される時を指定してください。ロードIDは正しいIBM各国語バージョンの1つでなければならず、29XXの形式で指定しなければなりません。Xの値は0から9とすることができます。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

オブジェクトを使用しようとしているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

SYSTEMVIEW配布リポジトリにあるグローバル名付きオブジェクトの場合、あるいは送信または検索以外の処置の場合には、このパラメーターは無視されます。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在システムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。システムでV6R1M0が実行中の場合には、*CURRENTはV6R1M0を導入したシステム上でオブジェクトを使用することを意味します。オブジェクトは、これより後のオペレーティング・システムが導入されているシステムでも使用できます。

***PRV** オブジェクトはローカル・システムと比較して前のリリース・レベルのシステム用です。

注：モディフィケーション・レベルはサポートされていません。モディフィケーション・レベルが0以外の前のリリース(V5R3M4など)を指定するには、特殊値*PRVでなくそのリリースの値を指定してください。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRXXMXの形式で指定します。オブジェクトは、オペレーティング・システムの指定したリリースまたはそれより後のリリースを導入しているシステムで使用されます。

有効な値は、現行のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、新しいリリースごとに変わります。

上

管理下のシステム・ノード名 (CPNAME)

この活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。ノード・リスト(NODL)が指定されている場合には、制御点名を指定できません。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

この活動を実行するシステムを指定します。システムは個々には識別されません。ノード・リストを指定しなければなりません。

***NETATR**

ローカル・システムのネットワークIDが使用されます。これは、指定されるノードがローカル・システムと同じネットワーク内にある時に役立ちます。

ネットワークID

活動が実行される管理下のシステムのAPPNネットワークIDを指定します。

使用できる制御点名の値は次の通りです。

制御点名

活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。

上

例

例1: プログラムおよび言語パーツの検索

```
RTVPRD  PRDID(1ACCOUN)  RLS(V5R4M0)  OPTION(*BASE)
        LODTYPE(*ALL)  LODID(*ALL)  CPNAME((*NETATR SYS1))
```

このコマンドは、iSeriesサーバーSYS1からリリースV5R4M0のプロダクト1ACCOUNの基本オプションでプログラムおよび言語パーツを検索します。

例2: オプションの検索

```
RTVPRD  PRDID(1CHECKS)  RLS(V5R4M0)  OPTION(10)
        LODTYPE(*ALL)  LODID(*ALL)  CPNAME((*NETATR SYS2))
```

このコマンドは、iSeriesサーバーSYS2からプログラムと言語の両方の部分について、1CHECKSプロダクト、リリースV5R4M0のオプション10を検索します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

プログラム一時修正の検索 (RTVPTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正検索(RTVPTF)コマンドによって、サービス提供元はサービス要求元のシステムからリモートPTFおよびカバー・レターを検索することができます。

注:

変更要求は自動的に投入され、このコマンドの状況を調べるために表示できます。投入済み変更要求処理(WRKSBMCRQ)コマンドを使用して、状況をモニターできます。

制約事項:

このコマンドの検索機能がサポートされるのは、サービス要求元に分散管理ライセンス・プログラムが導入されている場合だけです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PTFID	PTF記述	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: PTF ID	文字値	
	要素 2: プロダクト	文字値, *ONLY	
	要素 3: リリース・レベル	文字値	
DESTSRVRQS	FROMサービス要求元	単一値: *SELECT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点	通信名	
PTFPART	PTF部分	*ALL , *PTF, *CVRLTR	オプション
CVRLTRLNG	カバー・レター言語	値 (最大 40 回の繰り返し): 文字値, *SRVPVDA	オプション

上

PTF記述 (PTFID)

検索されるPTFを指定します。最大50個のPTF IDを指定できます。

PTF IDとして考えられる値は次の通りです。

PTF ID

7文字のPTF IDを指定します。

プロダクトIDとして考えられる値は次の通りです。

***ONLY**

PTF IDは1つのプロダクトだけに関連づけされます。

プロダクトID

PTFのプロダクトを指定してください。PTF IDがプロダクト相互間で固有のものでない場合には、プロダクトを指定しなければなりません。

プロダクトのリリース・レベルとして考えられる値は次の通りです。

リリース(VXRXXMX)

プロダクトのリリース・レベルを指定してください。PTF IDがプロダクト相互間で固有のものでない場合には、リリース・レベルを指定しなければなりません。形式はVXRXXMXです。

上

FROMサービス要求元 (DESTSRVRQS)

PTFを検索する必要があるサービス要求元を指定します。指定または選択できるのは、1つのサービス要求元だけです。

考えられるネットワークIDの値は次の通りです。

***SELECT**

サービス要求元のリストを表示します。このリストから、PTFが検索されるサービス要求元を選択することができます。このコマンドがバッチ環境で使用されている場合には、*SELECTは正しくありません。

***NETATR**

サービス要求元のリモート・ネットワークIDはこのシステムのネットワークIDと同じです。

リモート・ネットワークID

サービス要求元のリモート・ネットワークIDを指定します。

指定できる制御点の値は次の通りです。

リモート制御点

サービス要求元のリモート制御点名を指定します。

上

PTF部分 (PTFPART)

PTFまたはカバー・レターを検索する必要があるかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** PTFおよびそのカバー・レターを指定した言語で検索します。

***PTF** PTFだけを検索します。

***CVRLTR**

カバー・レターだけを指定した言語で検索します。

上

カバー・レター言語 (CVRLTRLNG)

検索する必要があるカバー・レターの言語を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SRVPVDA**

サービス提供元属性変更(CHGSRVPVDA)コマンドで設定された値が使用されます。

カバー・レター言語ID

カバー・レター言語コードを指定します。このフィールドでプロンプト(F4)キーを押すと、使用可能なすべてのカバー・レター言語コードのリストが表示されます。

注：

サービス要求元システムに指定したカバー・レター言語が見つからない場合には、省略時のカバー・レター言語2924（大文字と小文字の英語）または2950（大文字の英語）が検索されます（使用可能な場合）。

上

例

例1: PTFおよびカバー・レターの検索

```
RTVPTF  PTFID(SF00001)  DESTSRVRQS(*NETATR CHICAG01)
```

このコマンドは、サービス要求元からPTFおよびカバー・レターを検索します。検索されるカバー・レター言語はサービス・プロバイダー属性として定義されます。

例2: カバー・レターの検索

```
RTVPTF  PTFID(123456)  DESTSRVRQS(*SELECT)  
        PTFPART(*CVRLTR)  CVRLTRLNG(2962)
```

このコマンドは、2962言語の選択したサービス要求元からカバー・レターを検索します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

SMGオブジェクトの検索 (RTVSMGOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム・マネージャー・オブジェクト検索(RTVSMGOBJ)コマンドは、管理下のシステムからI5/OSオブジェクトを検索する機能を提供します。

注:

変更要求は自動的に投入されます。このコマンドの状況を調べるために表示できます。変更要求の名前を識別するメッセージが戻されます。

制約事項:

1. オブジェクトをQTEMPライブラリーに入れることはできません。
2. オブジェクトを検索できるのは、1つの管理下のシステムからだけです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*CURLIB</u>	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	文字値	必須, 定位置 2
MBR	メンバー	名前, <u>*ALL</u> , *FIRST, *LAST	オプション
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, <u>*NETATR</u>	
	要素 2: 制御点	通信名	
TGTRLS	ターゲット・リリース	<u>*CURRENT</u> , *PRV, V5R3M0, V5R4M0, V6R1M0	オプション
REPLACE	オブジェクトの置き換え	<u>*NO</u> , *YES	オプション
DTACPR	データ圧縮	<u>*NONE</u> , *SNA	オプション

上

オブジェクト (OBJ)

検索される修飾された名前を指定します。

使用できるライブラリーの値は次のいずれかです。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

このパラメーターに指定したライブラリーだけが検索されます。

使用できるオブジェクト名の値は次の通りです。

オブジェクト名

文字AからZ, 0から9,ドル記号（または円記号）, 単価記号, および番号記号だけが使用されたオブジェクト名を指定してください。

上

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

使用されるオブジェクトを指定します。

オブジェクト・タイプ

オブジェクト・タイプを指定します。

*FILEDATA

ファイル・メンバーはファイル属性なしで送られます。

上

メンバー (MBR)

I5/OSの物理ファイル・メンバー名を指定します。オブジェクト・タイプが*FILEまたは*FILEDATAでない場合には無視されます。

***ALL** 物理ファイル全体が検索されます。ファイルが物理ファイルでない場合には、*ALLを使用しなければなりません。

*FIRST

最初のメンバーだけが検索されます。メンバー名は活動の実行時に決定されます。

*LAST

最後のメンバーだけが検索されます。メンバー名は、そのメンバーが物理ファイルに追加された日付によって、活動の実行時に決定されます。

メンバー名

検索するメンバーの名前を指定します。

上

管理下のシステム・ノード名 (CPNAME)

この活動が検索される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。

*NETATR

ローカル・システムのネットワークIDが使用されます。これは、指定されたノードがローカル・システムと同じネットワーク内にある場合に役立ちます。

ネットワークID

活動を実行する管理下のシステムのAPPNネットワークIDを指定します。

指定できる制御点名の値は次の通りです。

制御点名

活動を実行する管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

オブジェクトを使用しようとしているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

SYSTEMVIEW配布リポジトリにあるグローバル名付きオブジェクトの場合、あるいは送信または検索以外の処置の場合には、このパラメーターは無視されます。

*CURRENT

オブジェクトは、現在システムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。システムでV6R1M0が実行中の場合には、*CURRENTはV6R1M0を導入したシステム上でオブジェクトを使用することを意味します。オブジェクトは、これより後のオペレーティング・システムが導入されているシステムでも使用できます。

*PRV オブジェクトはローカル・システムと比較して前のリリース・レベルのシステム用です。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRXXMXの形式で指定します。オブジェクトは、オペレーティング・システムの指定したリリースまたはそれより後のリリースを導入しているシステムで使用されます。

有効な値は、現行のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、新しいリリースごとに変わります。

上

オブジェクトの置き換え (REPLACE)

すでにオブジェクトが存在している場合に置き換えるかどうかを指定します。このパラメーターは*SND,*SNDRUN,および*RTV以外の処置には指定できません。

*NO オブジェクトがすでに存在する場合にはエラーが戻されます。

*YES すでに存在している場合にはオブジェクトが置き換えられます。

上

データ圧縮 (DTACPR)

検索時にデータが圧縮されるように指定します。圧縮が有効なのはオブジェクト・タイプが*FILEDATAの場合だけです。ブランクの基本圧縮文字によるSNA圧縮が実行されます。

*SNA 検索時にファイル・データが圧縮されます。

*NONE

検索時にファイル・データは圧縮されません。

上

例

```
RTVSMGOBJ OBJ(DEVLLIB/NEWPGM) OBJTYPE(*PGM)  
          CPNAME(*NETATR DEVSYS)
```

このコマンドは、開発システムからライブラリーDEVLLIBのプログラムNEWPGMを検索します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

SMGコマンドの実行 (RUNSMGCMD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム管理機能コマンド実行(RUNSMGCMD)コマンドは、中央側システムから1つまたは複数の管理下のシステムにコマンドを送信する機能を提供します。

制約事項:

ノード・リスト(NODL)値を指定する場合は、ノード・リストに入れることができるのはアドレス・タイプの値が*SNAになっている項目だけです。

注:

変更要求は自動的に投入され、このコマンドの状況を調べるために表示できます。変更要求の名前を識別するメッセージが戻されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CMD	実行するコマンド	コマンド・ストリング	必須, 定位置 1
NODL	管理下のシステム・ノード・リスト	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード・リスト	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, <u>*NETATR</u>	
	要素 2: 制御点	通信名	
RMTSTRTIME	管理下のシステムの開始時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 時間帯	<u>*LCLSYS</u> , *MGDSYS	
	要素 2: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, <u>*CURRENT</u>	
	要素 2: 日付	日付, <u>*CURRENT</u> , *NEXT	
	要素 3: 以前に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, <u>*ANY</u> , *CURRENT	
要素 2: 日付	日付, <u>*ANY</u> , *CURRENT, *NEXT		
RTNSPLF	スプール・ファイルの戻り	<u>*YES</u> , *NO, *FAIL	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	単純名, <u>*NONE</u>	オプション
PASSWORD	パスワード	文字値, *USRPRF, <u>*NONE</u>	オプション
ENCODE	コマンドのエンコード	*YES, <u>*NO</u>	オプション

実行するコマンド (CMD)

実行するコマンドを指定します。このコマンドは、バッチで実行可能な任意のコマンドとすることができます。コマンドは、最初の文字が英字で他の9文字が英数字の1から10桁のI5/OS CLコマンドの形式に従わなければなりません。F4キーを押して、CLコマンドのプロンプトを使用することができます。

管理下のシステム・ノード・リスト (NODL)

この要求の宛先であるシステムのリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名を指定します。制御点名(CPNAME)パラメーターも指定されている場合には、これを指定することはできません。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

この活動を実行するシステムは、ノード・リストで識別されません。個々の制御点名を指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーでノード・リスト・オブジェクトが検索されます。

***CURLIB**

ノード・リスト・オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

このパラメーターに指定したライブラリーだけが検索されることを指定します。

使用できるノード・リスト名の値は次の通りです。

ノード・リスト名

コマンドを実行するシステムのリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名を指定します。

管理下のシステム・ノード名 (CPNAME)

この活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。ノード・リスト(NODL)パラメーターが指定されていると、制御点名は指定できません。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

この活動を実行するシステムは個々に識別されません。ノード・リストを指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***NETATR**

ローカル・システムのネットワークIDが使用されます。これは、指定されるノードがローカル・システムと同じネットワーク内にある時に役立ちます。

ネットワークID

活動が実行される管理下のシステムのAPPNネットワークID。

使用できる制御点名の値は次の通りです。

制御点名

活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名。

上

管理下のシステムの開始時刻 (RMTSTRTIME)

この活動が管理下のシステムで実行を開始できる日付および時刻を指定します。中央側の日付および時刻に基づいて中央側システムで活動の実行が始められた時に、現在の日付および時刻の値と次の日付の値が決まります。

時間帯として考えられる値は次の通りです。

リモート開始時刻の時間帯。

***LCLSYS**

リモート開始時刻は、中央側システムの時間帯で指定されます。

***MGDSYS**

リモート開始時刻は、管理下のシステム側の時間帯で指定されます。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

これは、その時刻の後に活動を開始する時刻の定義です。

***CURRENT**

この機能は、要素3で指定した日に中央側システムでこの活動が開始された時刻以後の任意の時刻に、管理下のシステムで開始できます。

時刻以後開始

この機能を管理下のシステムで開始できる時刻を指定します。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻は、時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

この機能は、中央側システムで活動が開始された日付またはそれ以後の任意の日に管理下のシステムで開始されます。

***NEXT**

この機能は、中央側システムで活動が開始された日付より後の任意の日に管理下のシステムで開始されます。

日付以後開始

この機能を管理下のシステムで開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

時刻以前開始として考えられる値は次の通りです。

日付以前開始が*ANYの場合には、この要素は無視されます。

***ANY** 活動は開始時刻以後の任意の時刻に開始できます。

***CURRENT**

活動は、以前開始の日付要素で指定された日の変更要求が投入される時刻より前に開始されなければなりません。

時刻以前開始

その時刻より前に活動を開始しなければならない時刻を指定します。活動をこの時刻より前に開始できない場合には、その活動は開始されません。この時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力でき、この場合にHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)を指定します。

日付以前開始として考えられる値は次の通りです。

***ANY** 活動は、開始日以後の任意の日に開始できます。

***CURRENT**

活動は変更要求の投入日に開始しなければなりません。

***NEXT**

活動は変更要求の投入日の翌日までに開始しなければなりません。

日付以前開始

その日の前に活動が開始されていない日付を指定してください。この日付までに活動を開始できない場合には、活動は開始されません。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

注：

時間帯の値*MGDSYSが指定されている場合には、日付および時刻に特殊値*CURRENTおよび*NEXTを指定することはできません。

上

スプール・ファイルの戻り (RTNSPLF)

投入されたリモート・コマンドからの出力スプール・ファイルを戻すように指定します。

考えられる値は次の通りです。

***YES** リモート・コマンドで作成されたすべてのスプール・ファイルが管理下のシステムから戻されます。すべてのノードからのスプール・ファイルが、変更要求のコマンド活動明細を表示することによって検討できる1つのスプール・ファイルに結合されます。

***NO** 出力データは管理下のシステムから戻されません。

***FAIL** 実行時にコマンドが正常に実行されなかった場合には、管理下のシステムからスプール・ファイル・ジョブ・ログが戻されます。

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

リモート・システムでコマンドが実行されるユーザー・プロファイルを指定します。リモート・システムで NETVIEW REMOTE OPERATIONS AGENT/400 プロダクトが実行されている場合には、そのリモート・システムではこのパラメーターは無視されます。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

ユーザー・プロファイルは指定されません。それぞれのリモート・システムで省略時のユーザー・プロファイルが使用されます。

ユーザー・プロファイル

ユーザー・プロファイルの名前を指定します。

パスワード (PASSWORD)

リモート・ユーザー・プロファイルのパスワード。

- リリースがV5R1M0より前の管理下のシステムでは、最大10文字までの英大文字パスワードだけを受け入れます。それより長いパスワードを入力すると、要求が拒否されたことを示す100B0007 SNAセンス・コードが付いたSMU18A2メッセージが戻されます。
- リリースがV5R1M0以上の管理下のシステムでは、実行できるQPWDLVLシステム値は次の通りです。
 - 0または1 — 受け取ったパスワードを10文字に切り捨てる。
 - 2または3 — 128文字までのパスワードを受け入れる。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

パスワードは指定されません。

***USRPRF**

パスワードはユーザー・プロファイルと同じです。

パスワード

ユーザー・プロファイルのパスワードを指定します。

コマンドのエンコード (ENCODE)

リモート・ユーザー・プロファイルのパスワード。

考えられる値は次の通りです。

***NO** 要求がリモート・システムに送られた時に、コマンド、ユーザー・プロファイル、およびパスワードはエンコードされません。

***YES** 要求が管理下のシステムに送られる時に、コマンド、ユーザー・プロファイル、およびパスワード

がエンコードされます。管理下のシステムの属性であるリモート・コマンド・キーは、中央側システムと管理下のシステムの両方に指定しなければなりません。この属性は、管理対象システム属性の変更(CHGMGDSYSA)コマンドを使用して変更できます。リモート・コマンド・キーは、中央側システムと管理下のシステムで同じでなければなりません。

上

例

```
RUNSMGCMD  CMD(STRSBS QSNADS)  NODL(MYLIB/SALESOFC)
            RTNSPLF(*FAIL)
```

このコマンドは、サブシステムQSNADSを開始するコマンドを、ライブラリーMYLIBのノード・リストSALESOFCで識別されたシステムに送信します。STRSBSコマンドが失敗すると、ジョブ・ログのスーパー・ファイルが戻されます。

上

エラー・メッセージ

なし

上

SMGオブジェクトの実行 (RUNSMGOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム・マネージャー・オブジェクト実行(RUNSMGOBJ)コマンドは、オブジェクトの実行または中央側システムから1つまたは複数の管理下のシステムへのコマンドの送信を行なう機能を提供します。

注:

変更要求は自動的に投入され、このコマンドの状況を調べるために表示できます。変更要求の名前を識別するメッセージが戻されます。

制約事項:

1. 実行できるのは、I5/OSプログラム・オブジェクトまたは*CL, *REXX,および*UNSPECなどのファイル・メンバーだけです。
2. オブジェクトをQTEMPライブラリーに入れることはできません。
3. ノード・リスト(NODL)値を指定する場合は、ノード・リストに入れることができるのはアドレス・タイプの値が*SNAになっている項目だけです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*FILE, *FILEDATA, *PGM	必須, 定位置 2
MBR	メンバー	名前	オプション
DATATYPE	データ・タイプ	*UNSPEC, *CL, *REXX	オプション
NODL	管理下のシステム・ノード・リスト	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード・リスト	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点	通信名	
PARM	パラメーター	値 (最大 20 回の繰り返し): 無制限	オプション

上

オブジェクト (OBJ)

実行される修飾済みのプログラムを指定します。

使用できるライブラリーの値は次のいずれかです。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

このパラメーターに指定したライブラリーだけが検索されることを指定します。

使用できるオブジェクト名の値は次の通りです。

オブジェクト名

文字AからZ, 0から9,ドル記号 (または円記号), 単価記号, および番号記号だけが使用されたオブジェクト名を指定してください。

上

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

使用されるオブジェクトを指定します。

*PGM これを選択すると, プログラム・オブジェクトが実行されます。

*FILEDATA

ファイルに入っているCL入カストリームまたはREXXプロシージャが実行されます。

*FILE 実行されるCL入カストリームのメンバーが入っているファイルの名前。

上

メンバー (MBR)

I5/OSの物理ファイル・メンバーを指定します。オブジェクト・タイプが*FILE以外の場合には無視されません。(例: I5/OS CL入カストリーム)

メンバー名

実行するメンバーの名前を指定してください。

上

データ・タイプ (DATATYPE)

メンバーのデータ・タイプを指定します。このパラメーターは, 管理下のシステムで実行されるソース・ファイルのタイプを指定します。

*UNSPEC

未指定のファイル・メンバー・タイプ。データ・タイプを管理下のシステムで判別できない場合, あるいはこのメンバーが入っているファイルの名前がQCLSRCであった場合には, ファイル・メンバーはCLバッチ入カストリームとして取り扱われます。ソース・ファイルの名前がQREXSRCである場合には, ファイル・メンバーはREXXプロシージャとして取り扱われます。

*CL 制御言語（つまりCLバッチ入力ストリーム）が入っているファイル・メンバー。

***REXX**

REXXプロシージャが入っているファイル・メンバー。

上

管理下のシステム・ノード・リスト (NODL)

活動の宛先であるシステムのリストが入っているノード・リスト名を指定します。このパラメーターは、制御点名(CPNAME)パラメーターも指定されている場合には指定できません。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

この活動を実行するシステムは、ノード・リストで識別されません。個々の制御点名を指定しなければなりません。

使用できるライブラリーの値は次のいずれかです。

*LIBL ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーでノード・リスト・オブジェクトが検索されます。

***CURLIB**

ノード・リスト・オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

このパラメーターに指定したライブラリーだけが検索されます。

使用できるノード・リスト名の値は次の通りです。

ノード・リスト名

活動を実行するシステムのリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名を指定してください。

上

管理下のシステム・ノード名 (CPNAME)

この活動が実行される、管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。ノード・リストが指定されている場合には、制御点名は指定できません。

***NONE**

この活動を実行するシステムは個々に識別されません。ノード・リストを指定しなければなりません。

***NETATR**

ローカル・システムのネットワークIDが使用されます。これは、指定されたノードがローカル・システムと同じネットワーク内にある場合に役立ちます。

ネットワークID

活動が実行される管理下のシステムのAPPNネットワークIDを指定します。

使用できる制御点名の値は次の通りです。

制御点名

活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。

上

パラメーター (PARM)

プログラムの開始時に渡されるパラメーターを指定します。最大20個のパラメーターを指定できます。

考えられる値は次の通りです。

パラメーター

1-253桁のパラメーターを指定してください。プロンプト・パネルでは最初に50桁を入力できます。1桁目にアンパーサンド(&)を入力すると、フィールドはさらに大きなパラメーター用に拡張されます。

上

例

例1: REXXプロシージャの実行

```
RUNSMG OBJ(DEVLIB/QREXSRC) OBJTYPE(*FILEDATA)
      MBR(REPORT1) CPNAME((*NETATR DEVSYS))
```

このコマンドは、開発システムでライブラリーDEVLIBのファイルQREXSRCのメンバーREPORT1で REXXプロシージャを実行します。

例2: プログラムの実行

```
RUNSMG OBJ(SALESLIB/GENRPTS) OBJTYPE(*PGM)
      NODL(SYSLIB/ALLSTORES)
      PARM('SALES ONLY' 'TODAY')
```

このコマンドは、ライブラリーSYSLIBのノード・リストALLSTORESにリストされたすべてのシステムで、ライブラリーSALELIBでGENRPTSと呼ばれるプログラムを実行します。2つのパラメーターが入力としてプログラムに渡されます。最初のパラメーターには値'SALES ONLY'があり、2番目のパラメーターには値'TODAY'があります。

上

エラー・メッセージ

なし

上

変更要求の投入 (SBMCRQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

変更要求投入(SBMCRQ)コマンドは、実行される変更要求を投入します。

制約事項:

ユーザーは、投入された変更要求の基礎となっている変更要求記述オブジェクトの*USE権限を認可されていなければなりません。

注:

以下の注は、コマンドがどのように働くかを説明しています。

1. 指定された変更要求記述のUSRPRF属性が*SBMの場合には、この投入された変更要求はSBMCRQコマンドを実行しているプロファイルのもとで実行されます。変更要求記述のUSRPRF属性が*OWNERの場合には、この投入された変更要求は変更要求記述の所有者のユーザー・プロファイルのもとで実行されます。ユーザー・プロファイルの属性の詳細については、[HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter/series-information-center/cl)のISERIES INFORMATION CENTERの「CL」トピックの変更要求記述作成(CRTRCQD)コマンドおよび要求記述変更(CHGCRQD) コマンドのUSRPRFパラメーターを参照してください。
2. 変更要求にノード・リスト・オブジェクトが参照されていて、変更要求の投入後にノード・リストが変更された場合には、投入された変更要求には影響が及びません。投入の完了後に投入された変更要求の変更要求記述が削除された場合には、投入された変更要求には影響が及びません。
3. システム・マネージャー・ライセンス・プログラムが活動状態になっていない場合には、SBMCRQコマンドのユーザーに通知メッセージが送られます。このメッセージは、システム・マネージャー・ライセンス・プログラムが開始されるまで投入された変更要求が処理されないことを示すものです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CRQD	変更要求記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 変更要求記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CRQ	変更要求	要素リスト	オプション
	要素 1: 名前	名前, *CRQD	
	要素 2: 順序番号	1-999999, *GEN	

上

変更要求記述 (CRQD)

変更要求記述オブジェクトの修飾された名前を指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 現行ジョブのライブラリー・リストで変更要求記述を見つけます。

***CURLIB**

現行ライブラリーで変更要求記述を見つけます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

このパラメーターで指定されたライブラリーだけを検索します。

変更要求記述名として考えられる値は次の通りです。

変更要求記述名

投入する変更要求の基礎となっている変更要求記述の名前を指定します。

上

変更要求 (CRQ)

投入された変更要求の変更要求名および順序番号を指定します。順序番号は変更要求を固有に定義する6桁の番号です。

考えられる値は次の通りです。

***CRQD**

指定した変更要求記述と同じ名前を使用します。

変更要求名

投入する変更要求の名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

***GEN** 順序番号を生成します。最初の順序番号は000010です。以後の順序番号は10の増分で生成されます。生成された順序番号がすでに使用されている場合には、次の10の増分が使用されます。

順序番号

順序番号を指定します。有効な値の範囲は1から999999です。

上

例

例1: 変更要求の投入

```
SBMCRQ CRQD(MYLIB/CHG222) CRQ(*CRQD 123)
```

このコマンドは、MYLIBの変更要求記述CHG222に基づいて変更要求を投入します。投入される変更要求名は123の順序番号をもちます。

例2: 変更要求の投入

```
SBMCRQ CRQD(*CURLIB/CHG999) CRQ(CRQ0001 *GEN)
```

392 System i: プログラミング System Manager for i5/OS コマンド

このコマンドは、順序番号00010をもつ変更要求CRQ0001がまだ使用されていない場合に、その変更要求を投入する方法を示します。投入される変更要求は、現行ライブラリーの変更要求記述CHG999を基本にしています。

上

エラー・メッセージ

なし

上

ライセンスの送信 (SNDLIC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライセンス送信(SNDLIC)コマンドは、中央側システムから1つまたは複数の管理下のシステムに、1つまたは複数のライセンス・キーを送信する機能を提供します。管理下のシステムのライセンス・リポジトリに追加されるのは、システムの製造番号に一致するライセンス・キーだけです。

注:

1. 変更要求は自動的に投入されます。このコマンドの状況を調べるために表示できます。変更要求の名前を識別するメッセージが戻されます。
2. 指定したプロダクトのライセンス・キー情報が入っている中央側のライセンス・リポジトリの既存のすべてのレコードが、指定した1つまたは複数の管理下のシステムに送られます。管理下のシステムのライセンス・リポジトリに追加されるのは、システムの製造番号が一致するものだけです。

制約事項:

1. このコマンドは共通*EXCLUDE権限付きで出荷されます。
2. ノード・リスト(NODL)値を指定する場合は、ノード・リストに入れることができるのはアドレス・タイプの値が*SNAになっている項目だけです。
3. 指定したプロダクトおよび管理下のシステムのライセンス・キー情報は、中央側のライセンス・リポジトリに存在しなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PRDID	プロダクトID	文字値, *ALL	必須, 定位置 1
LICTRM	ライセンス条件	文字値, *ALL	必須, 定位置 2
NODL	管理下のシステム・ノード・リスト	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード・リスト	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点	通信名	

上

プロダクトID (PRDID)

ライセンス・キー情報が配布されるプロダクトの7桁のIDを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** 中央側ライセンス・リポジトリに存在するすべてのプロダクトのライセンス・キーが配布されます。

プロダクトID

ライセンス・キー情報が配布されるプロダクトの7桁のIDを指定します。

上

ライセンス条件 (LICTRM)

ライセンス・キー情報が送信されるライセンス条項を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** 見つかったすべてのライセンス条項のプロダクト・ライセンスが送信されます。

ライセンス条件

ライセンス条件を次の形式のいずれかで指定します。

VX 認可された使用限界が、プロダクトまたはフィーチャーの全バージョンに有効です。

VXRY 認可された使用限界が、プロダクトまたはフィーチャーの全リリースに有効です。

VXRYMZ

認可された使用限界は、プロダクトのモディフィケーションだけに有効です。

この場合に、XおよびYには0から9の数字、Zには0から9の数字またはAからZの文字を使用できません。

上

管理下のシステム・ノード・リスト (NODL)

要求の宛先であるシステムのリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名。制御点名(CPNAME)パラメーターも指定されている場合には指定することができません。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

この活動を実行するシステムは、ノード・リストで識別されません。個々の制御点名を指定しなければなりません。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーでノード・リスト・オブジェクトが検索されます。

*CURLIB

ノード・リスト・オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

このキーワードで指定されたライブラリーだけが検索されます。

ノード・リスト名に使用できる値は、次の通りです。

ノード・リスト名

コマンドを実行するシステムのリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名。

上

管理下のシステム・ノード名 (CPNAME)

この活動を実行する管理下のシステムのAPPN制御点名。ノード・リスト(NODL)パラメーターが指定されていると、制御点名は指定できません。

*NONE

この活動を実行するシステムは個々に識別されません。ノード・リストを指定しなければなりません。

*NETATR

ローカル・システムのネットワークIDが使用されます。これは、指定するノードがローカル・システムと同じネットワーク内にある時に効果的に使用できます。

ネットワークID

活動を実行する管理下のシステムのAPPNネットワークID。これは、長さが8桁の文字フィールドです。

制御点名

活動を実行する管理下のシステムのAPPN制御点名。これは、長さが8桁の文字フィールドです。

上

例

```
SNDLIC PRDID(1ACCOUN) LICTRM(V4) CPNAME((*NETATR SYS1))
```

ライセンス条件V4をもつ1ACCOUNプロダクトのライセンスを送信して、そのシステムの製造番号と一致するライセンスをシステムSYS1のリポジトリに追加します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

プロダクトの送信 (SNDDPRD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プロダクト送信(SNDDPRD)コマンドは、中央側システムから1つまたは複数の管理下のシステムに、ISERIESプロダクト・パッケージング・サポートによってパッケージされたプロダクトを送信する機能を提供します。

注:

変更要求は自動的に投入されます。このコマンドの状況を調べるために表示できます。変更要求の名前を識別するメッセージが戻されます。

制約事項:

1. このコマンドは共通*EXCLUDE権限付きで出荷されます。
2. このコマンドはPKGPRDDSTおよびADDDPRDCRQAコマンドを呼び出すので、ユーザーにはこれらのコマンドの使用が認可されていなければなりません。ユーザーにはフォルダーに対する*ALL権限が必要です。
3. NODL値が指定されている場合にノード・リストに入れることができるのは、アドレス・タイプの値が*SNAの項目だけです。
4. 分散管理ライセンス・プログラムおよびI5/OSプロダクトを指定することはできません。

注:

1. このコマンドは、まだパッケージされていない場合に、プロダクトを配布用にパッケージします。
2. 前にプロダクトが配布用にパッケージされていて、しかもPKGPRDDST(*REPLACE)が指定されている場合には、このコマンドは再度プロダクトを配布用にパッケージします。このコマンドは前にパッケージされたプロダクトを置き換えます。
3. プロダクトのライセンス・キーを送信するように要求されている時には、この活動の実行時にこのライセンス・キー情報をもつレコードが中央側のライセンス・リポジトリに存在していなければなりません。
4. 中央側のライセンス・リポジトリ中で指定されたプロダクトのライセンス・キー情報を含む既存のすべてのレコードが指定された1つまたは複数の管理下のシステムに送信されますが、システム製造番号に一致するものだけが管理下のシステムのライセンス・リポジトリに追加されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PRDID	プロダクトID	文字値	必須, 定位置 1
RLS	リリース・レベル	文字値, *ONLY	オプション
OPTION	プロダクト・オプション	1-99, *BASE	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
LODTYPE	プロダクト・ロード・タイプ	<u>*ALL</u> , *CODE, *LNG	オプション
LODID	ロードID	2900-2999, <u>*ALL</u> , *CODE	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	<u>*CURRENT</u> , *PRV, V5R3M0, V5R4M0, V6R1M0	オプション
NODL	管理下のシステム・ノード・リスト	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード・リスト	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, <u>*NETATR</u>	
	要素 2: 制御点	通信名	
INSTALL	導入	<u>*NO</u> , *YES	オプション
KEEPCLGE	カタログ項目の保存	<u>*NO</u> , *YES	オプション
SNDLICKEY	ライセンス・キー送信	<u>*NO</u> , *YES	オプション
PKGPRDDST	プロダクトのパッケージ	<u>*NOREPLACE</u> , *REPLACE	オプション

上

プロダクトID (PRDID)

送信されるプロダクトの7桁のIDを指定します。

考えられる値は次の通りです。

プロダクトID

活動で使用される7桁のプロダクトIDを指定します。

上

リリース・レベル (RLS)

使用されるプロダクトのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ONLY

プロダクト・オプションに使用されるバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルは1つだけです。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXXRXYの形式で指定します。ここで、VXはバージョン番号で、MYはモディフィケーション番号です。Xに有効な値は0から9の範囲です。Yに有効な値は数字の0から9および文字のAからZです。

上

プロダクト・オプション (OPTION)

PRDIDパラメーターで指定されたプロダクトのどの任意指定部分が使用されるかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*BASE

プロダクトの基本部分だけが使用されます。

プロダクト・オプション番号

保管されるプロダクト・ロードのオプション番号を指定します。有効な値の範囲は1から99です。

上

プロダクト・ロード・タイプ (LODTYPE)

使用されるプロダクト・ロード・オブジェクトを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ALL LODIDパラメーターで指定されたコードおよび言語オブジェクトが使用されます。

*CODE

このプロダクト・ロードに関連づけられたプログラム・オブジェクトが使用されます。

*LNG LODIDパラメーターで識別されるNLVに対応するオブジェクトが使用されます。

上

ロードID (LODID)

使用されるロードIDを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ALL このプロダクト・オプション用のすべての言語が保管されます。

*CODE

コード・ロードが使用されます。

プロダクト・ロードID

LODTYPE(*LNG)またはLODTYPE(*ALL)が使用される時のプロダクトのロードIDを指定します。

ロードIDは正しいIBM各国語バージョンでなければならず、29XXの形式で指定しなければなりません。Xの値は0から9とすることができます。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

プロダクトを使用しようとしているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

*CURRENT

プロダクトは、現在システムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。

*PRV プロダクトは、前のリリースで使用されます。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRXXMXの形式で指定します。プロダクトは、オペレーティング・システムの指定したリリースまたはそれ以後のリリースを導入しているシステムで使用できます。

有効な値は、現行のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、新しいリリースごとに変わります。

上

管理下のシステム・ノード・リスト (NODL)

要求の宛先であるシステムのリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名を指定します。制御点名 (CPNAME) パラメーターに値が指定されている場合には、ノード・リスト名を指定することはできません。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

この活動を実行するシステムは、ノード・リストで識別されません。個々の制御点名を指定しなければなりません。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーでノード・リスト・オブジェクトが検索されます。

***CURLIB**

ノード・リスト・オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

このパラメーターに指定したライブラリーだけが検索されることを指定します。

使用できるノード・リスト名の値は次の通りです。

ノード・リスト名

コマンドを実行するシステムのリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名を指定します。

上

管理下のシステム・ノード名 (CPNAME)

この要求が実行される、管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。ノード・リストが指定されている場合には、制御点名は指定できません。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

この活動を実行するシステムは個々に識別されません。ノード・リストを指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***NETATR**

ローカル・システムのネットワークIDが使用されます。これは、指定されるノードがローカル・システムと同じネットワーク内にある時に役立ちます。

ネットワークID

活動が実行される管理下のシステムのAPPNネットワークIDを指定します。これは8桁のフィールドです。

使用できる制御点名の値は次の通りです。

制御点名

活動が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。

上

導入 (INSTALL)

プロダクトが到着時に管理下のシステムに導入されるように指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NO** プロダクトは導入されません。

***YES** プロダクトが導入されます。

上

カタログ項目の保存 (KEEPCLGE)

カタログ項目およびプロダクトに対応する関連づけられた保管ファイルが、指定した1つまたは複数のシステムに保管されるかどうかを指定します。これが有効であるのは、INSTALL(*YES)が指定されている場合だけです。

考えられる値は次の通りです。

***NO** カタログ項目および関連づけられた保管ファイルは保管されません。

***YES** カタログ項目および関連づけられた保管ファイルが保管されます。

上

ライセンス・キー送信 (SNDLICKEY)

ライセンス・キーをプロダクトと一緒に送るかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***YES** ライセンス・キーはプロダクトと一緒に送られます。

***NO** ライセンス・キーはプロダクトと一緒に送られません。

上

プロダクトのパッケージ (PKGPRDDST)

プロダクトが送信される前に配布用にパッケージされることを指定します。このパラメーターは、配布リポジトリにパッケージされたプロダクトがすでに存在する場合にそれを置き換えるかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NOREPLACE**

既存のパッケージされたプロダクトを置き換えないように指定します。

***REPLACE**

既存のパッケージされたプロダクトを置き換えるように指定します。

上

例

例1: プロダクトの送信

```
SNDPRD  PRDID(1ACCOUN)  RLS(V5R4M0)  OPTION(*BASE)
         LODTYPE(*ALL)  LODID(*ALL)  CPNAME((*NETATR SYS1))
         INSTALL(*YES)  SNDLICENSE(*YES)
```

このコマンドは、プログラムおよび言語パーツの両方について1ACCOUNプロダクト基本オプション・リリースV5R4M0を送信して、それをiSeriesサーバーSYS1に導入します。また、このプロダクトのライセンス・キーも管理下のシステムのライセンス・リポジトリに送信されて追加されます。

例2: オプションの送信 (非導入)

```
SNDPRD  PRDID(1CHECKS)  RLS(V5R4M0)  OPTION(0010)
         LODTYPE(*ALL)  LODID(*ALL)
         CPNAME((*NETATR SYS2))  SNDLICENSE(*YES)
```

このコマンドは、1CHECKSプロダクト・オプション10、リリースV5R4M0のプログラムと言語の両方の部分を送信しますが、そのプロダクトはiSeriesサーバーSYS2に導入しません。また、このプロダクトのライセンス・キーも管理下のシステムのライセンス・リポジトリに送信されて追加されます。

上

エラー・メッセージ

なし

上

プログラム一時修正の送信 (SNDPTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正送信(SNDPTF)コマンドは、特定のプログラム一時修正(PTF)と付随する条件あるいはPTFのリストを特定の要求元あるいはサービス要求元のリストに送信します。カバー・レターが使用可能であれば、それも送信できます。

SNDPTFコマンドを使用する時には、PTFがサービス要求元に到着した時にサービス要求元でPTFが適用されるように要求することができます。PTFの適用を要求する時には、サービス要求元のシステムのIPLを要求することもできます。PTFの適用とIPLを後日行なうようにスケジュールすることができます。

注:

1. 変更要求は自動的に投入され、このコマンドの状況を調べるために表示できます。投入済み変更要求処理(WRKSBMCRQ)コマンドを使用して、状況をモニターできます。
2. 最大300のPTFを指定することができます。

制約事項:

1. このコマンドの適用およびIPL機能がサポートされるのは、サービス要求元が分散管理ライセンス・プログラムを導入している場合だけです。
2. 別のシステムに送信するためには、PTF保管ファイルが存在していて解放されなければなりません。
3. 遅延のマークが付けられていないPTFは即時に適用されます。遅延のマークが付けられているPTFは、次のIPL時に適用するようにスケジュールされます。
4. 遅延のマークが付けられているPTFを永久的に適用できるのは、前に一時的に適用されている場合だけです。遅延となっているので、これらの適用にはIPLが必要であることに注意してください。
5. NODLの値が指定されている場合には、ノード・リストに入れることができるのはアドレス・タイプとして*SNAの値を持つ項目だけです。
6. プロダクト、オプション、およびPTFのリリースはサポートされるプロダクトの処理(WRKSPTPRD)コマンドを使用してサポートされなければなりません。
7. PTFを配布していて、配布待ち行列がサービス要求元処理(WRKSRVRQS)コマンドで*SNADSに設定されている場合には、PTF送信(SNDPTF)コマンドに対する*USE権限が必要です。
8. PTFを配布していて、配布待ち行列がサービス要求元処理(WRKSRVRQS)コマンドで*SVDSに設定されている場合には、PTFコピー(CPYPTF)コマンドに対する*USE権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PTFID	PTF記述	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: PTF ID	文字値	
	要素 2: プロダクト	文字値, <u>*SPT</u>	
	要素 3: リリース・レベル	文字値, <u>*ONLY</u>	
DESTSRVRQS	宛先サービス要求元	単一値: *ALL, <u>*SELECT</u> , *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点	通信名	
MAXDST	最大配布	1-5000, *SRVRQS, *SRVPVDA, <u>*NOMAX</u>	オプション
SNDRQT	前提PTFの送信	<u>*YES</u> , *NO	オプション
CHECK	サービス要求元の検査	<u>*YES</u> , *NO	オプション
PTFPART	PTF部分	<u>*ALL</u> , *PTF, *CVRLTR	オプション
APY	変更の範囲	<u>*NONE</u> , *TEMP, *PERM	オプション
DLYAPY	遅延PTF適用	<u>*NO</u> , *YES	オプション
NODL	ノード・リスト名	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ノード・リスト名	名前, <u>*NONE</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
RMTAPYTIME	リモート適用時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 時間帯	<u>*LCLSYS</u> , *MGDSYS	
	要素 2: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, <u>*CURRENT</u>	
	要素 2: 日付	日付, <u>*CURRENT</u> , *NEXT	
IPL	リモート・システムのIPL	<u>*NO</u> , *YES	オプション
RMTIPLTIME	リモートIPL時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 時間帯	<u>*LCLSYS</u> , *MGDSYS	
	要素 2: 以後に開始	要素リスト	
	要素 1: 時刻	時刻, <u>*CURRENT</u>	
	要素 2: 日付	日付, <u>*CURRENT</u> , *NEXT	
PWRDWNPT	電源遮断オプション	<u>*CNTRLD</u> , *IMMED	オプション
PWRDWNDLY	電源遮断遅延	1-65535, <u>3600</u>	オプション

上

PTF記述 (PTFID)

送信されるPTFのPTF番号を指定します。次の特殊なPTFも配布することができます。

SF97VRMまたはNNN

PTF要約パッケージ

MF98VRMまたはNNN

ハードウェア保守計画のヒント

SF98VRMまたはNNN

ソフトウェア保守計画のヒント

NはPTF順序番号です。
Vは要求されたパッケージのバージョンです。
Rは要求されたパッケージのリリースです。
Mは要求されたパッケージの
モディフィケーション・レベルです。

PTF IDとして考えられる値は次の通りです。

PTF ID

送信するPTFの7桁のID (ID)を指定します。

プロダクトIDとして考えられる値は次の通りです。

***SPT** PTFはサポートされる1つのプロダクトだけに固有です。

プロダクトID

送信するPTFのプロダクトIDを指定します。PTF IDがプロダクト相互間で固有のものでない場合には、プロダクトを指定しなければなりません。

プロダクトのリリース・レベルとして考えられる値は次の通りです。

***ONLY**

PTF IDはプロダクトの1つのリリース・レベルだけに固有です。

リリース(VXRXMX)

送信するPTFのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定します。PTF IDがプロダクト相互間で固有のものでない場合には、リリース・レベルを指定しなければなりません。形式はVXRXMXです。

上

宛先サービス要求元 (DESTSRVRQS)

このPTF機能が実行されるサービス要求元システムを指定します。単一のサービス要求元またはサービス要求元のリストを指定できます。

考えられるネットワークIDの値は次の通りです。

***SELECT**

サービス要求元のリストを表示します。このリストから1つまたは複数のサービス要求元を選択できます。このコマンドがバッチ環境で使用されている場合には、*SELECTは正しくありません。

***ALL** このPTF機能が、このサービス提供元に対して定義されるすべてのサービス要求元で行なわれるように指定します。

***NONE**

サービス要求元はノード・リスト・オブジェクトで識別されます。

***NETATR**

サービス要求元のリモート・ネットワークIDは、このシステムのリモート・ネットワークIDと同じです。

リモート・ネットワークID

サービス要求元のリモート・ネットワークIDを指定します。

指定できる制御点の値は次の通りです。

この要素は、ネットワークIDが*ALL、*SELECT,または*NONEの場合には正しくありません。

リモート制御点

サービス要求元のリモート制御点名を指定します。

上

最大配布 (MAXDST)

それぞれのサービス要求元に送信できる最大Kバイト数を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*NOMAX

任意のKバイト数を送信します。

*SRVRQS

サービス要求元項目情報で各サービス要求元に対して指定されているKバイト数が使用されます。現在の値を表示するためには、サービス要求元処理(WRKS SRVRQS)コマンドを使用します。

*SRVPVDA

配布できるKバイト数は、最大サービス提供元属性で指定されているKバイト数が使用されます。サービス提供元属性表示(DSPSRVPVDA)コマンドを使用して、現行の値を確認してください。

最大Kバイト数

配布できる最大Kバイト数を指定します。1から5000 KBの範囲内の正しい値を指定してください。

上

前提PTFの送信 (SNDRQT)

リストに前提PTFが追加されるかどうかを指定します。条件には前提PTFと相互関連PTFが含まれます。

考えられる値は次の通りです。

***YES** PTFおよびそのすべての前提条件が送信されます。

***NO** 特定のPTFまたはPTFのリストが送信されます。前提条件は送信されません。

注：SNDRQT(*NO) APY(*TEMP)またはSNDRQT(*NO) APY(*PERM)を使用する場合には、すべての前提PTFをサービス要求元で適用しなければなりません。PTFはこのコマンドにリストした順序で適用されます。

上

サービス要求元の検査 (CHECK)

必要なPTFの固有なセットを調べるためにそれぞれのサービス要求元が検査されるように指定します。

考えられる値は次の通りです。

***YES** 必要なPTFのセットを調べるためにそれぞれのサービス要求元が検査されます。

***NO** サービス要求元にPTFが必要かどうかを調べる検査は行われません。指定されたすべてのサービス要求元にすべてのPTFが送られます。

PTF部分 (PTFPART)

PTFおよびカバー・レターを送信する必要があるかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** PTFおよびそれに対応するカバー・レターを送信します。PTFのカバー・レターが見つからない場合には、そのカバー・レターは送信されません。

***PTF** PTFだけを送信します。

***CVRLTR**
カバー・レターだけを送信します。

上

変更の範囲 (APY)

PTFが適用される時の変更の範囲を指定します。適用はすべてのPTFがサービス要求元によって正常に受け取られた時に行なわれます。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**
サービス要求元システムにPTFを適用しません。

***TEMP**
サービス要求元システムにPTFを一時的に適用します。

***PERM**
サービス要求元システムにPTFを永久的に適用します。

上

遅延PTF適用 (DLYAPY)

PTFがどのように適用されるかを指定します。指定したシステムで活動の実行中に、あるいは後で次回のIPLの時に即時PTFを適用します。

***NO** 活動の実行時に即時PTFを適用します。PTFが遅延とマークされている場合には、次回の不在時IPLまで適用されません。

***YES** 次のIPLで即時PTFと遅延PTFの両方を適用します。

上

ノード・リスト名 (NODL)

このPTF機能が実行されるサービス要求元のリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

サービス要求元はDESTSRVRQSパラメーターで識別されます。

考えられる値は次の通りです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分のすべてのライブラリーでノード・リスト・オブジェクトを検索します。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーでノード・リスト・オブジェクトが検索されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定します。

使用できるノード・リスト名の値は次の通りです。

ノード・リスト名

PTF機能が実行されるシステムのリストが入っているノード・リスト名を指定します。

上

リモート適用時刻 (RMTAPYTIME)

サービス要求元で適用を実行できる日付および時刻を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は、システムの日付および時刻に基づいてこの適用要求が処理される時に決定されます。

時間帯として考えられる値は次の通りです。

***LCLSYS**

リモート開始時刻をこのシステムの時間帯で指定します。

***MGDSYS**

リモート開始時刻をサービス要求元システムの時間帯で指定します。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

この適用は、このシステムで適用要求が処理された時刻またはそれ以後の任意の時刻に、サービス要求元システムで開始されます。

時刻以後開始

サービス要求元でこの適用を開始できる時刻を指定します。時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力することができ、この場合のHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定です。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

この適用は、このシステムで適用要求が処理された日付またはより後の任意の日に、サービス要求元システムで開始されます。

***NEXT**

この適用は、このシステムで適用要求が処理された日付より後の任意の日に、サービス要求元システムで開始されます。

日付以後開始

サービス要求元システムでこの適用を開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

注：

時間帯の値*MGDSYSが指定されている場合には、日付および時刻に特殊値*CURRENTおよび*NEXTを指定することはできません。

上

リモート・システムのIPL (IPL)

サービス要求元システムのIPLを行なう必要があるかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NO** サービス要求元システムのIPLは行なう必要がありません。

***YES** サービス要求元システムのIPLは、サービス要求元システムですべてのPTFが正常に適用された後で行なわれなければなりません。

上

リモートIPL時刻 (RMTIPLTIME)

サービス要求元でIPLを行なうことができる日付および時刻を指定します。現在の日付および時刻の値と次の日付の値は、システムの日付および時刻に基づいてこのIPL要求が処理される時に決定されます。

時間帯として考えられる値は次の通りです。

***LCLSYS**

リモート開始時刻をこのシステムの時間帯で指定します。

***MGDSYS**

リモート開始時刻をサービス要求元システムの時間帯で指定します。

時刻以後開始として考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

このIPL要求がこのシステムで処理された時刻またはそれ以後の任意の時刻にサービス要求元システムでこのIPLを開始します。

時刻以後開始

サービス要求元でこのIPLを開始できる時刻を指定します。時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)で入力することができ、この場合のHHは時、MMは分、SSは秒です。秒は任意指定で

す。時刻はコロン(:)などの時刻区切り記号を付けても付けなくても指定できます。時刻区切り記号を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MM:SS)を指定します。

日付以後開始として考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

このIPL要求がこのシステムで処理された日付以後の任意の日サービス要求元システムでこのIPLを開始します。

***NEXT**

このIPLがこのシステムで処理された日付より後の任意の日サービス要求元システムでこのIPLを開始します。

日付以後開始

サービス要求元システムでIPLを開始できる日付を指定します。この日付はジョブの日付の形式で指定しなければなりません。

注：時間帯の値*MGDSYSが指定されている場合には、日時に特殊値*CURRENTおよび*NEXTを指定できません。

上

電源遮断オプション (PWRDWNOPT)

サービス要求元システムでのIPLの処理の時に活動ジョブの終わりの管理方法を指定します。このパラメーターが有効なのは、IPL(*YES)が指定されている場合だけです。

***CNTRLD**

すべてのジョブは、電源遮断遅延(PWRDWDLY)パラメーターで指定された時間が経過した時に終了します。実行中の現行ジョブは、すべてバッチのクリーンアップを実行します。

***IMMED**

ジョブは即時に終了します。

上

電源遮断遅延 (PWRDWNDLY)

このパラメーターが有効なのは、IPL(*YES)とPWRDWNOPT(*CNTRLD)が指定されている場合だけです。システムで制御方式による終了を実行できる時間を秒数で指定します。指定された電源遮断の遅延内にジョブ終了ルーチンが完了しない場合には、残りのジョブはすべて即時に終了します。

3600 処理を制御方式で終了できる時間は、3600秒に制限されています。

遅延時間

制御方式による終了を実行できる最大遅延時間を秒数で指定します。有効な値の範囲は1 - 65535(65,535秒) です。

上

例

例1: PTFおよび必要条件の送信

412 System i: プログラミング System Manager for i5/OS コマンド

```
SNDPTF  PTFID((1234567) (1234600)) DESTSRVRQS(*ALL)
        MAXDST(*SRVRQS)
```

このコマンドは、PTFと必要条件を選択した1つまたは複数のサービス要求元に送信します。

例2: 特定のサービス要求元へのPTFの送信

```
SNDPTF  PTFID(1234567) DESTSRVRQS(*NETATR CHICAGO1)
        SNDRQT(*NO)
```

このコマンドは、CHICAGO1の制御点名をもつサービス要求元にPTFがまだない場合に、そのサービス要求元にPTF 1234567を配布します。PTFパッケージのサイズは配布には影響がなく、必要条件はPTFとともに送信されません。

例3: 2つのサービス要求元へのPTFとその必要条件の送信

```
SNDPTF  PTFID(1234567)
        DESTSRVRQS((*NETATR CHICAGO1) (*NETATR CHICAGO2))
        CHECK(*NO)
```

このコマンドは、PTF 1234567とその必要条件を、制御点名CHICAGO1およびCHICAGO2をもつ2つのサービス要求元に送信します。PTFの配布の前に、PTF 1234567がすでに存在するかどうかを判別する検査は行われません。どれかのPTFがサービス要求元に存在すると、それが置き換えられます。

例4: 宛先として1つまたは複数のサービス要求元の選択

```
SNDPTF  PTFID(1234567) DESTSRVRQS(*SELECT)
```

このコマンドは、PTF 1234567とその必要条件の宛先として1つまたは複数のサービス要求元を選択できる表示画面を示します。

例5: 1つのPTFの送信と一時適用

```
SNDPTF  PTFID(1234567 *SPT *ONLY) DESTSRVRQS(*NETATR CHICAGO1)
        SNDRQT(*NO) CHECK(*NO) PTFPART(*PTF) APY(*TEMP)
        RMTAPYTIME((*MGDSYS ('10:00:00' '10/31/06'))
        IPL(*YES)
        RMTIPLTIME((*MGDSYS ('01:00:00' '11/01/06'))
```

このコマンドは、特定のサービス要求元に1つのPTFを送信して一時的に適用し、PTFを適用する時点をスケジュールし、IPLをスケジュールします。

この例では、すべてのPTFを正常に受信した場合、指定されたPTFを2006年10月31日の午前10時にロードして適用します。PTFが受信されて正常に適用されると、リモート・システムのIPLは2006年11月1日午前1時に開始します。

例6: 永久PTFの送信と適用

```
SNDPTF  PTFID(1234567 *SPT *ONLY)
        DESTSRVRQS((*NETATR CHICAGO1) (*NETATR CHICAGO2))
        PTFPART(*PTF) APY(*PERM)
        RMTAPYTIME((*MGDSYS ('10:00:00' '10/31/06'))
        IPL(*YES)
        RMTIPLTIME((*MGDSYS ('01:00:00' '11/01/06'))
```

このコマンドは、複数のサービス要求元に1つのPTFを送信して永久的に適用します。これは、PTFの適用およびシステムのIPLをスケジュールします。このスケジュール時間は、サービス要求元またはリモート・システムのロケーションの時間です。このコマンドは必要条件を送信して、PTFの可用性についてサービス要求元を検査します。

この例では、すべてのPTFを正常に受信した場合、指定されたPTFのサービス要求元への適用を2006年10月31日の午前10時に開始します。PTFが受信されて正常に適用されると、リモート・システムのIPLは2006年11月1日午前1時に開始します。

例7: PTFの送信と適用後のIPLの実行

```
SNDPTF PTFID(1234567 *SPT *ONLY) DESTSRVRQS(*SELECT)
PTFPART(*PTF) APY(*TEMP)
RMTAPYTIME((*MGDSYS (*CURRENT *CURRENT)) IPL(*YES)
RMTIPLTIME((*LCLSYS (*CURRENT 12/24/06))
PWRDWNOPT(*CNTRLD) PWRDWNPLY(4800)
```

このコマンドは、選択した1つまたは複数のサービス要求元に、1つのPTFを送信して一時的に適用します。このコマンドは、PTFの適用およびシステムのIPLをスケジュールします。このスケジュール時間は、サービス要求元またはリモート・システムのロケーションの時間です。このコマンドは必要条件を送信して、サービス要求元またはPTFの可用性について検査します。

この例では、現在日の現在の時間に開始して、サービス要求元に指定されたPTFを適用します。PTFが正常に受信されて適用されると、リモート・システムのIPLは2006年12月24日の現在時刻に開始します。IPLに指定される時間はリモート・システムの時間帯になります。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

SMU107F

&1コマンドの処理中にエラーが見つかりました。

SMU1080

サービス要求元宛先に*SELECTを指定することはできません。

SMU109C

PTFの処理中にエラーが検出されました。

SMU109E

1つまたは複数のPTFを送ることができませんでした。

SMU109F

PTFは送られませんでした。

*STATUS メッセージ

SMU109A

必要なPTFを調べるために&1.&2と連絡中。

上

SMGオブジェクトの送信 (SNDSMGOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム・マネージャー・オブジェクト送信(SNDSMGOBJ)コマンドは、中央側システムから1つまたは複数の管理下のシステムにI5/OSオブジェクトを送信する機能を提供します。

注: 変更要求が投入され、このコマンドの状況を調べるために表示できます。変更要求の名前を識別するメッセージが戻されます。

制約事項:

1. 実行できるのは、*REXX, *CL,および*UNSPECなどのI5/OSプログラム・オブジェクトまたはファイル・メンバーだけです。
2. オブジェクトをQTEMPライブラリーに入れることはできません。
3. ノード・リスト(NODL)値を指定する場合は、ノード・リストに入れることができるのはアドレス・タイプの値が*SNAになっている項目だけです。

エラー・メッセージ: SNDSMGOBJ

なし

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	文字値	必須, 定位置 2
MBR	メンバー	名前, *ALL, *FIRST, *LAST	オプション
DATATYPE	データ・タイプ	*UNSPEC, *CL, *REXX	オプション
NODL	管理下のシステム・ノード・リスト	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード・リスト	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CPNAME	管理下のシステム・ノード名	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点	通信名	
TGTRLS	ターゲット・リリース	*CURRENT, *PRV, V5R3M0, V5R4M0, V6R1M0	オプション
REPLACE	オブジェクトの置き換え	*NO, *YES	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DTACPR	データ圧縮	*NONE, *SNA	オプション
RUNPGM	プログラムの実行	*NO, *YES	オプション
PARM	パラメーター	値 (最大 20 回の繰り返し): 無制限	オプション

上

オブジェクト (OBJ)

送信される修飾された名前を指定します。

使用できるライブラリーの値は次のいずれかです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザーおよびシステム部分にあるすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

このパラメーターで指定したライブラリーだけが検索されるように指定します。

使用できるオブジェクト名の値は次の通りです。

オブジェクト名

文字AからZ, 0から9,ドル記号 (または円記号), 単価記号, および番号記号が使用されているオブジェクト名を指定してください。

上

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

オブジェクトを指定します。

*FILEDATA

ファイル・メンバーはファイル属性なしで送信されなければなりません。

オブジェクト・タイプ

オブジェクト・タイプを指定します。

上

メンバー (MBR)

I5/OSの物理ファイル・メンバー名を指定します。オブジェクト・タイプが*FILEまたは*FILEDATAでない場合には無視されます。

***ALL** ファイル全体が送信されます。ファイルが物理ファイルでない場合には, *ALLを使用しなければなりません。RUNPGM(*YES)を選択した場合または*FILEDATAを選択した場合には, *ALLを使用することはできません。

***FIRST**

これが使用されるのは、最初のメンバーが送信される場合だけです。メンバー名は活動の実行時に決定されます。

***LAST**

最後のメンバーだけが送信されます。メンバー名は、そのメンバーが物理ファイルに追加された日付によって、活動の実行時に決定されます。

メンバー名

送信するメンバーの名前を指定します。

上

データ・タイプ (DATATYPE)

メンバーのデータ・タイプを指定します。このパラメーターを指定する必要があるのは、管理下のシステムで実行されるソース・ファイルを送信する場合だけです。DATATYPEは*FILEDATAの実行時に指定されるだけです。

***UNSPEC**

未指定のファイル・メンバー・タイプ。データ・タイプを管理下のシステムで判別できない場合、あるいはこのメンバーが入っているファイルの名前がQCLSRCであった場合には、ファイル・メンバーはCLバッチ入カストリームとして取り扱われます。ソース・ファイルの名前がQREXSRCである場合には、ファイル・メンバーはREXXプロシージャーとして取り扱われます。

***CL** ファイル・メンバーにはIS/OS CLバッチ入カストリームなどの制御言語が入っています。

***REXX**

REXXプロシージャーが入っているファイル・メンバーを指定します。

上

管理下のシステム・ノード・リスト (NODL)

活動の宛先であるシステムのリストが入っているノード・リスト名を指定します。制御点名(CPNAME)パラメーターも指定されている場合には、このパラメーターを指定することはできません。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

ノード・リストではこの活動を実行するシステムは指定されません。個々の制御点名を指定しなければなりません。

使用できるライブラリーの値は次のいずれかです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分にあるすべてのライブラリーでノード・リスト・オブジェクトが検索されます。

***CURLIB**

ノード・リスト・オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

このパラメーターに指定したライブラリーだけが検索されます。

使用できるノード・リスト名の値は次の通りです。

ノード・リスト名

活動を実行するシステムのリストが入っているノード・リスト・オブジェクト名を指定します。

上

管理下のシステム・ノード名 (CPNAME)

この要求が実行される、管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。ノード・リストが指定されている場合には、制御点名は指定できません。

*NONE

この要求を実行するシステムは個々に識別されません。ノード・リストを指定しなければなりません。

*NETATR

ローカル・システムのネットワークIDが使用されます。これは、指定されたノードがローカル・システムと同じネットワーク内にある場合に役立ちます。

ネットワークID

要求が実行される管理下のシステムのAPPNネットワークIDを指定します。

使用できる制御点名の値は次の通りです。

制御点名

要求が実行される管理下のシステムのAPPN制御点名を指定します。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

オブジェクトを使用しようとしているオペレーティング・システムのリリースを指定します。SYSTEMVIEW配布リポジトリにあるグローバル名付きオブジェクトの場合、あるいは送信または検索以外の処置の場合には、このパラメーターは無視されます。

*CURRENT

オブジェクトは、現在システムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。システムでV6R1M0が実行中の場合には、*CURRENTはV6R1M0を導入したシステム上でオブジェクトを使用することを意味します。オブジェクトは、これより後のオペレーティング・システムが導入されているシステムでも使用できます。

*PRV オブジェクトはローカル・システムと比較して前のリリース・レベルのシステム用です。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRXXMXの形式で指定します。オブジェクトは、オペレーティング・システムの指定したリリースまたはそれより後のリリースを導入しているシステムで使用されます。

有効な値は、現行のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、新しいリリースごとに変わります。

上

オブジェクトの置き換え (REPLACE)

すでに存在している場合にオブジェクトを置き換える必要があることを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NO** オブジェクトがすでに存在する場合にはエラーが戻されます。

***YES** すでに存在している場合にはオブジェクトが置き換えられます。

上

データ圧縮 (DTACPR)

送信時にデータが圧縮されることを指定します。このパラメーターが有効なのは、オブジェクト・タイプ ***FILEDATA** が指定されている場合だけです。ブランクの基本圧縮文字による SNA 圧縮が実行されます。

***NONE**

送信時にファイル・データは圧縮されません。

***SNA** 送信時にファイル・データが圧縮されます。

上

プログラムの実行 (RUNPGM)

管理下のシステムに到達した時のプログラムの実行を指定します。このパラメーターを指定できるのは、オブジェクト・タイプが ***PGM** の場合、またはオブジェクト・タイプが ***FILEDATA** でデータ・タイプが ***CL** または ***REXX** の場合だけです。

***NO** プログラムは実行されません。

***YES** 管理下のシステムが受け取るとすぐにプログラムが実行されるように指定します。

上

パラメーター (PARM)

プログラムの開始時に渡されるパラメーターを指定します。最大20個のパラメーターを指定できます。

パラメーター

1-253桁のパラメーターを指定してください。プロンプト・パネルでは最初に50桁を入力できます。1桁目にアンパーサンド(&)を入力すると、フィールドはさらに大きなパラメーター用に拡張されます。

上

例

例1: ノード・リストのシステムへのライブラリーの送信

SNDSMGOBJ OBJ(ACCTLIB) OBJTYPE(*LIB) NODL(SYSLIB/SALESOFC)

このコマンドは、ノード・リストSALESOFCで識別された20のシステムにライブラリーACCTLIBを送信します。

例2: ノード・リスト内のすべてのシステムへのプログラムの送信

```
SNDSMGOBJ OBJ(SALESLIB/GENRPTS) OBJTYPE(*PGM)
           NODL(SYSLIB/ALLSTORES)
           RUNPGM(*YES) PARM(SALES 'ONE DAY')
```

このコマンドは、ライブラリーSYSLIBのプログラムGENRPTSを、ライブラリーSYSLIBのノード・リストALLSTORESにリストされたすべてのシステムに送信します。次に、そのプログラムをそれらの各システムで実行します。2つのパラメーターが入力としてプログラムに渡されます。最初のものには値SALESがあり、2番目には値'ONE DAY'があります。

上

エラー・メッセージ

なし

上

システム・マネージャーの開始 (STRSYSMGR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム・マネージャー開始(STRSYSMGR)コマンドは、システム・マネージャー・ライセンス・プログラムの機能を実行するQSYSWRKサブシステム内のジョブを開始します。

分散管理の開始(STRMGDSYS)コマンドは、中央側システムと管理下のシステムの両方に共通したサービスを開始するために使用されます。中央側システムのサポートを完全に機能させるためには、これらのサービスが実行されなければなりません。

管理下のシステムのSTRMGDSYSコマンドで開始される機能を実行するジョブが検査され、開始されていない場合には診断メッセージが送られます。このメッセージは中央側システムで適用される管理下のシステムの機能に対して送られるだけです。

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには*JOBCTL権限が必要です。
2. このコマンドの*PUBLIC権限は*EXCLUDEです。

上

パラメーター

なし

上

例

STRSYSMGR

このコマンドは、システム・マネージャー機能を実行するQSYSWRKサブシステムのジョブを開始します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

CRQ記述の処理 (WRKCRQD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

変更要求記述処理(WRKCRQD)コマンドは、変更要求記述の処理画面を表示します。このコマンドを使用して、変更要求記述の作成、変更、削除、および変更要求記述活動の処理を行なうことができます。

制約事項:

1. ユーザーが*USE権限を認可されているライブラリーだけが検索されます。
2. ユーザーが権限を認可されている変更要求記述だけが表示します。
3. 変更要求記述に対して操作を実行するためには、ユーザーは操作で使用するコマンドに対する*USE権限および操作が実行される変更要求記述に対する適切な権限を持っていないとなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CRQD	変更要求記述	修飾オブジェクト名	オプションル, 定位置 1
	修飾子 1: 変更要求記述	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

変更要求記述 (CRQD)

変更要求記述オブジェクトの修飾された名前を指定します。

変更要求記述として考えられる値は次の通りです。

***ALL** すべての変更要求記述を表示します。

変更要求記述

表示する変更要求記述を指定します。

総称*変更要求記述

総称変更要求記述名を指定します。総称名は後にアスタリスク(*)の付いた1文字以上の文字からなる文字ストリングです。このストリングに一致するかまたはこのストリングで始まる変更要求記述だけが表示されます。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ユーザーのライブラリー・リストおよびジョブのライブラリー・リストのシステム部分のすべてのライブラリーを検索します。

***CURLIB**

現行ライブラリーで変更要求記述を見つけます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***USRLIBL**

リモート警報を受け取った場合には、問題ログ項目が作成されます。

***ALL** QSYSライブラリーを含むシステムのすべてのライブラリーを検索します。

***ALLUSR**

すべてのユーザー定義ライブラリーおよびQGPLライブラリーを含むすべての非システム・ライブラリーを検索します。QGPL以外の文字Qで始まるライブラリーは組み込まれません。

ライブラリー名

このパラメーターに検索するライブラリーを指定します。

上

例

例1: 変更要求記述の処理

WRKCRQD

このコマンドは、ジョブのライブラリー・リストのすべての変更要求記述で作業する方法を示します。

例2: すべての変更要求記述の処理

WRKCRQD CRQD(MYLIB/*ALL)

このコマンドは、MYLIBのすべての変更要求記述を処理する方法を示します。

例3: スtringのすべての変更要求記述の処理

WRKCRQD CRQD(CHG*)

このコマンドは、文字'CHG'で始まり、現行ジョブのライブラリー・リスト中にあるすべての変更要求記述で作業する方法を示します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

PTFの処理 (WRKPTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PTF処理(WRKPTF)コマンドは、プロダクトのすべてのプログラム一時修正(PTF)を選択および処理します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PTF	PTF ID	文字値, <u>*ALL</u> , *PTFSAVF, *ONORDER, *CVLT, *CVLTONLY	オプション, 定位置 1
LICPGM	プロダクト	文字値, <u>*SELECT</u>	オプション, 定位置 2
RLS	リリース・レベル	文字値, <u>*ONLY</u>	オプション, 定位置 3

上

PTF ID (PTF)

処理したいPTFを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** 指定したプロダクトおよびリリースのすべてのPTFが表示されます。

***PTFSAVF**

指定したプロダクトおよびリリースのPTFで、QGPLの中に保管ファイルをもつPTFが表示されます。

***ONORDER**

指定したプロダクトおよびリリースのPTFで、発注中のものが表示されます。

***CVLTONLY**

指定したプロダクトおよびリリースのPTFで、カバー・レターだけが入っているものが表示されます。

***CVLT**

PTFの状況に関係なく、カバー・レターが入っている指定したプロダクトおよびリリースのPTFが表示されます。

PTF-ID

表示するPTFのID (ID)を指定してください。

上

プロダクト (LICPGM)

表示するPTFのプロダクトのIDを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*SELECT

表示したいPTFを選択することのできるプロダクトのリストを表示します。

プロダクトID

表示したいPTFのプロダクトIDを指定してください。

上

リリース・レベル (RLS)

表示されるPTFのリリース・レベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ONLY

指定したプロダクトの1つのリリースだけが、システムに導入またはサポートされます。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRYMZの形式で指定してください。ここで、VXはバージョン番号、RYはリリース番号、そしてMZはモディフィケーション・レベルです。変数XとYには0 - 9の数字が入り、変数Zには0 - 9の数字またはA - Zの英字が入ります。

上

例

```
WRKPTF PTF(*ALL) LICPGM(*SELECT)
```

このコマンドによって、示されたプロダクトのリストからプロダクトを選択できます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

SMU1412

プロダクト&1,リリース&2が見つかりません。

上

投入済みCRQの処理 (WRKSBMCRQ)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

投入済み変更要求処理(WRKSBMCRQ)コマンドは、投入済み変更要求の処理画面を表示します。この画面から、投入された変更要求を保留、解放、終了、および削除し、投入された変更要求活動を処理します。

制約事項:

1. ユーザーが投入した変更要求だけが表示されます。
2. *JOBCTL特殊権限を認可されている場合には、すべての変更要求が表示されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CRQ	変更要求	要素リスト	オプションル, 定位置 1
	要素 1: 名前	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	
	要素 2: 順序番号	1-999999, <u>*ALL</u>	
STATUS	状況	<u>*ALL</u> , <u>*SBM</u> , <u>*ACTIVE</u> , <u>*ENDED</u>	オプションル
HIGHENDCDE	最高の終了コード	0-99, <u>*ANY</u> , <u>*SUCCESS</u> , <u>*FAIL</u> , <u>*NOTRUN</u>	オプションル
LASTENDCDE	最終の終了コード	0-99, <u>*ANY</u> , <u>*SUCCESS</u> , <u>*FAIL</u> , <u>*NOTRUN</u>	オプションル
CRQD	変更要求記述	修飾オブジェクト名	オプションル
	修飾子 1: 変更要求記述	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*ALL</u>	
SBM	投入元	名前, <u>*ALL</u>	オプションル
PERIOD	期間	要素リスト	オプションル
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 開始日付	日付, <u>*BEGIN</u> , <u>*CURRENT</u>	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 終了日付	日付, <u>*END</u> , <u>*CURRENT</u>	
PRBID	問題ID	文字値, <u>*ALL</u>	オプションル
PRBORG	問題の起点	要素リスト	オプションル
	要素 1: ネットワークID	通信名, <u>*ALL</u> , <u>*NETATR</u>	
	要素 2: 制御点	通信名, <u>*ALL</u> , <u>*NETATR</u>	

上

変更要求 (CRQ)

修飾済み変更要求名を指定します。

変更要求名として考えられる値は次の通りです。

***ALL** すべての修飾済み変更要求を表示します。

変更要求名

指定した変更要求だけを表示するように指定します。

総称*変更要求名

総称変更要求名を指定します。総称名は後にアスタリスク(*)の付いた1文字以上の文字からなる文字ストリングです。このストリングに一致するかまたはストリングの始めが一致する変更要求名だけが表示されます。

順序番号として考えられる値は次の通りです。

***ALL** 順序番号に関係なく、選択したすべての変更要求を表示します。

順序番号

指定した順序番号の変更要求だけが表示されるように指定します。

上

状況 (STATUS)

変更要求が表示される状況を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** 状況に関係なく、修飾されたすべての変更要求を表示します。

***SBM** 状況が投入中の変更要求だけを表示します。

*ACTIVE

状況が活動状態の変更要求だけを表示します。

*ENDED

状況が終了中の変更要求を表示します。

上

最高の終了コード (HIGHENDCDE)

変更要求を表示する最高の終了コードまたは範囲を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ANY** 最高の終了コードに関係なく、変更要求を表示します。

***FAIL** 最大終了コードが10から89のすべての変更要求を表示します。

*SUCCESS

最大終了コードが0から9のすべての変更要求を表示します。

***NOTRUN**

最大終了コードが90から99のすべての変更要求を表示します。

最大終了コード

使用する最高の終了コードを指定します。有効な値の範囲は0から99です。

上

最終の終了コード (LASTENDCDE)

最後の変更要求の終了コードまたは変更要求を表示する範囲を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ANY** 最終終了コードに関係なく、変更要求を表示します。

***FAIL** 最終終了コードが10から89のすべての変更要求を表示します。

***SUCCESS**

最終終了コードが0から9のすべての変更要求を表示します。

***NOTRUN**

最終終了コードが90から99のすべての変更要求を表示します。

最終終了コード

使用する最終終了コードを指定します。有効な値の範囲は0から99です。

上

変更要求記述 (CRQD)

変更要求記述オブジェクトの修飾された名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** QSYSを含むシステムのすべてのライブラリーを検索します。

ライブラリー名

このパラメーターに指定したライブラリーが検索されるように指定します。

変更要求記述名として考えられる値は次の通りです。

***ALL** 変更要求記述に関係なく、基礎となっているすべての変更要求を表示します。

変更要求記述

指定した変更要求記述に基づいた変更要求だけが表示されるように指定します。

総称*変更要求記述

総称変更要求記述名を指定します。総称名は後にアスタリスク(*)の付いた1文字以上の文字からなる文字ストリングです。このストリングに一致するかまたはこのストリングで始まる変更要求記述名に基づいた変更要求だけが表示されます。

上

投入元 (SBM)

表示される変更要求の投入元を指定します。

***ALL** 投入元にかかわらず、選択されたすべての変更要求を表示します。

ユーザー・プロファイル名

このユーザー・プロファイルで投入された変更要求だけが表示されるように指定してください。

上

期間 (PERIOD)

変更要求が表示される期間を指定します。このパラメーターは、それぞれ2つの要素が含まれる2つのリストからなり、次の値を入力できます。

開始時刻として考えられる値は次の通りです。

次の1つは、その時点またはその時点以後に変更要求を投入しなければならない開始時刻を指定します。指定された時刻および日付より前に投入された変更要求は表示されません。

***AVAIL**

指定された開始日に使用可能な変更要求が表示されます。

開始時刻

表示される変更要求を示す指定された開始日の開始時刻を指定します。

指定できる開始日の値は次の通りです。

その日またはその日以後に変更要求が投入されていなければならない開始日を指定するために、次のいずれかが使用されます。指定された日付より前に投入された項目は表示されません。

***BEGIN**

変更要求は、最初の変更要求が投入された日付から表示されます。***BEGIN**が指定されている場合には、開始時刻の***AVAIL**以外の時刻の値は無視されます。

***CURRENT**

今日投入されたものの内、指定された開始時刻から終了時刻までの間に投入された変更要求が表示されます。

開始日 変更要求が表示される開始日を指定します。

終了時刻として考えられる値は次の通りです。

その時点以前に変更要求が投入されていなければならない終了時刻を指定するために、次の1つが使用されます。

***AVAIL**

指定された終了日に使用可能な変更要求が表示されます。

終了時刻

表示される変更要求を決定する指定された終了日の終了時刻を指定します。

終了日付として考えられる値は次の通りです。

その日付またはその日付以前に変更要求が投入されていなければならない終了日を指定するために、次のいずれかが使用されます。

***END** 変更要求が投入された最後の日が、変更要求が表示される最後の日になります。*ENDが指定されている場合には、終了時刻の*AVAIL以外の値は無視されます。

***CURRENT**

今日投入されたものの内、指定された開始時刻から終了時刻までの間に投入された変更要求が表示されます。

終了日 変更要求が表示される終了日を指定します。

上

問題ID (PRBID)

変更要求に対応する問題IDを指定します。

***ANY** 問題IDに関係なく、変更要求を表示します。

問題ID

指定した問題IDに対応する変更要求が表示されるように指定します。

上

問題の起点 (PRBORG)

問題IDの起点システムを指定します。

考えられるネットワークIDの値は次の通りです。

***ALL** 問題起点ネットワークIDに関係なく、変更要求を表示します。

***NETATR**

問題起点ネットワークIDがシステム・ネットワーク属性のネットワークIDと同じである変更要求を表示します。

ネットワークID

変更要求が表示される問題起点ネットワークIDを指定してください。

使用できる制御点名の値は次の通りです。

***ALL** 問題起点制御点名に関係なく、変更要求を表示します。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性で定義された制御点名と同じ制御点名をもつ変更要求を表示します。

制御点名

変更要求が表示される問題起点制御点名を指定してください。

上

例

例1: すべての変更要求の処理

```
WRKSBMCRQ
```

このコマンドは、すべての変更要求で作業する方法を示します。

例2: すべての活動状態の変更要求の処理

```
WRKSBMCRQ STATUS(*ACTIVE)
```

このコマンドは、すべての活動状態の変更要求を処理する方法を示します。

例3: 指定された期間のすべての変更要求の処理

```
WRKSBMCRQ PERIOD((*AVAIL *BEGIN) (*AVAIL *CURRENT))
```

このコマンドは、ログの先頭から現在日までのすべての変更要求を処理する方法を示します。

例4: 投入されたすべての変更要求の処理

```
WRKSBMCRQ CRQD(CRQD001)
```

このコマンドは、CRQD001変更要求記述に基づいて投入されたすべての変更要求で作業する方法を示します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

投入済みCRQ活動の処理 (WRKSBMCRQA)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

投入済み変更要求活動処理(WRKSBMCRQA)コマンドは、投入済み変更要求活動の処理画面を表示します。このパネルから、活動を表示、保留、解放、および終了し、メッセージおよび条件を表示し、活動の宛先ノードを処理できます。

制約事項:

ユーザーが変更要求を投入しているかまたは*JOBCTL特殊権限を持っている場合には、選択基準を満たす指定された変更要求の活動が表示されます。ユーザーが投入していないかまたは*JOBCTL権限を認可されていない変更要求の活動を表示しようとした場合には、エラー・メッセージが送られます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CRQ	変更要求	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: 名前	名前	
	要素 2: 順序番号	1-999999	
STATUS	状況	*ALL, *HELD, *NOTSTARTED, *SCHEDULED, *WAIT, *READY, *STARTED, *SENT, *NOTSENT, *RUNNING, *ENDING, *ENDED	オプション
ENDCODE	終了コード	0-99, *ANY, *FAIL, *SUCCESS, *NOTRUN	オプション

上

変更要求記述 (CRQ)

処理する活動リストの変更要求名および順序番号を指定します。

使用できる変更要求名の値は次の通りです。

変更要求名

活動を表示する変更要求の名前を指定してください。

使用できる順序番号の値は次の通りです。

順序番号

変更要求の順序番号を指定してください。

状況 (STATUS)

変更要求活動を表示する状況を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** 状況に関係なく、すべての変更要求活動が表示されます。

***HELD**

ユーザーがノードを保留している時にその状況を表示します。

***NOTSTARTED**

このノードはアプリケーション・エラーによって処理されていません。このエラーの詳細説明は変更要求ログで見つけることができます。

***SCHEDULED**

ユーザーが指定した時刻にノードの活動が開始されます。さらに1つまたは複数の条件を指定する必要がある場合に、この状況となることがよくあります。

***WAIT**

ノードは、ユーザーが1つまたは複数の条件を指定するのを待機しています。必要な条件が指定されるまで、ノードの活動は実行されません。

***READY**

ノードは開始可能な状態です。必要な条件およびスケジュールはすべて定義されました。

***STARTED**

中央側システムで活動の処理が開始されました。

***RUNNING**

現在、ノードはローカル・システムで実行中です。SNADSは、対応するシステムにこの項目を配布しようとしています。活動が長時間この状況のままになっている場合には、構成にエラーがあるか、あるいはSNADSに問題がある可能性があります。

最初に、リモート・サイトの配布待ち行列を検査します。2番目に、すべてのQMSFジョブがQSYSWRKサブシステムのもとで実行されていることを確認します。3番目にサブシステムQSNADSが実行中であることを確認します。

***ENDING**

前に「開始済み」または「実行中」状況であったノードの活動をユーザーが終了しようとした時に、システムはこの状況を表示します。終了が進行中です。

***ENDED**

実行していたノードが終了しました。

***SENT**

状況が送信済みの活動だけを表示します。

***NOTSENT**

状況が未送信の活動だけを表示します。

終了コード (ENDCODE)

変更要求活動を表示する終了コードを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ANY** 終了コードに関係なく、すべての活動を表示します。

***FAIL** 最大終了コードが10から89のすべての活動を表示します。

***SUCCESS**

最大終了コードが0から9のすべての活動を表示します。

***NOTRUN**

最大終了コードが90から99のすべての活動を表示します。

終了コード

使用する終了コードを指定します。終了コードが指定したものに等しいかそれより大きい活動が表示されます。有効な値の範囲は0から99です。

上

例

WRKSBMCRQA CRQ(CHG001 123456)

このコマンドは、順序番号123456をもつ変更要求CHG001の活動で作業します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

サポートされているプロダクト処理 (WRKSPTPRD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サポートされているプロダクト処理(WRKSPTPRD)コマンドは、プロダクトのリストを提供します。サービス要求およびプログラム一時修正(PTF)発注によって、処理するプロダクト、オプション、および言語機能を指定できます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション、定位置 1
RLS	リリース・レベル	文字値, *CURRENT, *ALL	オプション

上

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求しているワークステーションで表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブで要求された出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

リリース・レベル (RLS)

処理するプロダクトのリリース・レベルを指定します。プロダクトの複数のリリースをサポートすることができます。それぞれのリリースは別のWRKSPTPRDコマンドで指定しなければなりません。

*CURRENT

現在導入済みのオペレーティング・システムのリリースと互換性があると考えられるプロダクトのリリースについて、サポート情報が表示されます。1つのライセンス・プログラムの複数のリリースが表示されることがあります。

注:

*CURRENTを使用して、プログラミングRPQ (PRPQ),ライセンス・プログラム提供(LPO),およびシステム・マネージャー・パッケージ・プロダクトを表示または印刷することはできません。これらのプロダクトのサポート情報を表示または印刷するためには、リリース・レベルを指定してください。

*ALL プロダクトのすべてのリリースのサポート情報が印刷されます。OUTPUT(*PRINT)が指定されている場合には、プロダクトのすべてのリリースのサポート情報が印刷されます。OUTPUT(*)が指定されている場合には、プロダクトのすべてのリリースのサポート情報が表示されます。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRXXMXの形式で指定します。この場合に、Vはバージョン、Rはリリース、Mはモディフィケーションを表します。

上

例

例1: 現行リリース・レベルのメニュー・パネルの表示

```
WRKSPTPRD
```

このコマンドは、各プロダクトの現行リリース・レベルの「サポートされるプロダクトの処理」パネルを表示します。

例2: 特定リリース・レベルでのプロダクト・メニューの表示

```
WRKSPTPRD  RLS(V5R4M0)
```

このコマンドは、バージョン5、リリース2、モディフィケーション0のリリース・レベルのプロダクトの「サポートされるプロダクトの処理」パネルを表示します。

例3: サポートされるすべてのリリースのリストの印刷

```
WRKSPTPRD  OUTPUT(*PRINT)  RLS(*ALL)
```

このコマンドは、サポートされるプロダクトのリストおよびサポートされるすべてのリリースのプロダクト・オプションを印刷します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

```
SMU15A5
```

WRKSPTPRDコマンド処理中に予期しないエラーが起きました。

上

サービス要求元の処理 (WRKSRVRQS)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス要求元処理(WRKSRVRQS)コマンドは、このシステムからサービスを受ける資格があるサービス要求元のリストを定義します。

制約事項:

このコマンドは共通*EXCLUDE権限付きで出荷され、QSRVおよびQSRVBASユーザー・プロファイルはこのコマンドを使用する専用権限を持ちます。

上

パラメーター

なし

上

例

WRKSRVRQS

このコマンドは、サポートされるサービス要求元に関する情報を追加、変更、コピー、表示または除去できる「サービス要求元の処理」パネルを表示します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711
東京都港区六本木 3-2-12
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department YBWA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、IBM 機械コードのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

本書 (System Manager for i5/OS コマンド) には、プログラムを作成するユーザーが IBM System Manager for i5/OS のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。

商標

以下は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Advanced Function Printing
AFP
AS/400
CICS
COBOL/400
C/400
DataPropagator
DB2
Distributed Relational Database Architecture
Lotus Domino
DRDA
IBM
Infoprint
InfoWindow
i5/OS
iSeries
Integrated Language Environment
Lotus
LPDA
OfficeVision
Print Services Facility
RPG/400
System i
System x
SystemView
System/36
TCS
Tivoli
WebSphere
z/OS

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、および PostScript ロゴは、米国およびその他の国における Adobe Systems Incorporated の商標または登録商標です。

Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

コードに関するライセンス情報および特記事項

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

強行法規で除外を禁止されている場合を除き、IBM、そのプログラム開発者、および供給者は「プログラム」および「プログラム」に対する技術的サポートがある場合にはその技術的サポートについて、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、IBM および IBM のサプライヤーならびに IBM ビジネス・パートナーは、その予見の有無を問わず発生した以下のものについて賠償責任を負いません。

1. データの喪失、または損傷。
2. 直接損害、特別損害、付随的損害、間接損害、または経済上の結果的損害
3. 逸失した利益、ビジネス上の収益、あるいは節約すべかりし費用

国または地域によっては、法律の強行規定により、上記の責任の制限が適用されない場合があります。



Printed in Japan